

令和 2 年～令和 3 年度
京都大学公共政策大学院
教育課程評価委員会報告書

2022 年 1 月

はしがき

京都大学公共政策大学院は、平成18年（2006年）4月、京都大学大学院法学研究科国際公共政策専攻と経済学研究科ビジネス科学専攻との改組を通して、専任教員12名、学生入学定員40人を有する公共政策連携研究部・公共政策教育部として発足しました。

本年度で16年目を迎え、修了生の数は567名に達し、公共的部門に携わる高度専門職業人として、各界での活躍をみています。

本大学院は、教員配置・開設科目の両面において法学研究科及び経済学研究科との密接な連携を維持しつつ、独立した教育・研究組織として設立された専門職大学院です。その目的は、公共政策の立案・執行・評価等に関する幅広い能力をそなえた、公共的部門を担うべき高度専門職業人を養成することにあります。このような私どもの所期の目的は、これまでの修了生の進路状況がほぼ目的通りの結果になっていることから、基本的に達成されているものと確信しています。

私どもは、創設以降、教育・研究活動の実績を総括し、独立した専門職大学院としての将来を展望するために、学校教育法の趣旨にしたがい、教育・研究、組織・運営、施設・設備の全般について自己点検・評価を行い、2年ごとに報告書を公表することによって、多くの方々の評価を仰いできました。また、自己点検・評価と並行して、創設以来、有識者による「外部評価委員会」を設け、その評価を受けてきましたが、平成29年の学校教育法改正に伴う新たな大学院設置基準によって、専門職大学院には産業界等との連携に教育課程の編成実施のための教育課程連携協議会の設置が義務付けられたことを受け本大学院では従来の「外部評価委員会」を教育課程連携協議会に相当する「教育課程評価委員会」として改組いたしました。

ここに公表する報告書は、令和3年7月2日に開催された第2回「教育課程評価委員会」の記録です。委員会当日の議事録及びその他の資料に加え、後日、各委員から書面で頂いたご意見、ご助言を併せて取り纏めています。委員各位には、いずれもご多用の中、長時間に及ぶ委員会にご参加いただき、有益なご意見を多数頂戴いたしました。ここに改めて御礼を申し上げる次第です。

令和4年（2022年）1月
京都大学公共政策大学院長
建林正彦

目 次

公共政策大学院教育課程評価委員会議事概要	1
教育課程評価委員会委員の意見書	2
令和2—令和3年度京都大学公共政策大学院教育課程評価委員会委員名簿	6
公共政策大学院教育課程評価委員会規程	6
公共政策大学院教育課程評価委員会議事録	7
付録一教育課程評価委員会配布資料	23
(1) 京都大学公共政策大学院 自己点検・評価報告書 第7号 (2021年3月)	
(2) 平成30～令和元(平成31)年度 京都大学公共政策大学院 教育課程評価委員会評価報告書 (2019年12月)	
(3) 令和2年度認証評価結果	
(4) 2021年度 京都大学公共政策大学院 パンフレット	
(5) 令和2年度、令和3年度 京都大学公共政策大学院便覧・シラバス	
(6) 令和3年度 京都大学公共政策大学院学生募集要項	
(7) 京都大学公共政策大学院ファクトシート	
(8) 令和2年度、令和3年度 入学試験状況	
(9) 令和2年度、令和3年度 公共政策大学院授業科目表	
(10) 令和3年度 教務事項に関する手引き	
(11) 令和2年度、令和3年度 クラスター登録者数	
(12) 令和2年度、令和3年度 政策課題研究登録状況	
(13) 令和元年度、令和2年度 ゲストスピーカー一覧	
(14) 令和元年度、令和2年度 履修者及び科目別評価割合	
(15) 令和元年度 公共政策大学院授業評価	
(16) 令和2年度 公共政策大学院授業評価	
(17) 令和元年度、令和2年度 インターンシップ履修状況	
(18) 霞が関公共政策大学院生インターンシップ応募・受入状況	
(19) 令和元年度 霞が関特別講演実施状況、 令和2年度 オンライン政策講演会実施状況	
(20) 令和元年度、令和2年度 ディプロマポリシーに基づく学習成果に関する修了時 アンケート結果	
(21) 令和元年度、令和2年度 修了生就職状況	
(22) 令和元年度 事業予算計画、決算報告書	
(23) 令和2年度 事業予算計画	
(24) 公共政策大学院の機能強化・地域連携構想	
(25) 社会連携室水曜講座及び特別公開シンポジウムチラシ	
補足資料1 リサーチペーパー集 2020	
補足資料2 京都大学公共政策大学院 学生自主活動一覧	
補足資料3 公共空間2020 冬号	

公共政策大学院教育課程評価委員会議事概要

1. 日 時 令和3年7月2日(金) 午後1時～午後3時
2. 場 所 Web会議
(総合研究2号館2階第2RPGルーム)
3. 出席者 石井、稻継、嶋田、武濤、中江、西村 各委員
4. 大学側出席者
建林研究部長、岡副研究部長(兼企画・財務主任)、毛利評価主任、奈良岡教務主任(前年度入試主任)、待鳥入試主任(前年度教務主任)、岩下教授
5. 日程表
午後1時～午後3時
新型コロナウイルス感染症によるまん延防止等重点措置期間のため、Web会議により教育課程評価委員会が開催された。
なお、議事の詳細は、本記録の7頁以降に記すこととし、ここでは、概要の記載に留めた。
また、各委員からの書面による意見についても、2頁以降に纏めた。
- ③ 評価関係説明(毛利評価主任)
自己点検評価報告書、大学基準協会による専門職大学院認証評価等について
- ④ 入学試験の実施状況説明(奈良岡教務主任(前年度入試主任))
入学試験状況、2022年度以降の入試の変更について
- ⑤ 教務関係・進路状況等の概要説明(待鳥入試主任(前年度教務主任))
長期履修学生制度、国際化について、コロナ禍における授業への対応、授業評価アンケートの結果について
- ⑥ 進路・インターンシップ・同窓会について概要説明(岩下教授(実務家教員))
進路状況、霞が関インターンシップ、同窓会(鴻鵠会)の活動状況等について

〈10分休憩〉

委員会の議事概要

議事に先立ち、建林研究部長から挨拶があり、教育課程評価委員会について説明の後、委員、大学側の順で自己紹介があった。

引き続き、委員長に石井委員が選出された。

まず、建林研究部長、岡副研究部長、毛利評価主任、奈良岡教務主任(前年度入試主任)、待鳥入試主任(前年度教務主任)、並びに岩下教授から、以下の概要説明があった。

(1) 大学側から説明(午後1時～午後2時)

- ① 前回の教育課程評価委員会(2019.6)以降の経過
(建林研究部長)

教員構成、前回教育課程評価委員会の指摘事項、専門職大学院認証評価受審について、コロナ禍における教育への取り組みについて

- ② 企画・財務関係説明(岡副研究部長)

予算決算、学生支援経費、英語学習支援経費、寄附講座による学生支援経費等について

(2) 質問応答および意見交換(午後2時10分～午後3時)

- ① コロナ禍におけるデジタル化、オンラインを活用した方策の実施状況について(武濤委員)
② 民間部門の担う公共的使命の重要性、インターンシップの取組みについて(中江委員)
③ 職業人学生増加の方策、国際化について(稻継委員)
④ 女子学生の公務に対する志向について(西村委員)
⑤ 実学教育、教育課程の在り方について(石井委員長)
各委員からの質問について担当教員から回答し、さらに情報交換および意見交換が行われた。

(3) 謝辞および意見書提出依頼

意見交換の後、建林研究部長から謝辞。併せて7月中を目途にA4判1枚程度の意見書の提出を依頼した。

午後3時散会

令和3年度 教育課程評価委員会委員の意見書

評価委員会委員 石井 勤

京都大学公共政策大学院（本大学院）の教育課程を見ると、公共の担い手を育成するという理念に沿って子細に検討され、構築されたことがうかがえる。本大学院が開設以来、有為な人材を送り出す教育機関として着実に役割を果たしてきたことは、修了生の進路を見てもはつきりしている。高く評価したい。そのうえで、世界の国々が困難な状況に直面するいま、新たな目で教育課程を再点検する必要が生じていることを指摘しておきたい。

2020年の年明け以降、日本国内でも新型コロナウイルスの感染が広がった。首都圏、関西圏を中心に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などの感染防止施策が間を置きつつ繰り返され、1年半余りが過ぎた時点でも国民に行動の抑制を求める事態が続く。

社会的に「密」な状態を避けるソーシャルディスタンスの要請は消費者の意識に影を落としただけでなく、単位面積当たりの収容人数を上げることで収益性を高めていたビジネスモデルを成立なくさせるなど、都市型大量消費経済は根本的な見直しを迫られるに至っている。一方で、コロナ禍による雇用状況の悪化は低所得層を貧困に追いやり、社会の分断に拍車をかけた。日本社会はいま、コロナ禍がもたらしたものを受け止め、社会、経済、政治、国際環境など、あらゆる面で新しい秩序を模索する時期に来たといえる。

そうした時代状況にあって本大学院もまた、公共の意味を問い直し、新たな公共の担い手に求められる知識や素養を見定めるなど、これまでの常識や経験値にこだわっていては解が見出せないような、奥の深い課題に直面していると考える必要がある。

本大学院が今年3月に発行した『自己点検・評価報告書』（第7号）は、「教育活動」の項目末尾の「将来への取組み・まとめ」の中で、教育課程の見直しに触れている。教育課程のあり方という根源的な課題に普段から目を向ける姿勢は、時代に即して変わって行く必要があるという自

省的な姿勢として極めて適切であり、高く評価できる。

しかし、言及の中身は、「設置準備の段階で入念な検討を重ねた結果であり、軽々に変えるべきではない」との慎重論と、「専門性や実務との連携をより強化するため、開講科目の見直しを求める」との積極論の両論併記にとどまっている。報告書の編集過程ではコロナ禍による社会的影響がどこに向かうのか、どこまで広がるのか、判断がつきかねる状況があったとはいえ、もう一段、踏み込んだ検討が必要だったのではないかだろうか。

この国が、いますぐにでも取り組まなければならない課題は山積している。それはたとえば、分断を乗り越える新たな公共理念の構築と国民的共有であり、パンデミックを防ぐための国家権力の行使と私的人権をどう調整するかのルールづくりの問題であり、新たな感染拡大に備えて医療提供体制をどこまで整え、それを財政面で裏付ける社会保障制度をどう作り直すのか、その際に国民負担率をどう考えるのか、あるいは巨額の財政赤字にどう対処し、財政規律をどう取り戻すのか、等々の社会のあり方にかかる諸課題といえる。

再構築を求められているのは、いざれも日本の戦後民主主義社会の発展を支えてきた枠組みにほかならない。それに代わる制度や仕組みを模索するに当たっては、暮らしの現場に足を下した低い視線と、国民の側の痛みを感じ取るやわらかな感性が欠かせない。と同時に、新しい制度や仕組みの設計に当たっては、法学、経済学、政治学、歴史学、社会学などの研究者が築き上げてきた学問体系について、どこを探ればどんな手掛かりが得られるかを着想できるような、幅の広い基礎的知識を備えていることが望まれる。

本大学院には、コロナ後の世界秩序を視野に、国民生活に直結する制度や仕組みを築き直す役割を担う人材の育成を目指していただきたい。そのために教育課程と開講科目の見直しを真剣に検討する。こうした対応がいま求められているのではないだろうか。

評価委員会委員 稲継 裕昭

全国の公共政策大学院の置かれている状況が厳しい中、また、この1年半の新型コロナウイルス感染症の流行下での大学運営が極めて困難を極めている中、京都大学公共政策大学院は一定の使命を果たしてきたと考えており、教職員の皆様に敬意を表する。

専門職大学院のうち、教職大学院や法科大学院、さら

には公衆衛生系の大学院はその後の進路が明確なこともあり、一定のニーズが継続して存在する。また、MOT・ビジネス大学院も、企業からの派遣が多くいたり、リカレントで転職を考える社会人のニーズが強かつたりする分野である。しかしながら、公共政策大学院に対するニーズは曖昧である。特定の資格が付与されるわけではないからだ。

当初は、国家公務員のI種試験（現・総合職）に関して、公共政策大学院出身者のみが受けられる試験区分を設けることも検討されたが、専門職大学院を置かない大学からの強い批判があったこともあり、最終的には、「院卒区分」の設置に落ち着いた。この区分は、「大学院修士課程又は専門職大学院の課程を修了した者（見込みの者）」が受験資格を有しており、一般の修士課程修了者でも受験できる。そのため、公共政策大学院出身者の有利さは失われた。

学生の間には、学部卒の総合職試験（法律、経済、行政、政治・国際、および、教養）区分よりは、院卒区分の方が受けやすいという認識があり、学部時代に不合格だった者が大学院に進学して国家公務員総合職を受け直すという例も少なくない。最も優秀な学部生は3年生の秋に受験できる教養区分で合格を勝ち取り4年生の官庁訪問で内定を取るというルートができあがりつつある。学部生のうち国家公務員志望者をヒアリングすると、①教養区分、②法律（又は行政）区分、③院卒区分、という優先順位を設定していることがわかる。

このような状況下において、公共政策大学院はどのような使命を果たすべきか。単なる公務員予備校ではなく、公共人材、公共心をもった人材の育成。という原点に立ち返った運用が求められている。では、公共人材、とは何か、公共心を持った人材とは何か、今一度改めて考える時期に来ているようにも思う。

受講者を見ると、自治体や国からの派遣が以前のように多くない点が気にかかる。前身の京都大学大学院法学研究科専修コースが立ち上った1992年には、担当教員が知事や市長のところを回って、京都府・市、大阪府・市、兵庫県・神戸市、岐阜県、静岡県、広島県といった自治体や、関西電力、大阪ガス、住友銀行、日本生命、阪急電鉄、JR西日本といった企業からの派遣の院生を多く抱えていた。もちろんストレートマスターの学生も同数程度いたが、出自の多様な学生の間のディスカッションを通じた相互学習が、その後の彼らの職業観や職業人生に与えた影響は計り知れない。今後は、自治体や企業からの派遣研修生の増加にも注力すべきだと考える。

評議委員会委員 嶋田 博子

○本日は有益な機会を与えていただき、有難うございました。

○石井委員、武濤委員からも問題提起をいただきましたが、全国的に公共政策大学院のニーズが縮小方向にあること、一方で行政を取り巻く状況がこの20年ほどで激変したことを考え併せると、創設当初に考え抜かれた理念であっても、時代の変化に応じたテコ入れが必須であるように思います。

○2点、気づきを申し上げます。

①採用目線で考えると、待鳥先生から言及のあった「英語とデータ分析」について、本当に学部卒よりも一段高い品質管理が担保されているのであれば、魅力のある人材市場となり得ると考えます。ただ、現状では、応募書類に書けるレベルのTOEIC、TOEFLのスコアを持っている院生が稀であることに対し、教育側に

も危機意識が必要だと思います。

②創設時に考え抜かれた理念の一つとされるクラスター制につき、現在の運用が「スペシャリスト養成」という目的に合致しているかを再検証する必要があります。

前回委員会でも学生側の要望として言及がありました（資料2：p18）、当方のCSにも「特に興味があるテーマではないが、クラスター指定で卒業に必要」という院生が登録してきたり、逆に「どうしても取りたいがクラスターが違い、キャップにひつかかる」と、聽講の要望があつたりします。クラスター制を維持するとしても、ア)複数クラスターにまたがる緩い指定をする、イ)指定前に担当教員の意見をあらかじめ聞く、ウ)キャップを緩める、などを講ずることはさほど困難ではなく、有益だと考えます。

評議委員会委員 武濤 雄一郎

1. 総論

昨年2020年春から今まで、コロナ禍という前例のない事態の中、デジタルインフラの整備、新しい形式での教育方法の導入など関係者の大変なご尽力により、学生への教育等が滞りなく円滑に実施できていることを高く評価する。

教育におけるデジタル化はプラスマイナスの影響があるが、グローバルには高等教育のデジタル化、オンライン化が日本より急速に進展中であり、国境を超えた教育、知的情報流通、学位提供などが実現してきている。これに対して遅れている我が国でもコロナ禍で否応なく対応しなければならなくなつたデジタル化を進めることができが喫緊の課題である。

さらに官民で必要な人材についてもデジタル対応力を持つことが不可欠になっている中、本校においては特に高等教育機関における見本となるように教育のデジタル化とデジタル対応力をもった人材育成の強化を強く希望する。

今年度の本委員会は、オンラインによる開催であったが、詳細な自己点検・評価報告書等、関係書類が準備されており、学校側からの詳細なご説明と委員による自由な質疑も実施できた。小生にとっては、今回の委員会が初めてであることに加え、コロナ禍のため、現場を訪問し、学生と交流することができていないことから、今回的小生の意見は資料及び数時間の質疑のみをベースとしたものにとどまるこことを申し添える。

2. 各論

(1) EBPM 分野をさらに強化したらどうか。

EBPM は日本の省庁の政策の企画立案に不足しており、昨年来のコロナ禍での各種政策が混乱していると批判されている要因にも EBPM の不足があると考える。この点、本校が、従来より、この分野の能力養成に注力していることは高く評価でき、さらにデータ分析等最新の手法を含めてこの分野の教育を強化し、当校の特色、強みとしていただきたい。

(2) 国際化を独自の方式で進めたらどうか。

官民間わず、英語を使い業務を遂行できる能力は必須になっており、国際対応能力について語学力含めて徹底した能力育成が必要。留学生を増やすことも一案であるが、他校のように留学生を多数受け入れ、国内外両方の人材育成を進めようとするのは、本校の規模を考慮すると教育効率の点からいかがなものかと考える。留学生を増やすよりは、日本人学生のみの体制で構わないで日本人学生の国際対応力、英語スキルの強化につながる教育、訓練（国際交渉、記者会見のシミュレーションなど）を強化することが望ましい。

さらに海外機関と連携して、オンラインで海外の大学院の授業を海外の外国人学生と同時に英語で受ける機会を作る（また逆に本校の授業を外国の学生にオン

ラインで参加させる）などすることも一案ではないかと考える。

(3) クラスタの見直し、強化をはかったらどうか。

① ジェネラリストであると同時に最低一つのスペシャリティがなければ社会での活躍は難しい時代であるのでクラスタを割当てて専門性を持つように教育することは極めて重要。その際には総合大学である京都大学の強みを活かし、理系を含む他学部との連携を進めたらどうか。また同時に柔軟に学生の志向に合わせた科目の受講ができることが重要。

② クラスタの分類も時代に応じた見直しが必要と思う。

特にクラスタの一つ、“行政組織間交渉”という名称及び内容を時代に即して見直したらいかがか。“交渉”というと、省庁間の法令協議、権限争議、予算交渉などを思い浮かべ、従来型の行政官などには重要なものであった。これは従来型の縦割りの日本の組織を前提としたものに感じる。今は縦割りを超えて、中央と地方、複数機関の壁を崩し、連携して公共政策を考え実行できることが望まれているのではないか。今後の行政官等に必要なのは交渉力はもちろんあるが、連携、コーディネートの能力であり、このクラスタについては現時点での名称や内容を見直してもいいのではないか。

(4) 多様性を推進するために女子への PR を強化したらどうか。

委員会でもやりとりがあったが、女子比率をもっと高めるための方策が重要。資質、就職面を考えても女子はプライオリティが高い。また公務員は民間より男女差がなく、試験合格の可能性も高く、女子に対して PR 強化することが志望者増加に結び付く可能性があると考える。

(5) 倫理、コンプライアンス教育を強化したらどうか。

官民間わず益々重要度を増しているこの分野の教育を強化し、“noblesse oblige”を根底に持ち、国民から信頼されるような人材の育成を強化していただきたい。

評価委員会委員 中江 公人

公共部門が今日、直面している諸課題は複雑化・多様化しており、政府や自治体だけで解決するには限界がある。協同組合や民間企業、NPO、大学・研究機関など、様々な立場のセクターが、社会課題の解決に向けて、各々の役割を発揮している。

また、民間企業では、SDGsへの取組みを単なる社会貢

献ではなく、経営戦略の中心に位置付けるところが増えてきている。ESG を重視したマネーの流れが世界の潮流となり、脱炭素社会の実現は官民共通の課題となっている。

このようななか、行政は、これら多様な担い手との連携を図りながら、政策の実現を図ることがより一層求められている。

以上のような状況の下、「いかなる職務に従事しようとも公共的な見地から考えようとする幅広い視野と倫理観を養う」という本大学院の基本目標は適切であり、官民を問わず、公共的な視点を持った人材を社会に送り出す本大学院の役割はますます重要となっている。

また、本大学院の教育課程が、理論的・実践的・実務的科目を有機的に組み合わせ、教育方法も、少人数による双方型の授業を重視するとともに、インターンシップ、リサーチペーパーやゲストスピーカーによる講演など特色ある多様な取組みを行っていることを高く評価する。その上で、以下の点を指摘しておきたい。

- (1) 国の根幹に関わる課題、例えば、「パンデミックなど非常事態における国家の危機管理のあり方」、「脱炭素社会と経済発展との両立」、「アフターコロナにおける持続可能な社会の実現」といった様々な分野の知見が求められる課題について、外部の専門家も活用しつつ複数の教員によるリレー方式あるいは共同の授業を開講はどうか。そこから、院生は、これらの課題解決のために多面的な物の見方や高い俯瞰力、ダイナミックな発想力、多岐にわたる利害の調整、多元的な価値の中から国益を判断することなどが必要であることを学べるだろう。
- (2) リサーチペーパーは面白い取組みであり更なる広がりを期待したいが、政策課題研究のテーマがやや狭い領域の専門性に特化しているように感じる。より幅広いテ

マの選択が増えることを望みたい。また、複数の院生による共同研究の可能性も検討されたい。

- (3) 院生が主体となって、様々な社会課題について、自治体や民間セクターと協働し、フィールドワークなども取り入れながら、調査研究・政策提言するような取組みを検討してはどうか。
- (4) 中央官庁が、本大学院の卒業生に対し、学部卒業生とは異なるどのような能力を期待するのか、様々な機会を通じて把握し、今後の教育課程や教育方法の参考とされたい。
- (5) インターンシップは、行政の現場を経験する貴重な機会であり、意義は大きい。それだけに、派遣先省庁でどのようなメニューが用意され、院生がどのような経験をするかが重要である。官庁側も人材確保に苦労している現状にある。実際に体験した院生の具体的な評価や要望などを踏まえながら、官庁側と連携し、インターンシップの内容の更なる充実を図ることを期待したい。
- (6) 昨今の国家公務員志望者数の減少や途中退職の増加は、院生にも少なからず不安を与えているだろう。様々な要因が考えられるが、霞が関自身も危機感を持っており、働き方を含め人材の育成・確保のあり方を見直そうとする動きもある。霞が関特別講演などを活用しつつ、院生に対し、まずは、メディアなどで指摘されている点について、できる限り正確な情報を提供することが大切である。

評価委員会委員 西村 清司

自己点検・評価報告書によれば、当大学院においては、創設以来の「公共部門が直面している諸課題に適切に対処しうる的確な判断力と柔軟な思考力をそなえた、また公共的な役割をになう強い倫理観をもった高度専門職業人を養成する」との基本目的の下に、「広い視野と深い洞察力を養うとともに現実の政策課題の適切に対処しうる実践的な知見を教授することを目標」として①基本科目、②専門基礎科目、③実践科目、④展開科目、⑤事例研究の科目群が設けられ、さらにそのうちスペシャリストとしての能力を開発するための科目群については、専門能力に応じたクラスターを設定することにより、「高度専門職業人」にふさわしい知識と能力を体系的に身に着けることができるよう、配慮されている。

こうした教育課程編成上の工夫と少人数教育や実学教育の重視といった教育方法、教員による履修指導体制が相まって、国・地方公共団体のみならずマスコミを含む多くの公的機関に人材を送り出すことができているものと評

価したい。

一方、ここ数年一般選抜の受験者数が漸減傾向にあることが、優秀な人材の確保という観点から懸念される。受験者数の減少に比して合格最低点が下がっていないことから、合格者の質の低下は杞憂に過ぎないともいえるが、今後とも、受験者のすそ野を広げる努力をお願いしたい。

また、前回の評価に際しても申し上げたことであるが、本大学院が重視する「実学教育」をより一層進めるためにも、社会の各分野において生じている様々な政策課題を対象にして、現地（現場）調査を中心とした調査研究を教育課程に組み込むことを検討していただきたい。みずみずしい現場感覚と問題意識をもった卒業生を送り出すことは、学部卒の公務員等との違いを際立たせることになるのではないだろうか。

評価報告書においては、実学教育の例として、相当以前の特別な活動の例が挙げられているのみであり、あとは院生たちの自主的な活動にゆだねられているのが現状のよ

うであるが、教育課程上の課題として取り組まれるようお願いしたい。

最後に、昨今報じられる公務員離れの風潮の中で、院

生たちの使命感の涵養と進路へのモチベーションの確保のため、教員各位の一層の努力をお願いしたい。

令和2～3年度 京都大学公共政策大学院教育課程評価委員会委員名簿

(50音順)

氏名	現職(前歴)	備考
石井 勤	ノンフィクション作家・ジャーナリスト (元) 日刊スポーツ新聞社顧問 (元) 朝日カルチャーセンター代表取締役社長 (元) 朝日新聞社経営企画室長	再任 (5期目)
稻継 裕昭	早稲田大学大学院政治学研究科 教授	新規 (1期目)
嶋田 博子	京都大学大学院公共政策連携研究部 教授	新規 (1期目) 令和3年4月より
武濤 雄一郎	一般財団法人高度技術社会推進協会 常務理事 お茶の水女子大学 学長特別顧問 日本規格協会ソリューションズ株式会社 代表取締役社長	新規 (1期目)
中江 公人	全国労働金庫協会・労働金庫連合会 理事長 (元) 防衛事務次官	新規 (1期目)
西村 清司	公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所 総務担当常務理事 (元) 総務大臣官房審議官	再任 (3期目)

※ 任期は、令和2年4月1日から2年間。

公共政策大学院教育課程評価委員会規程

平成31年2月14日研究部教授会・教育部教授会承認、研究部長・教育部長裁定

第1条 公共政策連携研究部及び公共政策教育部に、教育課程評価委員会（以下「委員会」という。）を置き、これを専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第6条の2第1項の教育課程連携協議会とする。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で構成する。

- (1) 公共政策連携研究部長（以下「研究部長」という。）が指名する公共政策連携研究部の教員
 - (2) 公共政策教育部の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの
 - (3) 国立大学法人京都大学の教職員以外の者であって研究部長が必要と認めるもの
- 2 委員の数は6名程度とし、その過半数は、国立大学法人京都大学の教職員以外の者でなければならない。
- 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第2号の委員は公共政策教育部長（以下「教育部長」という。）が、同項第3号の委員は研究部長が委嘱する。

第3条 委員会は、公共政策連携研究部が教育研究活動等について行う自己点検・評価の結果を検証するほか、次の各号に掲げる事項を審議し、第1号及び第2号に掲げる事項については教育部長に対し、第3号に掲げる事項については研究部長に対して意見を述べる。

(1) 授業科目的開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

(2) 授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

(3) その他公共政策連携研究部の運営に関する重要な事項

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

第5条 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

第6条 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、委員長が決する。

第7条 公共政策連携研究部の教職員は、委員長の許可を得て、委員会の会議に出席して説明し、又は意見を述べることができる。

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の議事の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 公共政策大学院外部評価委員会規程（平成18年5月18日研究部教授会決定）第2条第3項に基づき平成30年4月1日付けで研究部長がした委員の委嘱は、本規程第2条第4項に基づき、教育部長又は研究部長がしたものとみなす。

公共政策大学院教育課程評価委員会議事録

1. 日 時 令和3年7月2日(金) 午後1時～午後3時

2. 場 所 Web会議

（総合研究2号館2階第2RPGルーム）

3. 出席者 石井、稲継、嶋田、武濤、中江、西村
各委員

4. 大学側出席者

建林研究部長、
岡副研究部長（兼 企画・財務主任）、
毛利評価主任、
奈良岡教務主任（前年度入試主任）、
待鳥入試主任（前年度教務主任）、
岩下教授

議事に先立ち、建林研究部長から挨拶があり、その後、配布資料の確認が行われた。

引き続き、委員長に石井委員が選出された。

○建林研究部長

評価委員会にご出席いただきましてありがとうございます。本年度、部長を務めております、建林と申します。

開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本大学院は2006年に発足し、今年で16年目になりますが、独立した専門職大学院としての将来を展望するために、設立

以来、2年に一度、教育研究活動の全般について自己点検評価を行い、報告書を公表する一方で、外部の有識者による外部評価を受けてまいりました。設立当初は毎年1回、外部評価委員会としてご参集いただき、さまざまご助言をいただいてまいりましたが、2011年には同委員会により、評価のための評価にならないよう開催頻度を減らしてはどうかとのご提言をいただき、2013年以降は隔年でご参集いただいているります。また、2017年の学校教育法、大学院設置基準の一部改正に伴い、専門職大学院に教育課程連携協議会を設置すること、また同協議会に内部の教職員を含めることが義務づけられましたために、当大学院でも2019年より従来の外部評価委員会を同協議会に相当する教育課程評価委員会と改めまして現在に至るということです。

本年度はコロナウイルス感染症によるまん延防止等重点措置のもとでの開催ということで、オンラインという異例のかたちを取らせていただいております。そのために、例年行っておりました、授業参観、学生との面談等も省略させていただくことになっております。安全対策という側面もございますが、昨年以来の私どもの活動実態を一部ご覧いただくという意味もありますが、こうしたかたちを取らせていただきました。ご不便をおかけすることもあるうと思いますが、例年同様、委員の先生方には奇譚のないご意見、ご助言

を賜れば幸いと存じます。

なお、委員の先生方には、本日の会合の内容を踏まえまして、後日、A4一枚程度で、ご意見、改善点を書面でお送りいただきたいということでございまして、併せてお願ひ申し上げます。

さて、議事に先立ちまして、委員会の成立要件を確認させていただきたく存じます。教育課程評価委員会規程第5条によりますと、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないとございますが、本日は全員ご出席ですので、条件を満たしているものと存じます。次に、本委員会につきましては、事後にテープ起こしをして報告書を作成いたします関係上、録音させていただきたいということで、これは既にZoom録画をさせていただいておるわけですけれども、この点についてご了承いただきたいと存じますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○委員一同

結構です。

○建林研究部長

では、録画を続けさせていただきます。引き続きまして、出席者のご紹介に進ませていただきたく存じます。まず委員の先生方から自己紹介をお願いいたしたいと存じます。リストに従いまして、まず石井様、お願いいたします。

○石井委員

はい。石井でございます。今期で5期目になります。よろしくお願ひいたします。

○建林研究部長

続きまして、稻継様。

○稻継委員

初めてになります、早稲田大学の政治経済学術院の教員をしております、稻継と申します。よろしくお願ひします。

○建林研究部長

続きまして、嶋田内部委員ということでございます。嶋田教授、お願ひいたします。

○嶋田委員

はい。嶋田でございます。規程によりまして、内部から委員を務めさせていただいております。よろしくお願ひいたします。

○建林研究部長

続きまして、武濤様、お願ひいたします。

○武濤委員

新任の武濤でございます。

京大の情報工学の出身で経産省に長く勤務いたしておりました。経産省ではイノベーション、産学連携、IT、通商、知財などの行政を経験しました。その後2009年に退官し、グローバルな製造業の企業で研究開発、ITなどの担当役

員をしておりました。現在は青少年対象にITなどの先端技術の普及啓発を事業とする財団法人と品質管理や標準化の普及を事業とする企業に役員として勤務しております。それ以外にも、今年の3月までの4年間、お茶の水女子大学長特別顧問を務め、少しばかり大学関係にも関与した経験がございます。よろしくお願ひいたします。

○建林研究部長

続きまして、中江様、お願ひいたします。

○中江委員

中江でございます。私も初めて評価委員やらせていただきます。よろしくお願ひします。昭和51年に京大の法学部を卒業いたしました。京大の正門から出て、すぐ左に吉田神社の大きな鳥居がございますけれども、その鳥居の脇にある下宿屋さんの2階に下宿をしておりまして、恐らく当時、京大法学部生の中で、最も教室まで通学距離の短い学生だったと思います。そのぶん、まじめに教室に通っていたかどうかについては、コメントは差し控えたいと思います。その後、旧大蔵省に入りまして、いくつかの役所も経験いたしました。最後、金融庁を経て、防衛省で役人生活を終えております。今は労働金庫という働く人のための金融機関におります。それから、2013年度の後期に、公共政策大学院の非常勤講師を、旧大蔵省の先輩のピンチヒッターでやらせていただきました。後輩諸君と大変貴重な楽しい経験をさせていただいております。これもご縁なのかなと思っております。よろしくお願ひします。

○建林研究部長

よろしくお願ひいたします。続きまして、西村様、お願ひいたします。

○西村委員

はい。今期で3期目になります。三度目の参加です。西村でございます。今は後藤・安田記念東京都市研究所という、今年度、来年の2月になりますと創立100年を迎える財団が運営しております研究所の常務理事をしております。もともと自治省、総務省で勤務いたしておりました。よろしくお願ひいたします。

○建林研究部長

よろしくお願ひいたします。では、引き続きまして、大学側の紹介をさせていただきます。私、先ほどご紹介させていただきました、建林と申します。法学研究科と兼任ということで、専門は政治学でございます。

○岡副研究部長

副研究部長を務めさせていただいております、岡と申します。経済学研究科との兼任です。よろしくお願ひいたします。

○毛利評価主任

私は評価委員会の主任を務めております、毛利と申します。専門は憲法ということで、公共政策大学院では統治システムなどの科目を担当しております。よろしくお願ひいたします。

○岩下教授

実務家教員の岩下と申します。日銀の出身で、今から4年半ほど前にこちらにまいりました。金融政策、金融制度、それから、デジタルガバメント論とか、フィンテックとか、そういうことを学生に教えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○奈良岡教務主任（前年度入試主任）

奈良岡と申します。専門は日本政治外交史という歴史的な科目なんすけれども、公共政策大学院ではもうちょっと現代的な課題を授業で取り扱ってます。リサーチペーパーの指導なども一昨年から担当しておりました。昨年度、入試主任を務めておりまして、今日はその関係で報告させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○待鳥入試主任（前年度教務主任）

待鳥と申します。よろしくお願ひいたします。公共政策大学院と大学院の法学研究科を兼担しております、専門分野は比較政治です。公共政策大学院では、公共政策論Aという科目と現代アメリカ政治という科目を担当しております。今日は昨年度の教務主任という立場でございまして、カリキュラムおよび教育システムの運営に関して、のちほどご説明させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○建林研究部長

事務もお願いいたします。

○上原事務長

法学研究科事務長の上原といいます。本日はよろしくお願ひいたします。

○逢坂補佐

事務長補佐の逢坂と申します。よろしくお願ひいたします。

○山本総務掛長

法学研究科総務掛の山本です。よろしくお願ひいたします。

○中山公共政策大学院掛長

公共政策大学院掛の中山です。よろしくお願ひいたします。

○越後主任

公共政策大学院掛の越後と申します。よろしくお願ひします。

○建林研究部長

はい。大変ありがとうございました。では、引き続きまして、委員長の選出をさせていただきたく存じます。規程第4条には、委員会は委員長を置き、委員の互選により選出するとございます。互選をお願いしたいということでございます。適宜、ご発声いただき、お願ひいたしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。

(問)

○嶋田委員

よろしいでしょうか。

○建林研究部長

お願いします。

○嶋田委員

長く委員をお務めくださっています、石井委員にお願いできればと思いますが、いかがでございましょうか。

○委員一同

異議なし。

○建林研究部長

よろしいでしょうか。ご同意をいただいたということでございますので、石井様にお願いいたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○石井委員

わかりました。

○建林研究部長

オンラインということで、ちょっとご不便をおかけするかと思いますが、こちらでも適宜補助するということで、進めさせていただきたいということで、石井様をホストにしなければですね。

○石井委員

はい。よろしくお願ひいたします。

○建林研究部長

はい。ということで、以降、議事の進行を石井様にお願いいたしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○石井委員長

はい。それでは、さっそくですけれども、大学側からの概要の説明をお願いしたいと思います。

○建林研究部長

こちらのほうでまず概要をご説明するということで進めさせていただきたいと思います。

では、始めさせていただきたいと思います。なお、本大学院からのご説明としましては、前回、2019年6月に開催されました委員会からの変化を中心にお話しさせていただきたいと思います。今回、新規の委員の先生もおられます、委員会としては継続したものであるということと、また、時間も限られているということでございますので、従来どお

りのかたちで進めたいと存じます。もし何か基本的な問題に関するご質問等ございましたら、質疑のところでご説明させていただきたいと思っております。

では、私のほうから全般のことということで始めさせていただきます。資料7、入試状況、教員の異動等の概要ということでございます。まず前回からの変化ということで、一番下の2020年、2021年のところをご覧いただきたいわけですけれども、入学定員40に対して、41名、42名というかたちで定員は充足しているということでございます。教員につきましては、令和2年3月に、岩本前研究部長が経済学研究科に戻られ、坂出准教授が代わりに来られたということでございます。鈴木教授、唐渡教授につきましては法学研究科に移籍され、代わりに待鳥教授、近藤教授が移籍されました。令和3年3月には実務家教員、総務省から来られた吉田教授が退職されましたが、代わりに昨日、羽生教授がご着任されたということで、教員としては12人、それから、実務家教員が4名というかたちでやっているということでございます。

次に、前回の委員会で、2019年6月にご指摘いただいた内容ということで整理しております。第一に出願者減少への対策ということで、何とも一朝一夕には解決しないということでございますが、検討を続けているということでございます。2番目は国際化ということでございまして、これも過去の委員会でたびたびご指摘いただいているということで、のちほどわれわれの対応を少しお話しさせていただきます。三つ目は国家公務員比率のさらなる向上とのことでございまして、これは他の公共政策大学院に比べますと、京大の強みであるというふうに従来からいわれていたことでございますし、われわれとしてもそのように自負していたところでございますが、ここ数年、ちょっと減少傾向にあり、今後も努力を続けるということで考えていたわけですけれども、幸いといいますか、昨年は国家公務員が復調傾向となりました。どうしてそうなったのかということなどに関しては、何か今回もご意見をいただければ幸いと存じます。四つ目は評価方法の効率化の検討をすべきだというご提案もいただきまして、これは非常に難しい課題でございまして、2年前にご指摘があったわけですが、私どもとしてはまだ何のアイデアもないといいますか、もうちょっと具体的にさらにご提案をいただけないかということもございます。ということで、これ、下の2行は私のほうのつけ足しでございますが、次にご説明します大学基準協会の認証評価が5年に一度ございまして、それとの関係というのもやはり整理すべきではないか、いうことがございます。ということで、何かご意見をいただけないかということで書いておるということでございます。

続きまして、先ほど申し上げました、大学基準協会の認証評価ということでございます。私どもにとって非常に大きなイベントであったということでございますが、昨年、これを、大学院としては三度目ということになりますが、認証評価を受けまして基準に適合していると認定されたということでございます。資料3にその報告書というか、認定書というのがございます。2026年までこれが有効ということでございます。で、結論としては適合しているという認定であったわけですけれども、検討課題というのもつけられたということでございます。これはつけられたというか、むしろ必ずつくという性質のものだと思いますけれども、1年後に宿題というかたちで、どのような検討をしたかということを報告する義務がございまして、この9月に検討結果を報告する予定になっております。そういう点もございまして、ここで具体的に三つの点をお話しさせていただきたいと思うのですが、まずは日本語による教育を前提とした、国際的、地球的課題に取り組むことのできる人材の育成を目指している。このような独自のグローバルな人材養成について明確に説明するとともに広く周知することが望まれるということで、ちょっとわかりにくい文章だと思うのですが、目的の周知となっておりますが、国際化への対応というのが本件でございまして、基準協会の調査委員会から、昨年、国際化への対応に関するご質問がございまして、それに対して大学院側からは英語コース、あるいは英語による留学生の受け入れ等は考えていないというふうにお答えし、あくまでも日本語でグローバルな課題に対応する学生を育てるということを方針としている。したがって、留学生に関しては、日本語での教育に対応できる学生を、レベルを落とすことなく、できるだけ受け入れるという、そういう方針をお答えしたということでございます。そうしますと、基準協会の方は、それは了とされまして、ただ、それを周知しろというふうに返してこられたということでございます。で、私どもとしては、これは今までそういうふうに言ってきたつもりで、改めて周知をと言われても、どうしたものだろうというふうに困っているというところでございます。

二つ目は、シラバスの記述について、精粗があるのでより一層改善を求めるご指摘でございます。これは努力目標といいますか、そういたしますというふうに言うしかないというところでございます。で、三つ目は、これは志願者減少への対応ということで、前回、当委員会でのご指摘と重なることでございまして、これもどう解決案があるのかっていうのはなかなか浮かばないところでございまして、何かアイデアが頂けないかということでございます。実は2点、国際化と志願者減少に関しては、当委員会のご指摘と重なっているところがございまして、基準協会でも当委員会

の報告書をご覧になって調査をされているということで、内容的にかぶってくるというか、関係しているというか、同じものが返ってきたっていうようなことではないかということで、さらに具体的なご意見、対応策みたいなものがご助言いただけないかというふうに考えているということでございます。

さらに昨年からの変化として申し上げたいことは、コロナウイルス感染症への各種の対応ということでございまして、個別には、教育や入試が大きいわけでございますが、これはのちほど各主任からご説明させていただきます。私のほうからは会議と備品ということですが、会議に関しては、私は2019年の4月が任期の開始ですが、一回、教授会を対面でやって、5月からは全部オンラインです。全学の会議もそれ以降すべてオンラインなので、オンライン院長という感じでございます。

備品に関しましては、これはかなり前倒しでというか、慌てて買い占めたという感じがございまして、本日も、このヤマハの音声と、画像がオウルという、発言者に向かって動くカメラという、その組み合わせで進めさせていただいております。年度末に教室ごとに、ちょっとお金をかけて改修いたしまして、公共第1、RPG1、RPG2、この会場はRPG2ですが、三つのわれわれの持っている大きな教室をすべてハイブリッド対応としたということでございます。

次はホームページの英語化でございまして、国際化への対応というのが、これに対応、相当するのではないかというふうに私どもとしては考えております。実務家の岩下先生にご尽力いただきまして、かなり安価に年度末にやれたということでございます。これは表紙ですけれども、一度ご覧いただきたいと思うのですが、かなり充実した内容になっておりまして、これをもって日本語でやる留学生が増えてくれないかっていうのが私どもの期待ということでございます。

志願者対策というのは一義的にはなかなか難しいわけでございますが、私どもとして考えた一つのアイデアとしては説明会の充実ということでございまして、一つは合格者説明会を充実させたいということでございました。合格者説明会を従来、京都と東京で、現地で実施していたわけですけれども、東京の合格者説明会はちょっとさみしいと申しますか、関東圏の合格者と、われわれが出張して出ていて、その人間だけで集まってということで寂しいということがございましたので、それをやり替えて、京都で何らかのシンポジウムと合わせてもう少し大きくやるということで2019年の12月に行いました。私どもとしてはかなりいいものができたのではないかと思います。参加者、嶋田先生、2番目ですけれども、3番目、4番目の参加者は卒業生でご

ざいまして、卒業生で本省に勤めている人たちを呼んでシンポジウムをやったということでございます。成果を見たいところだったのですが、そこにコロナ禍がやってまいりまして、それがうまくいったのかどうかということが十分に検証できていないというのが現状でございます。また2020年は東京での合格者説明会をやめた代わりに入試説明会をやつたらどうかというふうに当初は考えていたわけでございます。6月に入試説明会をやり、シンポジウムを兼ねた合格者説明会を12月にというのを続けようと思っていたのですが、いざれも昨年につきましてはコロナウイルス禍でオンラインになって、シンポジウムは取りやめというふうにしましたということでございます。なおオンラインになったので、東京に行かなくてもよかったのではないかっていう反応、手ごたえは確かにあります。実際、これは昨年の入試説明会、6月に開いているものと出身大学ごとに整理したものでなければ、昨年については関東の大学、その他の大学、グレーになってますが、そこが増えていて、東京でやらなくともオンラインで十分じゃないかということが見えたわけです。ただ今年も同様の結果を期待したのですが、残念ながら、先月行った入試説明会ではあまり関東圏の学生の参加は、特に多くはなかったということでございます。ちょっと時間を過ぎてしましましたが、私からの説明は以上になります。ありがとうございました。

○岡副研究部長

では、岡ですけれども、私のほうから財務企画関係について説明します。お手元の資料をご覧ください。資料の22の1と22の2、23が財務関係の資料です。資料22の1と22の2に令和元年度の予算と決算、資料23に令和2年度の予算を掲載しています。令和2年度の決算は先日、6月の教授会で確定していますが、資料に入れるには間に合いませんでしたので、口頭で補足します。令和元年度当初予算是、運営費と科研費の間接経費と繰越金で2,808万円、それに追加配分があり、決算では2,874万円が執行されています。令和2年度の当初予算是、2,772万円でしたが、令和2年度は新型コロナ感染症の影響で執行できなかつた経費がかなりあり、また、対策のための追加配分をされましたので、実績は当初予算とはだいぶ変わっています。講演会の謝金、非常勤講師の人事費、非常勤講師の旅費、学生自主活動への支援などが大幅に減り、629万円ほどの支出の減少となりました。他方で421万円が対策のためなどで追加配分され、建林研究部長からの説明にもありました、遠隔授業のための機器の導入、三つの教室をオンラインと対面、併用授業ができるように改修する、それから、ホームページの英語化などで618万円支出し、決算の規模も3,140万円に膨らみました。オンラインと対面の併用授

業ができる設備改修が、この部屋も含めまして三つ行われまして、今年度、私も利用していますが、学生、出席者の音声、それから、遠隔の人の音声も全員によく伝わるようになって、非常に快適に授業ができます。

この予算と別に大和リースからの寄附金と読売新聞社からの寄附金があり、学生の自主活動支援のほか、一般市民も参加可能な公開講座を実施することなどに充てられています。資料25に示しましたように、令和元年度は水曜公開講座、JIAMとの連携セミナー、それから、読売新聞社との共催シンポジウム、これは合格者説明会と同じ日に開催しました。令和2年度はコロナの影響で講演会などあまりできませんでしたが、JIAMとの連携セミナーを開催しております。

学生の自主活動支援という項目で、令和元年度、令和2年度とも300万円の予算が計上されています。これは学生の自主活動の支援、インターンシップ旅費の支援、英語学習支援に充てられるもので、本大学院が特に重視しているものです。学生の自主活動というのは、いろいろなテーマで学生が自主的に取り組んでいる活動で、長浜まちづくり研究会、インゼミ実行委員会、震災復興研究会、政策提言ゼミ、英語議論会、主催者教育研究会、公共政策大学院の交流会、安全保障フォーラム、地域のソーシャル・キャピタル研究会、それから、雑誌『公共空間』を編集、発行するグループがあります。これらの活動も旅費の支援で令和元年度は98万2,620円、雑誌『公共空間』の支援に9万4,500円支出行っています。インターンシップの旅費は、一人当たり2万5,000円を補助しますが、令和元年度は40万円支出行っています。英語学習支援は、TOEFL、TOEICの受験料を全額補助するもので、令和元年度は44件の利用がありました。令和元年度、これら全部で208万996円を支出しています。令和2年度は交通費だけでなく、自主活動にかかる会議費等も支援するように拡充しましたが、新型コロナ感染症の影響で自主活動も制限され、大幅に利用が減って10万円程度の支出、また、霞が関インターンシップは行われず、この項目全体でも80万6,520円の支出にとどまりました。令和3年度予算では、例年どおり、300万円計上しています。今年度は、霞が関インターンシップは再開され、14名の受け入れが決まっています。学生の自主活動は重要なものだと考えており、今年度は徐々に活動が復活していくことを期待しています。以上です。

○毛利評価主任

それでは、引き続きまして、評価主任である毛利から、評価関係について簡単にご説明いたします。前回からの2年間で大きな評価が二つあります、一つは大学全体の機関別認証評価と、それから、もう一つが、先ほど、建林研

究部長からお話をあった専門職大学院としての評価です。

まず大学全体の機関別認証評価は、令和元年度（2019年度）に行われまして、公共政策大学院も一応、京都大学の一部局として評価の対象となりました。もちろん大学全体として認定をいただいているわけすけれども、その中では一つだけ、一部の大学院で入学者数が定員を大幅に下回っているという指摘がありました。ですが、公共政策大学院はこの対象とはなっておりません。したがって、公共政策大学院については特に指摘はありませんでした。

それから、昨年度の専門職大学院としての認証評価につきましては、検討課題については既に建林研究部長から詳しくご説明いただいたところですので、私からは、むしろプラスの面でご指摘いただいたところをお話ししようかと思います。とりわけ、公共政策大学院の特色として、優れた点として挙げていただいたのは、資料3にこの報告書がありますけれども、9ページから10ページのところで、科目編成につきまして、ゼネラリストとして必要な知識を修得したうえで、クラスター科目群としてより発展的な科目を配置していて、そのことによって公共政策のゼネラリストのみならず専門性を身につけるとともに、学生が具体的なキャリアを意識する機会にもなっているという指摘をしていただいています。これにより、カリキュラムの編成に公共政策大学院として特色があるというふうに評価していただいています。それから、もう一つは、今、岡先生からの話にもありましたけれども、資料3ですと26ページのところになりますが、学生の自主活動が活発で、しかも、それを手厚く支援しているということです。雑誌『公共空間』や、京都から発信する若手政策研究交流会への参加、受賞実績もあるということなどの、学生の自主研究活動と、その交通費などの支援という点を高く評価していただいております。検討課題も三つついていたということではありますけど、そういう点は特に高く評価いただいたということになります。

いわゆる外部評価はこの二つですけれども、そのほか、前回の教育課程評価委員会の報告書を当然ながら作成していただいております。もう一つが、こちらも2年に一度、公共政策大学院として作成している自己点検評価報告書、これは2018年・19年度分を、昨年度の末に作成し、刊行しております。これが資料の1ですね。これはいわば公共政策大学院としての情報公開の一番メインとなるもので、公共政策大学院全体の機関の活動、組織活動、それから、各教員の研究教育活動について包括的に情報をまとめて、そして、公開しているというものでございます。これらの資料につきましては、すべてインターネットで公表しております、また、自己点検評価報告書につきましては、他の公共政策大学院や関係機関等にも冊子体を配布しているとこ

ろでございます。私からは以上です。

○奈良岡教務主任（前年度入試主任）

それでは、続きまして、入学試験の実施状況に関しまして、昨年度、入試主任を務めました、奈良岡よりご報告させていただきます。お手元の資料では資料の7と8が関係するということになります。先ほど、建林研究部長から入試の結果についてご説明がありましたけども、資料7の1ページ目に一昨年度の入試の概況が書かれてあります。定員を1名及び2名上回る入学者を、昨年度、一昨年度と得ております。定員管理はしっかりとできているという状況でございます。

それでは、入試の実際の状況はどうかと申しますと、そちらが書かれていますのが資料の8ということになります。資料の8をご覧いただきますと、本大学院の入試は、一般選抜、職業人選抜、外国人特別選抜の三つのカテゴリーに分けて行われております。一般選抜が9月に筆記試験、10月に口述試験が行われております。そちらは、一般選抜の募集定員は30名程度なんすけれども、出願者が一昨年度は79名、昨年度は74名ということでございまして、倍率が約2.5倍ということで、これは長期的に見ますと、若干倍率が下がってくるという長期的傾向があるんですけども、ここ数年の傾向とほぼ同じであるということでございます。合格最低点も同一の基準で、出題、採点をしておりますが、ほぼ一緒にございまして、従来どおりの質の高い競争、質の高い学生の確保ができているというふうに考えております。他方で、職業人選抜と外国人特別選抜に関しては、1月に筆記試験、2月に口述試験が行われております。それぞれ募集定員は、職業人が10名、外国人のほうは若干名ということになっております。こちらも長期的にやや減少傾向にあるんですけども、職業人に関しては、昨年度、コロナの影響で出願者がさらに減少いたしまして、出願者が9名、合格者が9名ということで、全員合格という結果になりました。こちらも同一基準で出題、採点しております。特に基準を下げるということはしていないんですけども、結果として全員合格ということになったということでございます。一昨年度は出願者15名で合格者8名ということで、それまで大体こういう傾向てきてたんですけども、昨年度はちょっと状況が特異であったというふうに考えております。外国人特別選抜のほうは若干名の募集ということですが、昨年度は出願者が8名、合格者3名、その前が出願者10名、合格者4名ということで、ほとんどが中国からの受験生なんすけれども、例年どおりにされたということでございます。

昨年はコロナ禍のために大学院入試というのは全国的にも大きな影響を受けました。本大学院は、京都大学内でも

入試が比較的遅いスケジュールで行われるということでございましたので、他大学院の状況を見まして、どういったかたちで実施するかということを慎重に情報収集をして検討をしてまいりました。その結果、筆記試験は従来の学力検査の在り方を踏襲するということから従来どおりに実施をいたしました。他方で、感染対策のために、面接に関してはオンラインで行うということでございまして、対面の筆記試験とオンライン面接を組み合わせると、そして、面接の際には事前に出させた自己申告書を入試委員が事前に読んで、それを基に長時間質疑応答を行って慎重に学力を測るというかたちで実施いたしました。受験生の中には留学生も、外国人もいるんですけども、日本在住の者がほとんどでありますために、筆記試験の実施に関しては大きな問題はございませんでした。それから、オンラインの面接に関しましても、先ほど、建林研究部長からご紹介がありましたとおり、オンライン授業の実施実績というのが前期に既にございましたので、その蓄積を生かして、特に困難もなく、スムーズに行えたというふうに考えております。それから、受験生の側はコロナの影響で不安や混乱もあったかと思うんですけども、事前に入試説明会で丁寧に説明を行い、また、ホームページ等で丁寧に説明を行うという対応を取りました。募集要項にもその旨を記載して注意を喚起しております。大きな混乱はなかったというふうに評価しております。

それから、そちらに記載はございませんけれども、昨年度、今後の筆答試験のやり方を若干変更するという規程改正を行いました。現在、一般選抜の入試は、専門科目に関しては2科目を240分で行うという、非常に長時間の試験になってるんですけども、従来、時間をちょっと持て余して途中で終わってしまうという受験生も多かつたことから、時間を短縮することにいたしまして、一般選抜に関しては2科目240分のところを2科目180分に短縮するという決定をいたしました。それから、職業人と外国人選抜に関しても同様でございまして、職業人に関しては1科目120分を1科目90分にする、外国人に関しては2科目240分を2科目180分にするということにいたしました。ただ、こちらは経過期間、周知期間が必要でございまして、来年度に実施する入試からこういう改正が行われるということでございます。こちらは従来の在り方を大きく変えるものではございませんで、入試の実情に合わせた合理化という観点からの変更でございまして、それほど大きなものではないということを申し添えさせていただきます。以上でございます。

○待鳥入試主任（前年度教務主任）

それでは、引き続きまして、ちょっとそろそろお疲れもあり恐縮ですけれども、教務事項に関して、前教務主任とし

てご報告を申し上げます。大体、三つぐらいの柱がござります。

一つ目は前回の委員会開催後の制度変更についてです。先ほど、評価主任の毛利先生からもご説明がありましたように、教育プログラムに関して、基本的には一定以上の評価を得ていることもあり、大きな骨格の変更は行っておりません。全学的な制度変更に伴いまして、長期履修学生制度が在学生にも利用できるようになったという大きな変更がございましたので、公共政策大学院においても利用できるようにする見直しは行いました。その結果、今年度、令和3年度より1名の学生が在学中に長期履修学生に変更しました。

次に、前回の委員会においてご指摘をいただいた事項に関する、教務関係のことで一つお答え申し上げます。それは、国際化対応に関してでございます。国際化対応は、なかなかプログラム上、簡単なことではないですけれども、公共政策大学院と非常に密接な関係がある法学研究科において、外国人教員の数が増えております。その結果として、法学研究科から、いわゆる学内非常勤ではありますけれども、外国人教員が担当する科目、あるいは担当者の人数が増える傾向にございます。具体的には、令和元年度から法学研究科に採用された、マハン・マーフィー准教授が英語関係の科目を担当することになりました。学生にとっては、従来、1人の専任教員の方のみがご担当になっていたのが2人になるのは、いろいろな相談などがしやすくなるのではないかと考えております。

三つ目は、コロナ対応についてです。先ほど、既に建林研究部長からのご説明もありましたけれども、昨年度は1年中コロナのことに追われたというのが教務担当者の感想でございます。

具体的な対応としては、令和2年度が始まる直前、令和2年の3月ぐらいから全国的な蔓延状況が見られまして、4月に入りますと、全国的に第1回目の緊急事態宣言が出ました。本学でも4月丸々一ヶ月を休講にして、5月の連休明けぐらいから授業をすることになりました。この間、学生は学外でネット接続ができるかとか、コンピューターを持っているかなどについての調査から、まず始める必要がありました。さらに、休講が長引くことになりますと、その期間に見合うだけの課題を出す必要がございまして、その告知等々を進めました。合わせて、教員側がオンラインで授業するための、教室等のインフラ整備も必要でございました。かなりばたついたわけですけれども、何とか5月の連休明けぐらいから、前期に関しては多くの科目がオンラインで開講されることになりました。前期の試験は当初、通常のかたちでできるだけ実施したいと考えおりましたが、結局、

また夏前になると第2波がやってまいりまして、結局は試験を予定していた科目はオンライン試験、あるいはレポート試験になりました。このときには法科大学院と他部局との共通開講科目がございましたので、そこを調整することについても一定の準備が必要となりました。

その後、9月には後期の対応を始めました。後期は、やや小康状態で秋口になりましたので、ハイブリッド方式での授業が行われることをある程度見越しつつ、機器の確保やテストに取り組みました。その結果、10月からの後期は多くの科目をハイブリッド方式の授業で実施できました。ただ、年末ぐらいからまた蔓延が深刻化して、公共政策大学院にとっては年度末でございますけれども、リサーチペーパーの発表会や後期試験のオンライン実施、試験の一部はレポートへの変更を余儀なくされました。

今年3月には、本年度の全学の方針として、原則的には対面方式に戻すんだけれども、例えば家庭で高齢者と同居している場合、あるいは当人や家族に持病がある場合には、配慮してほしいという学生を調査したうえで、要配慮学生に対してはオンラインでの受講機会を与えることになさいという、こういう指示がまいりました。その指示への対応をすることと並行して、ハイブリッドでやる設備に関しても、昨年度の後期はやや泥縄的なところがまだ残っておりましたので、よりしっかりとたちで実施するための設備改修等を行いました。

その結果といいますか、そのような取り組みを学生はどう見ているのかが、資料の16の1、16の2にある昨年度の授業評価アンケート結果でございます。それを見る限りでは、資料の15の1、15の2が令和元年度でございまして、比較していただくと、学生の不満がすごく昂じているとは感じられないというのが、私の印象でございます。ただ、改善されているわけではありません。それをどう見るのかは何とも申し上げられませんが、不満が高まるとまではいえないだろうとは思います。教員側、授業担当者の側の努力の痕跡として、例えば、16の1ですと、ページ番号で言うと13と書かれているところ、教員側のコメントがございます。16の2の後半にも教員からのコメントはありますけれども、オンラインでやることに対して、なかなか不慣れなんだけれども、一生懸命努力をして対応したことはわかります。公共政策大学院に所属する者として大変ありがたかったなと思うのは、非常勤の先生方、つまり、他大学から来ておられる非常勤の先生方は、京大のシステムとか方針とかに全然慣れておられない中で、大変献身的にご協力をいただいて、ほとんどの先生方が短期間にオンラインとかハイブリッドに対応してくださったことです。私からは以上です。

○岩下教授

それでは、実務家教員の岩下より、進路状況、インターンシップ、同窓会について説明を申し上げます。若干時間を超過しているようござりますので、コンパクトにさせていただきます。

まず資料の21の1、2をご覧ください。こちらが令和元年、2019年と令和2年、2020年の修了生の進路調査のまとめでございます。先ほど建林研究部長からもご発言があったと思いますが、2019年の国家公務員が5人だったものが、2020年には15人になりました。若干落ちた後で復調したということかと思います。我々は別に公務員就職の予備校をやっているわけではないので、これは学生たちの自主的な判断によるものなのですが、一方で、公共政策大学院が教育の目的として掲げている「公共部門が直面している諸課題に適切に対応しうる的確な判断力と柔軟な思考力をそなえた、また、公共的な役割をになう強い倫理感をもった高度専門職業人を養成する」という観点からは、公務員にどのぐらい就職しているかというのは一つの基準になるわけです。お手元に資料はありませんが、その前の年度、その前の前の年度まで見ていきますと、国家公務員に就職した卒業生は、2017年が10人、2018年が12人で、それが5人になって15人になったというのがこの4年間の推移でございます。ただ、資料21の1を、詳細を見ていただきますと、確かに、2019年の国家公務員は5人ですが、通常の修了生の中で就職をしたのは、リカレントで復職した方を除くと26人で、その中には、金融機関、インフラ企業あたりも含めて、公共的な使命を持つ企業に対しては15人、半分以上が採用になっているんですね。これは、学生と話すとよくわかるんですが、彼らの一つの目標はコンサルなんですね。コンサルへの入社というのは、非常に彼らにとっては強い、公共的使命を担いつつも早期に仕事を任されて、それなりに待遇もよいというところなんですね。2019年の数字を資料21の1で見ていただきますと、この民間企業等のところに、いわゆるコンサル会社が7社入っています。いずれも今の就職学生のあこがれの的のコンサル会社のブランドのところにいっていますので、この年次は決して公共的使命が悪かったわけではない。認識が高くなかったわけではないのですが、そういうところにいて公共的な業務を担いたいというかたちで、無事、そこに採用された学生はそれなりに多かったということで、決して、この年次もしっかりと頑張ったなというふうに私は認識しております。その次の年次は、逆に今度はコンサルに当たる部分、研究所が1個あるだけですので、その代わり、公務員が非常に多かったです。自治体まで含めると17人、公務員になっておりますので、この2020年については、詳細な分析ができているわけではありませんけ

ども、コロナのもとでのインターンシップ等への参加が、ある程度公共政策大学院というネームバリューも加味されて、公務員側のほうでより多く採用になったということだと考えています。当然、コンサルその他の部分への学生の志望のスイングが若干あったということですね。全体としての傾向はここ数年、そんなに多く変わっていないのではないかと分析しております。

そのうえで、今お話し申し上げました、インターンシップでございます。この公共の学生にとってインターンシップに出ることというのは、実は非常に、ある意味で特別な計らいで霞が関インターンシップがございますので、それによって公務員の職業にふれることができるというのは公共政策大学院の非常に大きなメリットだと考えております。この資料17の1、17の2をご覧いただきたいわけですが、このインターンシップへの参加人数は、2019年では18人、この霞が関と書いていることで、霞が関インターンシップで18人で、その他の部分も含めて26人となります。それから、資料17の2だと、2020年は、この霞が関インターンシップが中止になりましたので、その分がないということで、大変残念な状況でございました。この霞が関インターンシップに積極的に参加しているのは京都大学の公共政策大学院が非常に有力メンバーであります、その次のページ、資料18の中で見ても、これは他の公共政策大学院と比べても圧倒的に京都大学の応募人数、受け入れ人数が多いというところがおわかりいただけるかと思いますが、累積のところで見ていただいても、特に最近の動向で見てもしっかりと2桁を確保しているというのは、実は京都大学だけでございますので、その意味では、この部分について、昨年、中止になるということで非常に大きなダメージだったわけですが、幸い、今年、先ほどもお話がありましたとおり、インターンシップが再開されることになりました、京都大学公共政策大学院から14人がインターンシップに参加することになりましたので、この部分についてのコロナの影響というのは若干和らげられる、ある程度山を越して、今後はこの状況が戻るのではないかと考えております。

最後に、資料はございませんが、同窓会である鴻鵠会、いわゆる鴻鵠の志の鴻鵠の字を書くわけですが、この鴻鵠会自体は、これは毎年1回ずつ対面のミーティングをずっと開いておりました。大阪と京都と東京で、毎年交代で1回ずつミーティングを開いて、そこで同窓生と現役の学生とか交流するという非常によいイベントだったわけですが、これもコロナで昨年も今年も中止でございます。その代わりなんですかでも、Zoomを利用したリモートの会合で、地域公共政策研究会というのを、これ、鴻鵠会をベースにして開催されています。これが、今年で言いますと、1月9

日、6月の20日に開催されました。そういう中で先輩後輩、一応、鴻鵠会担当教員である私も会議に顔を出して、ブレイクアウトセッションでいろんな学生と話をするというかたちで、なかなか対面と同じとはいきませんが、それに類したかたちでの、に近いかたちでの学生との意見交換であるとか、先輩後輩の間の交流というものを何とか維持しようとしているところでございますので、コロナで無事、ワクチンも打ち終わって対面の交流ができるようになれば、これも復活するのではないかと期待しているところでございます。
私からは以上でございます。

○石井委員長

ありがとうございました。大学側からは以上ということでおろしいでしょうか。

○建林研究部長

はい。以上になります。

○石井委員長

それでは、若干の休憩を挟んで質疑応答ということにしたいと思います。どうしましょうか、2時10分からという予定がありますが、それでよろしいでしょうか。

○一同

はい。

○石井委員長

それでは、2時10分に再開したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

[午後2時 休憩]

[午後2時10分 再開]

○石井委員長

時間になりました。それでは、質疑応答に入りたいと思います。どなたか、まずは口を開けにご発言をいただける方、いらっしゃいますでしょうか。

○武濤委員

ご説明ありがとうございました。まず、この1年半ぐらいのコロナ禍の中で先生方、事務局が、学生の支援など困難な各種対応に尽力されたことに敬意を表します。一方、このコロナ禍は京都という地方の組織にとっては地方のハンデをデジタル化によって克服できるようになったという意味ではチャンスであり、これを京大の活動にとってプラスになるようにできるのではと思います。例えば、今まで各界の関係者を招いて、フェイストゥフェイスの会議、イベントなどを開催するにあたり、色々な機関が集中している東京にある組織が地方よりも有利でした。京都を含め、地方の大学にはその点においてハンデがあったと思います。しかし、コロナ禍以降、広く多くの人、組織において、オンライン

での活動が一般的になり、受け入れられるようになりました。今回のこの委員会の開催形態もオンラインになりましたが、大学関係の会合、事業等もオンラインとリアルと併用、活用することが容易になりました。こういう状況にあって、京大、公共政策大学院のブランド価値を高めたり、出願者の増加にもつながるような取り組みとして、デジタル化、オンラインを活用した方策の実施状況を教えていただければと思います。

○岩下教授

はい。実務家教員の岩下でございます。おっしゃるとおり、これまでの東京一極集中からコロナによってある意味で社会が一変して、どこにいるかということとは関係なく、それぞれの能力に応じたかたちで評価されるようになったということは、非常に望ましいことだと思います。ですが、逆にデジタルデバイドというか、デジタルに慣れてるかによって、逆に能力の格差が生まれやすいというネガティブな面もございます。このため、私自身が気にしているのは、できるだけ学生にリモートで授業することも非常に多くありますし、リモート、あるいはさまざまな情報伝達をするとときにも、対面でない状態でさまざまな情報機器を上手に活用することとか、あるいはリモート状態で意見を述べるときの、述べるスタイルの訓練ですとか、そういうことを割といろん工具を取り混ぜて、実際に実証させています。これまでのスタイルと、そういうものというものは学生がそれぞれ自分で勝手にやるものだったのだと思いますし、そもそもリモートで、例えば、就活であるとか、あるいは会議であるとかをするっていうこと自体の経験が実社会でもほとんどなかつたのに対して、今の彼らはいろいろリモートネイティブとかZoomネイティブみたいなところがあって、それぞれの洗礼を受けた世代なので、そういうものに対して非常にたけていますし、例えば、Zoomのパラメーターのオプションの使い方とか、一旦、ホスト権限を渡してみたら、こんな機能があったのかと教えてもらえるような、すごいことをやってみせる学生もいます。逆に言うと、そういう者の知識がみんなに均てんしていくけば、そのグループはデジタルの世界での優位性というものをキープできるだろうと思います。本人の能力プラスデジタルの能力の向上というところに着目して教えています。あるいはそういうことが社会全体を変えていくということで、私、今、デジタルガバメント論という授業を持ってるんですが、その授業の中でもまさにそういう変化が起こっているということを実演しながら教えています。そういう意味での変化に対応する授業を行うように努めているところです。以上です。

○石井委員長

ありがとうございました。

○武濤委員

ありがとうございました。本学ではデジタルガバメント論などデジタル化に関係する分野の講座もすでにもっておられますし、デジタル化の活用をすでに進めておられるということですね。今後も政府、企業等においてデジタル化が否応なく進んで行きます。よって大学にてもそういうデジタル対応のスキルのある学生を育てるというところにも重点をおかれることを期待いたします。

○中江委員

中江でございます。

いろいろと丁寧なご説明をいただきありがとうございました。初めての参加ですので、感想めいたことになるかと思います。岩下先生のほうから院生の就職希望で、今はコンサルへの入社希望が多いというお話を伺って、役所のOBとしては少し寂しい気がいたしますけれども、ただ、おっしゃるように、民間部門でも公共的な使命を担っている業務っていうのは当然あるわけで、それはコンサルに限らずですね。この自己点検・評価報告書の「本大学院の基本目標」に「重要なことはいかなる組織にあっても常に公共的な視点から考える能力を涵養すること」だと書いておられて、これはまさにそのとおりだと、大変大事なポイントだと思うんですね。今、企業も、例えば、SDGsへの取り組みなんてまさにそうですし、脱炭素への取り組みもそうです。以前はCSRについてやっている、企業のPRとしてやってるようなところもございましたけれども、今はSDGsも経営戦略の中心に位置づけて取り組もうとする企業が増えてきています。それから、実際に、いろんな社会課題が非常に複雑化、多様化して中で、社会課題の解決のための取り組みの担い手も多様化していると思うんです。国、自治体のみならず、企業も、私のおります協同組合も、NPOもそうですね。担い手が多様化してきています。また、特に今のパンデミックとか、あるいは東日本大震災のような大規模な自然災害といった危機的な事態のときは、民間部門の担う公共的な役割が非常に大きいと実感しています。いかに民間部門が、公共的な使命を担っていつてもらうかが、非常に大事だと思うんですね。

それと、もう一つ、こういう多様な担い手が縦割りでそれぞれ活動するのではなく、それらをいかに連携させるか、コーディネートしていくかが大事であり、連携させることで大きな力になっていくと思うんですね。これから行政官には特にそういうコーディネートする能力が求められています。コーディネートできる人材が必要だと思います。そういう意味で、本大学院で、多様な担い手をコーディネートすることによって社会課題の解決を図るといったことを、学生が学んでいけるようなことがあればいいのかなと思います。ま

ずは多様な担い手からいろいろと話を聞く機会といいますか、多様な担い手を非常勤講師とか、ゲストスピーカーとして迎えるといったことですか、実際に活動の現場に行って、視察をして、ディスカッションをするというような機会を、既にいろいろな取り組みをされておられるでしょうが、設けられてもいいのかなと思っております。

それから、一点、質問ですが、霞が関インターンシップは非常に意味のある取り組みだと思いますし、本大学院が積極的にやっておられるというのは大変結構なことだと思います。これは、例えば、役所のどの部署でどういう経験をするかというのは、基本的に、役所のほうに任せておられるのか、あるいは大学のほうから学生のニーズといいますか、希望も踏まえてリクエストをしておられるのか、その点をちょっとお聞かせいただければと思います。以上です。

○岩下教授

インターンシップの説明の担当をさせていただきました、岩下でございますが、霞が関インターンシップにつきましては、霞が関からこういう候補のインターンの希望がきているよということを一括して学生に示します。その中で、学生には、第1希望、第2希望、第3希望というふうに三つ希望を書いてもらって、その希望を役所のほうに出します。そうすると、役所のほうから、この子は第1志望で合格、この子は第2志望で、この子はちょっと選に漏れただっていうのが出てきます。この2021年の例でいきますと、全部で17名応募しています。その中で、第1希望に入った子が8人、第2希望、第3希望、どこにも受け入れられなかつたのは3人と、そんなかたちになっていますので、われわれがここに行きなさいみたいなことを言うのではなくて、学生自身がどこに出せば自分の希望がかなえやすいかってことだと思います。いろいろ聞いてると、第3希望までに、例えば、経産省入ると経産省に拾ってもらえる可能性が結構高いみたいな話っていうのは学生のほうも認識してるんですよ。

どうしてかっていうと、役所によって違うんですけど、経産省っていわゆるスクール型のインターンなんですよね。だから、人数が割と多いので、実際、実作業っていうよりは、経産省に来てもらってこういうところですよっていうのを教え込むみたいなところありますので、例えば、今年は経産省4人、インターン出ることになっています。ただ、どうしても自分は環境省がいいんだとか、国交省がいいんだとかっていう、そういう学生が多いです。人気度でいきますと、経産4人なんですが、環境省4人、それから、国交省が3人、厚労省1人みたいな、そんな感じで、総務省2人ですかね、それぞれ学生がどこを希望するかというの、通常は役所の中でいわゆる偏差値的な意味で輪切りにされているというよりは、学生側の本当の希望に沿ったかたちでインターン

シップを希望して、また、それが最終的な就職的にもつながってるケースが多いと聞いています。私は以上です。

○中江委員

どうもありがとうございました。

○石井委員長

ほかに。

○西村委員

ちょっとよろしいでしょうか。

今のご説明に関連してなんですが、今年の公務員試験の結果なんかが発表されたときには、よくマスコミなんかで見たんですけども、女性の合格者の割合が高くなっているとか、あるいは各省庁も女性の登用を進めようとしていることを見るんですけども、この公共政策大学院の院生の中で女性の人たちの割合ですとか、彼女たちの公務に対する志向なんていうのはどんな状況になってるのか教えていただければと思うんですけど。

(間)

○嶋田委員

では、よろしいでしょうか。

ちょっとどういう立場でものを申し上げるのかわからないんですけども、教員側ということで申し上げたいと思います。女子学生の割合は多分、データがあると思いますけれども、かなりの学生割合がいると思います。進路ですけれども、例えば、昨年で申しますと、女性2人が国家公務員になっておりまして、1人は総務省の自治、それから、もう一つは警察ということで、それこそかつてであれば女性が採用されることがなかったようなところにもしっかりと入っていまして、先ほどの話で申し上げますと、インターン等に行つたときからやっぱり非常に高い評価を2人とも受けておりまして、それがご縁で向こうのほうからぜひにというお話をいただいたということもあると聞いております。そのほかの女子学生も地方公務員、それから、コンサルティングに近いところとか、そういったところで非常に就職率もよいので、その意味では、国家公務員も含めまして、よいかたちで送り出せてるんじゃないかなと思っております。以上です。

○西村委員

ありがとうございました。

○中山大学院掛長

女子学生の数、申し上げてもよろしいですか。

○石井委員長

はい。お願ひします。

○中山大学院掛長

現在、学生は85名おりまして、29名が女子学生になっております。学年別で言いますと、1年次が41名おりまして、女子が15名です。ちなみに、留学生はそのうち6名で、

女子は3名です。2年次の学生は44名おりまして、女子は14名です。2年次の留学生は6名で、うち女子は4名です。

○西村委員

ありがとうございます。

○稻継委員

稻継です。よろしいですか。ここ1年間、コロナ以降の教員の皆さん、職員の皆さんのご苦労は、私自身、大学に勤めてる者として非常に理解するところあります。ラーニングマネジメントシステムの一から覚えるさまざまな技術、そんなところにほぼ半年以上費やして、研究が全然できなかつたというような状況、恐らく多くの大学の教員が味わつてっていうか、経験してきたことだと思います。早稲田の場合は、今年の4月から7割対面にするという目標を立てて実際やってるんですけども、どうしても来れないという学生もいるので、ハイフレックスといいまして、同時配信をしながらそこにいる学生にも話すという、これも教員にとって非常に負担の多いことをやっております。京大の先生方も大変ご苦労されてるところだと思います。

専門職大学院の置かれている状況っていうのは非常に厳しい、特に何か資格を与えるような専門職大学院でない公共政策大学院の場合は非常に厳しくて、今は恐らく東京大学と京都大学だけが何とかある程度の倍率、それから、資質を維持しておられると思うので、ぜひこのまま頑張っていただきたいなと思ってます。早稲田大学も2003年に専門職大学院を設立したのですけれども、やはり、その後、資格が与えられるわけでもないということから、徐々に、当初、4.5倍の倍率だったんですけども、どんどん倍率が下がってきて、2倍を切り、1.何倍になったあたりから存廃論が登場し、そして、今年の4月からは専門職大学院という、もうそれをはずしました。一般の専門大学院、今の政治学研究科のうちの一部門ということになりました。

多くの公共政策大学院でそういう動きは今後起こると思うんですけども、京大だけは何とか頑張っていただきたいなと思います。私自身、昭和50年代に法学部を出た人間であります、そのあと、地方自治体に勤務しておりました。そのときに今の公共政策大学院の前身である専門職大学院だったですかね、専修コースだったですかね、法学研究科に置かれましたところに役所から派遣されて2年間通わせていただきました。当時、思い出すと、半分近くが職業人、派遣だったんですね。自治体、関西の2府、多分、3、4県と、政令市、京都市とか京都府は毎年必ず出しておられて、大阪府、大阪市、神戸市、兵庫県といったところから人がたくさん来ていたのと、あと、関電、大ガス、それから、住友銀行、ニッセイといったところも毎年派遣して

おられたと思うんですね。

それが今の、例えば、資料の21の1とか2を見ると、現職の職業人の派遣がかなり減ってるという状況、これはここ数年に限られたことではないと思います。私自身、公共政策大学院になってからの京都大学にも2年ほど非常勤でおじやましたことがございますし、その前の専修コースのときにも、1、2年、非常勤でおじやましたことはあるので、当時から徐々に減ってきたっていうのは実感してるところですけれども、やはり非常に少ないなという印象、このデータを見て持ちました。

同じ傾向として、例えば、自治大学校っていうのがあって、ここも自治体からの派遣者がどんどん減ったので、今までの6ヵ月コースっていうのをもう2、3年前に3ヵ月コースに変えちゃったとか、そういうふうに現職を派遣する余力がさまざまな組織に今なくなってきたっていうという状況があります。しかしながら、GRIPS、東京にある政策研究大学院大学はかなりの数の地方自治体職員を集めてますので、何らかの方法を取ればある程度の派遣者を集めることも可能かなと思うんです。どういう手段でGRIPSが集めておられるのかわからんんですけども、京大のほうでもやはりそれを頑張っていただきたいなと思います。もちろんストレートマスターで優秀な方が国家公務員に昨年度15人、それから、今年度はシンクタンクにたくさん入っておられる、これはとてもいいことだと思うんですけども、やはりストレートマスターだけではなくて、働いてる人との相互交流によってさまざま得られることも多くあると思うんで、そのところ、現職の派遣のところも、発掘ちょっと頑張っていただきたいなと思います。

それから、国際化対応のどこでちょっと申し上げたいんですけども、私自身、大学基準協会の評価委員やってたことがあって、これ、相互評価なので、各大学から委員が出て、私がいたときは中西先生が京都大学の委員だったんですけども、ある私学に行って、実地調査をして、いろいろ、われわれ、意見を言うわけですけれども、やはりそこでどうしても必ず国際化って話は出るんですね。国際化の中で、今日の部長のプレゼンテーションでお示しいただいたように、英語のホームページ作ったという話がありました。これは、待鳥前教務主任からお話をあったところでは、カリキュラムの中に、外国人教員、専任教員、プラス1名が兼任でという話があったんですけども、ホームページ作っただけでは全然国際化には多分ならないと思うんですね。それから、新しい科目作っただけではやはり国際化に対応したってことには、多分、基準協会でも評価、ならないと思うんです。やはり、例えば、今、カリキュラム見ると、プレゼンテーションとライティングが多分これ、英語で提供

されてる科目だと思うんですけども、それを任意選択科目にしておられると思うんですね。これ、多分、必修科目にするとかいうふうにすれば、みんな必ず受けなきゃなんない科目になるとか、この科目用意して、取りたい人は取ってくださいよっていう状態では、国際化対応になつたってことにはなかなかくいのかな、そういう判断にはならないのかなというふうに思いました。以上です。長くなりました。

○待鳥入試主任（前年度教務主任）

ありがとうございました。カリキュラムのことに関係した部分については、私からお答えを申し上げます。ライティングとプレゼンテーションに加えて、実は外国報道の分析という科目も、今年度は高等教育を全部英語で受けてきた方が英語で授業するかたちでやっています。先ほどの稻継委員からのご指摘の点について、ストレートに必修にするのは、受講人数の関係とかもあり難しいところです。少人数でやらないとこの手のクラスは効果が上がらないわけですが、必修にするとやっぱり20人～40人でクラス単位になってしまいます。また、この科目は研究者を目指す大学院生や法科大学院生の中でも国際業務に当たりたいと思ってるような大学院生も受講できるようにしていますので、そうすると、人数がさらに大きくなつてクラスを分割する必要が出てきます。しかし、そうなると教員の確保等が難しくなるという、別の問題があるのも事実です。ただ、公共政策大学院の学生に対して、もっとこの授業を受けたほうがいいよとエンカレッジすることは十分可能だと思いますし、そのあたりから始めたいとは考えております。将来的には、科目名にかかわらず英語で授業を行っている科目そのものをもう少し増やしてもいいかもしれません。履修指導などの場で、英語は大事だとはジェネラルには言つてるんですけども、具体的に履修すべき科目名として示すところまでは必ずしも進んでおりませんので、参考にさせていただきたいと思います。

○建林研究部長

私のほうからは前半に対する答えといいますか、非常にありがたいアイデアをいただいたと思いました。一般選抜の受験生減少ということの対策を考えろと言われたわけですが、それはわれわれだけでどうこうできるものではなかなかいけないですけども、職業人選抜のほうで一定のレベルを確保するということが、一般選抜のほうの競争力、倍率を維持するということにもつながりますし、稻継先生ご指摘のように、職業人選抜の人たちがわれわれにとっての財産といいますか、レベルを非常に高く保つ一つの重要な資産であると思っておりますので、その部分をもう一度、何か変えられることはないか、今後も考えていきたいと思いま

ます。

○石井委員長

ありがとうございました。嶋田先生、教育課程評価委員会の委員というお立場としてなんですが、ご質問等、何かございますか。

○嶋田委員

ちょっとこの立場で申し上げると自分に返ってくることになりますが、せっかくですので。

今、稻継先生からのご指摘の件で、私自身が人事院の出身の実務家教員ですので、その観点からのむしろお答えになってしまふわけなんすけれども、多分稻継先生がいらっしゃった頃というのは、国内研究員の制度を使って大学に派遣される各省の職員というのがかなり京大にも来ていたんじゃないかと思うんですけれども、今は海外留学の枠が非常に広がりまして、それに非常に行きやすくなつたと。それ自体いいことなんすけれども、じゃあ、両方あるのに国内に行くかというかたちにはなりにくいと。で、国内に行く場合には、むしろ博士号が必要な国際交渉なんかを考えたときには博士課程のある大学院のほうがいいという役所側のすみ分けもあるようで、多分、時代的にコア層みたいなところが流れてるような感じはいたします。

ただ、他方で、やはり、今、こういった公務自身が非常に摸索している時期にもありますので、各省とお話をするとには、自己啓発休業制度もできておりますし、現にそれを使って自分で大学にいくという学生も出ていますので、そういったところの必要性をしっかりと、役所のお仕着せではなくて、本当に自分が専門家としてやっていきたいときにはこういう受け皿があるんだということを、もう少しいろんな機会に発信していくんじやないかと思っておりますし、今のお話伺ってまして、われわれ、もっとできることがあるというふうに思いました。ご指摘ありがとうございました。

○石井委員長

ありがとうございました。それでは、私からちょっとご質問をさせていただきます。2つあります。1つ目が、自己点検評価報告書の中に実学教育についてという部分があります。これが1つです。それから、2つ目、教育課程の在り方についてという項目があります。この2つについてまず伺わせてください。

まず実学教育ですが、教育活動の項目の中に教育方法等という部分があります。実学教育の重視というふうに書いておられます。専門職大学院として理論と実践との架橋、または理論知と実践知の融合という観点からしても、実学教育を行うことは当然とされております。展開科目や事例研究などにおいて、その方向を打ち出しているとしたうえで、

具体的に実地で行うことも学生に強い自覚を促す、契機として重要であるという意義づけをされています。大賛成です。とても大事なことだと思います。過去の実績を見ると、平成20年度と23年度、二つが実績として挙がっています。伺いたいのは、意義を強調しておられる、大変いいことなんですが、この10年行われていない、これはなぜなのでしょうか。併せて、仮に予算獲得などの難しさというようなことがあるとしたら、どう対処されるのか、これについて伺わせてください。

それから、続けて伺ってしまいます。教育課程の在り方についてです。教育活動の項目の中の教育課程等の記述の末尾に、将来への取り組み、まとめという部分がありますが、そこで教育課程の見直しに言及しておられます。設置準備等の段階で入念な検討を重ねたということから、軽々に変えるべきではないという意見があるという紹介がますあります。それに続ける形で、専門性や実務との連携をより強化するため開講科目の見直しをとの意見があるというふうに両論を併記しておられます。結論としては、本公共政策大学院の基本理念を見失うことなく、社会的要請、変化を見据えた方向性を打ち出すことが涵養と述べ、また、学生による授業評価や本委員会の評価なども参考に意見の集約に努めていると書かれています。

現状認識として、ポストコロナということがいわれて、あるいはニューノーマルというような言い方もしますが、あらゆるもののが根底的な変革を迫られているのではないでしょうか。高度な効率化によって利潤を拡大するというようなこれまでのビジネスモデルが、もう成り立ち得ない世の中になってきています。そういう時代状況を踏まえたときに、開講科目の見直しについてどう考えるかということを伺いたいと思います。そのうえで、時代状況に対応するために、例えば、教員による教育課程検討委員会のような組織を設ける考え方もあると思いますが、いかがお考えになりますでしょうか。この2点をお伺いいたします。

○待鳥入試主任（前年度教務主任）

ありがとうございました。大変丁寧に自己評価冊子からご指摘いただきまして恐縮でございます。自己点検評価報告書の大体14ページから15ページのところが第1点でございまして、2点目が13ページだと思います。この14ページ、15ページのところにございます実学教育の重視については、教育というかたちで書かれておりませんけれども、自主活動としては公共政策大学院の学生が滋賀県の長浜市などに行つて、まちづくりのプロジェクトに参画するといったことを行つております。学生の自主活動団体が各地でのさまざまな活動に参画をするのは、震災の復興あたりから非常に盛んになってきたこととして継承されていて、学生の中では、

それは特記するまでもない活動の一部になっているような感じがございます。

なお、自主活動の在り方は補足資料の2のところにございまして、例えば主権者教育研究会であれば、高校に出向いて主権者教育についての話をするとか、震災復興研究会は東日本大震災からの復興をテーマにしております。地域のソーシャルキャピタルとか長浜まちづくりなどの研究会は、先ほど申し上げたような、各地域に行くような活動でございます。そういう意味では、実地、実学教育についても、本公共政策大学院の場合には学生の自主活動が持つてゐる意味をもともと高く評価しておりますが、その枠組みの中にむしろ定着しているということになろうかと思います。

それから、2点目の開講科目的見直しの件は、大変重要なご指摘をいたしましたと思います。カリキュラムの見直しならぬか難しいところがございますけれども、近年の新入生や受験者、受験希望者に対する説明会あるいは合格者説明会では、語学とデータ分析ができるようになりますといふています。具体的には、例えば統計データを読める、それを使って自分で二次分析できるといったあたりになります。それは先ほど、武濤委員からのご指摘とも関係すると思うんですけれども、特にデータ分析をもっと体系的にできるためのカリキュラムを構築していくかないといけないというのは、教務をあずかっている者の間での引き継ぎ事項として、ちょっと昨年度はコロナでもうおよそ手が回らなかつたんですけども、検討していくべきではないかと今考えて進めていると、このようなところでございます。私からは以上です。

○建林研究部長

私たちちょっと補足をさせていただきたいんですが、第1点目、実地教育につきまして、これ、だいぶ古い記述が残ってしまっていて、それをアピールするっていうことになっておりまして、昨年、基準協会の評価を受けたときもそうだったんですが、この大学院をアピールする場合に文章を積み上げるようななかたちで作っておりまして、2年に一度っていうサイクルっていう問題もありますし、要するに、前年のものに新たに書き加えるわけですよね。そうすると、昔のいいこともそのまま残っていることがあります、じゃあ、これ何でやってないんだ？って話になつてしまふ。それはひょっとしたらちゃんとさらから書き直すっていうようなことをすべきなのかもしれないと思います。例えば、『公共空間』みたいなものの、自主活動の一部なんですが、設立当初は割と機関紙に準じたような扱いをしていたということかもしれませんけれども、最近は学生が出したり出さなかつたりしておりますし、あるいは内容に関してこちらがチェックしているわけではないということでありまして、ですから、社

会の変化というのもありますし、オフィシャルにオーソライズしてゐるわけじゃないっていうところがあるにもかかわらず、評価の文章には機関紙に準じたみたいなことが書いてあって、基準協会のほうでも特に取り上げて『公共空間』みたいのを出していてすばらしいとかいって書かれてしまつております、ちょっと危ないというところがあります。ということで、その評価の問題も含めてやや見直す。先ほど、内容としては待鳥先生がおっしゃいましたように、自主活動みたいなものに振り替わっていることがありますので、授業としてはやっていないわけですけれども、実質化しているということであるのだと思います。

授業のカリキュラムの組み換えに関してましては、これはずっと私なんか非常に難しい問題だつていうふうに感じております。公共政策大学院は社会の変化に応じてカリキュラムを割と頻繁にいじつていかなくてはいけない組織だと思うわけですけれども、他方で、外部評価っていうのも頻繁にありますし、2年で学生が替わるっていうこともありますので、ではどのタイミングで変えるのかっていう話がありまして、計画的にやる必要がある。時間に対応して頻繁に変えなくちゃいけないにもかかわらず計画的にやらなくてはいけないっていう、そういう非常に難しいことなんだと考えております。ただご指摘いただいたとおりだと思いますので、そのやり方というのをアフターコロナに向けて考えていきたいというふうに思っております。

○石井委員長

ありがとうございます。時間がもうそろそろきてるんですが、どなたか委員の方でもう一つぐらい何か伺つておきたいということがありましたら。

○武濤委員

いくつかコメントさせていただきます。

一点目はグローバルにも競争力を高めるような工夫が重要ではないかかということです。日米の大学院の教育を経験したことからの気づきですが、日本の大学院に比べ、教えることが非常に実務的であること、勉強が極めてハードであったということ、入学前からの学生に対する種々の支援やコンサルティングが充実していること、入学後は学生をグループでのプロジェクト経験を多くさせ、現実社会でのグループでの仕事のやり方など実務に近いプロジェクトを経験させることなどが米国の大学、大学院の特徴だと感じました。また卒業後も、同窓会活動などの卒業生へのフォローが徹底していることも特徴だと思います。すでに公共政策大学院では、教育活動、学生に対するフォロー、同窓会活動含め、こういった面でも米国等の機関同様に、活発な努

力をされていると思います。例えば学生による『公共空間』という出版物、過去の号も拝読しましたが、感銘を受けました。ぜひ今後もグローバルにも競争力のある大学院として内外の大学等もウォッチしながら、各種の活動をすすめていただきたいと思います。

二点目は関西にある総合大学であることをもっと活用できるのではということです。京大は多くの有力な学部を有する総合大学であり、他学部との連携により、学生が多様な分野の学びができる、多様な分野の人と交流できるようになるといったことが可能です。さらに関西にある公共的な機関と連携をすることも京大であれば容易だと思います。関西にある総合大学であることの強みを生かして、公共政策大学院の魅力をさらに高めることができるのであればと思います。

三点目はデジタルも駆使した情報発信を強化するとともに、これを教育にも取り入れたらいかがということです。

京大という高い価値のあるブランドをうまく活用した情報発信、PRをデジタルを活用してさらに強化するとよいと思います。例えば、大学院のウェブサイト、英語のサイトも拝見し、よくできていると感じましたが、さらに強化する余地はあると思います。紙媒体の情報ではなく、デジタルでしか情報を見ない人が増えていますが、特に若者はデジタルでの情報への接点がメインになっていると思います、よってウェブサイトなどのデジタル情報を強化し、デジタル化により情報発信をよりタイムリーにかつ効率化されるといいと思います。例えば、“公共空間”もデジタルのみにしてもいいのではとおもいますし、大学院の魅力をアピールするのに重要なコンテンツである、教員の紹介などをもっと詳しく魅力的なものにするのも一案です。また広報関係の対外的な情報発信、コミュニケーションはデジタル化を含めて、政府機関にとっても近年大変必要な分野であり、その能力が重要になっていますので、学生に対してデジタルを駆使した広報スキルなども教育に入れていただくとプログラムが

より充実するのではないかと感じます。

以上、思いつきのコメントで恐縮です。

○建林研究部長

ありがとうございました。何かすごく痛いところを指摘されたっていいですか、アメリカの専門職大学院は給料も高いですし、授業料も高いですし（笑）、専業、われわれはやはり兼業農家っていいですか（笑）、法学研究科と行ったり来たりでやっているというようなところがあって、やはりそういうやり方の限界みたいなところをご指摘いただいたかと思いますが、泣き言を言っていてもあれですので、メリットを生かして、ブランド力を生かして、できる範囲で努力をしていきたいというふうに考えております。ありがとうございました。

○石井委員長

まだご質問ある方いらっしゃるかもしれません、もう時間ですので、ここで質疑については打ち切りたいと思います。ありがとうございました。

○建林研究部長

本日はお忙しいところ、長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。冒頭に申し上げましたように、書面で7月末までにということでお願いいたしたいと思いますけれども、A4一枚程度でご意見をいただけないかと思います。先ほども申し上げましたが、9月に大学基準協会に検討課題について回答する予定で、その検討に際しまして、委員の皆様からいただいたご意見を参考にさせていただきたいと考えておりますので、ちょっとタイトですけれども、7月中にいただけないかということでお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

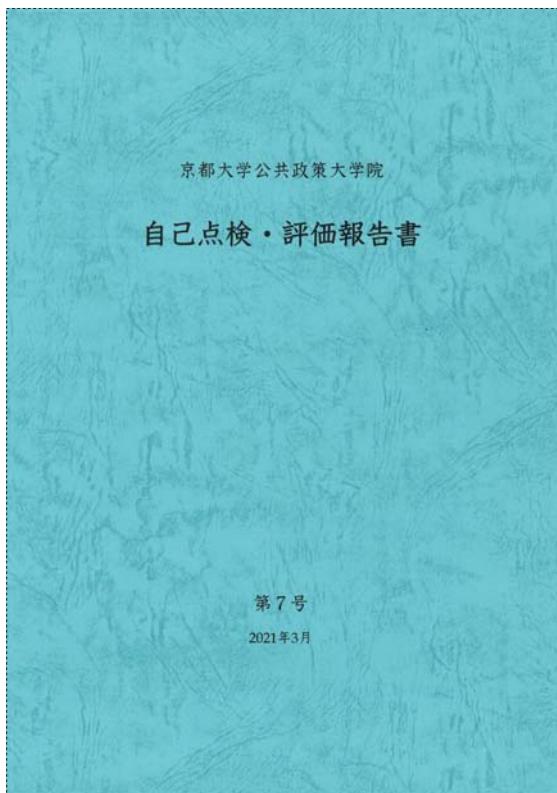
○一同

ありがとうございました。失礼します。

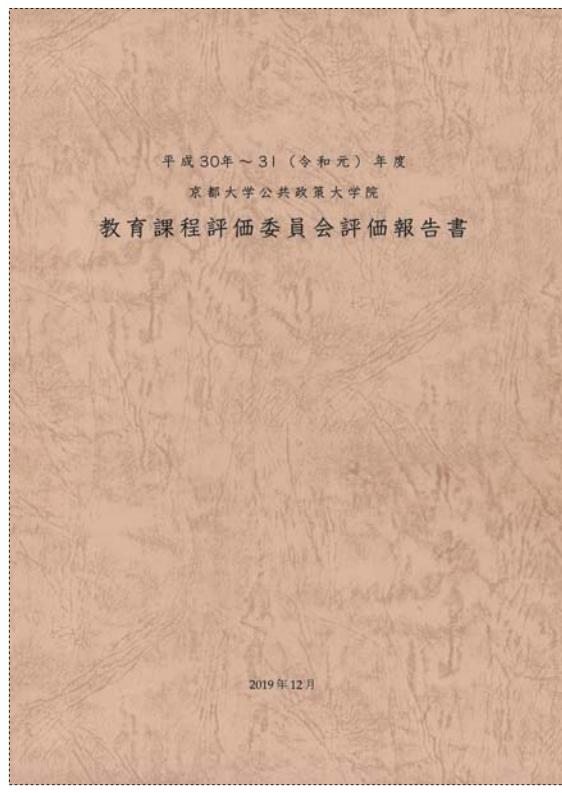
[午後3時閉会]

教育課程評価委員会配付資料

資料 1



資料 2



京都大学大学院公共政策教育部公共政策専攻に対する認証評価結果

I 認証評価結果

評価の結果、京都大学大学院公共政策教育部公共政策専攻は、本協会の公共政策系専門職大学院基準に適合していると認定する。

認定の期間は2026年3月31日までとする。

II 総 評

京都大学大学院公共政策教育部公共政策専攻は、京都大学の基本理念の下で、「学生・社会のニーズを踏まえたキャリアプランの明確化」「他大学の専門職大学院に比しての特徴」「学内における他の教育研究組織との関係」に留意しつつ、大学としての中期目標においても「多様な学術的研究を背景とした深い学識及び卓越した能力の涵養を促し、実践的に社会貢献できる高度専門職業人を養成する」ことを基本としている。それを踏まえ、当該専攻では、一般的知識を修得する基本科目から公共政策専門家としての基礎知識を共有する専門基礎科目を経て、スペシャリストとしての能力を育成するクラスター科目に至る体系的な教育課程及び履修システムを整備し、学生一人ひとりに履修や進路に関する指導教員を配置するなどのきめ細かな学修上のサポートに努めている。また、当該専攻の機関誌である『公共空間』の執筆・編集に学生が自主的に取り組んでいるほか、「震災復興研究会」「政策提言ゼミ」等においても学生による組織が活動しており、こうした学生の自主的な活動を積極的に支援している点は評価できる。その結果として、公務員、民間企業を問わず修了生の多くが公共政策領域への就職を果たしており、公共的職務に従事する高度専門職業人の養成という社会的要請に応えるものとなっている。

一方で、課題として、定員の管理については、入学者数は適切に管理されているものの、一般入試における出願者数が減少傾向であることについて、その原因の分析及び志願者の増加に向けた総合的な対応策の検討が必要である。これに関連して、入学者選抜において外国人選抜枠を設けて、国内外を問わず活躍できる高度専門職業人の育成に取り組んでいるが、その取組みの基本として、当該専攻では設立時から外国人学生に対しても日本語能力を前提として日本人学生との特段の違いを設けない教育の実施を目標として掲げ、実践しているため、この考え方をより明確に社会一般に広く周知することが望まれる。

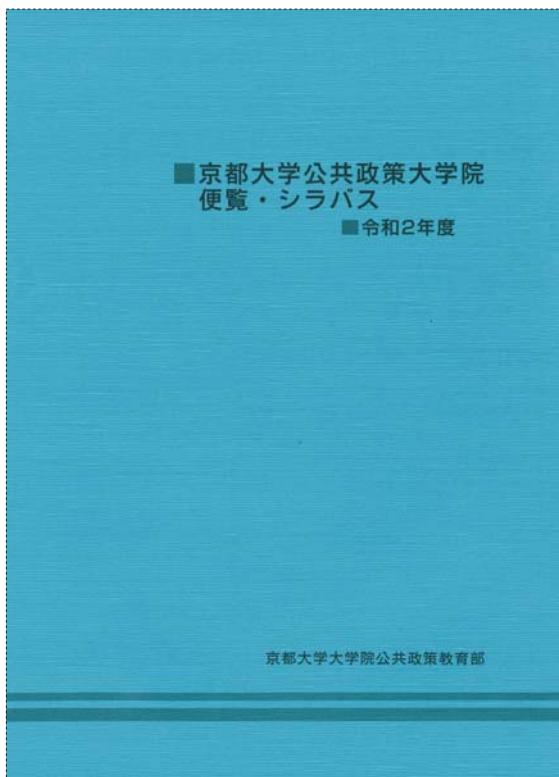
そのほか、前回の公共政策系専門職大学院認証評価の結果で指摘を受けたシラバスの記述については改善が図られたものの、いまだ科目間で記載内容の精粗が見受けられる。全学的なシラバスの記載方法による制約、兼任教員や他部局提供科目への対応に対する制約はあるが、シラバスの電子化等の流れも踏まえ、学生の便益に配慮しつつシラバスの記述をより一層充実させることが望ましい。

以上のような改善を図るに際し、官庁OB、民間企業・マスコミ関係者等で構成する「教育課程評価委員会」を設置して外部評価を受けることで、「FD委員会」において成績評価に関する改善を図るなど、意見や指摘に基づく改善に努めている。ただし、同委員会での意見や指摘は、基本的に個々の教員の判断に基づき「教務委員会」や「FD委員会」で検討することとしており、組織として対応する体系的な取組みが必ずしも十分とはいえないため、「FD委員会」の充実を含め、体制を整備することで当該専攻の改善・向上の一助となるよう、より一層の努力に期待したい。

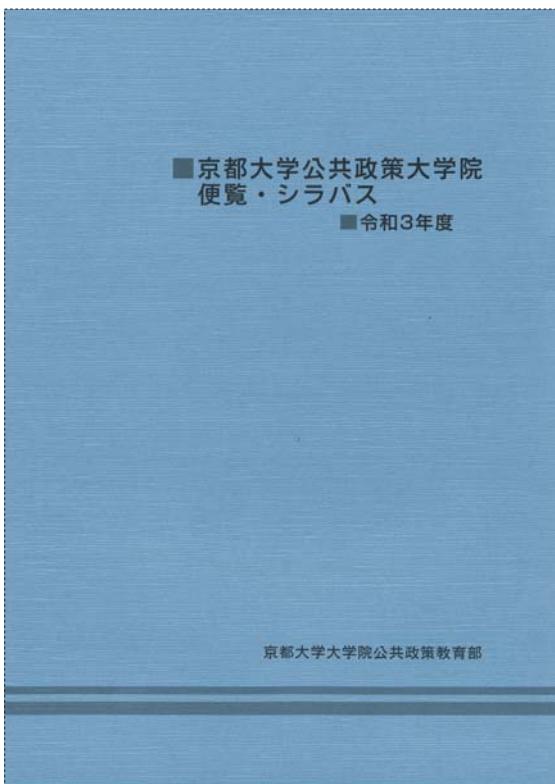
資料 4



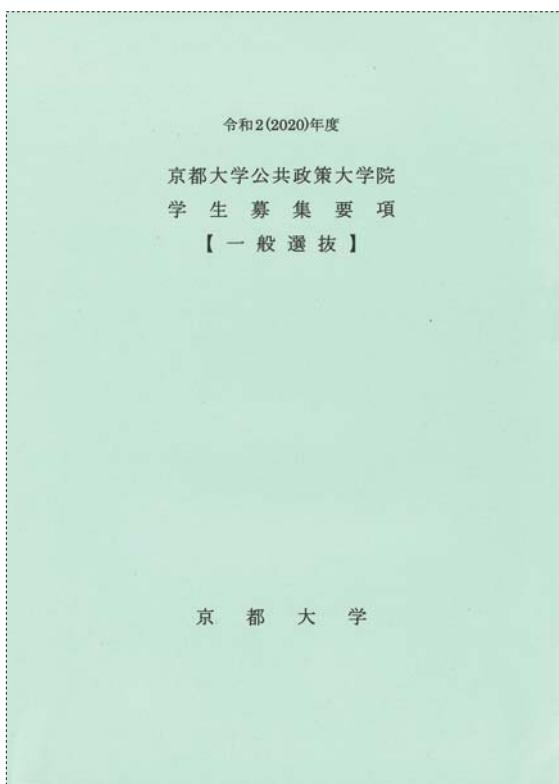
資料 5-1



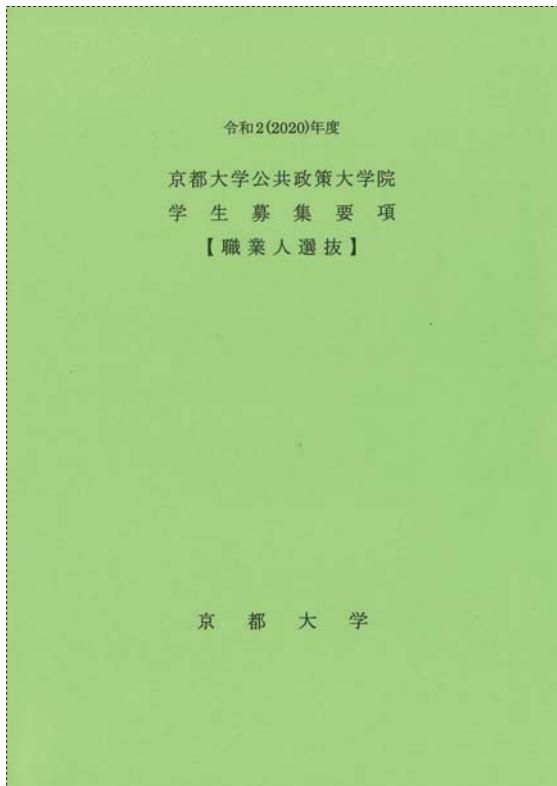
資料 5-2



資料 6-1



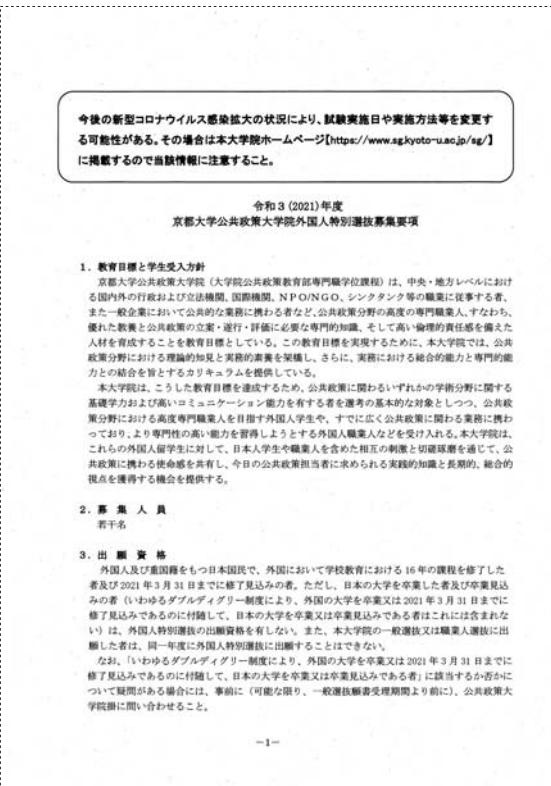
資料 6-2



令和2(2020)年度

京都大学公共政策大学院 学生募集要項 【職業人選抜】

資料 6-3



今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況により、試験実施日や実施方法等を変更する可能性がある。その場合は本大学院ホームページ【<https://www.sg.kyoto-u.ac.jp/sg/>】に掲載するので当該情報に注意すること。

令和3(2021)年度
京都大学公共政策大学院外国人特別選抜募集要項

1. 教育目標と学生受入方針

京都大学公共政策大学院（大学院公共政策教育専門職学位課程）は、中央・地方レベルにおける国内外の行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者、また一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度の専門職業人、才人を育むための教育を、公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識、そして高い倫理的責任感を備えた人材を育成することを教育目標としている。この教育目標を実現するために、本大学院では、公共政策分野における理論的知識と実務的素養を兼ね、さらに、実務における総合的能力と専門的能力との結合を旨とするカリキュラムを提供している。

本大学院は、こうした教育目標を達成するため、公共政策に関する幅広い知識を有する者及び高いコミュニケーション能力を有する者を対象とする。また、公共政策に関する基礎知識および高いコミュニケーション能力を有する者を対象とする。ただし、日本の大学を卒業した者及び卒業見込みの者（いわゆるダブルディグリー制度により、日本の大学を卒業又は2021年3月31日までに修了見込みであるのに付随して、日本の大学を卒業又は卒業見込みである者はこれには含まれない）、外国人特別選抜の出願資格を有しない。また、本大学院の一般選抜又は職業人選抜に出願した者は、同一年度に外国人特別選抜に出願することはできない。

なお、「いわゆるダブルディグリー制度により、日本の大学を卒業又は卒業見込みである者」に該当するか否かについて疑問がある場合には、事前に（可能な限り、一般選抜順番表受付期間より前に）、公共政策大学院に問い合わせること。

-1-

資料 7

京都大学 公共政策学院（公共政策連携研究部・公共政策教育部）ファクトシート

1. 入試方法（一般、社会人、外国人）

一般（募集人員30名程度）、社会人（募集人員10名程度）、外国人留学生（募集人員若干名）ともに、第1次試験（書類審査、筆記試験）、第2次試験（面接試験）を行なっている。ただし、学業成績優秀者によっては筆記試験が免除される場合もある。

表1 定員、入学者数、定員充足率

年 度	入学定員	入学者数	定員充足率
2006年度	40	46	115.0%
2007年度	40	43	107.5%
2008年度	40	46	115.0%
2009年度	40	49	122.5%
2010年度	40	36	90.0%
2011年度	40	44	110.0%
2012年度	40	41	102.5%
2013年度	40	44	110.0%
2014年度	40	38	95.0%
2015年度	40	42	105.0%
2016年度	40	45	112.5%
2017年度	40	44	110.0%
2018年度	40	36	90.0%
2019年度	40	42	105.0%
2020年度	40	41	102.5%
2021年度	40	42	105.0%

2. カリキュラムの工夫、教育方法の工夫

(1) 他研究科の授業科目の履修、他大学との単位互換など

8単位を上限に他研究科の科目を履修できる。

(2) インターンシップなど

主なインターンシップ先は、中央省庁、自治体などの評価担当部局、府県の地方課や基礎自治体の市民参加担当部局、JICA、国際交流基金、NPO／NGO等の公共的な色彩の強い職種・部署に限っている。

インターンシップ終了後、所定の手続で申請すれば、教授会の決定によって2単位として認められる。

(3) その他の工夫

- 学生ひとり一人に履修及び進路に関する指導教員（履修指導教員・進路指導教員）を配置して、履修・進路決定上の相談に応ずる個別指導体制を組織的に設けている。

- ・キャップ制（学期毎に18単位、学年毎に36単位）を導入することにより、体系的な履修環境を整えている。

- ・特定の能力を伸長させるクラスター科目群を3つ設け、1年時後期にその一つを選択させて、その科目群より12単位を選択必修としている。

- ・リサーチペーパーを科目として認め、所定のアドバイザーの指導を受け、口頭試問を兼ねた公開の発表会（いわゆる公聴会）での審査に合格した場合には6単位を与える。

なお、その成果を確認し、ペーパーの質を確保するために、毎年、『リサーチペーパー集』を作成し、公表している（最新号は2021年5月刊、ホームページ上にも掲載）。

- ・事例研究科目においてタームペーパーの提出を認め、合格した場合には別に2単位を与える。

(4) 教育の成果等の確認

全科目について学生による授業評価を実施し、その結果を担当教員に知らせている。

また、年2回実施している合格者説明会において、公共政策のOBが自身の学生生活や在学時の学習に関する成果等について、次期入学予定者にアドバイスしてもらう場を設けており、その場には本学教員も参加することで、関係者の意見が直接聞けるよう工夫している。

3. 実務家教員の確保等

(1) 実務家教員数の状況

表2 実務家教員の専任教員に占める比率

年 度	専任教員数	実務家教員数（内数）	比 率
2006年	12人	4人	33.3%
2007年	12人	4人	33.3%
2008年	11人	3人	27.3%
2009年	12人	4人	33.3%
2010年	12人	4人	33.3%
2011年	12人	4人	33.3%
2012年	12人	4人	33.3%
2013年	12人	4人	33.3%
2014年	12人	4人	33.3%
2015年	12人	4人	33.3%
2016年	12人	4人	33.3%
2017年	12人	4人	33.3%
2018年	12人	4人	33.3%
2019年	12人	4人	33.3%
2020年	12人	4人	33.3%
2021年	12人	4人	33.3%

(2) 実務家教員の主な担当科目

2021年度の実務家教員（非常勤講師も含む）の担当科目としては、中央銀行と金融市場、公務員制度、行政官の役割規範、地方自治法制、金融政策、FinTech概論、デジタルガバメント論、環境政策、エネルギー資源政策論、ケーススタディ金融・政策分析、ケーススタディ日本経済分析、ケーススタディ環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案、ケーススタディ省庁間関係、ケーススタディ予算と政策分析、ケーススタディ人事改革分析、ケーススタディ現代政策と公共哲学などがある。

4. 就職状況（公務員試験の受験状況を含む）

第十四期生である2020年度修了者の、主な就職先として以下のものがある。総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、外務省、内閣府、農林水産省、環境省、警察庁、兵庫県庁、東京都庁、新エネルギー産業技術総合開発機構、日本貿易振興機構、日本政策投資銀行、日本政策金融公庫等。

表3 修了者の進路

年 度	修了者数	就 職（うち復職）		進 学	その他の進路
		官公庁	公的機関・民間		
2007年度	35	12(5)	18(2)	4	1
2008年度	41	19(11)	17(2)	1	4
2009年度	42	22(9)	16(1)	0	4
2010年度	50	23(6)	18(3)	1	8
2011年度	38	15(6)	20(4)	2	1
2012年度	38	16(6)	18	1	3
2013年度	41	21(5)	18(4)	0	2
2014年度	47	20(3)	19(3)	4	4
2015年度	36	16(4)	19(2)	1	0
2016年度	35	16(5)	18(2)	0	1
2017年度	45	19(5)	22(1)	1	3
2018年度	42	19(7)	21(2)	1	1
2019年度	37	14(6)	20(2)	0	3
2020年度	38	20(3)	16(1)	0	2

5. 自己評価・認証評価への取り組み

平成18年度～23年度については、秋ないし冬に、平成24年度からは、2年ごとに外部評価委員会を開催して外部評価を実施し、その結果を報告書として公表している（翌年3月に公表）。なお、令和元年度から、教育課程連携協議会として教育課程評価委員会を開催し、『教育課程評価委員会報告書』として、令和元年12月に作成・公表している。

令和2年度には公益財団法人大学基準協会の認証評価を受審し、公共政策系専門職大学院基準に適合していると認定されている。認定の期間は令和8年3月までとされた。

また、自己点検・評価書は2年ごとに作成・公表するものとしており、平成30・令和元年度を対象とする『自己点検・評価報告書』（第7号）は、令和3年3月に作成・公表している。

資料 8

入学試験状況

令和3年度

	一般選抜
出願者	74
口述試験該当者数	43
合格者	34
合格最高点	273.0
合格最低点	234.0
合格者平均点	248.7

400点満点

令和2年度

	一般選抜
出願者	79
口述試験該当者数	59
合格者	37
合格最高点	282.0
合格最低点	241.5
合格者平均点	257.4

400点満点

令和3年度

	職業人選抜
出願者	9
口述試験該当者数	9
合格者	9
合格最高点	149.0
合格最低点	120.0
合格者平均点	131.2

200点満点

令和2年度

	職業人選抜
出願者	15
口述試験該当者数	10
合格者	8
合格最高点	146.0
合格最低点	123.0
合格者平均点	136.1

200点満点

令和3年度

	外国人特別選抜
出願者	8
口述試験該当者数	4
合格者	3
合格最高点	257.0
合格最低点	245.0
合格者平均点	252.0

400点満点

令和2年度

	外国人特別選抜
出願者	10
口述試験該当者数	5
合格者	4
合格最高点	292.0
合格最低点	260.0
合格者平均点	273.0

400点満点

資料 9 - 1

令和 2 年度 公共政策大学院 授業科目表

区分	学 科 目 名	隔年 科目	配当 学年	単 位 数	令和 2 年度教員名		クラ ス タ ー	共通科目	不 開 講
					前 期	後 期			
基本 科 目	公共政策論 A		1 推奨	2	待鳥聰史			必修	
	公共政策論 B		1 推奨	2	岡敏弘			必修	
	現代規範理論		1 推奨	2	森川輝一				
	統治システム		1 推奨	2		毛利透			
	行政システム		1 推奨	2	曾我謙悟				
	私法秩序論		1 推奨	2	潮見佳男				
	ミクロ経済学		1 推奨	2	宇高淳郎			経営管理から提供	
	マクロ経済学		1 推奨	2	遊喜一洋			経営管理から提供	
	財政システム		1 推奨	2	諸富徹				
	中央銀行と金融市場		1 推奨	2		岩下直行			
	経済政策		1 推奨	2		岡敏弘			
	政策分析のための統計基礎		1 推奨	2		浅野耕太			
	会計学		1 推奨	2	草野真樹			経営管理から提供	
専 門 基 礎 科 目	政策決定過程論		1・2	2	近藤正基				
	立法政策・技術		1・2	2		高森雅樹		法科大学院へ提供	
	公共管理論		1・2	2	吉田忠彦				
	情報管理論	隔年	1・2	2		毛利透		法科大学院へ提供	
	行政法各論		1・2	2	原田大樹			法科大学院へ提供	
	危機管理論		1・2	2	越山健治				
	国際行政論		1・2	2	酒井啓亘				
	安全保障概論		1・2	2	中西寛				
	公務員制度		1・2	2		吉田悦教			
	行政官の役割規範		1・2	2		嶋田博子			
実 践 科 目	Contemporary Issues 1		1・2	2	秋月謙吾				
	Contemporary Issues 2		1・2	2		秋月謙吾			
	Professional Writing		1・2	2	マハンマーフィー				
	English Presentation		1・2	2		ヒジノケン			
	英語情報分析		1・2	2	唐渡晃弘				
	外国報道の分析		1・2	2		カールノーメンセン	地球		
	統計調査手法	隔年	1・2	2					*
	交渉術		1・2	2		仁木恒夫	行政 地理		
	政策企画立案の技術		1・2	2			政策		*
	行政と情報化	隔年	1・2	2			行政		*
	統計基礎理論		1・2	2	松井啓之		政策	経営管理から提供	
	政策分析の方法概論		1・2	2		近藤正基	行政 地理		
展 開 科 目	政策分析の量的方法（基礎）		1・2	2	建林正彦		政策		
	政策分析の量的方法（応用）		1・2	2	川畠康治		政策		
	政治哲学古典講読		1・2	2	森川輝一				
	人権保障の現代的課題	隔年	1・2	2					*
	地方自治法制		1・2	2	吉田悦教			法科大学院へ提供	
	人事行政論		1・2	2	嶋田博子		行政		
	租税論	隔年	1・2	2					*
	租税法総論	隔年	1・2	2	岡村忠生			法科大学院から提供	
	企業制度論		1・2	2	前田雅弘		行政		
	競争法総論		1・2	2	和久井理子			法科大学院から提供	
	競争法の公共政策		1・2	2	川瀬昇				
	特許法総論		1・2	2	愛知靖之			法科大学院から提供	

区分	学科目名	隔年 科目	配当年	単位数	令和2年度教員名		クラスター	共通科目	不開講
					前期	後期			
展開科目	国際企業法務		1・2	2	西谷祐子			法科大学院から提供	
	労使関係と法		1・2	2		鎌田幸夫		法科大学院から提供	
	社会保障法政策		1・2	2	稻森公嘉			法科大学院から提供	
	国際法		1・2	2	淺田正彦		地球		
	国際安全保障法		1・2	2		淺田正彦	地球		
	国際経済法	隔年	1・2	2			地球	法科大学院から提供	*
	国際人権法	隔年	1・2	2	酒井啓亘		地球	法科大学院から提供	
	E U法		1・2	2		濱本正太郎・ 西連寺隆行	地球	法科大学院から提供	
	政党と選挙	隔年	1・2	2					*
	ヨーロッパ政治		1・2	2	島田幸典				
	現代アメリカ政治		1・2	2		待鳥聰史			
	日本政治外交		1・2	2		奈良岡聰智			
	国際政治経済分析		1・2	2	鈴木基史		地球		
	国際経済政策	隔年	1・2	2	岩本武和		地球		
	国際経済論	隔年	1・2	2			地球	経営管理へ提供	*
	国際経済関係論		1・2	2	坂出健				
	経済安全保障論		1・2	2		坂出健			
	公会計		1・2	2		宮本幸平	政策	経営管理へ提供	
	意思決定論	隔年	1・2	2		松井啓之	政策		
	リーダーシップ論		1・2	2		小野善生		経営管理から提供	
	政策評価・行政評価		1・2	2		小西敦	政策		
	刑事司法・警察行政		1・2	2		勝丸充啓・森内彰	行政	法科大学院へ提供	
	国際政治と日本外交		1・2	2	有馬裕				
	国際人道支援と我が国の役割		1・2	2	長徳英晶・佐藤靖・ 長谷川朋範・近藤健		地球		
	金融政策		1・2	2	岩下直行		政策		
	FinTech概論		1・2	2	岩下直行				
	教育政策学	隔年	1・2	2			政策		*
	厚生労働政策	隔年	1・2	2			政策		*
	農林水産政策		1・2	2			政策		*
	通商産業政策		1・2	2	佐伯英隆		行政		
	競争政策		1・2	2	依田高典		行政		
	中小企業政策	隔年	1・2	2					*
	エネルギー資源政策論		1・2	2		伊藤哲夫	地球		
	地域活性化論		1・2	2	森田俊作・反町雅史 松村勉		行政		
	都市・地域計画		1・2	2		沓澤隆司	行政	法科大学院へ提供	
	まちづくりとまち経営		1・2	2		吉田恭		経営管理から提供	
	環境政策		1・2	2	伊藤哲夫・諸富徹・ 清水延彦		政策		
	地方行政実務		1・2	2			行政		*
	地方財政政策	隔年	1・2	2		諸富徹			
	メディアポリティックス		1・2	2		近藤和行・笹森春樹・ 村尾卓志	行政		
	市民参加論	隔年	1・2	2			行政		*
	国土交通行政のプロセス		1・2	2	武藤浩				
	国土交通政策論		1・2	2	長町大輔				
	インフラ整備の政策分析		1・2	2		長町大輔			
	日本の財政政策		1・2	2		古村典洋			

区分	学科目名	隔年 科目	配当 学年	単位 数	令和2年度教員名		クラス ター	共通科目	不 開 講
					前期	後期			
展開 科目	医療・介護政策		1・2	2	古村典洋				
	環境・エネルギーの国際政策論		1・2	2	服部崇				
	通商政策概論		1・2	2		服部崇			
	科学技術・イノベーション政策概論		1・2	2	関根仁博				
	科学技術・イノベーションと大学		1・2	2		関根仁博			
事例 研究	CS金融・政策分析		1・2	2		岩下直行	政策		
	CS日本経済分析		1・2	2	岩下直行		政策		
	CS国際開発・支援実務		1・2	2	長谷川基裕		地球		
	CS環境政策実務－企画立案・ 実施・評価		1・2	2		清水延彦	地球		
	CS環境、エネルギー分野を中 心とする法律の立案		1・2	2		伊藤哲夫	地球		
	CS国際文化交流		1・2	2			地球		*
	CSNPOの理念と活動分析		1・2	2	吉田忠彦・野池雅人		行政		
	CS省庁間関係		1・2	2	伊藤哲夫		行政		
	CS予算と政策分析		1・2	2		百嶋計	政策		
	CS地方行政分析		1・2	2	吉田悦教		行政		
	CS国際通商政策		1・2	2		佐伯英隆	地球		
	CSICTによる地域の再生		1・2	2		吉田悦教	行政		
	CS人事改革分析		1・2	2		嶋田博子	行政		
	CS現代政策と公共哲学		1・2	2	嶋田博子		政策		
	ターム・ペーパー		1・2	2					
	インターンシップ		1・2	2					
研究 科目指導	政策課題研究		2	6		岡敏弘			
						川瀬昇			
						建林正彦			
						奈良岡聰智			

*配当学年：1推奨=1年次推奨、1・2=1年次および2年次、2=2年次

クラスター：政策=政策分析・評価、行政=行政組織間交渉、地球=地球共生

【科目名称の変更】 *重複履修不可

区分	旧科目名	新科目名
展開	国土交通政策の経済分析	国土交通政策論
展開	社会资本整備政策の経済分析	インフラ整備の政策分析

【廃止科目】

区分	学科目名	クラスター指定
展開	コーポレート・ガバナンス論	行政
展開	社会経済学	
展開	地域の福祉・支援提供体制－制度・組織・人	
展開	地域開発政策	
展開	現代農政の財政分析	

【他研究科聴講推奨科目】

学科目名	開講部局
医療制度・政策	医学研究科 社会健康医学系専攻
社会健康医学と健康政策	医学研究科 社会健康医学系専攻
地域保健医療福祉論	医学研究科 社会健康医学系専攻
国際保健学	医学研究科 社会健康医学系専攻
環境・感染論	医学研究科 社会健康医学系専攻
医薬政策・行政	医学研究科 社会健康医学系専攻

資料 9 - 2

令和3年度 公共政策大学院 授業科目表

区分	学 科 目 名	隔年 科目	配当 学年	単 位 数	令和3年度教員名		クラス ター	共通科目	不 開 講
					前 期	後 期			
基本 科 目	公共政策論 A		1推奨	2	待鳥聰史			必修	
	公共政策論 B		1推奨	2	岡敏弘			必修	
	現代規範理論		1推奨	2	森川輝一				
	統治システム		1推奨	2		毛利透			
	行政システム		1推奨	2	曾我謙悟				
	私法秩序論		1推奨	2		山本敬三			
	ミクロ経済学		1推奨	2	宇高淳郎			経営管理から提供	
	マクロ経済学		1推奨	2	遊喜一洋			経営管理から提供	
	財政システム		1推奨	2	諸富徹				
	中央銀行と金融市場		1推奨	2		岩下直行			
	経済政策		1推奨	2		岡敏弘			
	政策分析のための統計基礎		1推奨	2		浅野耕太			
専 門 基 礎 科 目	会計学		1推奨	2	草野真樹			経営管理から提供	
	政策決定過程論		1・2	2	近藤正基				
	立法政策・技術		1・2	2		高森雅樹		法科大学院へ提供	
	公共管理論		1・2	2	吉田忠彦				
	情報管理論	隔年	1・2	2	—	—		法科大学院へ提供	*
	行政法各論		1・2	2		仲野武志		法科大学院へ提供	
	危機管理論		1・2	2	越山健治				
	国際行政論		1・2	2	酒井啓亘				
	安全保障概論		1・2	2	中西寛				
	地方自治法制		1・2	2		未定		法科大学院へ提供	
	公務員制度		1・2	2	嶋田博子				
	行政官の役割規範		1・2	2		嶋田博子			
実 践 科 目	Contemporary Issues 1		1・2	2	秋月謙吾				
	Contemporary Issues 2		1・2	2		秋月謙吾			
	Professional Writing		1・2	2	ヒジノケン				
	English Presentation		1・2	2		マハンマーフィー			
	英語情報分析		1・2	2	島田幸典				
	外国報道の分析		1・2	2	鈴木悠			地球	
	統計調査手法	隔年	1・2	2	—	—			*
	交渉術		1・2	2		仁木恒夫		行政	
	行政と情報化	隔年	1・2	2		松井啓之		行政	
	統計基礎理論		1・2	2	松井啓之			政策	経営管理から提供
	政策分析の方法概論		1・2	2		近藤正基		行政	
	政策分析の量的方法（基礎）		1・2	2		建林正彦		政策	
展 開 科 目	政策分析の量的方法（応用）		1・2	2	川畠康治			政策	
	政治哲学古典講読		1・2	2	森川輝一				
	人権保障の現代的課題	隔年	1・2	2	毛利透				
	人事行政論		1・2	2	—	—	行政		*
	租税論	隔年	1・2	2		諸富徹			
	租税法総論	隔年	1・2	2	—	—		法科大学院から提供	*
	企業制度論		1・2	2		前田雅弘		行政	
	競争法総論		1・2	2	和久井理子			法科大学院から提供	
	競争法の公共政策		1・2	2	川演昇				
	特許法総論		1・2	2	愛知靖之			法科大学院から提供	

区分	学科目名	隔年 科目	配当年	単位数	令和3年度教員名		クラスター	共通科目	不開講
					前期	後期			
展開科目	国際企業法務		1・2	2	西谷祐子			法科大学院から提供	
	労使関係と法		1・2	2		鎌田幸夫		法科大学院から提供	
	社会保障法政策		1・2	2	稻森公嘉			法科大学院から提供	
	国際法		1・2	2		玉田大	地球		
	国際安全保障法		1・2	2	—	—	地球		*
	国際経済法	隔年	1・2	2	酒井啓亘		地球	法科大学院から提供	
	国際人権法	隔年	1・2	2	—	—	地球	法科大学院から提供	*
	EU法		1・2	2		濱本正太郎・西連寺隆行	地球	法科大学院から提供	
	政党と選挙	隔年	1・2	2	建林正彦				
	ヨーロッパ政治		1・2	2	唐渡晃弘				
	現代アメリカ政治		1・2	2		待鳥聰史			
	日本政治外交		1・2	2		奈良岡聰智			
	国際政治経済分析		1・2	2	鈴木基史		地球		
	国際経済政策	隔年	1・2	2	—	—	地球		*
	国際経済論	隔年	1・2	2	—	—	地球	経営管理へ提供	*
	国際経済関係論		1・2	2	坂出健				
	経済安全保障論		1・2	2		坂出健			
	公会計		1・2	2		宮本幸平	政策	経営管理へ提供	
	意思決定論	隔年	1・2	2	—	—	政策		*
	リーダーシップ論		1・2	2		柿沼英樹		経営管理から提供	
	政策評価・行政評価		1・2	2		小西敦	政策		
	刑事司法・警察行政		1・2	2		勝丸充啓・津田隆好	行政	法科大学院へ提供	
	国際政治と日本外交		1・2	2	有馬裕				
	国際人道支援と我が国の役割		1・2	2	多田昌弘・山本英昭・近藤健・工藤博・松田俊夫		地球		
	金融政策		1・2	2		岩下直行	政策		
	FinTech概論		1・2	2	岩下直行				
	デジタルガバメント論		1・2	2	岩下直行		行政		
	教育政策学	隔年	1・2	2	開沼太郎		政策		
	厚生労働政策	隔年	1・2	2		久本憲夫	政策		
	通商産業政策		1・2	2	佐伯英隆		行政		
	競争政策		1・2	2	依田高典		行政		
	中小企業政策	隔年	1・2	2		立見淳哉・梅村仁・桑原武志			
	エネルギー資源政策論		1・2	2		伊藤哲夫	地球		
	地域活性化論		1・2	2	森田俊作・反町雅史・松村勉		行政		
	都市・地域計画		1・2	2	沓澤隆司		行政	法科大学院へ提供	
	まちづくりとまち経営		1・2	2		要藤正任		経営管理から提供	
	環境政策		1・2	2	伊藤哲夫・諸富徹・清水延彦		政策		
	地方財政政策	隔年	1・2	2	—	—			*
	メディアポリティックス		1・2	2		平井道子・笛森春樹・村尾卓志・池永尚嗣	行政		
	市民参加論	隔年	1・2	2	小田切康彦		行政		
	国土交通行政のプロセス		1・2	2	武藤浩				
	国土交通政策論		1・2	2	長町大輔				
	インフラ整備の政策分析		1・2	2		長町大輔			

区分	学科目名	隔年 科目	配当年	単位 数	令和3年度教員名		クラス ター	共通科目	不 開 講
					前期	後期			
展開科目	日本の財政政策		1・2	2		古村典洋			
	社会保障政策		1・2	2	古村典洋				
	環境・エネルギーの国際政策論		1・2	2	服部崇				
	通商政策概論		1・2	2		服部崇			
	日本経済・経済政策論		1・2	2	川崎暁				
	科学技術・イノベーション政策概論		1・2	2	—	—			*
	科学技術・イノベーションと大学		1・2	2	—	—			*
事例研究	CS 金融・政策分析		1・2	2		岩下直行	政策		
	CS 日本経済分析		1・2	2	岩下直行		政策		
	CS 国際開発・支援実務		1・2	2	長谷川基裕		地球		
	CS 環境政策実務－企画立案・実施・評価		1・2	2		清水延彦	地球		
	CS 環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案		1・2	2		伊藤哲夫	地球		
	CS N P O の理念と活動分析		1・2	2	吉田忠彦・野池雅人		行政		
	CS 省庁間関係		1・2	2	伊藤哲夫		行政		
	CS 予算と政策分析		1・2	2		百嶋計	政策		
	CS 地方行政分析		1・2	2	—	—	行政		*
	CS 国際通商政策		1・2	2		佐伯英隆	地球		
	CS 国と地方の関係		1・2	2		未定	行政		
	CS 人事改革分析		1・2	2		鳴田博子	行政		
	CS 現代政策と公共哲学		1・2	2	鳴田博子		政策		
	ターム・ペーパー		1・2	2					
	インターンシップ		1・2	2					
研究科指導	政策課題研究		2	6		岡敏弘			
						川瀬昇			
						奈良岡聰智			

* 配当学年：1推奨=1年次推奨、1・2=1年次および2年次、2=2年次

【科目名称の変更】 * 重複履修不可

区分	新科目名	旧科目名
展開	社会保障政策	医療・介護政策

【廃止科目】

区分	学科目名	クラスター指定
実践	政策企画立案の技術	政策
展開	農林水産政策	政策
展開	地方行政実務	行政
事例	CS国際文化交流	地球
事例	CSICTによる地域の再生	行政

【他研究科聴講推奨科目】

学科名	開講部局
医療制度・政策	医学研究科 社会健康医学系専攻
社会健康医学と健康政策	医学研究科 社会健康医学系専攻
環境・感染症論	医学研究科 社会健康医学系専攻
医薬政策・行政	医学研究科 社会健康医学系専攻

公共政策大学院教務事項に関する手引き

このパンフレットは、公共政策大学院において講義を担当していただく先生方に、講義やその他の教務事務を円滑に進めさせていただくために配布しております。

内容についてのご質問などございましたら、以下にお問い合わせください。

(1) 事務的なものについては

法学研究科公共政策大学院掛 (TEL 075-753-3126 FAX 075-753-3104)

法経本館1階中央エレベーター右手

kyomu033@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(2) それ以外については

奈良岡 聰智 naraoka@law.kyoto-u.ac.jp (公共政策大学院教授・教務主任)

I 令和3年度公共政策大学院教務関係日程

別紙学年暦のとおりです。

II 授業等について

1. 休講・補講などについて

(1) 授業時間数

公共政策大学院では、2単位科目については14回の授業とフィードバックを行うことを原則としています。

(2) 休講

休講される場合は、KULASIS (別紙チラシあり) から休講情報を入力ください。

(3) 補講

補講日時が決定されたら事務までお知らせください。補講期間または月曜日から金曜日の6時限（履修登録者が出席可能な曜時限）に設定することを原則とします。その他の時間を希望される場合は、調整させていただきます。

2. 他研究科の学生等による受講について

本学の他研究科からの聴講を希望する学生は、可能な限り受け入れることにしておりますが、とくに下記の諸点にご注意ください。

(1) 法学研究科および経済学研究科の大学院プログラムの学生については、制度上、受け入れることになっております。成績評価については、当該大学院又は専攻の基準に基づいて行ってください。これらの学生の受講者がいる場合、事務から該当する成績評価基準をお渡しします。

(2) 次の5科目は、医学研究科社会健康医学系専攻の履修推奨科目として指定されているため、当該専攻の学生が聴講を希望する場合は、受け入れをお願いします。（「公共政策論A」、「公共政策論B」、「行政システム」、「財政システム」、「CS予算と政策分析」）

(3) 次の4科目は提供部局の基本科目であることから他研究科聴講生の受入は不可となっています。（「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「会計学」、「統計基礎理論」）

(4) その他の研究科からの聴講希望については、事務にご相談下さい。受け入れる場合は、事務に届けて登録をさせ、希望科目の教員の許可を得たうえで、聴講を認めることになります。

3. 出席要件及び出席簿について

- (1) 出席要件を課す場合には、初回の授業で学生にご説明ください。
- (2) 出席要件を課す場合には、補講の授業を除き、2単位科目については4回以上授業を欠席した者には、単位を認めないと原則とします。
ただし、例外的な事情がある場合は、個々の教員が、その都合に応じて適切に判断をお願いします。なお、国家試験（国家公務員試験Ⅰ・Ⅱ種など）及び地方公共団体が行う採用試験日の欠席などは、学生から届出があった場合欠席扱いにしないようお願いします。
- (3) 出席状況の思わしくない学生がある場合には、適宜、ご指導いただくとともに、事務までご連絡ください。なお、出席要件を満たさなくなった場合には、本人にその旨をお伝えいただきますようお願いします。
- (4) 履修者名簿は履修者確定後、KULASIS からダウンロードください。履修者の確定は、前期は4月28日（水）17時、後期は10月21日（木）の予定です。それまではご不便をおかけしますが、仮履修者名簿をご利用いただかずか、出席者に記名させる等で対応をお願いいたします。白紙の名簿用紙が必要な場合は、事務までご連絡ください。

4. 教科書、参考書及び教材について

- (1) 本大学院の外部評価等利用のため、差し支えなければ授業でご使用になられた教材・資料を1部、事務にご提出くださいますようお願いいたします。保管した教材・資料は、第三者の目に触れる可能性もありますので、その点をお含み置きの上、提出可能なものについてご提出いただければ幸いです。 KULASIS へ掲載された資料につきましては、ご提出は不要です。こちらでダウンロードし、保管させていただきます。
- (2) 授業に必携の図書は、教科書としてご指定ください。便覧・シラバスであらかじめ指定された教科書については、特別の支障がない限り、初回の授業までに購入するように指導しております。
- (3) 仮履修者名簿確定後は、KULASIS から授業資料をWEB上で提供いただけます。履修者各自が授業資料をダウンロードし、事前学習に利用することもできます。
- (4) 教材作成のために、コピー機等を設置しておりますので、ご利用の際には、事務にお申し出ください。
- (5) 事務にて教材の印刷・複写を依頼される場合、当日では対応できませんので、3日前までに、印刷の方法（両面、集約、ホッチキスとめ等）、配布日、配布枚数、配布方法等をご指示の上、原稿をご提出ください。教材が大部の場合には、さらに数日の余裕をみていただきますようお願いいたします。
なお、大部の教材を学期の初めに一括配布する場合や、授業を欠席した者に配布する必要がある場合には、事務にご相談ください（但し、有償で販売する教材は事務では取り扱いません）。
- (6) 印刷・複写された教材は、できるかぎり授業中に教室で直接配布してください。また、著作権又はプライバシー等に配慮が必要な教材につきましては、必ず教室で直接配布していただきますようお願いいたします。
- (7) 必要に応じて教材用ボックスにより配布することも可能ですが、配布期間が短期間しかとれないなどの場合には、すべての受講者に確実に配布するのが難しいことがありますので、ご注意ください。

5. 学生からの質問等への対応について

担当教員一覧（公共政策大学院便覧掲載）において連絡方法等が学生に公開されております。学生からの質問その他の面談の要請には可能な限り迅速にお応えください。また、京大常勤の教員の場合、別途設けられているオフィスアワー（一定時間内にて研究室待機）を学生に周知してください。

6. ケーススタディ科目およびターム・ペーパーについて

ケーススタディ（2単位）は、具体的な政策事例に基づいて、ケースメソッド方式等により知識の実践的応用能力の修得を目的とする科目です。必要や受講者数に応じ、シミュレーション、ロール・プレイング等の手法を採用して授業を進めることとなっております。ケーススタディは、具体的な事例に即して、ゼミ形式で行われるために、他の科目とは異なる扱いとなっておりますので、とくに下記の諸点にご注意ください。

(1) 受講者数

1つのケーススタディ科目の受講生は、10～15名程度以内とします。

(2) 募集方法

ケーススタディについては、講義開始前に希望者を募集し、それを集計して、それぞれのケーススタディ科目に偏りのないように調整を行い、その結果を学生に通知します。

具体的には、学生は、開講前に第3希望まで受講を希望する科目名を提出し、そのうち2科目まで受講の権利を得ます。これは、本大学院の学生のみを対象とします。他専攻学生については、一部例外を除き、原則としてケーススタディの受講を認めていません。ただし、調整の結果、受講生が上記の10～15名という上限まで余裕があり、かつ担当教員がとくに認めた場合は、この限りではありません（事前許可科目のため、受講を認められた学生しか履修登録を行うことができません）。

なお、ケーススタディ科目については平成25年入学生より2年次で2単位の修得が必須となっています。

(3) 講義方法

ケーススタディにおいては、具体的な事例に即して講義を進め、受講生にも主体的に報告をさせることとします。必要に応じて担当教員の講義的な要素を含めても構いませんが、受講者数を勘案しながら、各学生に報告の機会を必ず与えることができるよう、担当の部分やテーマを計画し、学生に周知させるように配慮をお願いします。

ケーススタディ科目については、他の科目とは異なり、開講前に受講者名簿を配布します。この名簿と、第一回目の出席状況をもとに、できるだけ早く報告順を決定するようにしてください。なお、学生には、やむをえず第一回目の授業に欠席する場合は、必ず事前に担当教員と連絡を取るように指導をしています。

(4) ターム・ペーパー

ケーススタディ科目については、それに関連するターム・ペーパーの制度が設けられています。ケーススタディが、具体的な事例を詳細に分析するためのセミナー形式の授業であり、担当教員は背景説明や事例の選択などを行い、毎週受講生が報告者として事例を紹介し、質疑応答することを原則とするのに対して、ターム・ペーパーは、そのケーススタディの科目を受講し、合格するだけでなく、その科目的題目や趣旨に適合するテーマで別途ペーパーを作成し、クラスにおいて発表を行うことによって、追加的に2単位を与えるものです。

テーマ、ペーパーの長さ、発表の時期や形式、合否などは、担当教員が希望する学生の意向を聞いたうえで決定してください。ターム・ペーパーの単位の取得は、規程上、当該ケーススタディの単位取得を前提としています。学生がターム・ペーパーを作成し、クラスにおいて必ず発表を行なった後、単位の認定を行ってください。

(5) ターム・ペーパーに関する指導

ケーススタディを受講希望し、それが認められ、該当するケーススタディの受講者名簿に学生の氏名が登載された時点では、ターム・ペーパーを希望するかどうかは白紙の状態です。

そこで、ケーススタディを受講しながら、ターム・ペーパーの単位取得を希望するにいたった学生については、以下のような指導を担当教員においても行ってください。

- ① 本来、このターム・ペーパーは、特にリサーチ・ペーパーを書かない学生に対して2年次に卒業発表の意味合いをもつものとして用意されており、1年次での履修を強く勧めるものではない。
- ② それぞれの学期において許されている履修科目限度分である18単位を登録している学生が、ターム・ペーパーの単位を取得することを決めた場合には、他に登録した2単位科目のうちのいずれかを取り下げるかを決めた上で事務に申し出る手続きが必要である。(前期は5月末、後期は11月末締切)

7. 授業に関する調査について

- (1) 授業評価アンケートを、前期、後期それぞれ1回、実施しますのでご協力をお願いします。
- (2) 各担当教員が必要と認められる場合には、この「授業評価」とは別に、簡単なアンケート等を実施してください。

8. 土曜日開講について

土曜開講の際には、教室の解錠・施錠などの補助作業は行われますが、教材の複写を含めて通常の事務室業務は行われませんので、ご注意ください。また総合研究2号館の正面玄関は施錠されていますので、西口からご入館ください。

教室の解錠もれ等何かトラブルがあった場合は、用務員室にご連絡ください。

(用務員室：075-753-3120 携帯番号：080-4330-3846)

9. マイク及び授業用機器の利用について

- (1) 教室備付けの無線マイク及び授業用機器を使用する場合：備え付けのAVボックスは開錠しております。マイク及び授業用機器の設営・格納は、原則として担当教員に行っていただくことになっています。故障あるいは疑問・お気づきの点などがありましたら、担当の事務までお問い合わせください。
- (2) 教室に使用したい機器がない場合：事務までお問い合わせ願います。
- (3) ハイブリット授業用の機材を利用する場合：公共第一教室、第1, 2 RPGルームは備え付けの機器をご利用いただけます。その他の教室は公共政策大学院掛にて機材をお受け取り下さい。

10. ゲストスピーカーの招聘について

授業においてゲストスピーカーを招聘される場合は、まずは、事前に公共政策大学院掛までお問い合わせください。招聘について当掛から研究部長に照会し、承認されれば手続きを進めさせていただきます。交通費を本大学院から負担する場合については、原則として、近隣の府県からのゲストに限りります。

なおシラバス作成時に招聘計画をご提出いただいております。未提出の先生におかれましては、申請の際、計画も併せてご提出ください。

11. 校外学習旅費の補助について

授業の一環として京都市外において学習活動を行う場合、担当教員の申請に基づき、教育部長が適当と判断する場合、履修者（公共政策大学院生のみ）に旅費の補助を行います。詳細については事前に公共政策大学院掛までお問い合わせください。

III 試験及び成績評価について

1. 成績評価の方法について

- (1) 成績評価は、筆記試験、レポート試験及び平常点評価のいずれかにより行ってください。
- (2) 平常点評価は、授業において小テストを実施し、あるいはレポートの提出を求める等する場合は、これらの評価を含んでいます。

2. 筆記試験及びレポート試験について

- (1) 筆記試験は、原則として、学年末又は学期末に設定された試験期間中に、90分で実施します。
- (2) ご担当科目の試験については、原則として試験監督をお願いします。
- (3) 試験監督の要領については、「VI 試験監督に関する注意事項について」をご参照ください。
- (4) レポート試験を実施される場合には、課題、様式及び締切り日等について事務から照会を行いますので、ご回答ください。
- (5) レポート試験において、剽窃が疑われるものがあった場合は、事務までご連絡ください。

3. 成績評価の基準について

(1) 評価の一般原則

成績評価においては、100点を満点とし、60点以上を合格とします。成績は、以下の基準に基づいて、点数（素点）により評価してください。

なお、採点にあたっては、A+（90点以上）やA（80～89点）の評価が集中するなど履修者の点数が極端に偏ることのないように評価いただくようお願いいたします。

90点以上（A+）当該科目の学修目標を超える達成度を示しており、非常に優れている。

80～89点（A）当該科目の学修目標を十分に達成しており、優れている。

70～79点（B）当該科目の学修目標について標準的な達成度を示しており、いくつかの評価事項について優れた成果を示している。

60～69点（C）当該科目の学修目標につき最低限の水準を満たすにとどまる。

0～59点（F）当該科目の学修目標について最低限の水準を満たしておらず、さらに学習が必要である。

4. 成績評価に関する事項の告知について

成績評価の方法、観点及び基準等については、初回の授業でご説明いただきますようお願いします。

5. 採点締切について

前期は8月18日(水)、後期は2月13日(日)を採点締切としております。異議申し立てがあつた場合は、前期は8月25日(水)、後期は2月18日(金)に照会させていただきますので、ご承知おきください。

6. 追試験について

追試験は、疾病その他やむを得ない事情により筆記試験を受けることができなかつたと認められる場合にのみ実施します。追試験該当者がいる場合は事務から通知をいたします。学生から直接の申し出があった場合は、まず、事務室に連絡するようご指示ください。

7. 答案の保管について

筆記試験及びレポート試験の答案、ターム・ペーパーは、事務において保管を行いますので、採点が終了した後に、事務までご提出ください。

IV 試験監督に関する注意事項について

1. 遅刻者は試験開始後 15 分以内に限り入室を許可してください。
2. 学生証は、机上の監督者が見やすい場所に置くよう指示してください。
3. 机上には筆記具（下記 12 参照）、学生証、時計（計時機能だけのもの。大型のものは除く。）その他特に許可されたもの以外は置かないように指示してください。健康上その他の理由により試験時間中に使用したい物品（たとえば、目薬、鼻をかむためのティッシュペーパー等）の申し出があった時は、当該物品を確認のうえ机上におくことを許可してください。
4. カバン、上着、コート、マフラーその他試験室に携帯した物は、机の下の足下に置くように指示してください。隣の座席の上に物を置かせないでください。
携帯電話、スマートフォン、携帯用コンピュータその他電子機器（以下「携帯電話等」という。）は試験室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってカバンの中に入れるように指示ください。
教科書、ノート、レジュメその他の参考文献（以下「参考文献等」という）も試験中は必ずカバンの中に入れさせてください。
携帯電話等または参考文献等を入れるためのカバンを試験室に持参していない者へは袋を渡し、その中に携帯電話等または参考文献等を入れて机の下の足下に置くように指示ください。
5. 貸与六法を使用させる場合、書き込み等しないよう指示してください。
また、試験終了後、所定のロッカーよりはボックスにしまうよう指示してください。
6. 次の事項を答案用紙の所定欄に記入させてください。

表 紙	学年、学生番号、受験科目、氏名
各 頁	学生番号
1 頁・3 頁	受験科目
7. 試験室から退室する時は、受験した科目について棄権する場合（答案を全く作成しない場合を含む）であっても、答案用紙に前項所定の事項を記入して答案用紙を提出させてください。
受験した科目を棄権する場合は、表紙及び解答した全ページに大きく「×」印をさせてください。
8. 試験時間中は退出を許可しないでください。
9. 用便のために一時退出を希望した者には学生証を提出させたうえで許可してください。（再入室の際に返却ください）
10. 答案には余事記載をしないように指示してください。
11. 筆記具は黒色または青色の万年筆又はボールペン（ただし、インクがプラスチック製消しゴム等で消せないもの）のみ使用を認めてください。鉛筆（シャープペンシルを含む）の使用は認めないでください。

13. 耳栓の使用は認めないでください。

14. 500ml以下の中のものに限り水分補給のためにペットボトルを持ち込むことを認めてください。
容器はふたをしめて足下に置かせてください。

15. 試験終了時間に掛員が試験室に行きますので、答案が入ったボックスを引き渡してください。事務で答案を整理した後に、研究室に連絡しますので、答案及び筆記試験採点表を受け取りに事務室までお越しください

V 気象警報等に伴う授業・試験の取扱いについて

「京都大学における災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱要項」に従い、災害又は不測の事態が発生した場合には、学生の安全確保のため、公共政策大学院の授業及び定期試験の実施について以下のとおり取り扱う。

なお、そのような事態が発生した（あるいは想定される）場合は、可能な限り、KULASIS や学生用メールへの通知等で授業及び定期試験の取扱いを周知する。

1. 気象警報等又は交通機関の運休による休講等の措置について

次の(1)～(3)のいずれかに該当する場合、別表に定めるところにより、授業休止又は定期試験延期の措置（以下「休講等の措置」という。）をとる。

- (1) 京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報（以下「気象警報等」という。）が発表された場合
- (2) 京都市営バスが全面的に運休した場合
- (3) 以下のうち3つ以上の交通機関が全面的に又は部分的に運休した場合
 - ・JR西日本（京都線、琵琶湖線、湖西線、奈良線及び嵯峨野線）
 - ・阪急電鉄（京都河原町駅～大阪梅田駅間）
 - ・京阪電鉄（出町柳駅～淀屋橋駅又は中之島駅間）
 - ・近畿日本鉄道（京都駅～大和西大寺駅間）
 - ・京都市営地下鉄

＜別表＞

1・2時限の授業及び定期試験の取扱い

状況	授業及び定期試験の取扱い
午前6時30分の時点で(1)～(3)のいずれかに該当する場合	1・2時限は、休講等の措置をとる。
午前6時30分から午前8時45分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	2時限は、休講等の措置をとる。 1時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、1時限の途中からでも休講等の措置をとる。
午前8時45分から午前10時30分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	2時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、2時限の途中からでも休講等の措置をとる。
午前10時30分から午前12時00分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	2時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、2時限の途中からでも休講等の措置をとる。

3・4・5 時限の授業及び定期試験の取扱い

状　況	授業及び定期試験の取扱い
午前6時30分から午前10時30分までの間に(1)～(3)のいずれにも該当しなくなった場合	3・4・5 時限は、授業等を実施する。
午前10時30分の時点で(1)～(3)のいずれかに該当する場合	3・4・5 時限は、休講等の措置をとる。
午前10時30分から午後1時00分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	4・5 時限は、休講等の措置をとる。 3 時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、3 時限の途中からでも休講等の措置をとる。
午後1時00分から午後2時45分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	5 時限は、休講等の措置をとる。 4 時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、4 時限の途中からでも休講等の措置をとる。
午後2時45分から午後4時30分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	5 時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、5 時限の途中からでも休講等の措置をとる。
午後4時30分から午後6時00分までの間に(1)～(3)のいずれかに該当することとなった場合	5 時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると認められる場合は、5 時限の途中からでも休講等の措置をとる。

2. 地震による休講等の措置について

吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスを含む地域で震度6弱以上の地震が発生した場合、当分の間、休講等の措置をとる。

3. 公共政策教育部長の判断による休講等の措置について

1. および2. のほか、公共政策教育部長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合、公共政策大学院の授業等について休講等の措置をとることがある。

令和3年度公共政策大学院学年曆

		日 程	学 事 事 項
令和3年 (2021年)	4月	4月1日（木）	前期始まり
		4月7日（水）	公共政策大学院ガイダンス・入学式（午前） 京都大学入学式（午後）
		4月8日（木）（～7月21日（水））	前期授業開始
		4月13日（火）	健康診断
		4月17日（土）～20日（火）	前期履修登録（各自KULASIS利用）
		4月23日（金）～26日（月）	前期履修登録確認・修正期間（各自KULASIS利用）
	6月	6月18日（金）	創立記念日（授業休止）
	7月	7月21日（水）	前期授業終了
		7月22日（木）～8月4日（水）	前期開講科目試験・フィードバック期間
	8月	8月5日（木）～9月30日（木）	夏季休業期間
		8月23日（月）～25日（水）	前期成績確認期間（各自KULASIS利用）（予定）
	9月	9月22日（水）～29日（水）	クラスター選択履修指導期間
		9月24日（金）	学位授与式
		9月30日（木）	前期終わり
令和4年 (2022年)	10月	10月1日（金）	後期始まり
		10月1日（金）（～1月24日（月））	後期授業開始
		10月1日（金）・4日（月）	1回生クラスター申請
		10月12日（火）～13日（水）	後期履修登録（各自KULASIS利用）
		10月16日（土）～19日（火）	後期履修登録確認・修正期間（各自KULASIS利用）
	11月	11月19日（金）～22日（月）	11月祭授業休止
	12月	12月28日（火）	冬季休業前授業終了
		12月29日（水）～1月3日（月）	冬季休業期間
	1月	1月4日（火）	休講等による振替授業等実施可能日
		1月5日（水）	冬季休業後授業開始
	1月14日（金）	大学入学共通テスト前日授業休止	
		1月20日（木）	休講等による振替授業等実施可能日
		1月24日（月）	後期授業終了
		1月25日（火）～2月7日（月）	後期開講科目試験・フィードバック期間
	2月	2月16日（水）～2月18日（金）	後期成績確認期間（各自KULASIS利用）（予定）
	3月	3月23日（水）	学位授与式
		3月31日（木）	後期終わり

※他研究科科目（他研究科等からの提供科目を含む）を受講している者は、当該研究科の学年曆によること。
 ※追試験申請・追試験について、前期は8月2日（月）～8月4日（水）、後期は2月3日（木）～2月7日（月）の間に行う。詳細は掲示を確認すること。

令和3(2021)年度公共政策大学院標準学年暦

■	通則に定める休業日(土・日・祝日、6/18創立記念日、夏季休業、冬季休業)	■	調整期間(年度当初)
■	月曜日の授業	■	火曜日の授業
■	水曜日の授業	■	木曜日の授業
■	金曜日の授業	■	土曜日の授業
■	試験・フィードバック期間:試験週と15回目の授業週(フィードバック又は授業)		
■	休講等による振替授業等実施可能日	■	11月祭による授業休止日 (11月祭:11/19~11/23)
■	通則に定める休業日のうち、授業等を実施する日		

*日付横の○数字は、累計の授業回数

*大学入学共通テスト前日(予定)は1/14(金)

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	1 入学式	2	3
11	12 ①	13 ①	14 ①	15 ②	16 ②	17 ②
18	19 ②	20 ②	21 ②	22 ③	23 ③	24 ③
25	26 ③	27 ③	28 ③	29	30 ④	

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6 ④	7 ⑤	8 ④
9	10 ④	11 ④	12 ④	13 ⑤	14 ⑥	15 ⑤
16	17 ⑤	18 ⑤	19 ⑤	20 ⑥	21 ⑦	22 ⑥
23	24 ⑥	25 ⑥	26 ⑥	27 ⑦	28 ⑧	29 ⑦
30	31 ⑦					

日	月	火	水	木	金	土
6	7 ⑧	8 ⑧	9 ⑧	10 ⑨	11 ⑩	12 ⑨
13	14 ⑨	15 ⑨	16 ⑨	17 ⑩	18	19 ⑩
20	21 ⑩	22 ⑩	23 ⑩	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑪
27	28 ⑪	29 ⑪	30 ⑪			

日	月	火	水	木	金	土
4	5 ⑫	6 ⑫	7 ⑫	8 ⑬	9 ⑬	10 ⑬
11	12 ⑬	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑭	16 ⑭	17 ⑯
18	19 ⑭	20 ⑭	21 ⑯	22 ⑮	23 ⑮	24 ⑮
25	26 ⑮	27 ⑮	28 ⑮	29 ⑮	30 ⑮	31 ⑮

日	月	火	水	木	金	土
1	2 ⑯	3 ⑯	4 ⑯	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24 修了式	25
26	27	28	29	30		

日	月	火	水	木	金	土
3	4 ①	5 ①	6 ①	7 ①	8 ②	9 ②
10	11 ②	12 ②	13 ②	14 ②	15 ③	16 ③
17	18 ③	19 ③	20 ③	21 ③	22 ④	23 ④
24	25 ④	26 ④	27 ④	28 ④	29 ⑤	30 ⑤
31						

日	月	火	水	木	金	土
1	5 ⑤	2 ⑤	3	4 ⑤	5 ⑥	6 ⑥
7	8 ⑥	9 ⑥	10 ⑤	11 ⑥	12 ⑦	13 ⑦
14	15 ⑦	16 ⑦	17 ⑥	18 ⑦	19	20
21	22	23	24 ⑦	25 ⑧	26 ⑧	27 ⑧
28	29 ⑧	30 ⑧				

日	月	火	水	木	金	土
5	6 ⑨	7 ⑨	8 ⑨	9 ⑩	10 ⑩	11 ⑩
12	13 ⑩	14 ⑩	15 ⑩	16 ⑪	17 ⑪	18 ⑪
19	20 ⑪	21 ⑪	22 ⑫	23 ⑫	24 ⑫	25 ⑫
26	27 ⑫	28 ⑫	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5 ⑫	6 ⑬	7 ⑬	8 ⑬
9	10	11 ⑬	12 ⑬	13 ⑭	14	15
16	17 ⑭	18 ⑭	19 ⑭	20	21 ⑭	22 ⑭
23	24 ⑭	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	28 ⑮	29 ⑮
30	31 ⑮					

日	月	火	水	木	金	土
6	7 ⑯	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

日	月	火	水	木	金	土
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24 修了式	25	26
27	28	29	30	31		

※1 フィードバックの実施時期は、「試験・フィードバック期間」内に限る必要はなく、各学期末までに実施することとする。
なお、実施方法については、授業担当者が定めることとする。

資料 11 - 1

令和元年度 公共政策大学院クラスター登録者数

クラスター	2回生	1回生	計
政 策 分 析 ・ 評 價	16	11	27
行 政 組 織 間 交 渉	6	20	26
地 球 共 生	14	10	24
合計	36	41	77

* 2回生変更2名

* 1名休学中のため未配属

資料 11 - 2

令和2年度 公共政策大学院クラスター登録者数

クラスター	2回生	1回生	計
政 策 分 析 ・ 評 價	11	19	30
行 政 組 織 間 交 渉	20	14	34
地 球 共 生	10	8	18
合計	41	41	82

* 1名休学中のため未配属

資料 12 - 1

令和元年度政策課題研究履修登録状況

番号	氏名	課題名	履修指導教員	担当教員
1	A	危機に瀕するWTO紛争処理機関の未来 ～司法積極主義（judicial-overreach）批判と、それを受けた改革提言～	唐渡 晃弘	岩本 武和
2	B	再生可能エネルギー大量導入時代における電力系統投資の費用負担のあり方の検討—新々北本連系線を例に考える—	毛利 透	岩本 武和
3	C	日本の地方自治体における、ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）活用の実態と展望—米国・英国・豪州との比較及び日本型SIBの事例研究	奈良岡 聰智	岩本 武和
4	D	私立高等学校の授業料無償化政策の評価	前田 雅弘	唐渡 晃弘
5	E	AI・ビッグデータを活用したプロファイリングの問題と規制のデザイン	奈良岡 聰智	唐渡 晃弘
6	F	自治体の事例から見た新教育委員会制度の運用実態について	奈良岡 聰智	唐渡 晃弘
7	G	独立行政法人通則法改正後の業務実績の評価に関する検討 —経済産業省所管法人の事例から—	鈴木 基史	唐渡 晃弘
8	H	「グローバル人材」育成における日本の教育政策	毛利 透	唐渡 晃弘
9	I	市町村の政策選好が都道府県の政策選択に及ぼす影響	鈴木 基史	奈良岡 聰智
10	J	労働基準監督署における監督指導業務と労災補償業務の労働時間の取り扱いについて	奈良岡 聰智	奈良岡 聰智
11	K	国会議員の首長への“逆コース”は、なぜ起こるのか? —直近の国政・首長選挙の結果をふまえて—	建林 正彦	奈良岡 聰智
12	L	都道府県庁における内部組織再編の実証分析	建林 正彦	奈良岡 聰智
13	M	東京近郊の高層マンション居住者の社会的属性	奈良岡 聰智	奈良岡 聰智
14	N	都道府県議会における議会事務局の体制が議員提出条例案に及ぼす影響について	建林 正彦	奈良岡 聰智

資料 12 - 2

令和2年度政策課題研究履修登録状況

番号	氏名	課題名	履修指導教員	担当教員
1	A	温室効果ガス排出量を主たる切り口とした日本の炭素生産性低迷の要因分析	岡 敏弘	岡 敏弘
2	B	政策参加の視点から見た地方政治の変容 ～3人の知事下での県の事例から～	近藤 正基	建林 正彦
3	C	地方議会における一般質問の研究	待鳥 聰史	建林 正彦
4	D	自治体でのエビデンスに基づく政策の現状と課題について	坂出 健	川濱 昇
5	E	中国の台頭に見るアイデンティティと国際社会認識	待鳥 聰史	奈良岡 聰智

資料 13 - 1

平成 31（令和元）年度 公共政策大学院 ゲストスピーカー一覧

	招へい者の所属機関等	氏 名	招聘責任者	実 施 日	授業科目等
1	ひそな総合研究所株式会社 リナルビジネス部長	藤原 明	岩本 武和 (松村 勉)	平成31年4月19日	講義「地域活性化論」
2	大阪商業大学 特任教授	植田 辰哉	岩本 武和 (松村 勉)	平成31年4月26日	講義「地域活性化論」
3	政策研究大学院大学 教授	田村 曜彦	岩本 武和 (服部 崇)	平成31年4月30日	講義「環境・エネルギーの国際政策論」
4	株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 共創・創造都市グループ マネージャー	板垣 晋	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年5月10日	講義「地域活性化論」
5	公益財団法人日本財団経営企画部 パートナー開発チーム マネージャー	藤田 滋	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年5月17日	講義「地域活性化論」
6	内閣官房行政改革推進本部事務局 総括参事	池山 成俊	岩本 武和 (服部 崇)	令和元年5月21日	講義「環境・エネルギーの国際政策論」
7	京都造形芸術大学情報デザイン学科 教授	服部 滋樹	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年5月24日	講義「地域活性化論」
8	株式会社電通 トランスフォーメーション・プロデュース局 シニア・トランスフォーメーション・プロデューサー	大曾根 哲	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年5月31日	講義「地域活性化論」
9	神戸市長	久元 喜造	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年6月7日	講義「地域活性化論」
10	特定非営利活動法人はぐらぼ 代表理事	田中 美賀子	岩本 武和 (野池 雅人)	令和元年6月7日	CS「NPOの理念と活動分析」
11	太陽コスモ法律事務所 弁護士	村上 康聰	岩本 武和 (伊藤 哲夫)	令和元年6月12日	CS「省庁間関係」
12	伊勢市長	鈴木 健一	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年6月14日	講義「地域活性化論」
13	特定非営利活動法人京都匠塾 代表理事	高橋 博樹	岩本 武和 (野池 雅人)	令和元年6月14日	CS「NPOの理念と活動分析」
14	一般社団法人才オープン・ガバナンス・ネットワーク 代表理事	奥村 裕一	岩本 武和 (東 健二郎)	令和元年6月17日	講義「地方行政実務」
15	浜松市長	鈴木 康友	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年6月21日	講義「地域活性化論」
16	特定非営利活動法人三重ダルク 常務理事	市川 岳仁	岩本 武和 (野池 雅人)	令和元年6月21日	CS「NPOの理念と活動分析」
17	生駒市長	小紫 雅史	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年6月28日	講義「地域活性化論」
18	NPO法人グローバル人材開発センター スタッフ	肥後 祐亮	岩本 武和 (東 健二郎)	令和元年7月1日	講義「地方行政実務」
19	国際大学国際関係研究科 教授・研究科長、副学長	山口 昇	中西 寛	令和元年7月2日	講義「安全保障概論」
20	なし（前宜野湾市長）	佐喜眞 淳	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年7月5日	講義「地域活性化論」
21	市川電機 CEO 一般社団法人コード・フォー・ジャパン コンサルタント	市川 博之	岩本 武和 (東 健二郎)	令和元年7月8日	講義「地方行政実務」
22	外務省総合外交政策局安全保障政策課 課長	室田 幸靖	中西 寛	令和元年7月10日	講義「安全保障概論」
23	国土交通省道路局環境安全・防災課道路交通安全対策室 企画官	濱田 祐	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年7月19日	講義「地域活性化論」
24	箕面市長	倉田 哲郎	岩本 武和 (松村 勉)	令和元年7月12日	講義「地域活性化論」
25	株式会社日本開発研究所三重 代表取締役	庄司 勇木	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和元年10月23日	CS「ICTによる地域の再生」
26	株式会社日本開発研究所三重 代表取締役	庄司 勇木	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和元年10月30日	CS「ICTによる地域の再生」
27	財務省主計局調査課長	森田 稔	岩本 武和 (百鳴 計)	令和元年10月15日	CS「予算と政策分析」
28	総務省総合通信基盤局電波部電波環境課 認証推進室長	高田 裕介	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和元年11月13日	CS「ICTによる地域の再生」
29	総務省大臣官房審議官（地域活性化担当）	佐藤 啓太郎	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和元年11月20日	CS「ICTによる地域の再生」
30	一般財団法人簡易保険加入者協会 監事	渡会 修	岩本 武和 (小西 敦)	令和元年11月25日	講義「政策評価・行政評価」

	招へい者の所属機関等	氏 名	招聘責任者	実 施 日	授業科目等
31	滋賀県商工観光労働部長	森中 高史	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和元年11月27日	CS「ICTによる地域の再生」
32	環境省環境再生・資源循環局総務課 課長補佐	水谷 努	岩本 武和 (伊藤 哲夫)	令和元年11月27日	講義「エネルギー資源政策論」 CS「環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案」
33	水俣市総合政策部水俣環境アカデミア 参事	田上 朋史	岩本 武和 (清水 延彦)	令和元年12月5日	CS「環境政策実務－企画立案・実施・評価」
34	独立行政法人石油天然ガス・金属資源機構 理事長	細野 哲弘	岩本 武和 (佐伯 英隆)	令和元年12月5日	CS「国際通商政策」
35	徳島県経営戦略部 次長	平井 琢二	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和元年12月11日	CS「ICTによる地域の再生」
36	東北大学大学院法学研究科 教授	深見 正仁	岩本 武和 (伊藤 哲夫)	令和元年12月25日	講義「エネルギー資源政策論」 CS「環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案」
37	財務省主計局 調査課長	森田 稔	岩本 武和 (百嶋 計)	令和2年1月7日	CS「予算と政策分析」
38	文部科学省科学技術・学術政策研究所 総務研究官	角田 英之	岩本 武和 (関根 仁博)	令和2年1月7日	講義「科学技術・イノベーションと大学」
39	立憲民主党政務調査会 部長	梅坂 英樹	岩本 武和 (伊藤 哲夫)	令和2年1月8日	講義「エネルギー資源政策論」 CS「環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案」
40	株式会社日本開発研究所三重 代表取締役	庄司 勇木	岩本 武和 (吉田 悅教)	令和2年1月22日	CS「ICTによる地域の再生」

(備考) CS : ケーススタディの略

資料 13 - 2

令和2年度 公共政策大学院 ゲストスピーカー一覧

	招へい者の所属機関等	氏 名	招聘責任者	実 施 日	授業科目等
1	青山社中株式会社 筆頭代表CEO	朝比奈 一郎	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年5月29日	講義「地域活性化論」
2	りそな総合研究所株式会社 リナルビジネス部長	藤原 明	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年6月5日	講義「地域活性化論」
3	船橋市 副市長	辻 恒介	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年6月12日	講義「地域活性化論」
4	認定NPO法人DxP 共同代表	今井 紀明	建林 正彦 (野池 雅人)	令和2年6月12日	CS「NPOの理念と活動分析」
5	合同会社山崎満広 代表社員	山崎 満広	建林 正彦 (野池 雅人)	令和2年6月19日	CS「NPOの理念と活動分析」
6	株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 地域・共創デザイングループ マネージャー	板垣 晋	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年6月26日	講義「地域活性化論」
7	株式会社ANA総合研究所 取締役会長	河本 宏子	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年7月3日	講義「地域活性化論」
8	株式会社みんなの奥永源寺 代表取締役	前川 真司	建林 正彦 (野池 雅人)	令和2年7月3日	CS「NPOの理念と活動分析」
9	太陽コスモ法律事務所 弁護士	村上 康聰	建林 正彦 (伊藤 哲夫)	令和2年7月8日	CS「省庁間関係」
10	浜松市長	鈴木 康友	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年7月10日	講義「地域活性化論」
11	生駒市長	小紫 雅史	建林 正彦 (松村 勉)	令和2年7月17日	講義「地域活性化論」
12	財務省主計局 調査課長	有利 浩一郎	建林 正彦 (百嶋 計)	令和2年11月10日	CS「予算と政策分析」
13	株式会社日本開発研究所三重 代表取締役	庄司 勇木	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和2年10月21日	CS「ICTによる地域の再生」
14	株式会社日本開発研究所三重 代表取締役	庄司 勇木	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和2年10月28日	CS「ICTによる地域の再生」
15	立憲民主党政務調査会 部長	梅坂 英樹	建林 正彦 (伊藤 哲夫)	令和2年11月4日	講義「エネルギー資源政策論」 CS「環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案」
16	総務省総合通信基盤局 電波部移動通信課 課長補佐	宇仁 伸吾	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和2年11月4日	CS「ICTによる地域の再生」
17	滋賀県商工観光 労働部長	森中 高史	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和2年11月18日	CS「ICTによる地域の再生」
18	専修大学文学部ジャーナリズム学科 教授	山田 健太	毛利 透	令和2年11月30日	講義「情報管理論」
19	株式会社SUBARU航空宇宙カンパニー 顧問	平田 英俊	坂出 健	令和2年12月1日	講義「経済安全保障論」
20	徳島県教育委員会 副教育長	平井 琢二	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和2年12月16日	CS「ICTによる地域の再生」
21	環境省地球環境局総務課政策企画官兼課長補佐	水谷 努	建林 正彦 (伊藤 哲夫)	令和2年12月16日	講義「エネルギー資源政策論」 CS「環境、エネルギー分野を中心とする立憲の立案」
22	理化学研究所脳神経科学推進室 室長	角田 英之	建林 正彦 (関根 仁博)	令和2年12月22日	講義「科学技術・イノベーションと大学」
23	総務省大臣官房 審議官	黒瀬 敏文	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和2年12月23日	CS「ICTによる地域の再生」
24	現職 なし (元 東北大学大学院法学研究科 教授)	深見 正仁	建林 正彦 (伊藤 哲夫)	令和2年12月23日	講義「エネルギー資源政策論」 CS「環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案」
25	文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席フェロー	今井 寛	建林 正彦 (関根 仁博)	令和3年1月5日	講義「科学技術・イノベーションと大学」
26	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部 特任参事	加藤 善一	建林 正彦 (関根 仁博)	令和3年1月12日	講義「科学技術・イノベーションと大学」
27	株式会社日本開発研究所三重 代表取締役	庄司 勇木	建林 正彦 (吉田 悅教)	令和3年1月13日	CS「ICTによる地域の再生」

(備考) CS : ケーススタディの略

資料 14 - 1

令和元年度科目別評価割合

【前期】

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合							F※	
				A+		A		B		C		
公共政策論 A	建林 正彦	41	40	8	20.0%	20	50.0%	11	27.5%	1	2.5%	0 (1)
公共政策論 B	岡 敏弘	42	41	3	7.3%	13	31.7%	16	39.0%	9	22.0%	0 (1)
現代規範理論	森川 輝一	21	21	3	14.3%	9	42.9%	9	42.9%			
私法秩序論	吉政 知広	5	3			3	100.0%					0 (2)
ミクロ経済学	宇高 淳郎	22	19			4	21.1%	10	52.6%	5	26.3%	0 (3)
マクロ経済学	遊喜 一洋	16	10	1	10.0%	3	30.0%	5	50.0%	1	10.0%	3 (3) 18.8%
財政システム	諸富 徹	26	25	4	16.0%	12	48.0%	9	36.0%			0 (1)
会計学	草野 真樹	5	1	1	100.0%							4 (0) 80.0%
政策決定過程論	近藤 正基	30	29	1	3.4%	17	58.6%	8	27.6%	3	10.3%	1 (0) 3.3%
公共管理論	吉田 忠彦	23	22	2	9.1%	19	86.4%	1	4.5%			1 (0) 4.3%
行政法各論	原田 大樹	3	1			1	100.0%					0 (2)
危機管理論	越山 健治	31	18	1	5.6%	4	22.2%	8	44.4%	5	27.8%	13 (0) 41.9%
国際行政論	濱本 正太郎	5	5	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%			
安全保障概論	中西 寛	27	24			8	33.3%	15	62.5%	1	4.2%	0 (3)
Contemporary Issues 1	秋月 謙吾	7	6	1	16.7%	5	83.3%					1 (0) 14.3%
Professional Writing	HIJINO Ken	11	10			5	50.0%	5	50.0%			0 (1)
英語情報分析	島田 幸典	15	14			6	42.9%	7	50.0%	1	7.1%	0 (1)
統計調査手法	小田 滋晃	32	31	2	6.5%	29	93.5%					0 (1)
統計基礎理論	松井 啓之	10	7			1	14.3%	6	85.7%			1 (2) 10.0%
政策分析の方法概論	曾我 謙悟	25	23	3	13.0%	9	39.1%	10	43.5%	1	4.3%	2 (0) 8.0%
政策分析の量的方法（応用）	川畑 康治	13	10	2	20.0%	3	30.0%	1	10.0%	4	40.0%	2 (1) 15.4%
人権保障の現代的課題	毛利 透	2	2	2	100.0%							
地方自治法制	吉田 悅教	3	3	1	33.3%	2	66.7%					
人事行政論	鳴田 博子	6	6	1	16.7%	3	50.0%	2	33.3%			
企業制度論	前田 雅弘	1	1			1	100.0%					
競争政策	依田 高典	3	2	1	50.0%			1	50.0%			0 (1)
競争法総論	和久井 理子	1	1			1	100.0%					
国際企業法務	西谷 祐子	3	0									0 (3)
国際経済法	濱本 正太郎	2	1	1	100.0%							0 (1)
社会保障法政策	稻森 公嘉	1	1			1	100.0%					
国際法	前田 直子	5	5	2	40.0%	3	60.0%					
政党と選挙	建林 正彦	5	5			5	100.0%					
ヨーロッパ政治	唐渡 晃弘	6	6			3	50.0%	3	50.0%			
国際政治経済分析	鈴木 基史	5	4			3	75.0%	1	25.0%			0 (1)
国際政治と日本外交	船越 健裕	3	3	1	33.3%	2	66.7%					
国際人道支援と我が国の役割	長徳 英晶・ 佐藤 靖・ 長谷川 朋範・ 山口 忍	9	9	1	11.1%	5	55.6%	2	22.2%	1	11.1%	
金融政策	岩下 直行	16	11	2	18.2%	4	36.4%	1	9.1%	4	36.4%	1 (4) 6.3%
FinTech 概論	岩下 直行	14	12	2	16.7%	3	25.0%	4	33.3%	3	25.0%	0 (2)

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合								履修者に対する割合	
				A+		A		B		C		F※	
教育政策学	服部 憲児	9	9	6	66.7%	3	33.3%						
地域の福祉・支援提供体制－制度・組織・人	西村 幸満	4	3			3	100.0%					1 (0)	25.0%
農林水産政策	大杉 武博	9	9	3	33.3%	4	44.4%	2	22.2%				
通商産業政策	佐伯 英隆	10	9			2	22.2%	7	77.8%			0 (1)	
地域活性化論	森田 俊作・反町 雅史・松村 勉	12	10	3	30.0%	4	40.0%	3	30.0%			0 (2)	
環境政策	伊藤 哲夫・諸富 徹・竹谷 理志	12	11			4	36.4%	6	54.5%	1	9.1%	1 (0)	8.3%
地方行政実務	東 健二郎	8	8	1	12.5%	4	50.0%	3	37.5%				
市民参加論	小田切 康彦	4	4	1	25.0%	3	75.0%						
国土交通政策の経済分析	長町 大輔	4	4	2	50.0%	2	50.0%						
環境・エネルギーの国際政策論	服部 崇	6	4	2	50.0%	2	50.0%					0 (2)	
科学技術・イノベーション政策概論	関根 仁博	1	1			1	100.0%						
CS 日本経済分析	岩下 直行	19	19	2	10.5%	6	31.6%	8	42.1%	3	15.8%		
CS 國際開発・支援実務	長谷川 基裕	15	15	2	13.3%	8	53.3%	4	26.7%	1	6.7%		
CS NPOの理念と活動分析	吉田 忠彦・野池 雅人	3	3			3	100.0%						
CS 省庁間関係	伊藤 哲夫	8	8	2	25.0%	2	25.0%	3	37.5%	1	12.5%		
CS 地方行政分析	吉田 悅教	5	5	5	100.0%								
CS 現代政策と公共哲学	嶋田 博子	15	14	2	14.3%	5	35.7%	7	50.0%			0 (1)	
TP CS 日本経済分析	岩下 直行	1	1			1	100.0%						
TP CS 省庁間関係	伊藤 哲夫	1	1	1	100.0%								

【後期】

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合								履修者に対する割合	
				A+		A		B		C		F※	
統治システム	毛利 透	26	21	7	33.3%	6	28.6%	8	38.1%			3 (2)	11.5%
行政システム	曾我 謙悟	28	26	3	11.5%	12	46.2%	10	38.5%	1	3.8%	2 (0)	7.1%
中央銀行と金融市場	岩下 直行	30	29	5	17.2%	9	31.0%	9	31.0%	6	20.7%	1 (0)	3.3%
経済政策	岡 敏弘	11	10	2	20.0%	1	10.0%	5	50.0%	2	20.0%	0 (1)	
政策分析のための統計基礎	浅野 耕太	23	22			11	50.0%	6	27.3%	5	22.7%	1 (0)	4.3%
立法政策・技術	高森 雅樹	20	15	2	13.3%	5	33.3%	8	53.3%			0 (5)	
公務員制度	吉田 悅教	10	10	4	40.0%	6	60.0%						
行政官の役割規範	嶋田 博子	40	36	4	11.1%	28	77.8%	4	11.1%			0 (4)	
Contemporary Issues 2	秋月 謙吾	7	7	2	28.6%	4	57.1%	1	14.3%				
English Presentation	MURPHY Mahon	9	9	7	77.8%	2	22.2%						
外国報道の分析	NOMMENSEN Carl	9	9	3	33.3%	6	66.7%						
交渉術	仁木 恒夫	10	10	1	10.0%	6	60.0%	3	30.0%				
行政と情報化	松井 啓之	30	28	4	14.3%	20	71.4%	4	14.3%			2 (0)	6.7%
政策分析の量的方法（基礎）	鈴木 基史	17	17			13	76.5%	4	23.5%				
租税論	諸富 徹	4	4			2	50.0%	2	50.0%				

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合								履修者に対する割合
				A+		A		B		C		
コーポレート・ガバナンス論	前田 雅弘	4	3					3	100.0%			1 (0) 25.0%
社会経済学	宇仁 宏幸	2	2	2	100.0%							
EU 法	濱本 正太郎・西連寺 隆行	2	2			1	50.0%	1	50.0%			
現代アメリカ政治	待鳥 聰史	14	14	1	7.1%	8	57.1%	5	35.7%			
日本政治外交	奈良岡 愿智	12	12	3	25.0%	9	75.0%		0.0%			
国際経済論	岩本 武和	15	14	8	57.1%	6	42.9%		0.0%			0 (1)
公会計	宮本 幸平	6	6	5	83.3%			1	16.7%			
リーダーシップ論	小野 善生	11	8	1	12.5%	7	87.5%					3 (0) 27.3%
政策評価・行政評価	小西 敦	10	10	2	20.0%	5	50.0%	3	30.0%			
刑事司法・警察行政	勝丸 充啓・森内 彰	2	2			1	50.0%	1	50.0%			
厚生労働政策	久本 憲夫	14	14	3	21.4%	6	42.9%	5	35.7%			
中小企業政策	立見 淳哉・関 智宏・梅村 仁・桑原 武志	6	5	5	100.0%							1 (0) 16.7%
エネルギー資源政策論	伊藤 哲夫	17	16	1	6.3%	7	43.8%	7	43.8%	1	6.3%	0 (1)
都市・地域計画	古倉 宗治	15	14			5	35.7%	9	64.3%			0 (1)
まちづくりとまち経営	吉田 恒	3	3			1	33.3%	2	66.7%			
メディアポリティックス	船木 七月・近藤 和行・笠森 春樹・村尾 卓志	6	6			3	50.0%	2	33.3%	1	16.7%	
通商政策概論	服部 崇	5	5	1	20.0%	4	80.0%					
科学技術・イノベーションと大学	関根 仁博	7	7			4	57.1%	3	42.9%			
CS 金融・政策分析	岩下 直行	9	9			3	33.3%	4	44.4%	2	22.2%	
CS 環境政策実務—企画立案・実施・評価	清水 延彦	9	9	8	88.9%	1	11.1%					
CS 環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案	伊藤 哲夫	4	4	1	25.0%	3	75.0%					
CS 予算と政策分析	百嶋 計	4	4	2	50.0%	2	50.0%					
CS 国際通商政策	佐伯 英隆	10	10			2	20.0%	8	80.0%			
CS ICTによる地域の再生	吉田 悅教	7	5	5	100.0%							0 (2)
CS 人事改革分析	鳴田 博子	9	9			6	66.7%	3	33.3%			

■合格科目「インターーンシップ」11名合格、「政策課題研究」12名合格

*F評価の()内は、不受験者数を示す。

資料 14 - 2

令和 2 年度科目別評価割合

【前期】

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合							履修者に対する割合	
				A+		A		B		C		
公共政策論 A	待鳥 聰史	42	42	2	4.8%	25	59.5%	12	28.6%	3	7.1%	
公共政策論 B	岡 敏弘	40	39	4	10.3%	18	46.2%	17	43.6%			0 (1)
行政システム	曾我 謙悟	18	16	3	18.8%	3	18.8%	8	50.0%	2	12.5%	2 (0) 11.1%
ミクロ経済学	宇高 淳郎	19	19			7	36.8%	4	21.1%	8	42.1%	
マクロ経済学	遊喜 一洋	22	12	2	16.7%	3	25.0%	5	41.7%	2	16.7%	0 (10)
財政システム	諸富 徹	31	29	3	10.3%	25	86.2%	1	3.4%			2 (0) 6.5%
私法秩序論	潮見 佳男	7	6			6	100.0%					1 (0) 14.3%
会計学	草野 真樹	15	7			3	42.9%	4	57.1%			8 (0) 53.3%
公共管理論	吉田 忠彦	31	31			23	74.2%	6	19.4%	2	6.5%	
危機管理論	越山 健治	22	18	5	27.8%	7	38.9%	2	11.1%	4	22.2%	2 (2) 9.1%
国際行政論	酒井 啓亘	10	6	1	16.7%	3	50.0%	2	33.3%			0 (4)
安全保障概論	中西 寛	22	16	1	6.3%	7	43.8%	8	50.0%			0 (6)
行政法各論	原田 大樹	24	21	9	42.9%	8	38.1%	4	19.0%			0 (3)
Contemporary Issues 1	秋月 謙吾	11	10	1	10.0%	5	50.0%	4	40.0%			1 (0) 9.1%
Professional Writing	MURPHY Mahon	5	2			1	50.0%	1	50.0%			0 (3)
英語情報分析	唐渡 晃弘	14	14			6	42.9%	8	57.1%			
統計基礎理論	松井 啓之	38	30	3	10.0%	15	50.0%	10	33.3%	2	6.7%	8 (0) 21.1%
政策分析の量的方法(応用)	川畠 康治	13	9	1	11.1%	1	11.1%	5	55.6%	2	22.2%	2 (2) 15.4%
政治哲学古典講読	森川 輝一	14	13			9	69.2%	4	30.8%			0 (1)
地方自治法制	吉田 悅教	10	10			6	60.0%	4	40.0%			
社会保障法政策	稻森 公嘉	3	2					2	100.0%			0 (1)
租税法総論	岡村 忠生	1	1			1	100.0%					
人事行政論	嶋田 博子	14	13			9	69.2%	4	30.8%			0 (1)
国際企業法務	西谷 祐子	3	2			1	50.0%	1	50.0%			0 (1)
企業制度論	前田 雅弘	4	4			2	50.0%	2	50.0%			
国際法	浅田 正彦	5	4	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%			0 (1)
国際人道支援と我が国の役割	長徳 英晶・ 川崎 敏秀・ 長谷川 朋範・ 近藤 健	5	4			2	50.0%	2	50.0%			0 (1)
ヨーロッパ政治	島田 幸典	4	4			4	100.0%					
国際政治経済分析	鈴木 基史	3	3			3	100.0%					
国際経済政策	岩本 武和	13	11	5	45.5%	6	54.5%					0 (2)
FinTech概論	岩下 直行	6	4	2	50.0%	1	25.0%	1	25.0%			2 (0) 33.3%
環境政策	伊藤 哲夫・ 諸富 徹・ 清水 延彦	3	3	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%			
競争政策	依田 高典	6	5	5	100.0%							1 (0) 16.7%
国際経済関係論	坂出 健	4	3	1	33.3%	2	66.7%					1 (0) 25.0%
競争法の公共政策	川濱 昇	1	1	1	100.0%							
環境・エネルギーの国際政策論	服部 崇	7	5	2	40.0%	3	60.0%					0 (2)
競争法総論	和久井 理子	3	1			1	100.0%					0 (2)

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合								履修者に対する割合
				A+		A		B		C		
国際政治と日本外交	有馬 裕	5	5			5	100.0%					
地域活性化論	森田 俊作・ 反町 雅史・ 松村 勉	15	13	4	30.8%	5	38.5%	4	30.8%		0 (2)	
国際人権法	酒井 啓亘	8	6	1	16.7%	4	66.7%	1	16.7%		0 (2)	
国土交通政策論	長町 大輔	5	3	3	100.0%						2 (0)	40.0%
科学技術・イノベーション 政策概論	関根 仁博	8	7	2	28.6%	5	71.4%				0 (1)	
医療・介護政策	古村 典洋	2	2	2	100.0%							
CS 国際開発・支援実務	長谷川 基裕	8	8	4	50.0%	4	50.0%					
CS NPOの理念と活動分析	吉田 忠彦・ 野池 雅人	7	7			7	100.0%					
CS 省庁間関係	伊藤 哲夫	6	6			5	83.3%	1	16.7%			
CS 地方行政分析	吉田 悅教	6	6	6	100.0%							
CS 日本経済分析	岩下 直行	11	11			5	45.5%	6	54.5%			
CS 現代政策と公共哲学	嶋田 博子	12	12			12	100.0%					

【後期】

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合								履修者に対する割合
				A+		A		B		C		
現代規範理論	森川 輝一	22	21	2	9.5%	10	47.6%	9	42.9%			0 (1)
政策分析のための統計基礎	浅野 耕太	21	17			7	41.2%	7	41.2%	3	17.6%	4 (0) 19.0%
経済政策	岡 敏弘	13	10			4	40.0%	5	50.0%	1	10.0%	0 (3)
統治システム	毛利 透	19	18	3	16.7%	5	27.8%	10	55.6%			0 (1)
中央銀行と金融市场	岩下 直行	18	18	3	16.7%	5	27.8%	8	44.4%	2	11.1%	
政策決定過程論	近藤 正基	30	30	2	6.7%	14	46.7%	14	46.7%			
立法政策・技術	高森 雅樹	10	7			5	71.4%	2	28.6%			0 (3)
情報管理論	毛利 透	13	9	1	11.1%	4	44.4%	4	44.4%			0 (4)
政策分析の方法概論	近藤 正基	48	45	4	8.9%	29	64.4%	10	22.2%	2	4.4%	1 (2) 2.1%
公務員制度	吉田 悅教	19	16	12	75.0%	2	12.5%	2	12.5%			0 (3)
行政官の役割規範	嶋田 博子	20	19	1	5.3%	17	89.5%	1	5.3%			0 (1)
Contemporary Issues 2	秋月 謙吾	9	9			3	33.3%	6	66.7%			
English Presentation	HIJINO Ken	12	12			4	33.3%	7	58.3%	1	8.3%	
交渉術	仁木 恒夫	14	14	2	14.3%	6	42.9%	6	42.9%			
政策分析の量的方法（基礎）	建林 正彦	16	15	5	33.3%	5	33.3%	5	33.3%			1 (0) 6.3%
国際安全保障法	浅田 正彦	8	8			8	100.0%					
政策評価・行政評価	小西 敦	7	7	1	14.3%	5	71.4%	1	14.3%			
日本政治外交	奈良岡 聰智	4	4	1	25.0%	3	75.0%					
メディアポリティックス	笛森 春樹・ 村尾 卓志・ 池永 尚嗣・ 平井 道子	18	18			2	11.1%	10	55.6%	6	33.3%	
現代アメリカ政治	待鳥 聰史	6	4			3	75.0%	1	25.0%			2 (0) 33.3%
都市・地域計画	沓澤 隆司	19	19			4	21.1%	15	78.9%			
金融政策	岩下 直行	18	17	3	17.6%	6	35.3%	6	35.3%	2	11.8%	1 (0) 5.6%
通商産業政策	佐伯 英隆	9	7			2	28.6%	5	71.4%			0 (2)

科 目 名	担 当 教 員	履修者数	合格者数	合格者に対する割合							履修者に対する割合	
				A+		A		B		C		F※
地方財政政策	諸富 徹	7	7	3	42.9%	4	57.1%					
エネルギー資源政策論	伊藤 哲夫	9	9	2	22.2%	3	33.3%	3	33.3%	1	11.1%	
公会計	宮本 幸平	20	20	4	20.0%	5	25.0%	6	30.0%	5	25.0%	
意思決定論	松井 啓之	14	12			9	75.0%	3	25.0%			0 (2)
経済安全保障論	坂出 健	3	3	3	100.0%							
国土交通行政のプロセス	武藤 浩	8	5			3	60.0%	2	40.0%			1 (2) 12.5%
日本の財政政策	古村 典洋	11	8	1	12.5%	7	87.5%					0 (3)
CS 金融・政策分析	岩下 直行	6	6	1	16.7%	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	
CS 環境政策実務－企画立案・実施・評価	清水 延彦	4	3	2	66.7%	1	33.3%					1 (0) 25.0%
CS 予算と政策分析	百嶋 計	5	5	3	60.0%	2	40.0%					
CS 国際通商政策	佐伯 英隆	4	4					4	100.0%			
CS ICTによる地域の再生	吉田 悅教	8	8	8	100.0%							
CS 環境、エネルギー分野を中心とする法律の立案	伊藤 哲夫	3	3			2	66.7%	1	33.3%			
CS 人事改革分析	嶋田 博子	11	10			9	90.0%	1	10.0%			0 (1)
刑事司法・警察行政	勝丸 充啓・森内 彰	3	3			1	33.3%	2	66.7%			
リーダーシップ論	小野 善生	14	11	1	9.1%	8	72.7%	2	18.2%			3 (0) 21.4%
インフラ整備の政策分析	長町 大輔	10	8	6	75.0%	2	25.0%					2 (0) 20.0%
まちづくりとまち経営	要藤 正任	6	6	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%			
E U法	濱本 正太郎・西連寺 隆行	4	3					1	33.3%	2	66.7%	0 (1)
通商政策概論	服部 崇	9	8	1	12.5%	6	75.0%	1	12.5%			0 (1)
科学技術・イノベーションと大学	関根 仁博	5	5			3	60.0%	2	40.0%			

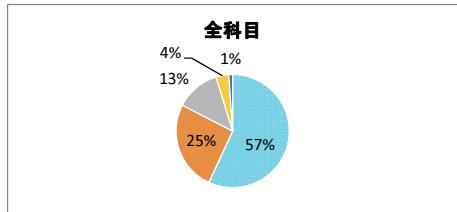
■合格科目「タームペーパー」5名合格、「インターンシップ」対象者なし、「政策課題研究」5名合格

*F評価の()内は、不受験者数を示す。

資料 15 - 1

令和元年度	前期(春)	科目名	—	類別	全科目	科目総数	57	成績担当教員	—	単複	—	履修者総数	649	回答者総数	464	回答率	71.5%
-------	-------	-----	---	----	-----	------	----	--------	---	----	---	-------	-----	-------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



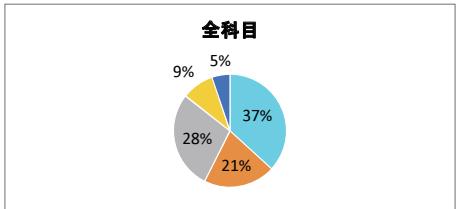
全科目(人)

1	90%以上	264
2	75%以上90%未満	119
3	50%以上75%未満	59
4	25%以上50%未満	17
5	25%未満	5

平均出席回数

12.2 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



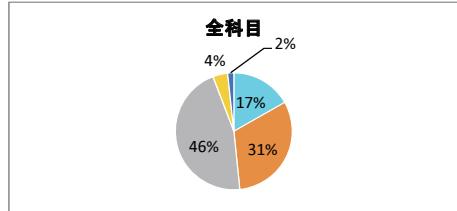
全科目(人)

1	3時間以上	171
2	2時間以上、3時間未満	96
3	1時間以上、2時間未満	131
4	30分以上、1時間未満	43
5	30分未満	24

平均授業外学習時間

3.8 時間

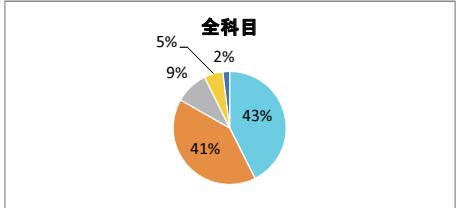
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



全科目(人)

1	非常に難しかった	78
2	難しかった	147
3	ちょうどよかったです	213
4	易しかった	19
5	非常に易しかった	8

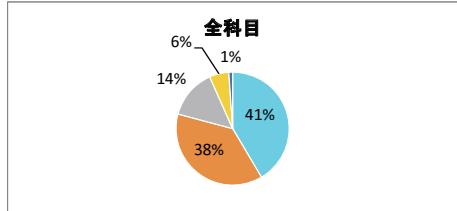
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



全科目(人)

1	非常に惹いた	198
2	ある程度惹いた	189
3	どちらともいえない	44
4	あまり惹かなかった	25
5	まったく惹かなかった	9

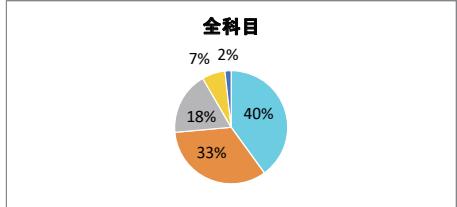
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



全科目(人)

1	非常に体系的だった	193
2	ある程度体系的だった	175
3	どちらともいえない	66
4	あまり体系的でなかった	26
5	まったく体系的でなかった	5

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



全科目(人)

1	良く考慮していた	186
2	ある程度考慮していた	156
3	どちらともいえない	84
4	あまり考慮していなかった	31
5	まったく考慮していなかった	8

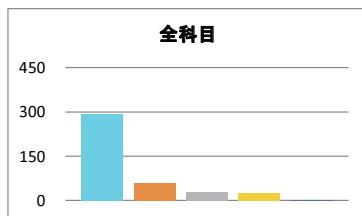
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



全科目(人)

1	「はい」	345
2	「いいえ」又は「どちらともいえない」	120

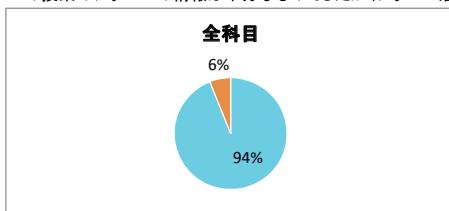
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



全科目(人)

- 1 科目選択・履修登録に活用 294
- 2 予習・復習に活用 60
- 3 受講にあたり授業中などに活用 29
- 4 試験・レポートに活用 26
- 5 その他 2

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



全科目(人)

- 1 はい 437
- 2 いいえ 28

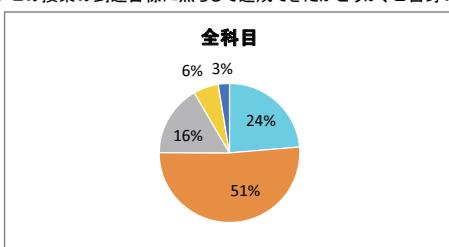
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



全科目(人)

- 1 「授業の概要・目的」の情報が不十分 7
- 2 「授業計画と内容」の情報が不十分 10
- 3 「履修要件」の情報が不十分 2
- 4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分 2
- 5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分 4
- 6 「その他」の情報が不十分 6

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

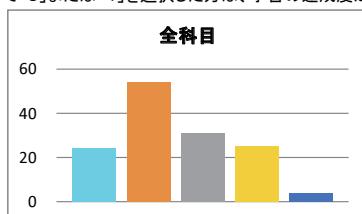


全科目(人)

- 1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成) 110
- 2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成) 239
- 3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成) 77
- 4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成) 27
- 5 どちらともいえない(判断できない) 12

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。
(回答は別紙参照)

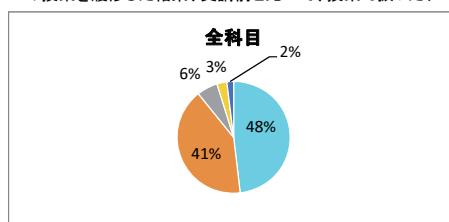
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



全科目(人)

- 1 授業の進度が速かったため 24
- 2 予習・復習に十分時間を取りこなすことができなかったため 54
- 3 説明がわかりにくかったため 31
- 4 その他()のため 25
- 5 特になし 4

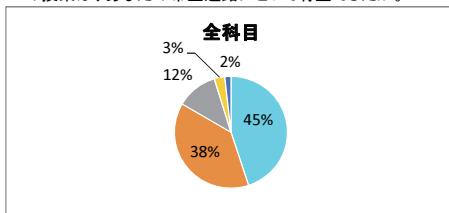
問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



全科目(人)

- 1 そう思う 224
- 2 ある程度そう思う 191
- 3 どちらともいえない 28
- 4 あまりそう思わない 13
- 5 そう思わない 9

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

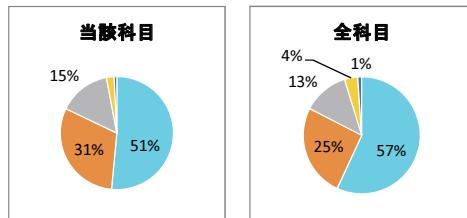


全科目(人)

- 1 非常に有益だった 209
- 2 ある程度有益だった 179
- 3 どちらともいえない 55
- 4 あまり有益ではなかった 14
- 5 まったく有益ではなかった 8

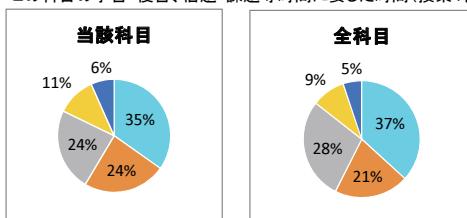
令和元年度	前期(春)	科目名	—	類別	基本科目	科目数	8	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	180	回答者数	134	回答率	74.4%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



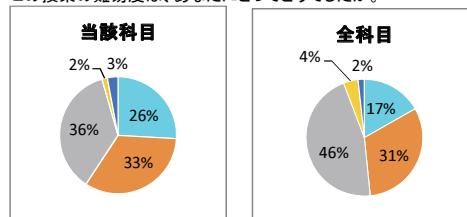
当該科目(人)	全科目(人)
90%以上: 69	264
75%以上90%未満: 41	119
50%以上75%未満: 20	59
25%以上50%未満: 3	17
25%未満: 1	5
平均出席回数	12.3 回
	12.2 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



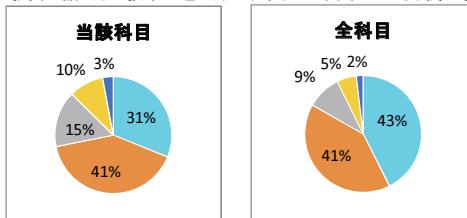
当該科目(人)	全科目(人)
3時間以上: 47	171
2時間以上、3時間未満: 32	96
1時間以上、2時間未満: 32	131
30分以上、1時間未満: 15	43
30分未満: 9	24
平均授業外学習時間	4.1 時間
	3.8 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



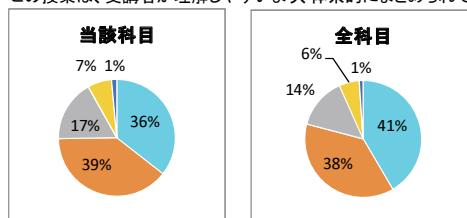
当該科目(人)	全科目(人)
非常に難しかった: 35	78
難しかった: 45	147
ちょうどよかったです: 49	213
易しかった: 2	19
非常に易しかった: 4	8

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



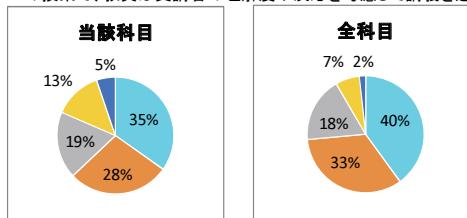
当該科目(人)	全科目(人)
非常に惹いた: 42	198
ある程度惹いた: 55	189
どちらともいえない: 21	44
あまり惹かなかった: 13	25
まったく惹かなかった: 4	9

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



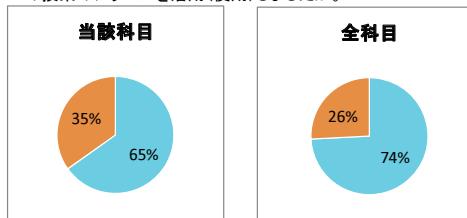
当該科目(人)	全科目(人)
非常に体系的だった: 48	193
ある程度体系的だった: 53	175
どちらともいえない: 23	66
あまり体系的でなかった: 9	26
まったく体系的でなかった: 2	5

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



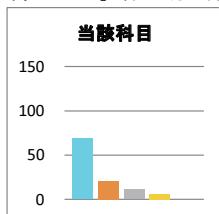
当該科目(人)	全科目(人)
良く考慮していた: 47	186
ある程度考慮していた: 38	156
どちらともいえない: 25	84
あまり考慮していない: 18	31
まったく考慮していない: 7	8

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
「はい」: 88	345
「いいえ」又は「どちらともいえない」: 47	120

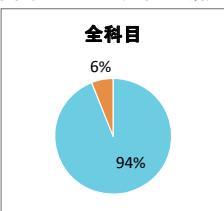
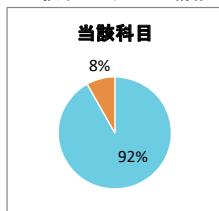
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	69	294
2 予習・復習に活用	21	60
3 受講にあたり授業中などに活用	11	29
4 試験・レポートに活用	6	26
5 その他	0	2

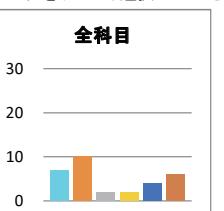
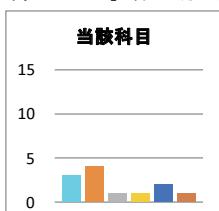
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	124	437
2 いいえ	11	28

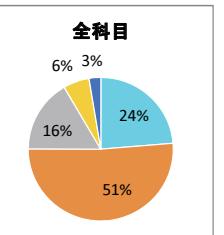
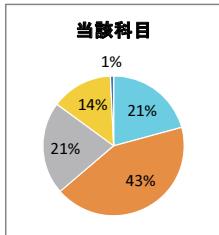
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	3	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	4	10
3 「履修要件」の情報が不十分	1	2
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	1	2
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	2	4
6 「その他」の情報が不十分	1	6

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

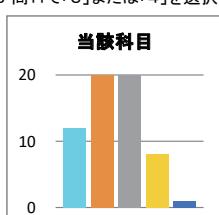


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	28	110
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	58	239
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	29	77
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	19	27
5 どちらともいえない(判断できない)	1	12

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

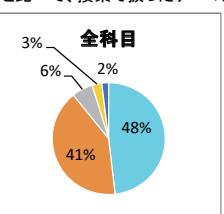
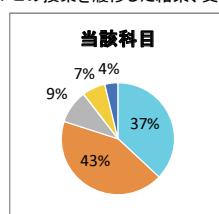


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	12	24
2 予習・復習に十分時間を取りことができなかっただけ	22	54
3 説明がわかりにくかったため	21	31
4 その他()のため	8	25
5 特になし	1	4

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

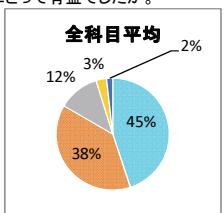
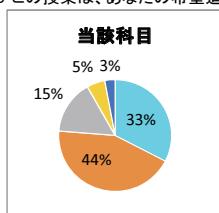
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	50	224
2 ある程度そう思う	58	191
3 どちらともいえない	13	28
4 あまりそう思わない	9	13
5 そう思わない	5	9

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

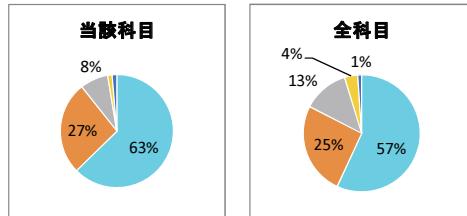
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	44	209
2 ある程度有益だった	59	179
3 どちらともいえない	21	55
4 あまり有益ではなかった	7	14
5 まったく有益ではなかった	4	8

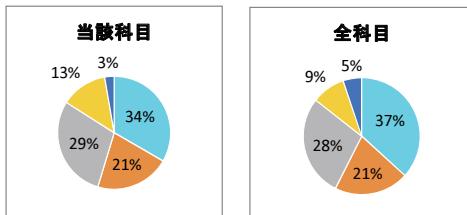
令和元年度	前期(春)	科目名	—	類別	専門基礎科目	科目数	6	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	121	回答者数	75	回答率	62.0%
-------	-------	-----	---	----	--------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



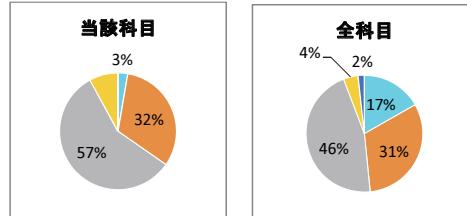
当該科目(人)	全科目(人)
90%以上: 47	264
75%以上90%未満: 20	119
50%以上75%未満: 6	59
25%以上50%未満: 1	17
25%未満: 1	5
平均出席回数	12.5 回
	12.2 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



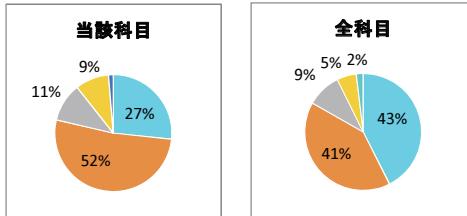
当該科目(人)	全科目(人)
3時間以上: 25	171
2時間以上、3時間未満: 16	96
1時間以上、2時間未満: 22	131
30分以上、1時間未満: 10	43
30分未満: 2	24
平均授業外学習時間	3.6 時間
	3.8 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



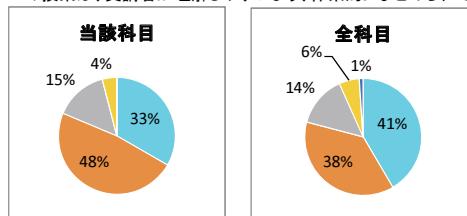
当該科目(人)	全科目(人)
非常に難しかった: 2	78
難しかった: 24	147
ちょうどよかったです: 43	213
易しかった: 6	19
非常に易しかった: 0	8

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



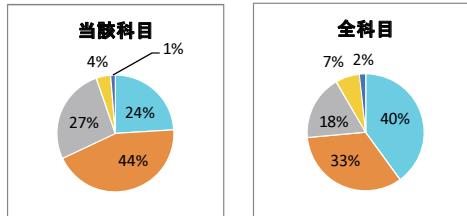
当該科目(人)	全科目(人)
非常に惹いた: 20	198
ある程度惹いた: 39	189
どちらともいえない: 8	44
あまり惹かなかった: 7	25
まったく惹かなかった: 1	9

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



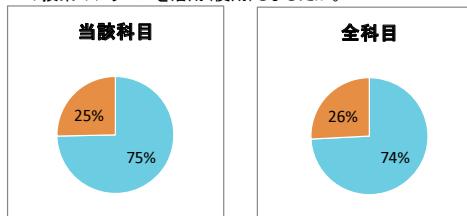
当該科目(人)	全科目(人)
非常に体系的だった: 25	193
ある程度体系的だった: 36	175
どちらともいえない: 11	66
あまり体系的でなかった: 3	26
まったく体系的でなかった: 0	5

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



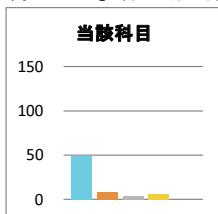
当該科目(人)	全科目(人)
良く考慮していた: 18	186
ある程度考慮していた: 33	156
どちらともいえない: 20	84
あまり考慮していなかった: 3	31
まったく考慮していなかった: 1	8

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
「はい」: 56	345
「いいえ」又は「どちらともいえない」: 19	120

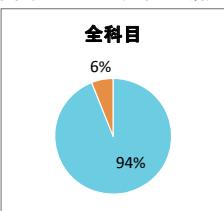
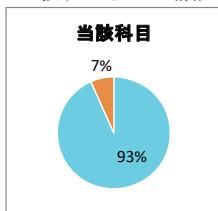
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	49	294
2 予習・復習に活用	8	60
3 受講にあたり授業中などに活用	4	29
4 試験・レポートに活用	6	26
5 その他	0	2

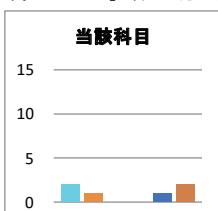
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	70	437
2 いいえ	5	28

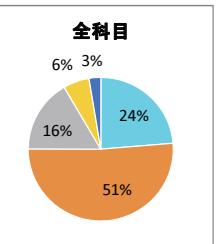
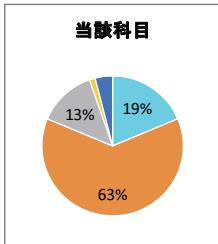
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	2	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	1	10
3 「履修要件」の情報が不十分	0	2
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	2
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	1	4
6 「その他」の情報が不十分	2	6

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

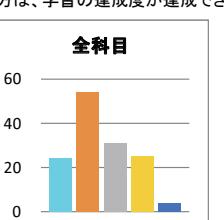


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	14	110
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	47	239
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	10	77
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	1	27
5 どちらともいえない(判断できない)	3	12

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

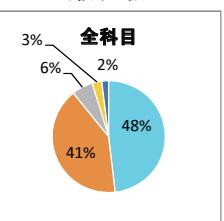
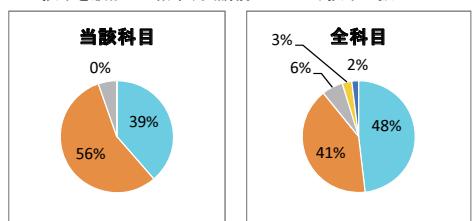


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	1	24
2 予習・復習に十分時間を取りことができなかっただけ	4	54
3 説明がわかりにくかったため	2	31
4 その他()のため	3	25
5 特になし	1	4

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

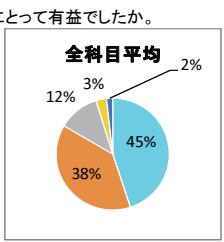
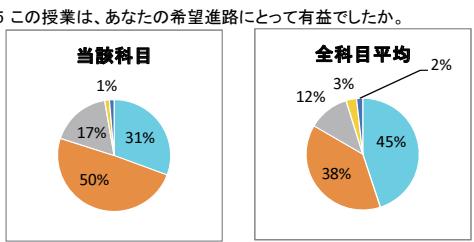
問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	29	224
2 ある程度そう思う	42	191
3 どちらともいえない	4	28
4 あまりそう思わない	0	13
5 そう思わない	0	9



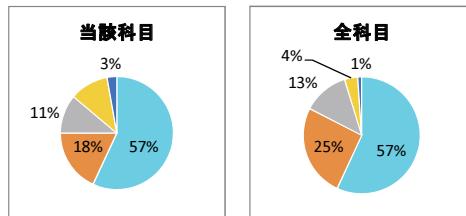
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	23	209
2 ある程度有益だった	37	179
3 どちらともいえない	13	55
4 あまり有益ではなかった	1	14
5 まったく有益ではなかった	1	8



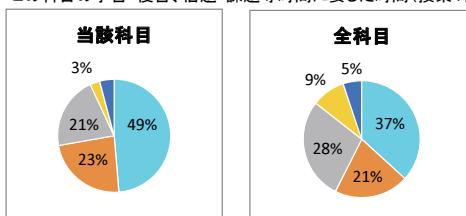
令和元年度	前期(春)	科目名	—	類別	実践科目	科目数	7	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	113	回答者数	72	回答率	63.7%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



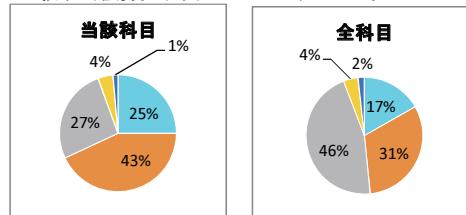
当該科目(人)	全科目(人)
41	264
13	119
8	59
8	17
2	5
平均出席回数	11.5 回
当該科目(人)	12.2 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



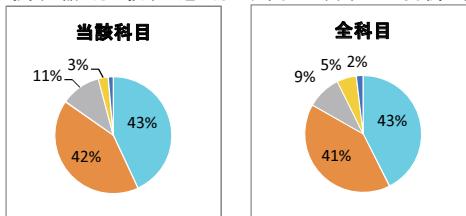
当該科目(人)	全科目(人)
35	171
17	96
15	131
2	43
3	24
平均授業外学習時間	3.7 時間
当該科目(人)	3.8 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



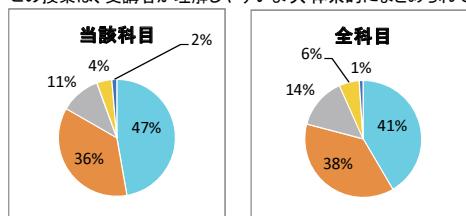
当該科目(人)	全科目(人)
18	78
31	147
19	213
3	19
1	8

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



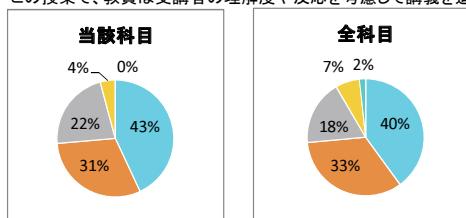
当該科目(人)	全科目(人)
31	198
30	189
8	44
2	25
1	9

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



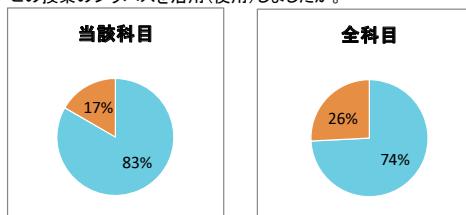
当該科目(人)	全科目(人)
34	193
26	175
8	66
3	26
1	5

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



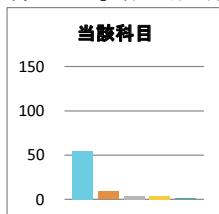
当該科目(人)	全科目(人)
31	186
22	156
16	84
3	31
0	8

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
60	345
12	120

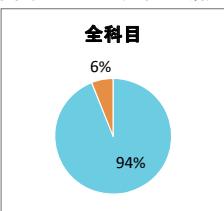
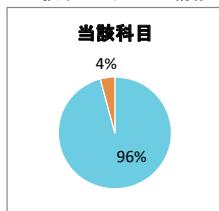
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	55	294
2 予習・復習に活用	9	60
3 受講にあたり授業中などに活用	4	29
4 試験・レポートに活用	4	26
5 その他	1	2

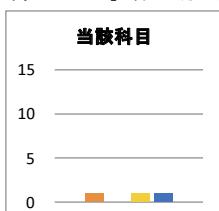
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	69	437
2 いいえ	3	28

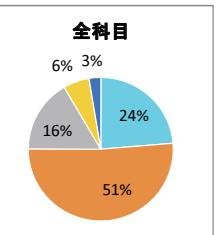
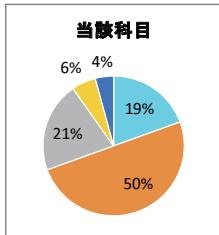
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	1	10
3 「履修要件」の情報が不十分	0	2
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	1	2
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	1	4
6 「その他」の情報が不十分	0	6

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

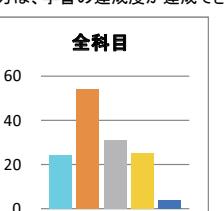
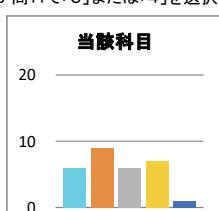
問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	14	110
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	36	239
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	15	77
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	4	27
5 どちらともいえない(判断できない)	3	12

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。
(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

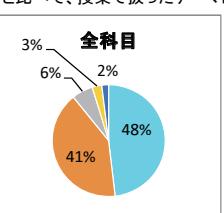
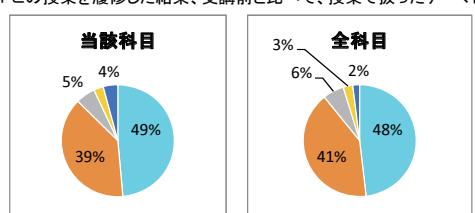


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	6	24
2 予習・復習に十分時間を取りことができなかつたため	9	54
3 説明がわかりにくかつたため	6	31
4 その他()のため	7	25
5 特になし	1	4

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

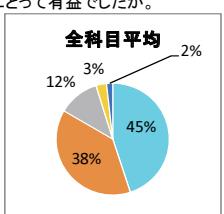
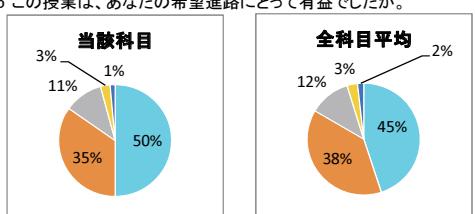
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	35	224
2 ある程度そう思う	28	191
3 どちらともいえない	4	28
4 あまりそう思わない	2	13
5 そう思わない	3	9

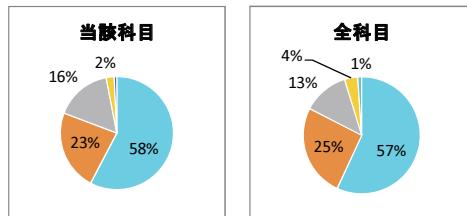
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

当該科目(人) 全科目(人)

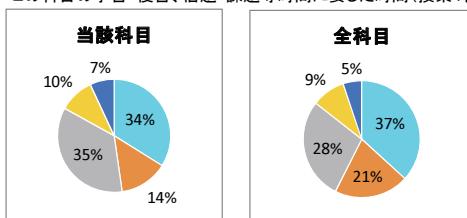


令和元年度	前期(春)	科目名	—	類別	展開科目	科目数	30	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	170	回答者数	130	回答率	76.5%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	----	--------	---	----	---	------	-----	------	-----	-----	-------

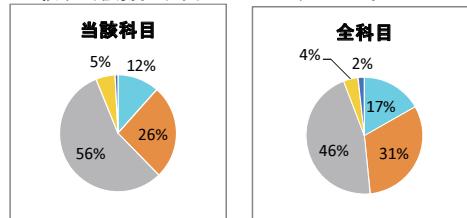
問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



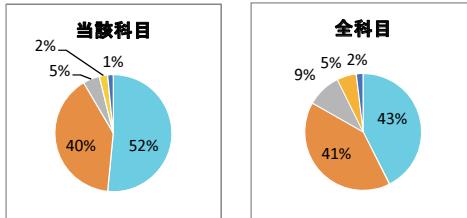
問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



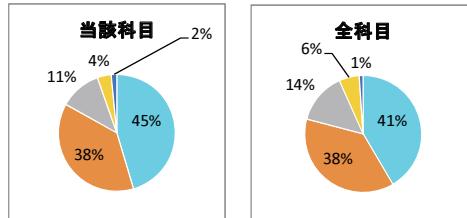
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



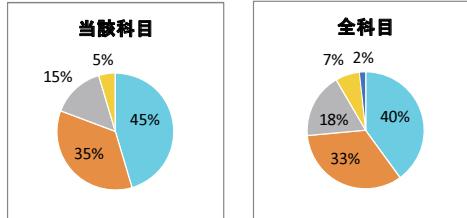
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



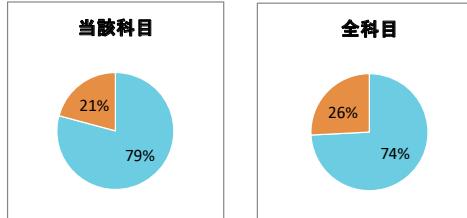
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



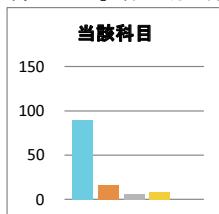
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



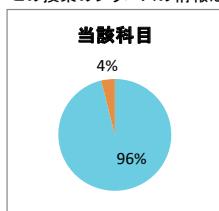
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	90	294
2 予習・復習に活用	16	60
3 受講にあたり授業中などに活用	6	29
4 試験・レポートに活用	8	26
5 その他	0	2

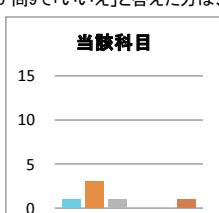
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	125	437
2 いいえ	5	28

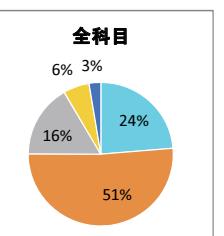
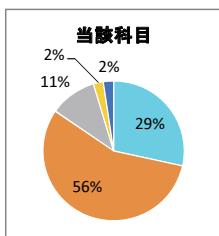
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	1	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	3	10
3 「履修要件」の情報が不十分	1	2
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	2
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	4
6 「その他」の情報が不十分	1	6

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

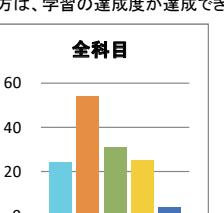


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	37	110
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	73	239
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	14	77
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	3	27
5 どちらともいえない(判断できない)	3	12

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

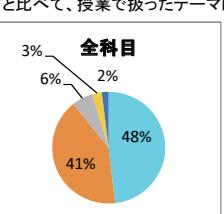
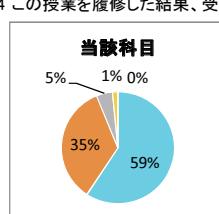


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	2	24
2 予習・復習に十分時間を使うことができなかつたため	12	54
3 説明がわかりにくかつたため	1	31
4 その他()のため	4	25
5 特になし	1	4

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

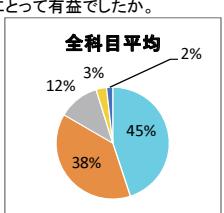
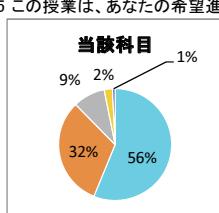
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	77	224
2 ある程度そう思う	45	191
3 どちらともいえない	6	28
4 あまりそう思わない	2	13
5 そう思わない	0	9

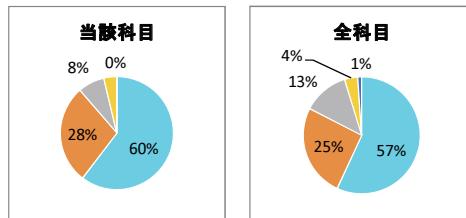
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

当該科目(人) 全科目(人)

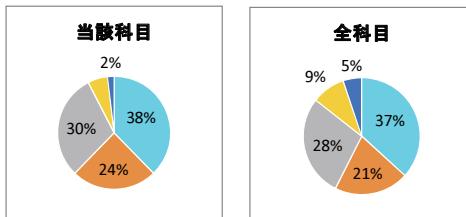


令和元年度	前期(春)	科目名	—	類別	事例研究	科目数	6	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	65	回答者数	53	回答率	81.5%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

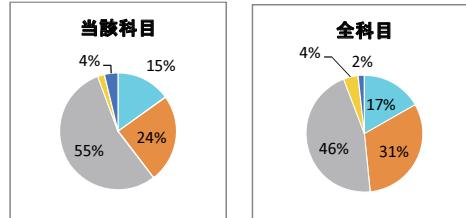
問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



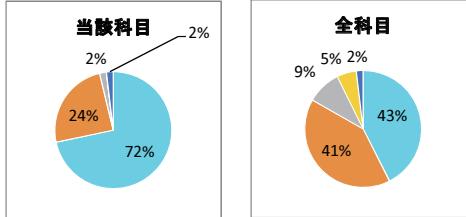
問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



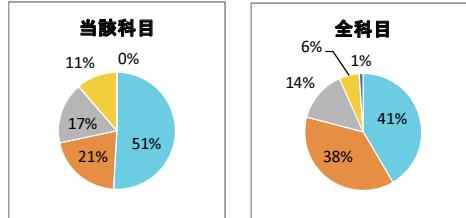
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



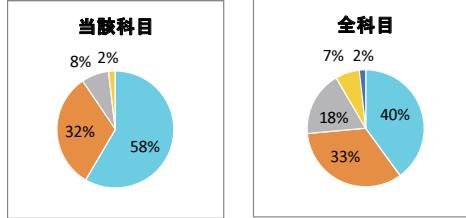
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



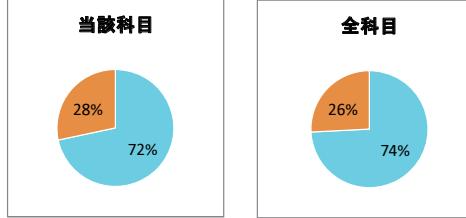
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



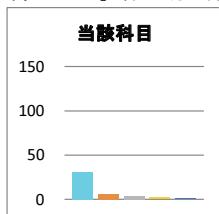
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



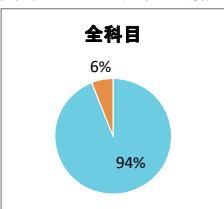
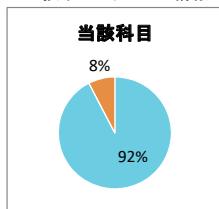
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	31	294
2 予習・復習に活用	6	60
3 受講にあたり授業中などに活用	4	29
4 試験・レポートに活用	2	26
5 その他	1	2

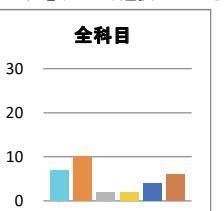
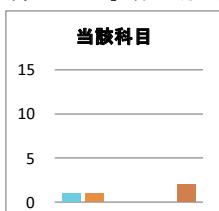
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	49	437
2 いいえ	4	28

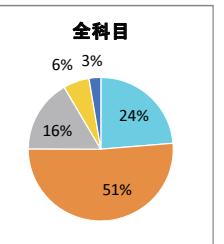
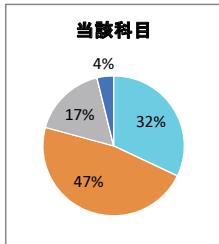
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	1	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	1	10
3 「履修要件」の情報が不十分	0	2
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	2
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	4
6 「その他」の情報が不十分	2	6

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

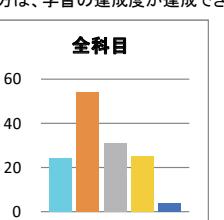


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	17	110
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	25	239
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	9	77
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	0	27
5 どちらともいえない(判断できない)	2	12

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

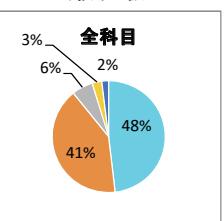
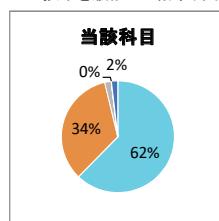


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	3	24
2 予習・復習に十分時間を取りこ	7	54
3 説明がわかりにくかったため	1	31
4 その他()のため	3	25
5 特になし	0	4

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

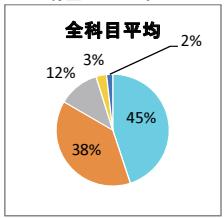
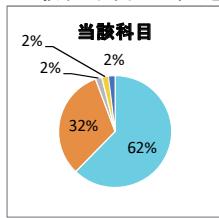
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	33	224
2 ある程度そう思う	18	191
3 どちらともいえない	1	28
4 あまりそう思わない	0	13
5 そう思わない	1	9

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

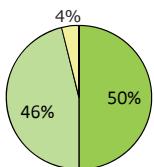
当該科目(人) 全科目(人)



令和元年度前期授業アンケート 教員からのコメント

・対象科目 51科目※
※アンケートを実施した科目 49科目
・コメント回答数 26件 (対象人数 49名)

(1) 授業アンケートの結果は、授業のあり方について考える上で、参考になりましたか。



1. ■ とても参考になった	13
2. ■ どちらかといえば参考になった	12
3. ■ どちらともいえない	1
4. ■ どちらかといえば参考にならなかった	0
5. ■ 参考にならなかった	0

(2) 今回の授業アンケート結果を、授業改善のために活用されるお考えがあれば、その方法等についてお聞かせください。

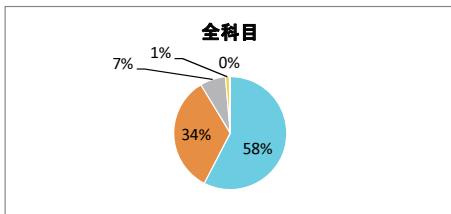
- 1 予習型の授業、課題を読ませる形の授業の難しさを改めて認識した。しかし学生は負担が大きい言いながらシラバス等で課した必読課題については概ねこなしているようであり、大学院における学習スタイルを身に付けさせるという導入的科目の意図がかなり実現しているという手ごたえを得たことは有益であった。
- 2 内容が専門的で難しいという意見が多かった。来年度は内容を整理してわかりやすくしたい。内容が必修科目にふさわしくないという意見もあった。必修という制度がなくなればいいと思うが、当分ならないだろうから、こちらが改善するしかない。「先生のイデオロギーを混ぜるべきでない」という意見があった。イデオロギーを表明するとは、深く考えず、現実を見ず、それまで知っている理論に固執して教条的になることだ。そうならないように深く深く考えるというのがこの講義で言いたかったことだから、そう言われるのは心外だが、理解されなかつたということだろう。
- 3 概ね、期待していた評価・反応を得られていることを確認できたが、予習復習等の時間が少ない傾向にあったので、適宜課題を提示するなど、自習の習慣を付けてもらう工夫をできればと考えている。
- 4 学生からのコメントをレジュメや授業の改善の参考にする。
- 5 アンケート結果は、自由記述欄も含めて、本講義については学生の好評をえることができたほか、講義の目標を達成できていることが分かった。ただし、講義資料のアップロードタイミングと講義開始時刻の点で、学生から改善すべき点が挙がっていた。来年度、改善したい。
- 6 福祉国家の政策決定過程に関する内容を網羅的に扱ったため、講義の一貫性と体系性に問題が出たように思う。今後はよりテーマを焦点化するように努めたい。また、レジュメの内容が不十分であるというコメントがあったが、今後のレジュメ作成に活かしていきたい。コメントシートによって質問を受け付けるなど受講者の要望や疑問に答えるかたちで講義を行ったつもりであったが、この取り組みに不十分な面があったようであるので、今後、一方的な講義にならないよう工夫をしていくつもりである。
- 7 受講者のバックグラウンドが多様なため、授業に対する期待や評価にもバラつきが生じる。授業アンケートへの回答内容を精査し、より充実した授業となるよう調整したい。
具体的には、一方的な講義形式よりも、グループディスカッションなどに面白さを感じる受講者が多いので、学習内容をぶれさせないように事前学習をさせた上でグループディスカッションを行うように授業準備をしたい。すでにこのような形で授業を進めているが、いわゆる反転学習を意識した展開を行うようにしたいと考えている。
- 8 受講生が少ないので、かなり遠慮して記入していると思われ、必ずしも正直な意見をもらえていない印象を持っている。手書きのコメントがそのまま教員にわたるということを学生がしているとすると（知っていると思われるが）、なおさらである。
- 9 授業について難しいと判断する学生がやや多いようなので、難易度についてさらに工夫したい。
- 10 アンケート回答のうち数名が「PC実習の際の画面が見にくい」と指摘しており、今後、ハード面の改善を含め検討していく予定である。
- 11 少人数だったので、議論の点では十分に深められない所もあったが、各人の興味・関心に応じた授業をした努力は理解してもらえたと思う。今後もわかりやすい内容にすることに努めたい。
- 12 授業内容の体系化について改善の余地があるので、シラバス、レジュメ、資料等の内容の見直しを行う。
- 13 初年度で、学生の反応をみながらの試行錯誤でしたが、好意的な評価をいただき安心しています。「人生や進路選択に役立った」という複数のコメントは、実務家として一番嬉しいことで、次回もそう思ってもらえるよう引き続き努力します。
数回のレポートに一人ずつコメントを付けて返すのは負担が大きく、もう止めるつもりでしたが、「役立った」と言われる、調子に乗って頑張ってまいそうです。
他方、二科目とも平均より長時間をかけるなど学生側の負担も大きいことがわかったので、このへんは各年の受講生の希望次第で調整かなど感じます。

- 14 今年度の授業ではお世話になり、ありがとうございました。1年度限りの代打として授業を担当させていただいたと理解しておりますので、今回のアンケート結果を貴学での授業改善のために活用するということは想定されないのですが、以下気づきの点を挙げさせていただきます。
- ・授業難易度の設定：担当科目分野を専門とする学生とそうでない学生は混在しますので、難易度の設定は難しい課題です。問3の回答結果は、それが如実に反映されているように感じました。専門とする学生が「ちょうどよかった」と回答していることから、難易度設定の基準のようなものを教員なりにつかめたように思います。
 - ・アンケート設問：問5の「体系的にまとめられていましたか」という質問は、個人的には、学生にとって回答が難しいのではないかと感じます。何をもって「体系的」と判断するかは、当該科目的基礎知識を既に有している学生には明らかかもしれません、初学者にとっては、それを判断する基準が捉えにくく、「どちらともいえない」を選択するしかないかと思います。
 - ・予習・復習時間の確保：問11の授業到達目標の達成度との関連で、問13の選択肢2（予習・復習に十分時間を取ることができなかった）は、教員として、どれくらいの量・質の課題をだすべきかの決定と、課題をやってこなかった学生に対する対応方法の検討にあたって、重要な要素と考えます。今回の担当科目に関しては当該項目をあげたのは1名でしたが、授業運営にあたって常に検討し、必要に応じて軌道修正すべき事項と認識しました。
 - ・自由記述欄から、授業内でのグループ討論を行うことへの評価は高かったと感じますので、「講義」科目であってもアクティブラーニングとしての要素を適度に取り込む意義を認識しました。
- 15 授業への満足度は高いようであり、専門的な学術論文を読めるようになるという授業意図が実現したように思われる。こうした好意的な評価を見ることは励みになる。
- 16 懇親会などの活用が有意義なのがよくわかった。
- 17 1限目の講義であるが、社会人学生などから、時間が早すぎて出席できないとのコメントがあった。1限目を全廃する訳にもいかないが、確かに出席できる学生が限られている面はあるようで、科目によっては、来期以降、何らかの対策が必要かもしれない。授業の難易度については、難しすぎるという意見と易しいという意見が両方あったので、レベル設定としてはさほどズレではないと思った。問題は、難しすぎるという学生のフォローアップであり、何か追加的な対応が必要かもしれない。
- 18 この授業がどういう経緯でできたのか承知しておりませんが、いくら授業アンケート結果を見たところで、2つの研究科の受講生の需要を同時に満たすには限界があるなというのが率直な感想です。私自身としては、教育学研究科の人間ですので、教育学研究科の授業として開講し、そのつもりで公共政策大学院の学生さんに受けさせていただく方が、授業が中途半端にならなくて良いなと思っています。
- 19 本期は他学科からの受講生4名を含め、予想したより受講者の数が多くなった。その事もあり、時間にあまりゆとりが無く、外部からのゲストスピーカーを招く機会を持てなかった。秋学期のCSと来期の本講座にはゲストを招く機会を少なくとも1回以上設けたい。
- 20 ディスカッション時間を増やし、内容の深い講義になるよう努力します。
- 21 議論の時間を長めに取るよう工夫したい。
- 22 アンケート結果からはおおむね講義の目標が達成されていること、特に私の担当回において実施している参加学生による報告と自由討議で構成する双方向型の授業方式に対する支持がある一方、テキストより最新のトピックスを取り扱ってほしいとの要望もあった。これは、来年度改善したい。また、3名で講義担当しているために、私の講義回の内容その他について、参加学生に連絡不行き届きな点があった点も、来年度は改善したい。
- 23 授業における講義形式とグループワーク形式の割合について検討しており、アンケート記述を踏まえて後者を増やし学生同士のグループワークによる学習定着を考慮したい。
- 24 本授業の運営にあたり、内容にどの程度の専門性を持たせるべきかという点が大きな課題であった。授業アンケートの結果は、その専門性の程度と受講生の理解度との関連をみるとうえで非常に参考となるものであり、次回の授業運営にも活かされると思われる。
- 25 講義の内容を私の得意分野に絞るのではなく、第1回目の授業の際に学生の関心分野を聞いたうえで、私があまり得意でない分野も含めて講義を行ったので、あまり興味を惹いていなかったとする、あまり意味がなかったことになります。難易度も易しかったとする意見が多くあった。私の不得意分野もあり基本的な事項の講義に留めたので、やむをえない反応と思われます。これらを考慮し、今後は私の得意分野に絞り、より専門的な講義にすべきかどうか、考えたいと思います。
- 26 コメントを踏まえて来年度のプランを検討したい。

資料 15 - 2

令和元年度	後期(秋)	科目名	—	類別	全科目	科目総数	42	成績担当教員	—	単複	—	履修者総数	491	回答者総数	380	回答率	77.4%
-------	-------	-----	---	----	-----	------	----	--------	---	----	---	-------	-----	-------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



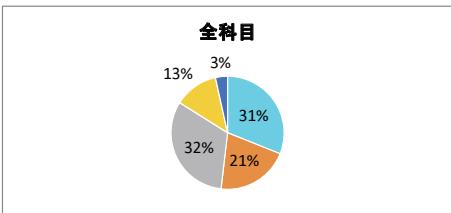
全科目(人)

1	90%以上	219
2	75%以上90%未満	128
3	50%以上75%未満	28
4	25%以上50%未満	4
5	25%未満	1

平均出席回数

12.6 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



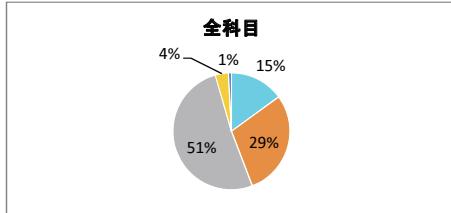
全科目(人)

1	3時間以上	118
2	2時間以上、3時間未満	79
3	1時間以上、2時間未満	122
4	30分以上、1時間未満	48
5	30分未満	13

平均授業外学習時間

2.6 時間

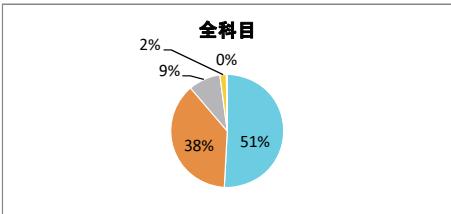
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



全科目(人)

1	非常に難しかった	57
2	難しかった	111
3	ちょうどよかったです	195
4	易しかった	14
5	非常に易しかった	3

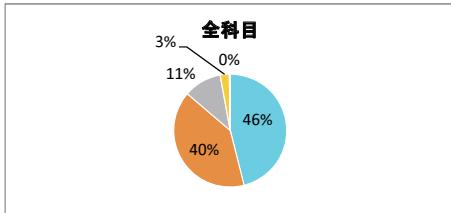
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



全科目(人)

1	非常に惹いた	193
2	ある程度惹いた	144
3	どちらともいえない	35
4	あまり惹かなかった	7
5	まったく惹かなかった	1

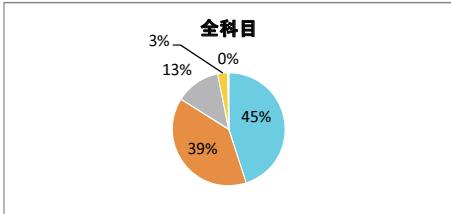
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



全科目(人)

1	非常に体系的だった	175
2	ある程度体系的だった	153
3	どちらともいえない	41
4	あまり体系的でなかった	10
5	まったく体系的でなかった	1

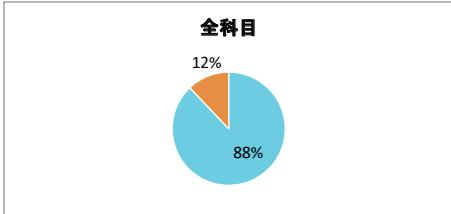
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



全科目(人)

1	良く考慮していた	171
2	ある程度考慮していた	148
3	どちらともいえない	49
4	あまり考慮していなかった	11
5	まったく考慮していなかった	1

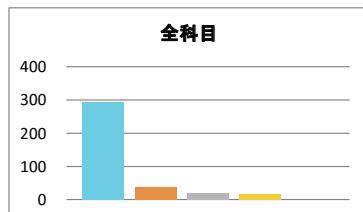
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



全科目(人)

1	「はい」	334
2	「いいえ」又は「どちらともいえない」	46

問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



全科目(人)

- 1 科目選択・履修登録に活用 294
- 2 予習・復習に活用 37
- 3 受講にあたり授業中などに活用 20
- 4 試験・レポートに活用 17
- 5 その他 0

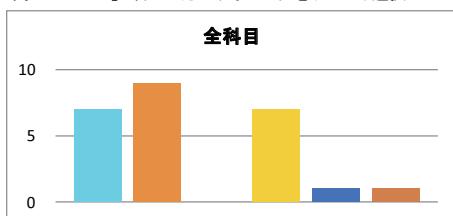
問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



全科目(人)

- 1 はい 361
- 2 いいえ 19

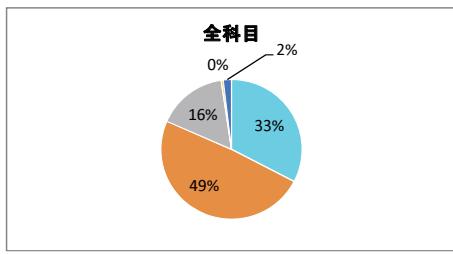
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



全科目(人)

- 1 「授業の概要・目的」の情報が不十分 7
- 2 「授業計画と内容」の情報が不十分 9
- 3 「履修要件」の情報が不十分 0
- 4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分 7
- 5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分 1
- 6 「その他」の情報が不十分 1

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。



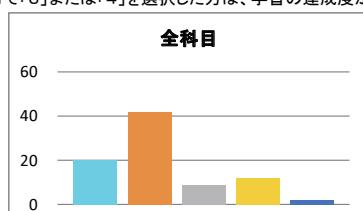
全科目(人)

- 1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成) 124
- 2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成) 186
- 3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成) 61
- 4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成) 2
- 5 どちらともいえない(判断できない) 7

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

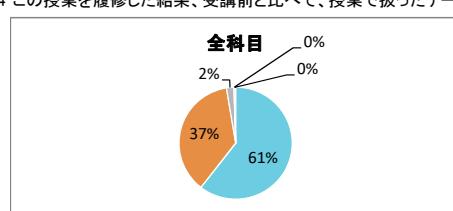
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



全科目(人)

- 1 授業の進度が速かったため 20
- 2 予習・復習に十分時間を取りこがれなかったため 42
- 3 説明がわかりにくかったため 9
- 4 その他()のため 12
- 5 特になし 2

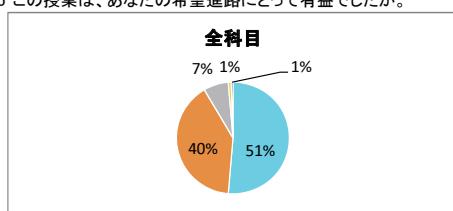
問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



全科目(人)

- 1 そう思う 230
- 2 ある程度そう思う 140
- 3 どちらともいえない 8
- 4 あまりそう思わない 1
- 5 そう思わない 1

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

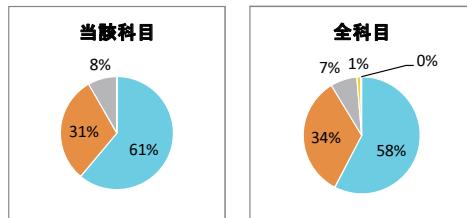


全科目(人)

- 1 非常に有益だった 195
- 2 ある程度有益だった 153
- 3 どちらともいえない 27
- 4 あまり有益ではなかった 3
- 5 まったく有益ではなかった 2

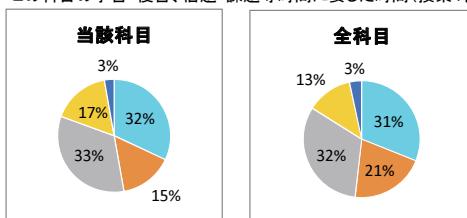
令和元年度	後期(秋)	科目名	—	類別	基本科目	科目数	5	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	119	回答者数	72	回答率	60.5%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



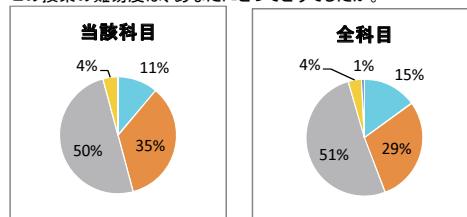
当該科目(人)	全科目(人)
44	219
22	128
6	28
0	4
0	1
平均出席回数	12.7 回
	12.6 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



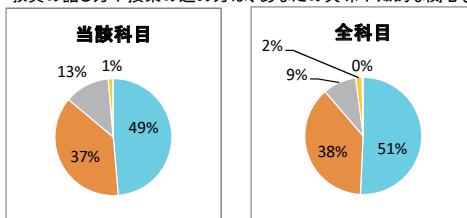
当該科目(人)	全科目(人)
23	118
11	79
24	122
12	48
2	13
平均授業外学習時間	2.4 時間
	2.6 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



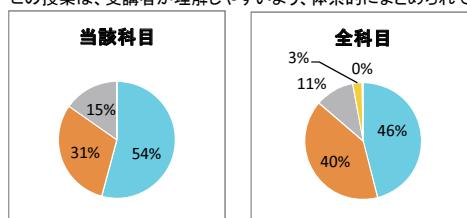
当該科目(人)	全科目(人)
8	57
25	111
36	195
3	14
0	3

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



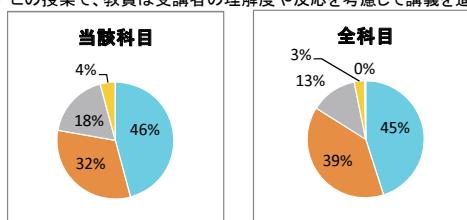
当該科目(人)	全科目(人)
35	193
27	144
9	35
1	7
0	1

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



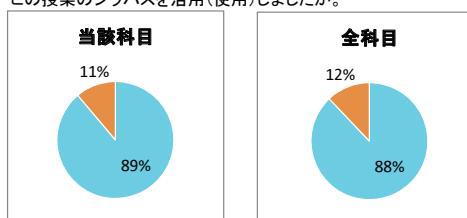
当該科目(人)	全科目(人)
39	175
22	153
11	41
0	10
0	1

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



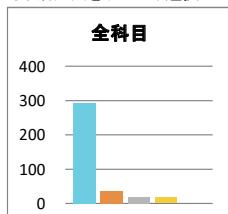
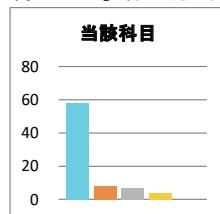
当該科目(人)	全科目(人)
33	171
23	148
13	49
3	11
0	1

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
64	334
8	46

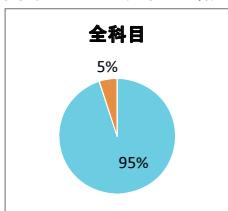
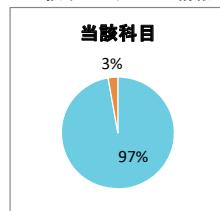
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	58	294
2 予習・復習に活用	8	37
3 受講にあたり授業中などに活用	7	20
4 試験・レポートに活用	4	17
5 その他	0	0

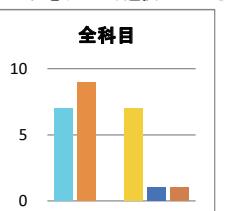
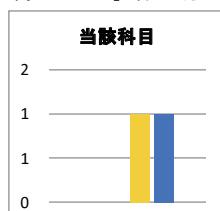
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	70	361
2 いいえ	2	19

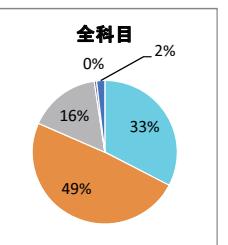
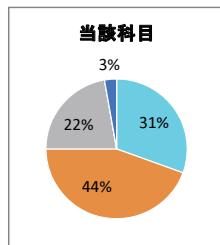
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	0	9
3 「履修要件」の情報が不十分	0	0
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	1	7
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	1	1
6 「その他」の情報が不十分	0	1

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

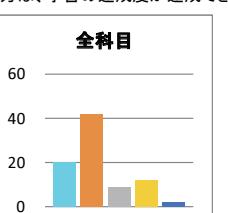
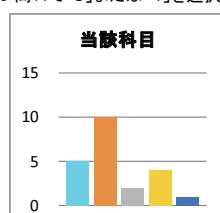


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	22	124
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上~9割未満達成)	32	186
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上~8割未満達成)	16	61
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	0	2
5 どちらともいえない(判断できない)	2	7

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

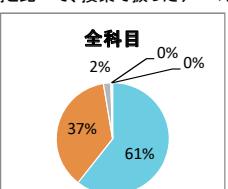
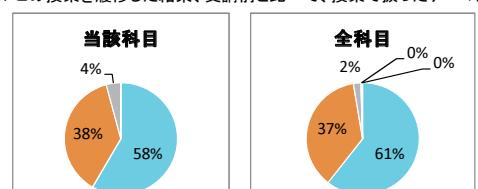


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	5	20
2 予習・復習に十分時間を使うことができなかつたため	10	42
3 説明がわかりにくかつたため	2	9
4 その他()のため	4	12
5 特になし	1	2

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

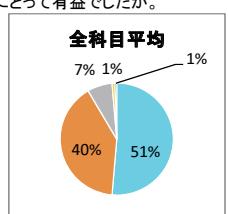
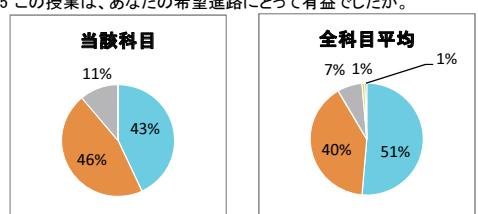
問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	42	230
2 ある程度そう思う	27	140
3 どちらともいえない	3	8
4 あまりそう思わない	0	1
5 そう思わない	0	1



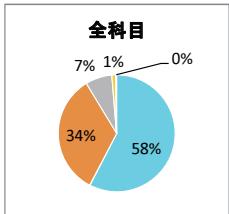
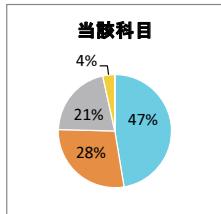
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	31	195
2 ある程度有益だった	33	153
3 どちらともいえない	8	27
4 あまり有益ではなかった	0	3
5 まったく有益ではなかった	0	2



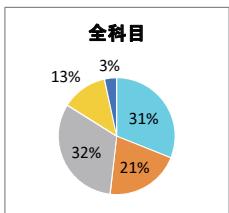
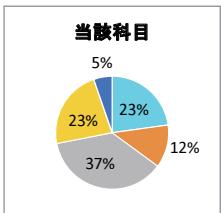
令和元年度	後期(秋)	科目名	—	類別	専門基礎科目	科目数	3	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	70	回答者数	57	回答率	81.4%
-------	-------	-----	---	----	--------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



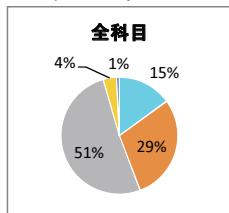
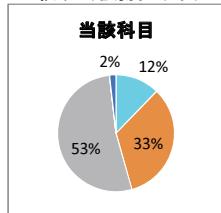
当該科目(人)	全科目(人)
1 90%以上 27	219
2 75%以上90%未満 16	128
3 50%以上75%未満 12	28
4 25%以上50%未満 2	4
5 25%未満 0	1
平均出席回数 12.0 回	12.6 回

問2 この科目的予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



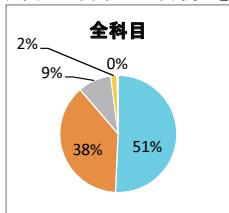
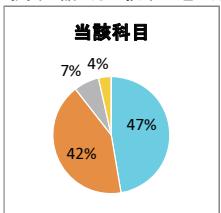
当該科目(人)	全科目(人)
1 3時間以上 13	118
2 2時間以上、3時間未満 7	79
3 1時間以上、2時間未満 21	122
4 30分以上、1時間未満 13	48
5 30分未満 3	13
平均授業外学習時間 2.2 時間	2.6 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



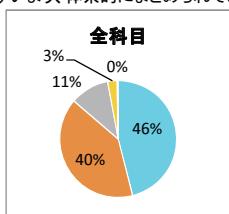
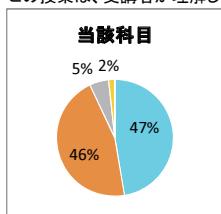
当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に難しかった 7	57
2 難しかった 19	111
3 ちょうどよかったです 30	195
4 易しかった 0	14
5 非常に易しかった 1	3

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



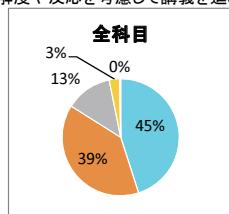
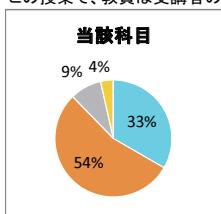
当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に惹いた 27	193
2 ある程度惹いた 24	144
3 どちらともいえない 4	35
4 あまり惹かなかった 2	7
5 まったく惹かなかった 0	1

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



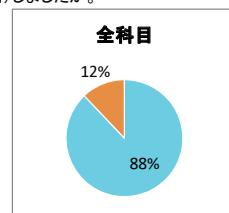
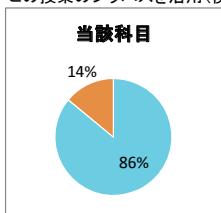
当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に体系的だった 27	175
2 ある程度体系的だった 26	153
3 どちらともいえない 3	41
4 あまり体系的でなかった 1	10
5 まったく体系的でなかった 0	1

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



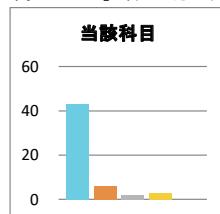
当該科目(人)	全科目(人)
1 良く考慮していた 19	171
2 ある程度考慮していた 31	148
3 どちらともいえない 5	49
4 あまり考慮していなかった 2	11
5 まったく考慮していなかった 0	1

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
1 「はい」 49	334
2 「いいえ」又は「どちらともいえない」 8	46

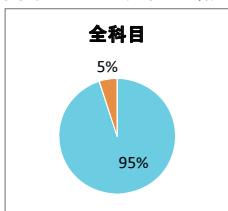
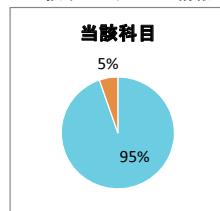
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	43	294
2 予習・復習に活用	6	37
3 受講にあたり授業中などに活用	2	20
4 試験・レポートに活用	3	17
5 その他	0	0

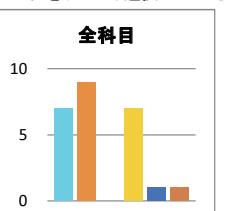
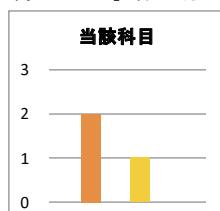
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	54	361
2 いいえ	3	19

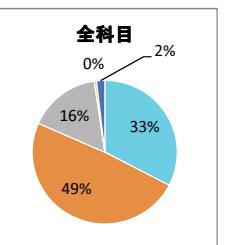
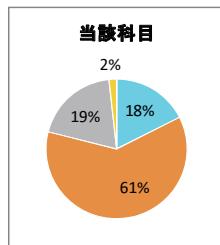
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	2	9
3 「履修要件」の情報が不十分	0	0
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	1	7
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	0	1

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

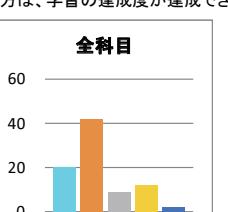
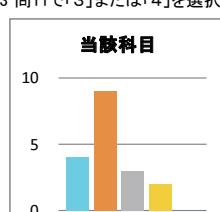


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	10	124
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上~9割未満達成)	35	186
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上~8割未満達成)	11	61
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	1	2
5 どちらともいえない(判断できない)	0	7

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

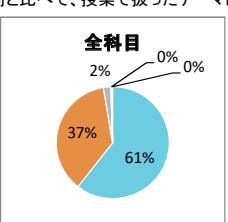
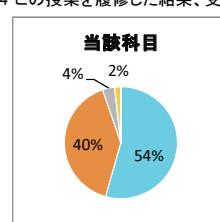
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	4	20
2 予習・復習に十分時間を見ることができなかったため	9	42
3 説明がわかりにくかったため	3	9
4 その他()のため	2	12
5 特になし	0	2

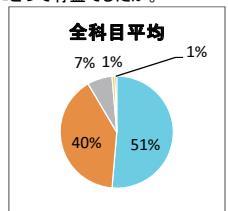
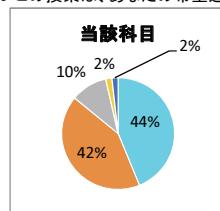
(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	31	230
2 ある程度そう思う	23	140
3 どちらともいえない	2	8
4 あまりそう思わない	1	1
5 そう思わない	0	1

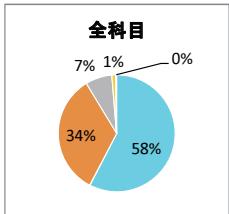
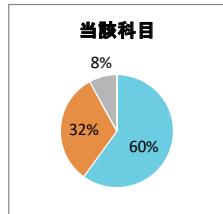
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	25	195
2 ある程度有益だった	24	153
3 どちらともいえない	6	27
4 あまり有益ではなかった	1	3
5 まったく有益ではなかった	1	2

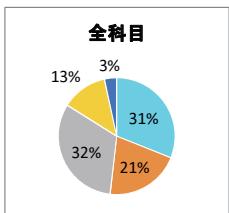
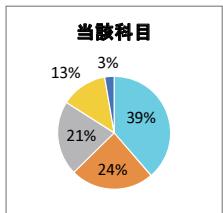
令和元年度	後期(秋)	科目名	—	類別	実践科目	科目数	6	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	82	回答者数	75	回答率	91.5%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



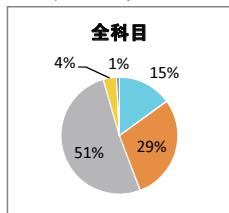
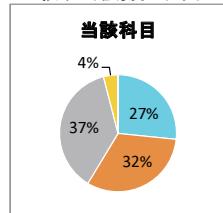
当該科目(人)	全科目(人)
45	219
24	128
6	28
0	4
0	1
平均出席回数	12.6 回
当該科目(人)	全科目(人)
12.6 回	12.6 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



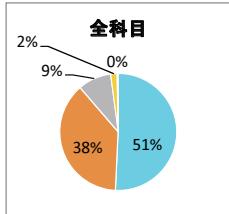
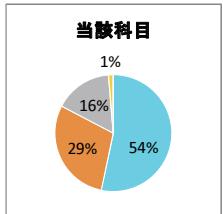
当該科目(人)	全科目(人)
29	118
18	79
16	122
10	48
2	13
平均授業外学習時間	3.0 時間
当該科目(人)	全科目(人)
3.0 時間	2.6 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



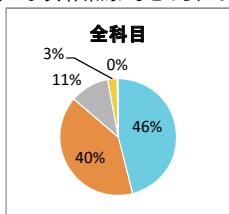
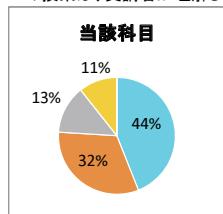
当該科目(人)	全科目(人)
20	57
24	111
28	195
3	14
0	3

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



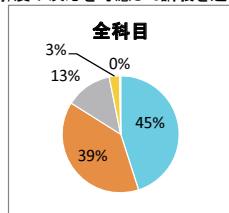
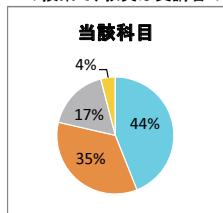
当該科目(人)	全科目(人)
40	193
22	144
12	35
1	7
0	1

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



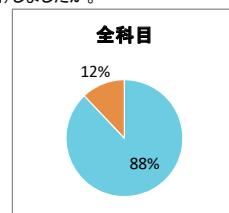
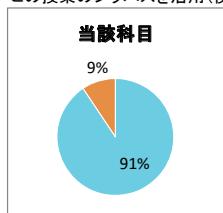
当該科目(人)	全科目(人)
33	175
24	153
10	41
8	10
0	1

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
33	171
26	148
13	49
3	11
0	1

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。

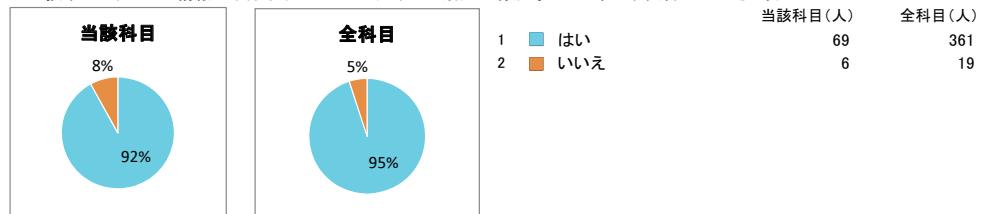


当該科目(人)	全科目(人)
68	334
7	46

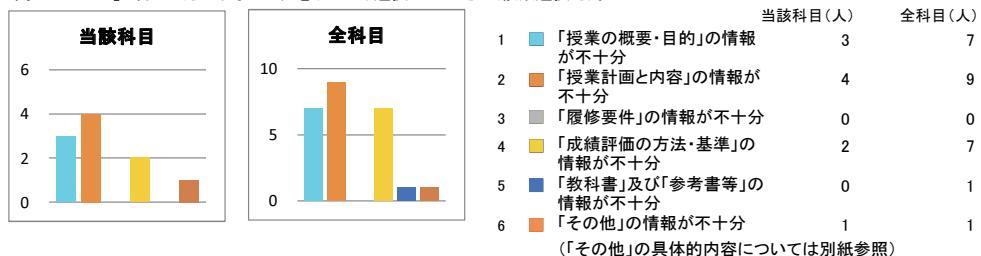
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



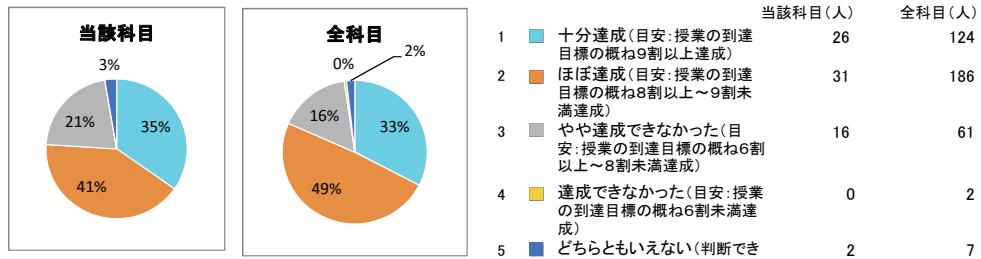
問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。



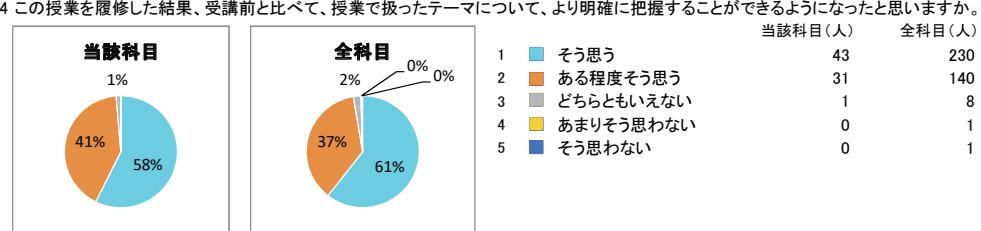
問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

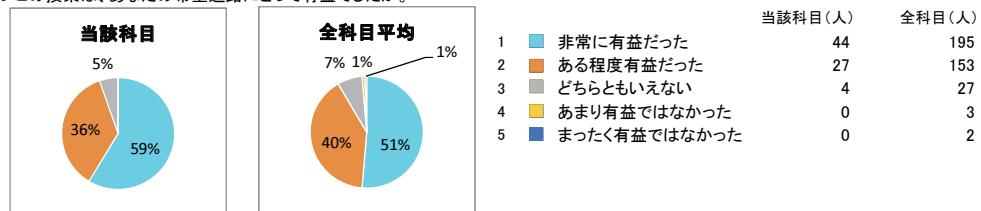
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

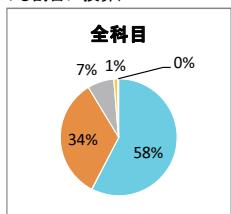
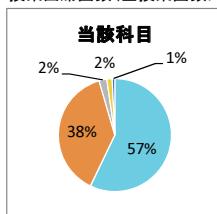


問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



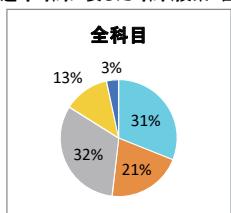
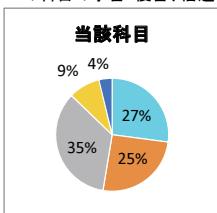
令和元年度	後期(秋)	科目名	—	類別	展開科目	科目数	21	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	168	回答者数	133	回答率	79.2%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	----	--------	---	----	---	------	-----	------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



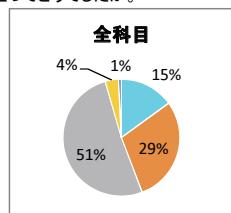
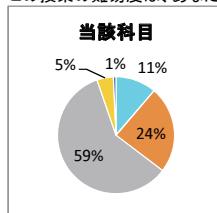
当該科目(人)	全科目(人)
1 90%以上 76	219
2 75%以上90%未満 51	128
3 50%以上75%未満 3	28
4 25%以上50%未満 2	4
5 25%未満 1	1
平均出席回数 12.6 回	12.6 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



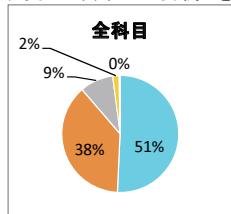
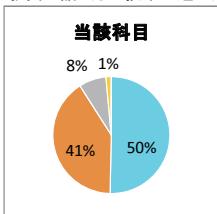
当該科目(人)	全科目(人)
1 3時間以上 36	118
2 2時間以上、3時間未満 34	79
3 1時間以上、2時間未満 46	122
4 30分以上、1時間未満 12	48
5 30分未満 5	13
平均授業外学習時間 2.5 時間	2.6 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



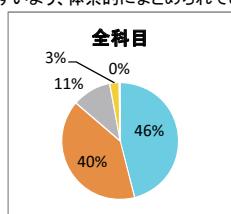
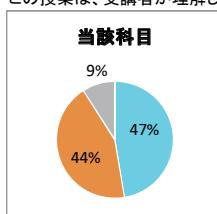
当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に難しかった 15	57
2 難しかった 32	111
3 ちょうどよかったです 79	195
4 易しかった 6	14
5 非常に易しかった 1	3

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



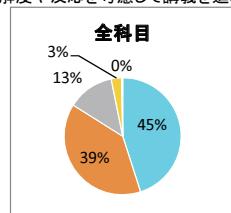
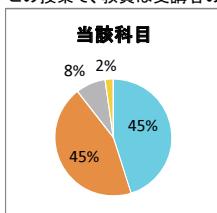
当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に惹いた 67	193
2 ある程度惹いた 54	144
3 どちらともいえない 10	35
4 あまり惹かなかつた 2	7
5 まったく惹かなかつた 0	1

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



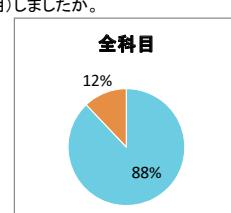
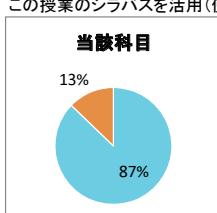
当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に体系的だった 63	175
2 ある程度体系的だった 58	153
3 どちらともいえない 12	41
4 あまり体系的でなかった 0	10
5 まったく体系的でなかった 0	1

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



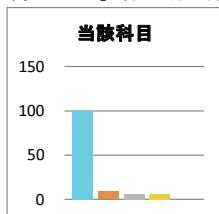
当該科目(人)	全科目(人)
1 良く考慮していた 60	171
2 ある程度考慮していた 59	148
3 どちらともいえない 11	49
4 あまり考慮していなかった 3	11
5 まったく考慮していなかった 0	1

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
1 「はい」 116	334
2 「いいえ」又は「どちらともいえない」 17	46

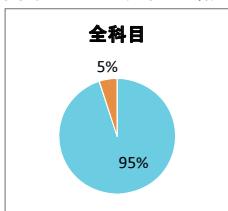
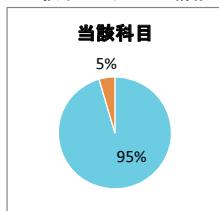
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	100	294
2 予習・復習に活用	9	37
3 受講にあたり授業中などに活用	6	20
4 試験・レポートに活用	6	17
5 その他	0	0

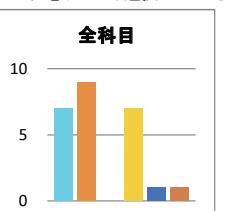
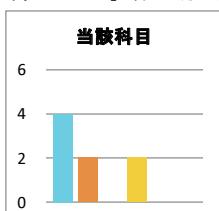
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	127	361
2 いいえ	6	19

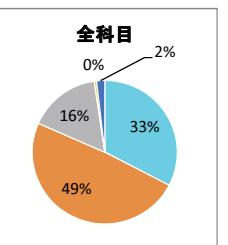
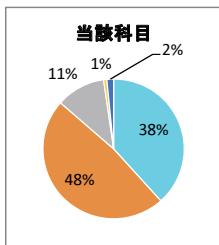
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	4	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	2	9
3 「履修要件」の情報が不十分	0	0
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	2	7
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	0	1

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

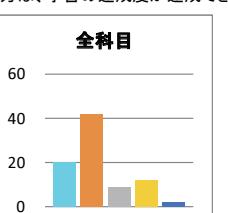
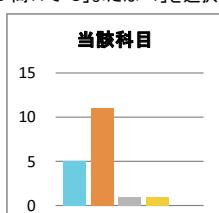


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	51	124
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	64	186
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	15	61
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	1	2
5 どちらともいえない(判断できない)	2	7

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

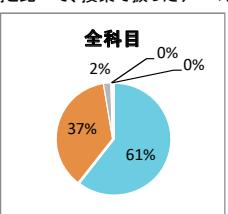
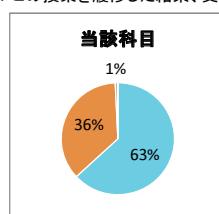


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	5	20
2 予習・復習に十分時間を見ることができなかつたため	11	42
3 説明がわかりにくかつたため	1	9
4 その他()のため	1	12
5 特になし	0	2

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

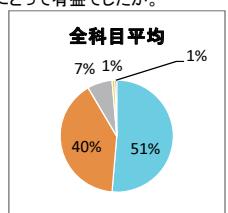
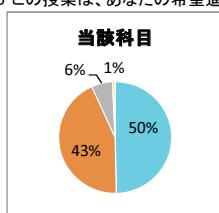
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	84	230
2 ある程度そう思う	48	140
3 どちらともいえない	1	8
4 あまりそう思わない	0	1
5 そう思わない	0	1

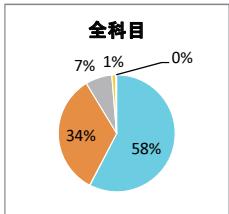
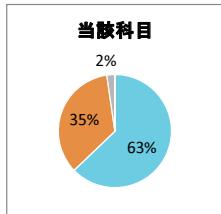
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

当該科目(人) 全科目(人)



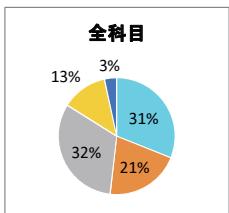
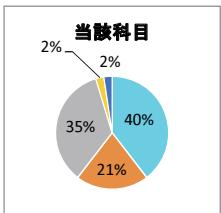
令和元年度	後期(秋)	科目名	—	類別	事例研究	科目数	7	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	52	回答者数	43	回答率	82.7%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



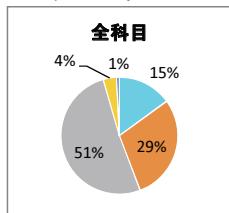
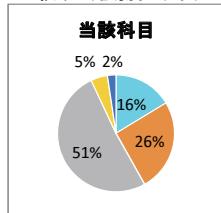
当該科目(人)	全科目(人)
27	219
15	128
1	28
0	4
0	1
平均出席回数	12.9 回
	12.6 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



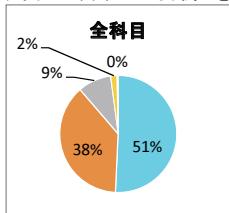
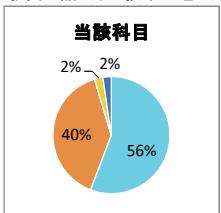
当該科目(人)	全科目(人)
17	118
9	79
15	122
1	48
1	13
平均授業外学習時間	3.0 時間
	2.6 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



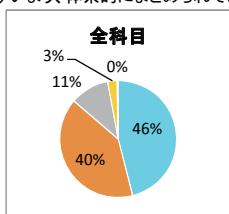
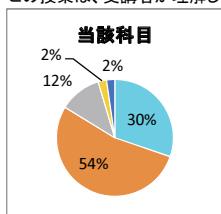
当該科目(人)	全科目(人)
7	57
11	111
22	195
2	14
1	3

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



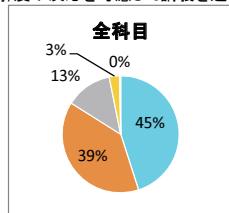
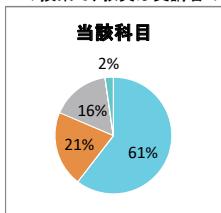
当該科目(人)	全科目(人)
24	193
17	144
0	35
1	7
1	1

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



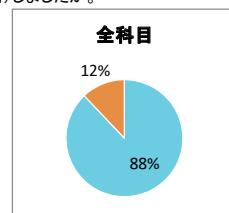
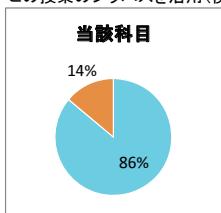
当該科目(人)	全科目(人)
13	175
23	153
5	41
1	10
1	1

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



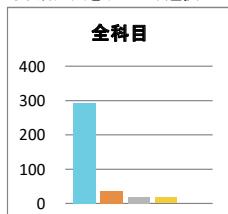
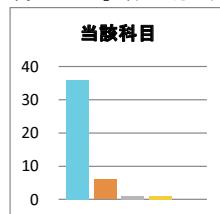
当該科目(人)	全科目(人)
26	171
9	148
7	49
0	11
1	1

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
37	334
6	46

問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	36	294
2 予習・復習に活用	6	37
3 受講にあたり授業中などに活用	1	20
4 試験・レポートに活用	1	17
5 その他	0	0

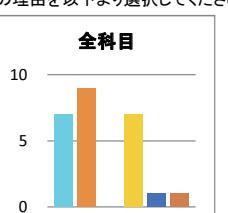
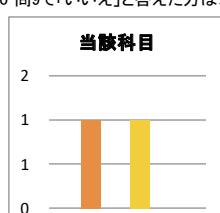
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	41	361
2 いいえ	2	19

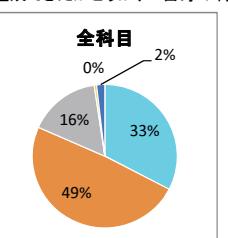
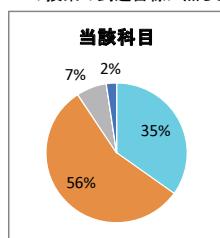
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	1	9
3 「履修要件」の情報が不十分	0	0
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	1	7
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	0	1

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

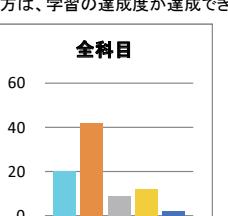


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	15	124
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上~9割未満達成)	24	186
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上~8割未満達成)	3	61
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	0	2
5 どちらともいえない(判断できない)	1	7

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

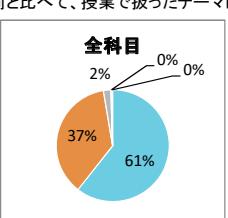
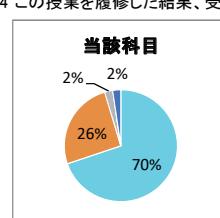


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	0	20
2 予習・復習に十分時間を見ることができなかっただけ	1	42
3 説明がわかりにくかったため	0	9
4 その他()のため	2	12
5 特になし	0	2

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

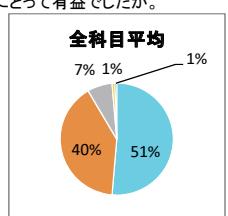
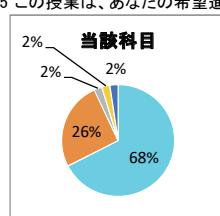
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	30	230
2 ある程度そう思う	11	140
3 どちらともいえない	1	8
4 あまりそう思わない	0	1
5 そう思わない	1	1

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

当該科目(人) 全科目(人)

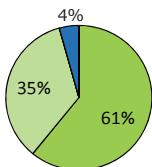


	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	29	195
2 ある程度有益だった	11	153
3 どちらともいえない	1	27
4 あまり有益ではなかった	1	3
5 まったく有益ではなかった	1	2

令和元年度後期授業アンケート 教員からのコメント

・対象科目 40科目※
 ※授業アンケートを実施した科目 40科目
 ・回答数 23件 (対象人数 44名)
 ※コメントなし 1件*

- (1) 授業アンケートの結果は、授業のあり方について考える上で、参考になりましたか。



1. ■ とても参考になった	14
2. ■ どちらかといえば参考になった	8
3. ■ どちらともいえない	0
4. ■ どちらかといえば参考にならなかった	1
5. ■ 参考にならなかった	0

- (2) 今回の授業アンケート結果を、授業改善のために活用されるお考えがあれば、その方法等についてお聞かせください。

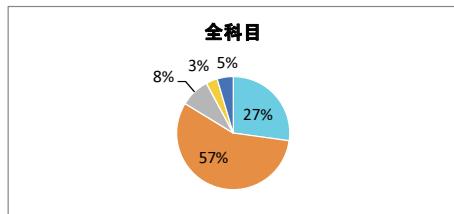
- 1 公共政策大学院の学生には難しすぎないかと危惧していたが、大方は理解してもらえたようで安心した。今後とも分かりやすい説明に努めたい。
- 2 Facebookのプライベートグループや授業開始時における時事ニュースの解説が予想以上に好評であったので、こうしたスタイルをより積極的に取り入れていくこととした。
- 3 内容については、さらに論理的で明確でわかりやすいものに改善する。
理解度を確認しながら進める工夫を充実させる。
- 4 授業の進め方の大枠は変更することなく、数式の意味をもっとうまく伝えられるように、数値例も含め、スライドを工夫したい。
- 5 受講者の率直な意見を知ることができ、非常に有意義である。適宜、次年度の授業の内容や進め方に反映させていくたい。具体的には、高い評価を受けた項目として、「受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていた」点がある。これは、質疑応答を積極的に取り入れることにより、受講者の理解度を確かめながら、授業を進めて行った点が評価されたものと受け止めている。質疑応答を大幅に取り入れた点は、「効果的だった学習活動」や自由記述欄の「この授業の良かった点」でも好意的な評価を受けており、次年度も同様のスタイルで授業を進めていきたい。
また、難易度については、回答を見る限り、概ね、適切なレベルに設定できていたことが分かった。もっとも、ごく少數ではあるが「非常に易しかった」との回答もあった。受講者のバックグラウンドが多様であると思われることから、授業の理解に資するよう、前提知識や周辺情報を丁寧に説明するよう心掛けたが、既にこれらの知識等を有している学生にとっては、授業のレベルが物足りなかったのかもしれない。次年度は、受講者の反応をより丁寧に探りつつ、授業を進めていきたい。
- 6 公務員制度の講義の体系化はある程度完成したので、来期は生徒とのQ & Aの時間を増やしたい
- 7 試行錯誤だったが、全般的にはこちらの狙いが伝わっていることがわかり、ひとまず安心している。
ただ、想定の3倍以上の履修登録があった専門基礎科目では、教室方式になってしまったことで、やはり数名から「双方向的な授業に向けて人数を絞るべき」との意見が寄せられた。他方で、受講者間で知識や関心度合にかなりの幅があったため、グループ討議での気づきが大きかったとの意見もあるなど、多人数の利点もあった。来年度どうするか悩ましいが、事前レポート審査により人数を絞る、あるいは多い場合には毎回の発表担当を決めるなど、双方向性の確保に向けて検討したい。
- 8 Although one student found the class level of difficulty very hard, some found it too easy. I try to balance the extent to which I teach students relevant material that they probably do not know (and that is generally more difficult), with the extent to which students discover and teach each other relevant material that they are interested in. After reading the survey results, I think I should control the content a little more to ensure that the difficulty level is just a little more demanding. Thank you.
- 9 比較的好意的な評価をしてくれたので、改善していくよりも、本年度の方法を引き続き発展させるようにしたい。
- 10 補助資料の配布について高評価がえられたので今後も続けたい。
- 11 回答者数が2名と少數であるので、回答者から見れば特定される可能性が高く、正直に答えてくれたかどうか定かでないため、余り参考にならないと思われる。
- 12 問6との関連で、今後は学生への質問の回数を増やし、学生の理解度に応じて進度や内容を適宜調整しながら授業を進めるようにしていきたい。
- 13 今年度は例年なく受講者が多く、初めてに近い経験になったことも少なくありませんでした。今回の評価をよく検討して、今後の多人数の場合に活かしていきたく思います。

- 14 まず、問3のアンケートにつき、「難易度」については、「ちょうどよかった」が50%、「難しかった」が25%、「易しかった」が25%でした。また問6の「受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていたか」につき、「良く考慮していた」が全科目平均を上回りました。この結果につき、本年度は、初めて会計学を履修する受講生が大半であったことから、一応の成果があったと判断します。例年、会計学の知識レベルが受講生によって異なっており、「難易度」は最重要の項目と考えます。来年度もこの点を十分に考慮し、各受講生のレベルを斟酌して講義を進めたいと思います。
- 次に、問5の「授業が理解しやすいよう体系的にまとめられていたか」につき、「非常に体系的だった」が全科目平均を下回り、「どちらともいえない」が同平均を上回りました。本講義は、公益法人会計、社会福祉法人会計、NPO法人会計、医療法人会計、地方政府会計につき、オムニバスで説明していく講義形式であり、この点から、体系的でないと受講者が感じ取ったのかもしれません。来年度は、ストック情報、フロー情報、キャッシュ・フロー情報を縦軸にして説明する方法も検討したいと思います。
- 問11の「授業の到達目標に照らして達成できたか」につき、「十分達成」が、全科目平均を上回りました。自身、会計（非営利会計を含む）の研究が25年、大学での講義（於神戸学院大学）が10年を経たことにより、学問領域の全体像と、習得すべき知識につき、ある程度把握できたと考えます。そのため、授業の到達目標の設定とその達成につき、一定の評価が得られたと判断します。今後も、「到達目標」を逐次修正しながら、習得すべき公会計の知識を受講生に提供したいと考えます。
- 公会計は、企業会計をベースに、制度、理論、実務が形成されたものであり、それは、徹底した演繹アプローチに基づくものであると考えます。そこで、講義においても当該観点の説明に注力しました。特定の会計観、概念フレームワーク、会計基準に基づいて演繹的に会計処理を理解する思考は、適格な業務意思決定につながるものであるため、今後も、会計理論と計算構造の説明に力を入れていきたいと思います。
- 15 シラバス記載、授業の進め方等については、概ね好評であると思われますので、今後も2019年度のやり方を継続していきたいと考えます。「理解しやすいよう、体系的にまとめられているか」に関しては、他の項目に比べると、やや評価が低いので、授業の前半で全体の体系を示すなどの工夫をしていきたいと思います。
- 16 今回は受講生が少なかったので、何とも言えないところがありますが、こういうアンケートは一般的に参考になると思います。記述部分を増やしていただけすると、授業改善のために活用できることが増えると思います。
- 17 警察行政の現場が直面する具体的な課題を前面に出したことによると思いますが、問3では講義が難しかったとされている一方で、問4及び問15では講義について前向きに受け止めてくれていると感じました。
- 今回の評価（受講者の受け止め）を踏まえ、引き続き、現実社会の課題を積極的に引きながら、問題意識を喚起させられる講義を進めていきたいと考えています。
- なお、法科大学院のアンケートも同じでしたが、今回、アンケートを講師が封をしないまま預かる形になっておりました。穿ち過ぎかもしれません、学生自身に事務室に持ち込ませるか、学生に封印をさせた方が率直な意見をかけたのかも、と感じています。
- 18 ゲストスピーカーともっと交流したかったとの意見があったため、ゲストスピーカーと事前に打ち合わせて何らかの方策を講じたい。
- 19 昨年のアンケートで、「この授業で教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか？」という問い合わせ、「どちらともいえない」という微妙な回答があつたため、今年度はこの点を特に意識して講義を行った。体感的にはだいぶ改善したように思ったが、この公共政策のアンケートでは「よく考慮していた」が33%、「ある程度考慮していた」が67%で、改善のあとは見えたがもう一息だったかと反省している。
- 大阪府門真市でフィールドワークを行ったことに対して、交通費負担について何とかして欲しい旨、要望があった。この点については公共政策掛りよりご教示いただき、既に対応したので、学生のもとに交通費の支給があったものと考えている。この制度の利用が可能であることを知らなかつたので、学生に心配をかけたのは申し訳ないことだった。
- 20 授業の難易度に関して、経済研究科の留学生が受講していたため、公共政策の学生にとってはやや難易度が低かった可能性がある。留学生が受講した場合の難易度の設定については今後よく検討したい。
- 理系の話題に触れる機会がありよかったですとのコメントは授業を提供する側にとってうれしいコメントであった。受講生の中には大学関係や知財に携わる就職先を志向する者もあり、こういった受講生のニーズを講義の初期段階で拾い上げる工夫を今後行ってみたい。
- 21 アンケートの問9。に関しまして、2020年度においては、シラバスの様式変更も受けて、各回の授業(演習)内容を明確に記述いたしましたので、院生はシラバスにより、十分な情報が得られるようになります。
- アンケートの自由記述欄において、院生間の議論の際に、事前に各人の質問事項を伝えておくと、一層議論が充実するのではないかとの主旨の指摘がありました。
- 実際の国の予算編成を考えると、査定側からの質問・問題提起などに対しては、その場で応答が行われ、即座に答えられないものについては、宿題となります。
- このような実情にかんがみ、2020年度においては、可能な場合には事前に質問事項を院生間で共有することも考えたいとは思いますが、本演習では、アンケート問2。の結果にもあるように課題への対応に3時間以上を費やしている院生が多く、課題の提出、事前の共有も演習直前ギリギリとなることが多くございました。
- したがって、2020年度においては、予算要求の説明の際、その場で答えられないものについては、次の宿題にするなどして、より深く院生に考えさせて議論を発展させることとし、より実りの多い演習にしてまいりたいと思います。
- 22 CS（ケーススタディ）としては今回は少し人数が多かったので補講を2コマ設置せざるを得なかった。次回はその時の受講人数を考慮しながら、より柔軟に対応したい。

資料 16 - 1

令和 2 年度	前期 (春)	科目名	—	類別	全科目	科目 総数	47	成績 担当 教員	—	単複	—	履修 者 総数	591	回答 者 総数	523	回答 率	88.5%
---------------	-----------	-----	---	----	-----	----------	----	----------------	---	----	---	---------------	-----	---------------	-----	---------	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



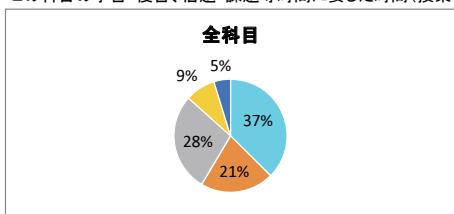
全科目(人)

1	90%以上	142
2	70%以上90%未満	296
3	50%以上70%未満	44
4	25%以上50%未満	17
5	25%未満	24

平均出席回数

11.0 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



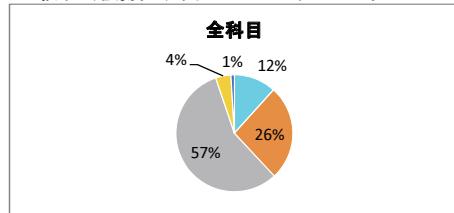
全科目(人)

1	3時間以上	196
2	2時間以上、3時間未満	110
3	1時間以上、2時間未満	147
4	30分以上、1時間未満	45
5	30分未満	25

平均授業外学習時間

3.3 時間

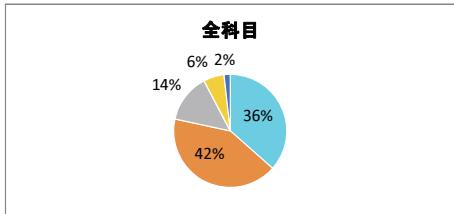
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



全科目(人)

1	非常に難しかった	61
2	難しかった	138
3	ちょうどよかったです	297
4	易しかった	22
5	非常に易しかった	5

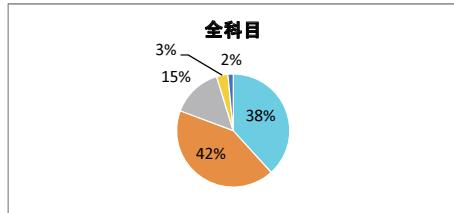
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



全科目(人)

1	非常に惹いた	191
2	ある程度惹いた	219
3	どちらともいえない	73
4	あまり惹かなかった	31
5	まったく惹かなかった	9

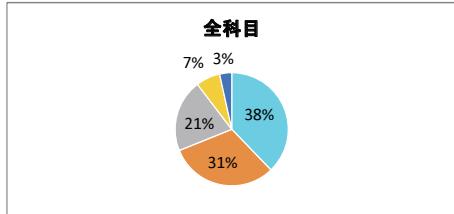
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



全科目(人)

1	非常に体系的だった	200
2	ある程度体系的だった	222
3	どちらともいえない	76
4	あまり体系的でなかった	17
5	まったく体系的でなかった	8

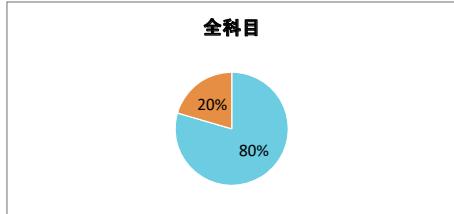
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



全科目(人)

1	良く考慮していた	197
2	ある程度考慮していた	162
3	どちらともいえない	108
4	あまり考慮していなかった	36
5	まったく考慮していなかった	18

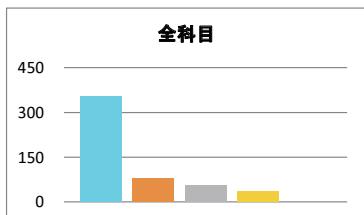
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



全科目(人)

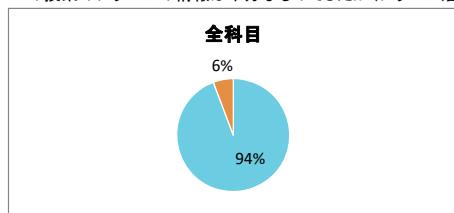
1	「はい」	415
2	「いいえ」又は「どちらともいえない」	107

問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



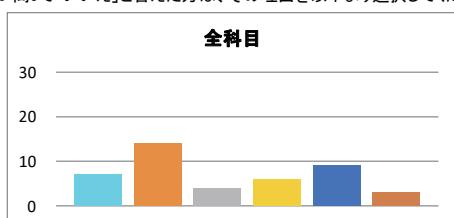
	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	353
2 予習・復習に活用	80
3 受講にあたり授業中などに活用	54
4 試験・レポートに活用	36
5 その他	0

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



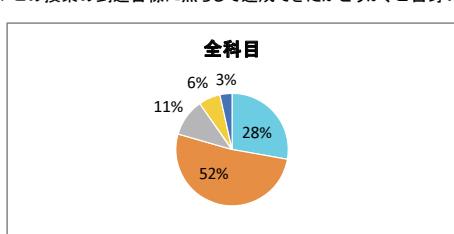
	全科目(人)
1 はい	492
2 いいえ	30

問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	14
3 「履修要件」の情報が不十分	4
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	6
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	9
6 「その他」の情報が不十分	3

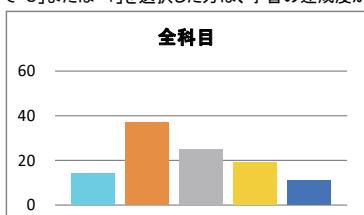
問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。



	全科目(人)
1 十分達成(自安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	145
2 ほぼ達成(自安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	270
3 やや達成できなかつた(自安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	56
4 達成できなかつた(自安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	33
5 どちらともいえない(判断できない)	18

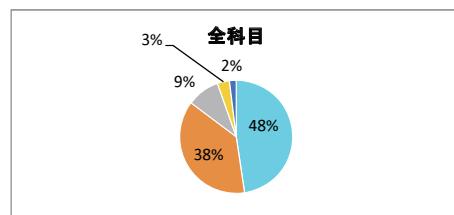
問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。
(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかつた理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



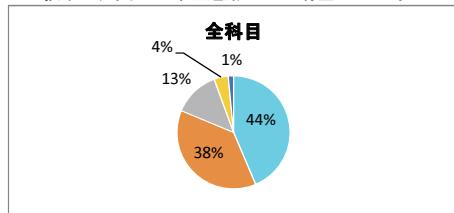
	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	14
2 予習・復習に十分時間を見ることができなかつたため	37
3 説明がわかりにくかつたため	25
4 その他()のため	19
5 特になし	11

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	全科目(人)
1 そう思う	249
2 ある程度そう思う	197
3 どちらともいえない	49
4 あまりそう思わない	18
5 そう思わない	10

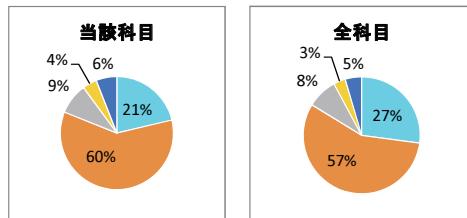
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



	全科目(人)
1 非常に有益だった	228
2 ある程度有益だった	197
3 どちらともいえない	69
4 あまり有益ではなかった	21
5 まったく有益ではなかった	8

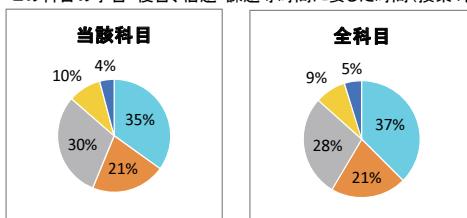
令和 2 年度	前期 (春)	科目名	—	類別	基本科目	科目数	8	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	195	回答者数	169	回答率	86.7%
---------------	-----------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



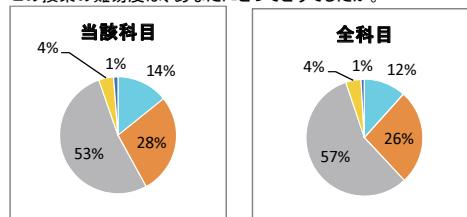
当該科目(人)	全科目(人)
36	142
101	296
15	44
7	17
10	24
平均出席回数	10.6 回
平均出席回数	11.0 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



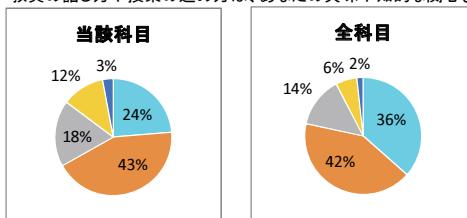
当該科目(人)	全科目(人)
59	196
36	110
51	147
16	45
7	25
平均授業外学習時間	3.5 時間
平均授業外学習時間	3.3 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



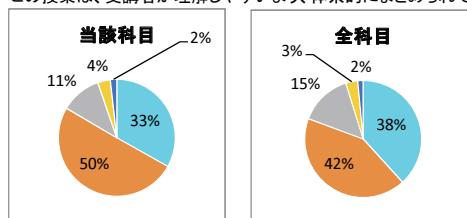
当該科目(人)	全科目(人)
24	61
47	138
89	297
7	22
2	5

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



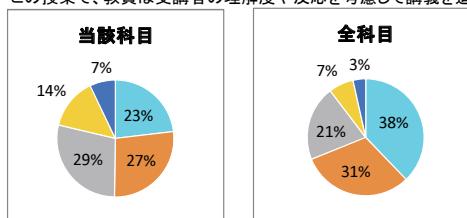
当該科目(人)	全科目(人)
40	191
73	219
31	73
20	31
5	9

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



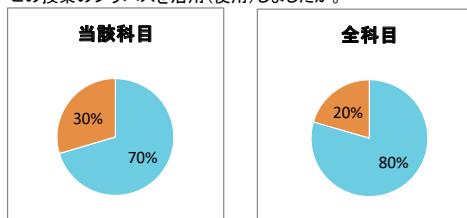
当該科目(人)	全科目(人)
56	200
85	222
19	76
6	17
3	8

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



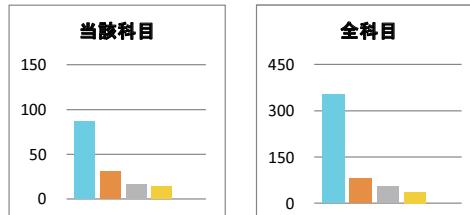
当該科目(人)	全科目(人)
39	197
46	162
48	108
24	36
12	18

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
119	415
50	107

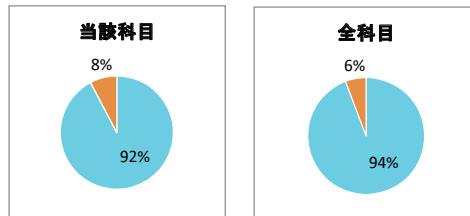
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	87	353
2 予習・復習に活用	31	80
3 受講にあたり授業中などに活用	16	54
4 試験・レポートに活用	14	36
5 その他	0	0

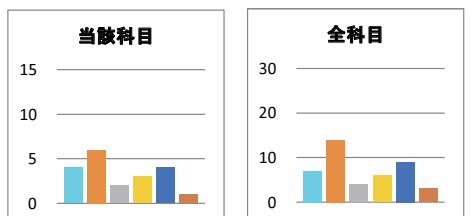
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	156	492
2 いいえ	13	30

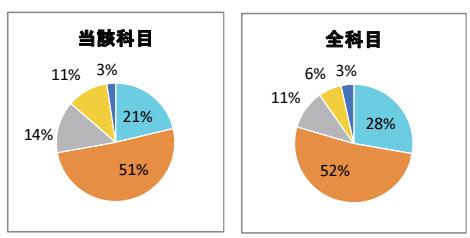
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	4	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	6	14
3 「履修要件」の情報が不十分	2	4
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	3	6
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	4	9
6 「その他」の情報が不十分	1	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

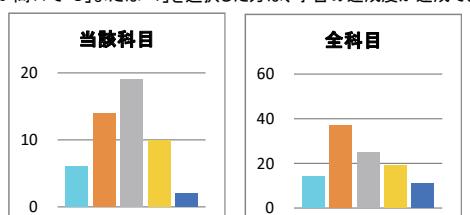


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	36	145
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	86	270
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	24	56
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	19	33
5 どちらともいえない(判断できない)	4	18

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

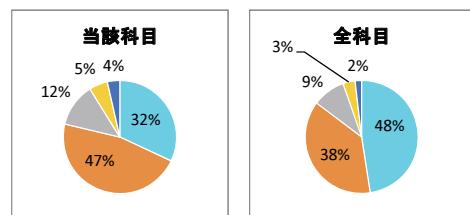
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	6	14
2 予習・復習に十分時間を使うことができなかったため	14	37
3 説明がわかりにくかったため	19	25
4 その他()のため	10	19
5 特になし	2	11

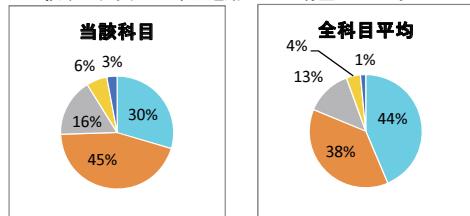
(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	54	249
2 ある程度そう思う	79	197
3 どちらともいえない	21	49
4 あまりそう思わない	9	18
5 そう思わない	6	10

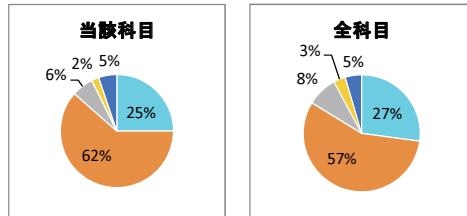
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	50	228
2 ある程度有益だった	76	197
3 どちらともいえない	28	69
4 あまり有益ではなかった	10	21
5 まったく有益ではなかった	5	8

令和 2 年度	前期 (春)	科目名	—	類別	専門 基礎科目	科目数	5	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	111	回答者数	96	回答率	86.5%
---------------	-----------	-----	---	----	------------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



当該科目(人) 全科目(人)

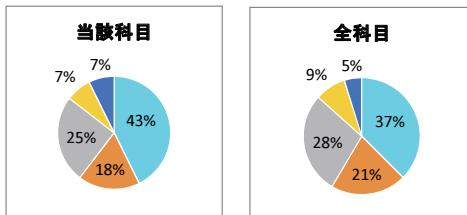
1 90%以上	24	142
2 70%以上90%未満	59	296
3 50%以上70%未満	6	44
4 25%以上50%未満	2	17
5 25%未満	5	24

平均出席回数

10.9 回

11.0 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



当該科目(人) 全科目(人)

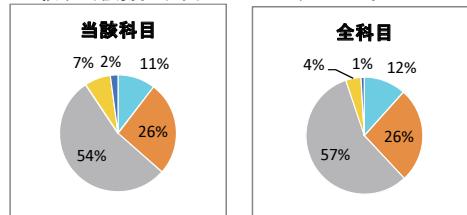
1 3時間以上	41	196
2 2時間以上、3時間未満	17	110
3 1時間以上、2時間未満	24	147
4 30分以上、1時間未満	7	45
5 30分未満	7	25

平均授業外学習時間

3.6 時間

3.3 時間

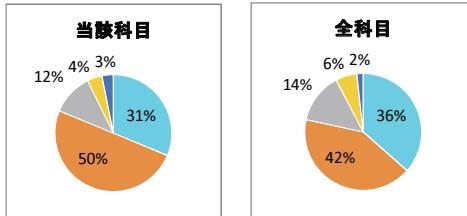
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に難しかった	10	61
2 難しかった	25	138
3 ちょうどよかったです	52	297
4 易しかった	7	22
5 非常に易しかった	2	5

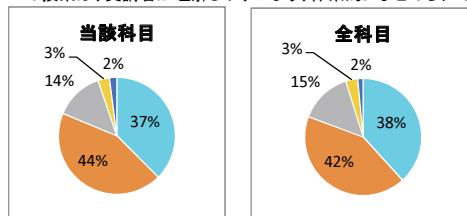
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に惹いた	30	191
2 ある程度惹いた	48	219
3 どちらともいえない	11	73
4 あまり惹かなかった	4	31
5 まったく惹かなかった	3	9

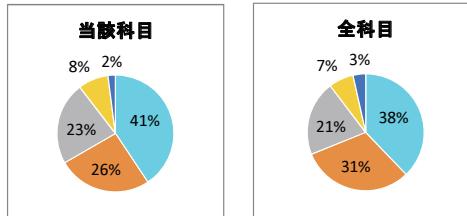
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に体系的だった	36	200
2 ある程度体系的だった	42	222
3 どちらともいえない	13	76
4 あまり体系的でなかった	3	17
5 まったく体系的でなかった	2	8

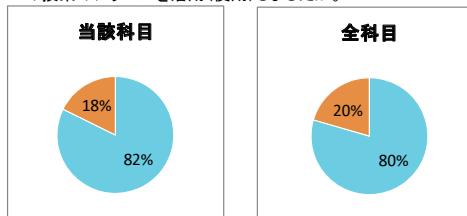
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 良く考慮していた	39	197
2 ある程度考慮していた	25	162
3 どちらともいえない	22	108
4 あまり考慮していない	8	36
5 まったく考慮していない	2	18

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



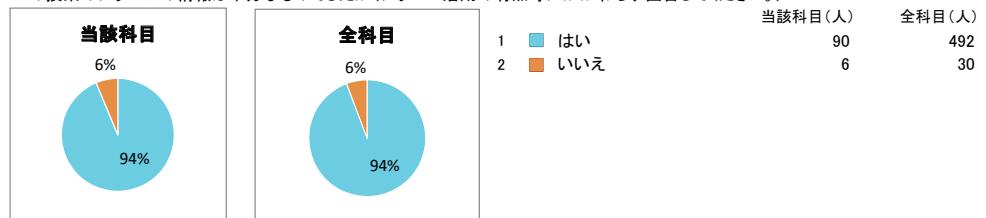
当該科目(人) 全科目(人)

1 「はい」	79	415
2 「いいえ」又は「どちらともいえない」	17	107

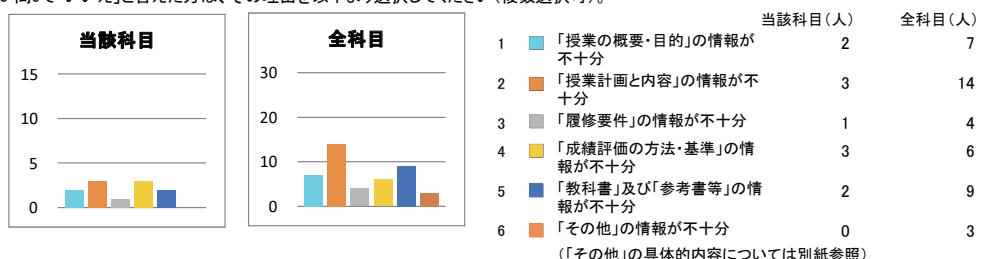
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



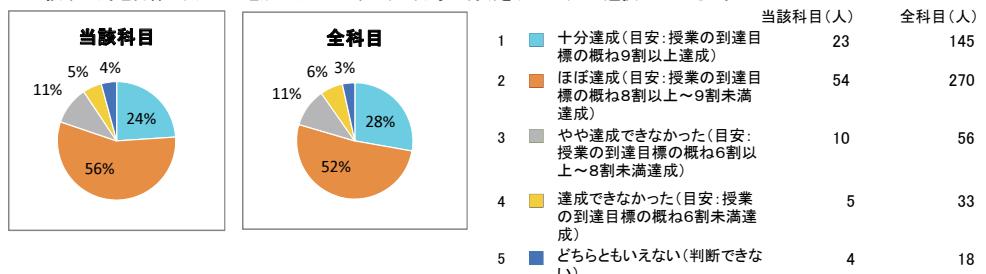
問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

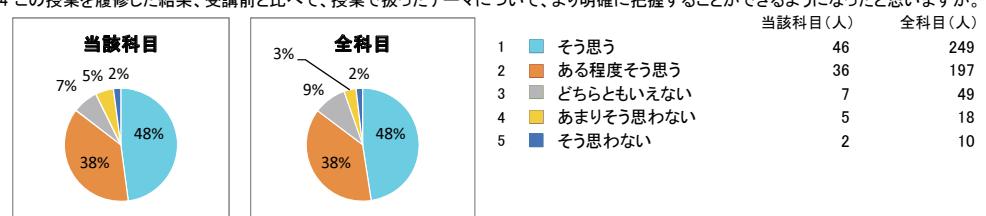


問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。
(回答は別紙参照)

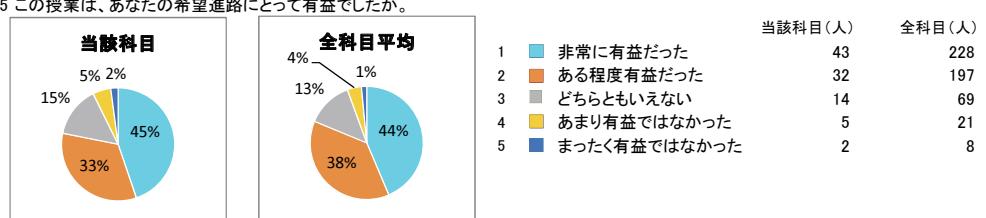
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

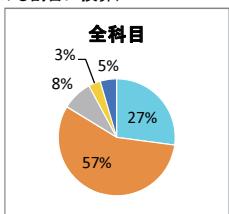
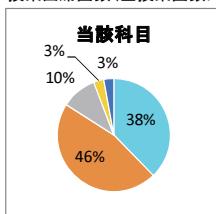


問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



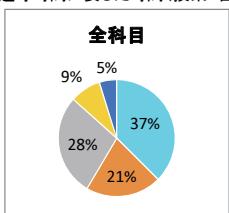
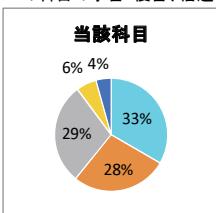
令和 2 年度	前期 (春)	科目名	—	類別	実践科目	科目数	5	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	82	回答者数	69	回答率	84.1%
---------------	-----------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



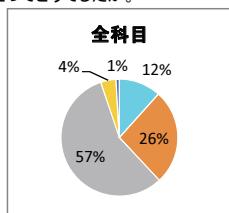
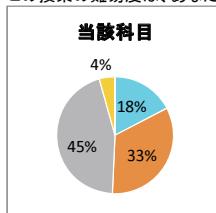
	当該科目(人)	全科目(人)
1 90%以上	26	142
2 70%以上90%未満	32	296
3 50%以上70%未満	7	44
4 25%以上50%未満	2	17
5 25%未満	2	24
平均出席回数	11.3 回	11.0 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



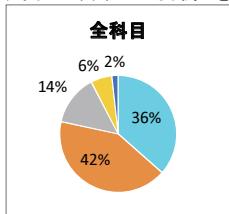
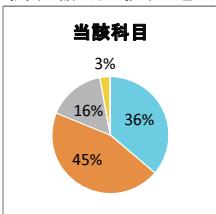
	当該科目(人)	全科目(人)
1 3時間以上	23	196
2 2時間以上、3時間未満	19	110
3 1時間以上、2時間未満	20	147
4 30分以上、1時間未満	4	45
5 30分未満	3	25
平均授業外学習時間	3.0 時間	3.3 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



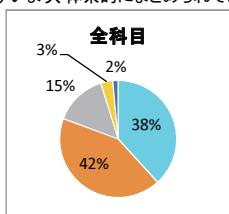
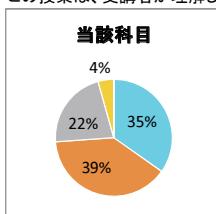
	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に難しかった	12	61
2 難しかった	23	138
3 ちょうどよかったです	31	297
4 易しかった	3	22
5 非常に易しかった	0	5

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



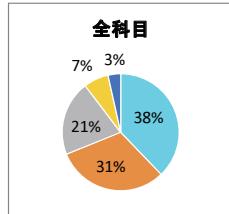
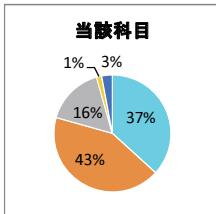
	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に惹いた	25	191
2 ある程度惹いた	31	219
3 どちらともいえない	11	73
4 あまり惹かなかつた	2	31
5 まったく惹かなかつた	0	9

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



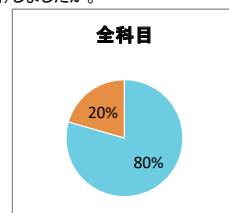
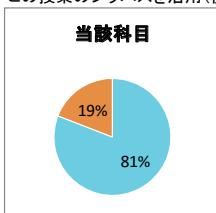
	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に体系的だった	24	200
2 ある程度体系的だった	27	222
3 どちらともいえない	15	76
4 あまり体系的でなかつた	3	17
5 まったく体系的でなかつた	0	8

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



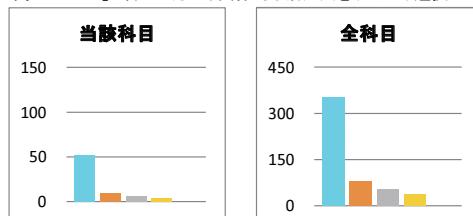
	当該科目(人)	全科目(人)
1 良く考慮していた	25	197
2 ある程度考慮していた	29	162
3 どちらともいえない	11	108
4 あまり考慮していなかつた	1	36
5 まったく考慮していなかつた	2	18

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「はい」	55	415
2 「いいえ」又は「どちらともいえない」	13	107

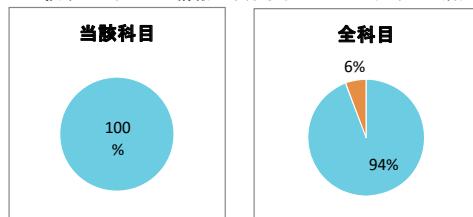
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	52	353
2 予習・復習に活用	10	80
3 受講にあたり授業中などに活用	6	54
4 試験・レポートに活用	4	36
5 その他	0	0

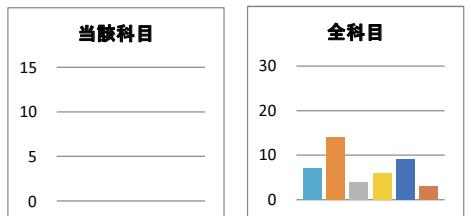
(「その他」の具体的内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	68	492
2 いいえ	0	30

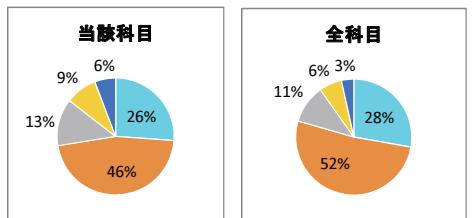
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	0	14
3 「履修要件」の情報が不十分	0	4
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	6
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	9
6 「その他」の情報が不十分	0	3

(「その他」の具体的内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

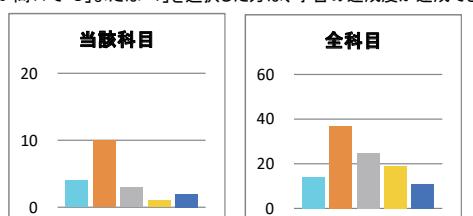


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	18	145
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上~9割未満達成)	32	270
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上~8割未満達成)	9	56
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	6	33
5 どちらともいえない(判断できない)	4	18

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

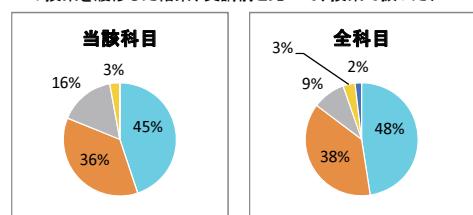
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	4	14
2 予習・復習に十分時間を持つことができなかつたため	10	37
3 説明がわかりにくかったため	3	25
4 その他()のため	1	19
5 特になし	2	11

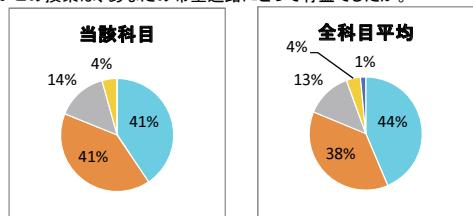
(「4」の「その他」の具体的内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	31	249
2 ある程度そう思う	25	197
3 どちらともいえない	11	49
4 あまりそう思わない	2	18
5 そう思わない	0	10

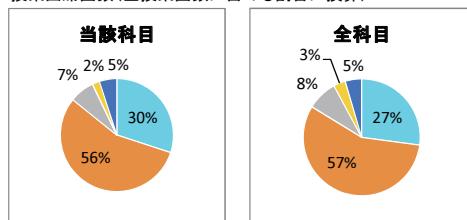
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	28	228
2 ある程度有益だった	28	197
3 どちらともいえない	10	69
4 あまり有益ではなかった	3	21
5 まったく有益ではなかった	0	8

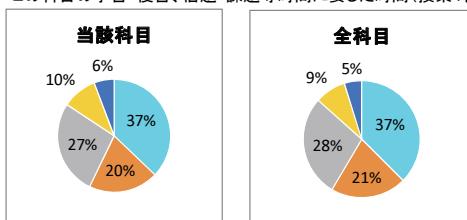
令和 2 年度	前期 (春)	科目名	—	類別	展開科目	科目数	23	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	153	回答者数	140	回答率	91.5%
---------------	-----------	-----	---	----	------	-----	----	--------	---	----	---	------	-----	------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



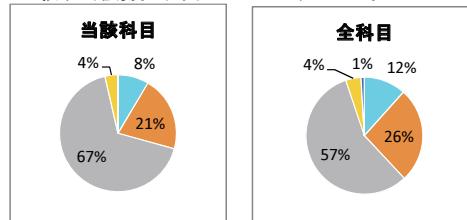
当該科目(人)	全科目(人)
42	142
78	296
10	44
3	17
7	24
平均出席回数	11.1 回
当該科目(人)	全科目(人)
11.0 回	

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



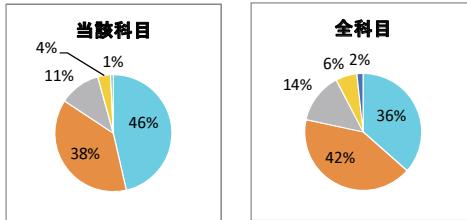
当該科目(人)	全科目(人)
52	196
28	110
38	147
14	45
8	25
平均授業外学習時間	3.1 時間
当該科目(人)	全科目(人)
3.3 時間	

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



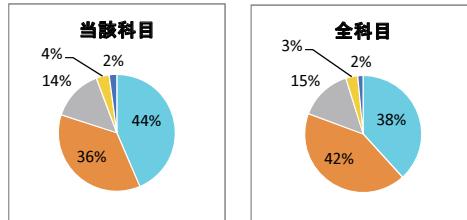
当該科目(人)	全科目(人)
12	61
29	138
94	297
5	22
0	5

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



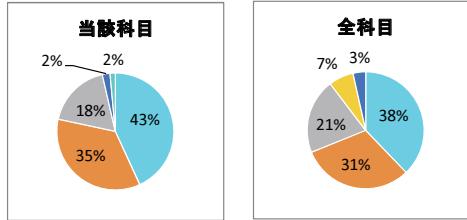
当該科目(人)	全科目(人)
65	191
53	219
16	73
5	31
1	9

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



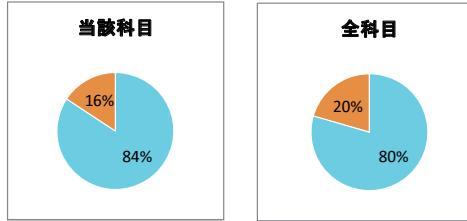
当該科目(人)	全科目(人)
61	200
51	222
20	76
5	17
3	8

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



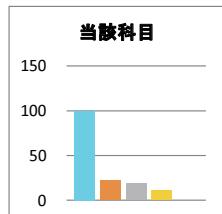
当該科目(人)	全科目(人)
60	197
49	162
25	108
3	36
2	18

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
118	415
22	107

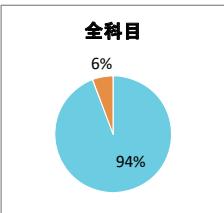
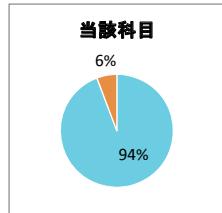
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	100	353
2 予習・復習に活用	22	80
3 受講にあたり授業中などに活用	19	54
4 試験・レポートに活用	11	36
5 その他	0	0

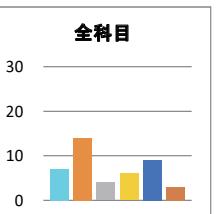
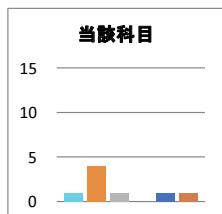
(「その他」の具体的内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	132	492
2 いいえ	8	30

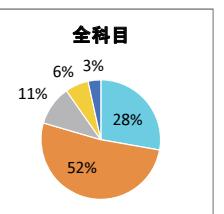
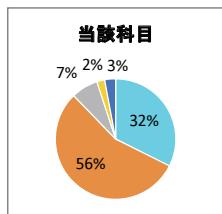
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	1	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	4	14
3 「履修要件」の情報が不十分	1	4
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	6
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	1	9
6 「その他」の情報が不十分	1	3

(「その他」の具体的内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

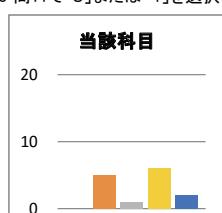


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	45	145
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上~9割未満達成)	77	270
3 やや達成できなかつた(目安:授業の到達目標の概ね6割以上~8割未満達成)	10	56
4 達成できなかつた(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	3	33
5 どちらともいえない(判断できない)	4	18

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

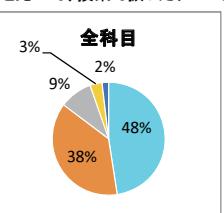
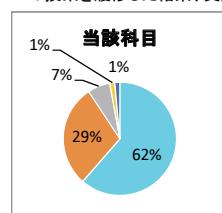


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	0	14
2 予習・復習に十分時間を取りことができなかつたため	5	37
3 説明がわかりにくかったため	1	25
4 その他()のため	6	19
5 特になし	2	11

(「4」の「その他」の具体的内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

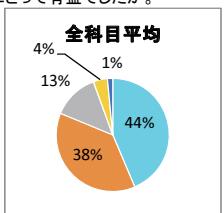
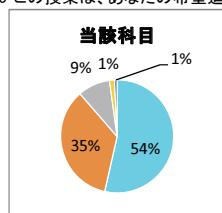
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	86	249
2 ある程度そう思う	41	197
3 どちらともいえない	9	49
4 あまりそう思わない	2	18
5 そう思わない	2	10

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

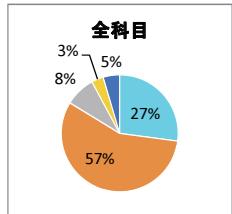
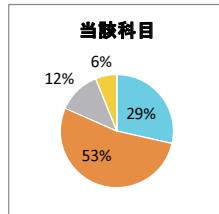
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	75	228
2 ある程度有益だった	49	197
3 どちらともいえない	13	69
4 あまり有益ではなかった	2	21
5 まったく有益ではなかった	1	8

令和2年度	前期(春)	科目名	—	類別	事例研究	科目数	6	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	50	回答者数	49	回答率	98.0%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



当該科目(人) 全科目(人)

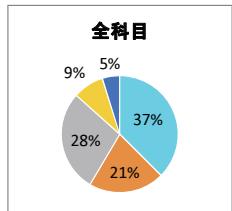
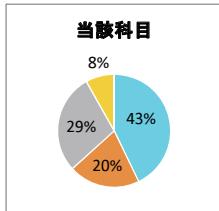
1 90%以上	14	142
2 70%以上90%未満	26	296
3 50%以上70%未満	6	44
4 25%以上50%未満	3	17
5 25%未満	0	24

平均出席回数

11.9 回

11.0 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



当該科目(人) 全科目(人)

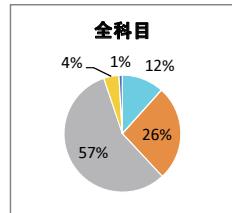
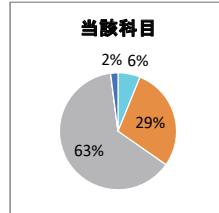
1 3時間以上	21	196
2 2時間以上、3時間未満	10	110
3 1時間以上、2時間未満	14	147
4 30分以上、1時間未満	4	45
5 30分未満	0	25

平均授業外学習時間

3.0 時間

3.3 時間

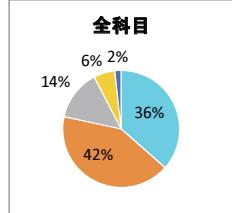
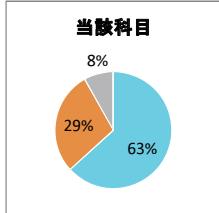
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に難しかった	3	61
2 難しかった	14	138
3 ちょうどよかったです	31	297
4 易しかった	0	22
5 非常に易しかった	1	5

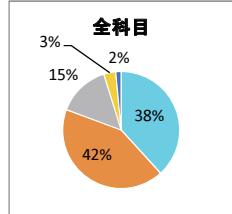
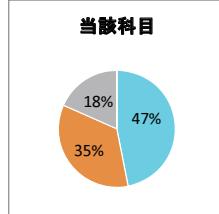
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に惹いた	31	191
2 ある程度惹いた	14	219
3 どちらともいえない	4	73
4 あまり惹かなかった	0	31
5 まったく惹かなかった	0	9

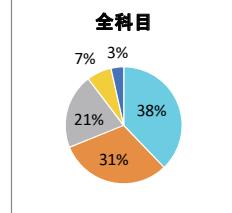
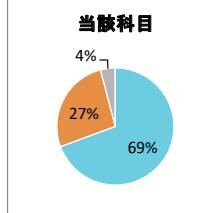
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に体系的だった	23	200
2 ある程度体系的だった	17	222
3 どちらともいえない	9	76
4 あまり体系的でなかった	0	17
5 まったく体系的でなかった	0	8

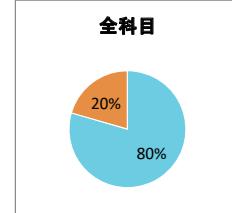
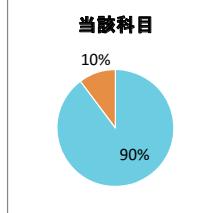
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 良く考慮していた	34	197
2 ある程度考慮していた	13	162
3 どちらともいえない	2	108
4 あまり考慮していなかった	0	36
5 まったく考慮していなかった	0	18

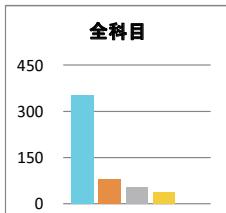
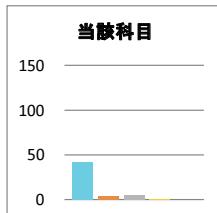
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 「はい」	44	415
2 「いいえ」又は「どちらともいえない」	5	107

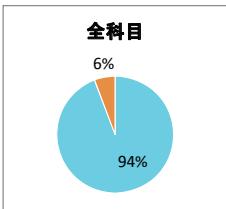
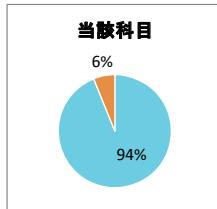
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	42	353
2 予習・復習に活用	4	80
3 受講にあたり授業中などに活用	5	54
4 試験・レポートに活用	1	36
5 その他	0	0

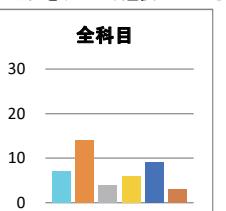
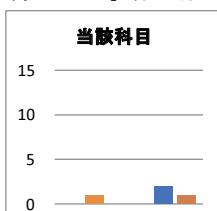
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	46	492
2 いいえ	3	30

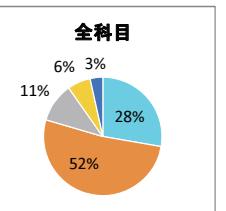
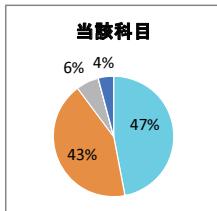
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	7
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	1	14
3 「履修要件」の情報が不十分	0	4
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	6
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	2	9
6 「その他」の情報が不十分	1	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

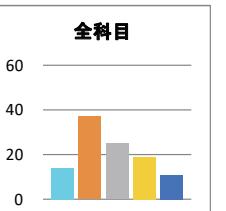
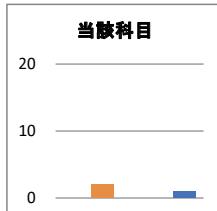
問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	23	145
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	21	270
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	3	56
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	0	33
5 どちらともいえない(判断できない)	2	18

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。
(回答は別紙参照)

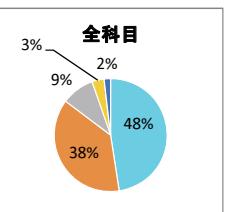
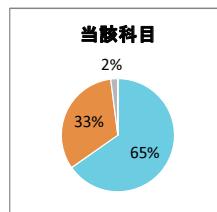
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	0	14
2 予習・復習に十分時間を取りこぎ難かったため	2	37
3 説明がわかりにくかったため	0	25
4 その他()のため	0	19
5 特になし	1	11

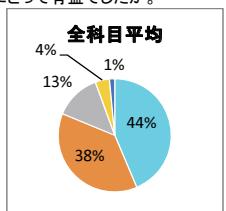
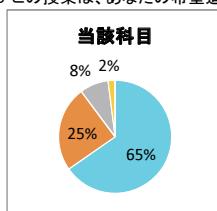
(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	32	249
2 ある程度そう思う	16	197
3 どちらともいえない	1	49
4 あまりそう思わない	0	18
5 そう思わない	0	10

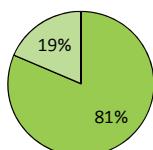
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



令和2年度前期授業アンケート 教員からのコメント

・対象科目 48科目※
※授業アンケートの回答があった科目
・回答数 27名 (対象人数50名)

(1) 授業アンケートの結果は、授業のあり方について考える上で、参考になりましたか。



1. ■	とても参考になった	22
2. ■	どちらかといえば参考になった	5
3. ■	どちらともいえない	0
4. ■	どちらかといえば参考にならなかった	0
5. ■	参考にならなかった	0

(2) 今回の授業アンケート結果を、授業改善のために活用されるお考えがあれば、その方法等についてお聞かせください。

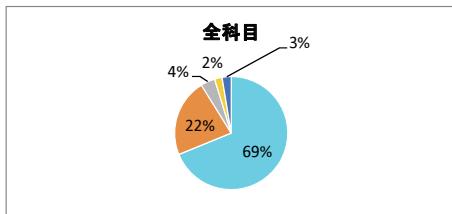
- 1 昨年度から内容を改善しようとしていた矢先、オンライン授業を余儀なくされて、内容は改善されて配布資料は充実したと思うが、オンライン授業がうまくいったとはとても思えず、果てしなく時間がかかって消耗した。オンライン授業の質を高める気はないが、内容はさらに取捨選択してわかりやすいものにしていくつもりである。
- 2 今回は初のオンライン講義（オンデマンド方式）であり、手探り状態で進めてきましたが、アンケート結果を見ると、昨年とほぼ同様に評価されたようで、まずは安心しました。来年度以降、今回作成した教材を適宜改訂しながら、受講生の質問にも迅速に対応できることを目指して、オンラインと対面の講義を併用する形で授業できればと思います。
- 3 授業やテキストの問題に関して疑問点などがあればTAに尋ねるよう連絡したが、アンケート結果から判断して、そのことが周知されていなかったように思われる。今後は繰り返しTA制度のことを受講生に知らせることにしたい。
- 4 今年度は、オンデマンド型のオンライン講義となったため、講義の体系性を意識しつつ、丁寧に説明するよう心がけた。そのため、「受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていた」ことに関して比較的評価が高かった点について、率直に嬉しく思っている。また、「興味や知的な関心を惹くもの」に関して、比較的評価が高く、受講生が満足しており、安心した。次年度以降も、受講生に知的関心を提供できる講義を心がけたい。
その一方で、オンデマンド型のオンライン講義のため、「受講生の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか」の問いに、半数程度の受講者が「どちらとも言えない」と解答しており、改善の余地がある。また、「この講義の到達目標に照らして達成できたかどうか」に関して、「やや達成できなかった」や「達成できなかった」と解答する受講生もあり、何らかの対応が必要であると考えている。これらの点については、自由記述で貴重なコメントを頂戴したので、コメントを参考にして、次年度以降の講義に活かしていきたい。
- 5 今年度はコロナウィルス感染拡大予防のため、全授業をZoomによるリモートで行った。リモートでの授業は初めてであったので、最初は少しドタバタしたものの、Zoom上のグループディスカッションもかなりうまく進み、グループディスカッションが刺激的だったというコメントが数件見られた。
他方、「担当者がリモートに慣れていないようだった」というコメントもあった。リモート授業を受講者がどのように感じているのかを聞いたかったので、授業アンケートの自由記述欄のコメントは参考になった。
次年度はリモート授業をしなくてよい状況になることを願っているが、もしリモート授業になることになった場合、今回の授業アンケートでのコメントを参考にして、グループディスカッションの他、双方向の授業となるよう工夫したい。
- 6 コロナ対応のために今回初めて音声録音による講義を行ったが、授業評価では高い評価であることに驚いた。今後、コロナ収束後でもオンライン授業を活用することを検討していきたい。
- 7 初めてのオンライン授業であり、学生がどのような感想を抱いたのかが把握できたのは有益であった。
オンラインの必要がなくなても活用できる授業ツールとしての使い途も併せて考えていきたい。
- 8 (※自身の考えというより今後の希望ですが)
アンケート結果をデータで頂けますと、情報の整理・管理の都合上有り難いです（ハードコピーを学内便でお送りいただくのではなく、たとえばメール添付で、ということです。そのほうが、事務の方も楽なのでは？）。ご検討頂ければ。
- 9 •前回のアンケート結果を踏まえ、確認・小テストを入れることで理解度が上がったと考えている。
•CSに関しては、扱っている事例が古いものがあり、アンケートでも指摘されている。今後は事例をリバイスする必要があると考えている。
- 10 昨年と違うZoom形式で手探りでしたが、顔が見えて集中しやすかったなど、二科目とも好評で安心しています。
ただ、多数とは逆方向のコメントもあり（資料の分量が多く、各回の報告者が突飛な提言をしそうなど）、10人を超えると全員を満足させるのは難しそうです。必修科目ではないので、教育効果の観点から、本人の達成目標とシラバスとの合致を確認した上で許可する形も考えたいと思います。
- 11 本授業は会社法に関する基本的素養があることを前提にしているところ、本大学院では、法科大学院とは異なり、会社法についてこれまでの学習の度合いが学生によって甚だしく異なるため、受講者の理解をこまめに確認しながら授業を進めるよう配慮したつもりであった。しかし今回のアンケート結果を見ると、なお「(非常に) 難しかった」と回答した学生も存在しており、今後の授業では、より学生の質問の機会を増やすなど、さらなる改善をしていきたいと考えている。

- 12 特になし。
- 13 •ディスカッションの時間を多くとったことが好評であったことが分かったので、次回がある場合には継続したいと思います。
•実務家の視点が良かったという声もあったので、その点を意識した講義にしたいと思います。
- 14 今回初めての公共政策大学院授業に参加させていただいた。少人数制だったので、より多くの時間を学生とのディスカッションに使うことができたと考える。
アンケート結果からは、上述のとおり、ディスカッションをなるべく多くする等工夫した点については好意的な評価をいただいたことが分かり今後の講義のあり方について参考となった。
なお、一部の方からは、講義の進め方・あり方について、また内容が期待するものとなっていないとのご指摘をいただいたこともあります。初回講義の冒頭で、もう少し学生の興味・関心・期待を聴取する等の改善ができるのではないかと反省している（大人数の対面方式講義でも工夫の余地はあると考える）。今後ともより良い講義を心がけたい。
- 15 講義形式の授業の場合、リモート形式は対面形式と同等か、それ以上の満足度があることが分かりましたので、大いに参考になりました。
- 16 50%以上出席したと回答した受講生が100%（3名、うち70%以上が2人）であるのに、単位認定に必要なレポート提出に至ったのは1名であったことが残念に感じられました。理由を検討するなどして、単位取得につなげていただけるような方策を検討したいと思います。
- 17 シラバスを詳し目に行ったことが、学生にとって有益だったことが確認できたことはよかったです。来年も授業構成は今年と同じ内容にしようと思いますが、可能な範囲でシラバスをより詳しくしようと思います。また、昨年の授業後の出来事を授業に反映したいと考えており、これもシラバスに織り込みたいと思います。また、ディスカッションは対面の議論が望ましく、来年春は対面授業ができる事を希望しています。
- 18 オンライン授業ということで、様々な不安があったが、概ね、良いように評価して頂いているようで安心した。ただし、1名の方が、コメントで色々と不満を書いていましたが、ZOOMを通じた授業が最低のランクであったとのコメントは、反省し、今後、そのようなことのないようにしたい。具体的には、1回目の授業で、近くにPCを置き、複数で配信したことにより、ハウリングなどが多く発生した。2回目はインターネット回線の不具合があり、途中で中断することがあった。その後はうまくいっていたが、あるゲストスピーカーのPCの電源がなくなり、一旦、切れる事態が発生した。今後、オンライン授業に関する技術向上に取り組みたい。また、補講に関する苦情が書かれていたが、本授業では補講は行っておらず、直前に案内することもなかった。勘違いではないか。また、配布資料は容量の関係で確かにメール送信したが、再送が必要な学生には、その都度、送って対応していたが、次年度からは、その旨も授業で伝えたく思う。
- 19 コロナの影響により5月の連休までは休講し連休明けからオンライン授業という初めての経験であり、ゲストスピーカーとの講義内容について十分な打ち合わせができない中、全体的には一定の評価を頂いているようで安心しました。ただし、1名の方がアンケートに率直な意見を記載頂き、ZOOMを通じた授業が最低のランクであったとのコメントについては反省し今後のオンライン授業では同様のことのないように努めて参ります。
具体的には、講義をする際に近くにPCを置き複数で配信したことによりハウリングが発生したことや講師のインフラ環境によるインターネット回線の不具合があり聞き取りにくいうことがあったことさらにはゲストスピーカーのPCの電源がなくなり授業が一旦中断したことがあります。今後、オンライン授業開始前に学生との間で通信状況を事前に確認するなどし技術向上に取り組みたいと考えています。また、補講に関する苦情が書かれていましたが、本授業では補講は行っておらず直前に案内することもありませんでした。また、配布資料はメールで事前に配信しておりますが、1週間前には資料を配布し学生が予習や研究を行えるようにします。加えて終了前の10分程度を講義のポイント説明の時間として活用し学生の理解度をより高めます。
- 20 集計結果やコメントを拝見し、以下のとおり対応したいと考えております。
•難易度を少し上げる(ただし、授業の性質上、留学生が多いと難易度を上げることが難しい)
•学生に意見を言わせる機会をもう少し増やす（なお、zoomによる授業での意見の発表のさせ方については引き続き検討する）
- 21 新しい分野であり、学生たちの理解度が気になっていたが、難易度の評価で「ちょうどよい」の比率が多かったことは、今後の授業を組み立てていくうえで参考になった。Zoomを活用したストリーム型のオンライン授業における試験や討議の進め方についても、Zoomと新しい外部ツールを組み合わせた授業の進め方を支持するコメントが多かったので、学生の適応力の高さを実感することができ、今後の安心材料となつた。また今回、オンラインでの授業アンケートであったため、学生の属性（公共か全学か）による評価やコメントの差が明らかになったことも、新しい発見であった（従来は紙ベースのアンケートのため、両属性が混在していた）。
- 22 今回は、コロナ禍のもとでしたが、対面授業にご許可を頂きまして、心より感謝申し上げます。無事終了し、正直とても安堵しております。対面授業の効果はアンケート結果に見られるとおりですが、特にグループワークにつき、学生さん同士対面での協議なくしては、効果的な学び舎を創出することは困難だと再確認した次第です。今後とも、同様のご理解を頂ければと存じます。
本講義は、分野に関する基礎と実務を伝えることを目的としていることから、座学とグループワークを両輪として組み立てています。アンケートにもみられるよう、時間配分には留意する点があるかもしれません、全体の組み立てに関しては、基本的には問題がないように感じております。講義内容については、実際の国際的動向に鑑み、適宜アップデートするような対応で、実践面における具体性及び現実性を確保できるものと考えます。
これまでのアンケートは手書きでの提出でしたが、今回はWEB入力であったことから、これまでになく具体的フィードバックを頂きました。今後も、同様のアンケートとして頂くことを希望します。
- 23 外部講師として官僚経験者を招聘したことが参考となったとの意見が強くあり、今後も続けたい。

資料 16 - 2

令和 2 年度	後期 (秋)	科目名	—	類別	全科目	科目 総数	44	成績 担当 教員	—	単複	—	履修 者 総数	543	回答 者 総数	507	回答 率	93.4%
---------------	-----------	-----	---	----	-----	----------	----	----------------	---	----	---	---------------	-----	---------------	-----	---------	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



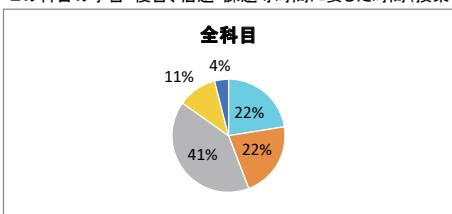
全科目(人)

1	90%以上	349
2	70%以上90%未満	113
3	50%以上70%未満	21
4	25%以上50%未満	11
5	25%未満	13

平均出席回数

12.5 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



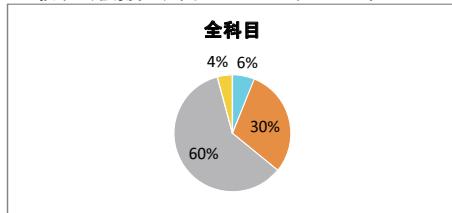
全科目(人)

1	3時間以上	114
2	2時間以上、3時間未満	110
3	1時間以上、2時間未満	206
4	30分以上、1時間未満	57
5	30分未満	20

平均授業外学習時間

2.0 時間

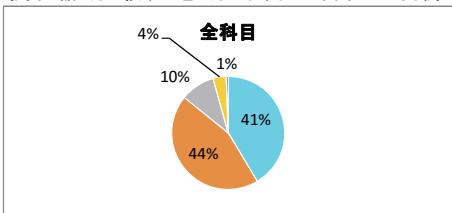
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



全科目(人)

1	非常に難しかった	31
2	難しかった	151
3	ちょうどよかったです	304
4	易しかった	21
5	非常に易しかった	0

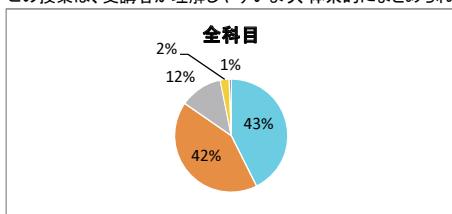
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



全科目(人)

1	非常に惹いた	210
2	ある程度惹いた	225
3	どちらともいえない	50
4	あまり惹かなかった	19
5	まったく惹かなかった	3

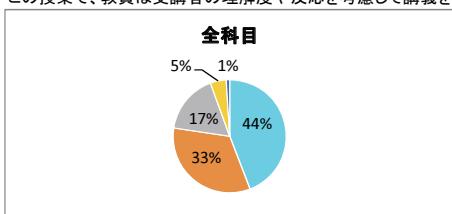
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



全科目(人)

1	非常に体系的だった	216
2	ある程度体系的だった	213
3	どちらともいえない	62
4	あまり体系的でなかった	13
5	まったく体系的でなかった	3

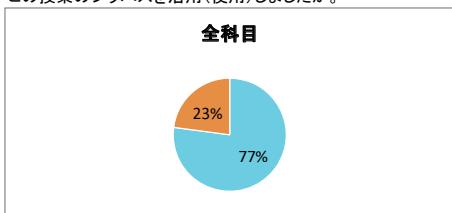
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



全科目(人)

1	良く考慮していた	224
2	ある程度考慮していた	168
3	どちらともいえない	87
4	あまり考慮していなかった	23
5	まったく考慮していなかった	5

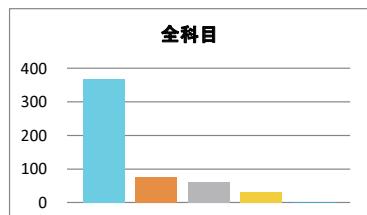
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



全科目(人)

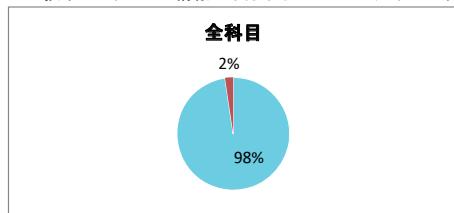
1	「はい」	391
2	「いいえ」又は「どちらともいえない」	116

問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	369
2 予習・復習に活用	77
3 受講にあたり授業中などに活用	62
4 試験・レポートに活用	31
5 その他	1

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



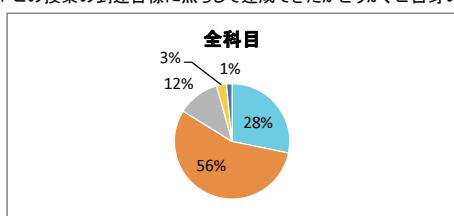
	全科目(人)
1 はい	495
2 いいえ	12

問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	1
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	6
3 「履修要件」の情報が不十分	1
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	5
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	1
6 「その他」の情報が不十分	3

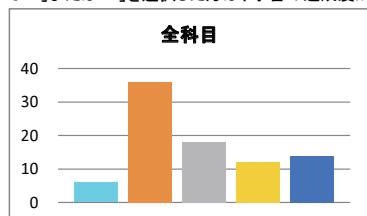
問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。



	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	143
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	282
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	60
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	14
5 どちらともいえない(判断できない)	8

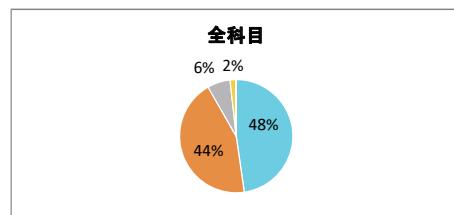
問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。
(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



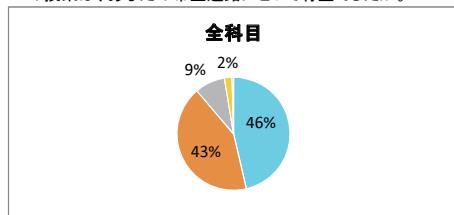
	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	6
2 予習・復習に十分時間を見ることができなかったため	36
3 説明がわかりにくかったため	18
4 その他()のため	12
5 特になし	14

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	全科目(人)
1 そう思う	242
2 ある程度そう思う	223
3 どちらともいえない	33
4 あまりそう思わない	8
5 そう思わない	1

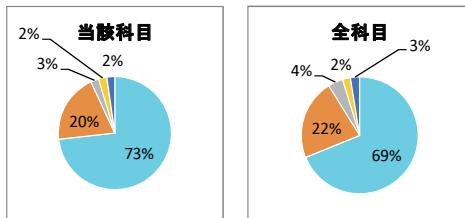
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



	全科目(人)
1 非常に有益だった	235
2 ある程度有益だった	215
3 どちらともいえない	44
4 あまり有益ではなかった	11
5 まったく有益ではなかった	2

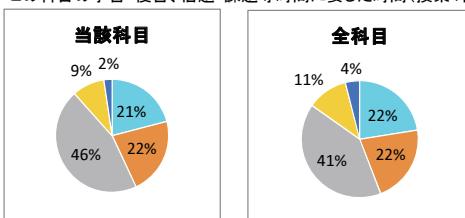
令和2年度	後期(秋)	科目名	—	類別	基本科目	科目数	5	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	93	回答者数	86	回答率	92.5%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



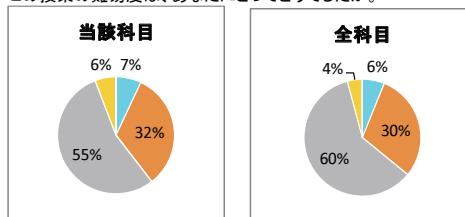
当該科目(人)	全科目(人)
63	349
17	113
2	21
2	11
2	13
平均出席回数	12.7 回
当該科目(人)	全科目(人)
12.7 回	12.5 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



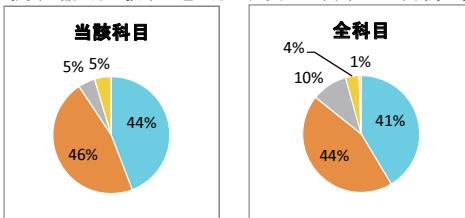
当該科目(人)	全科目(人)
18	114
19	110
39	206
8	57
2	20
平均授業外学習時間	1.9 時間
当該科目(人)	全科目(人)
2.0 時間	

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



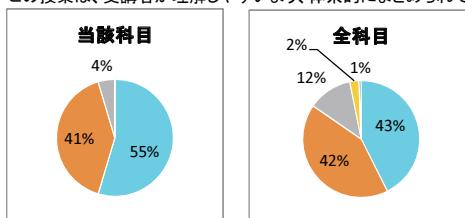
当該科目(人)	全科目(人)
6	31
28	151
47	304
5	21
0	0

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



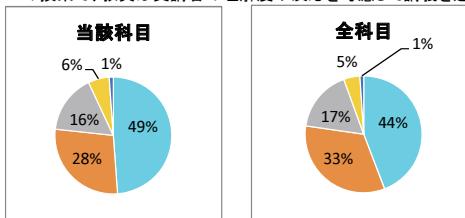
当該科目(人)	全科目(人)
38	210
40	225
4	50
4	19
0	3

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



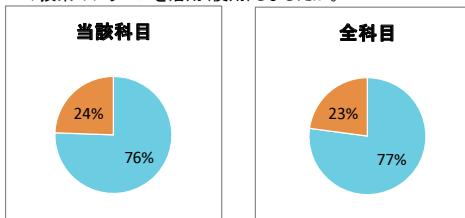
当該科目(人)	全科目(人)
47	216
35	213
4	62
0	13
0	3

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



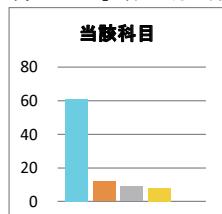
当該科目(人)	全科目(人)
42	224
24	168
14	87
5	23
1	5

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
65	391
21	116

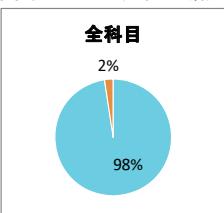
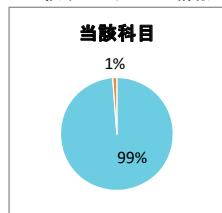
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	61	369
2 予習・復習に活用	12	77
3 受講にあたり授業中などに活用	9	62
4 試験・レポートに活用	8	31
5 その他	0	1

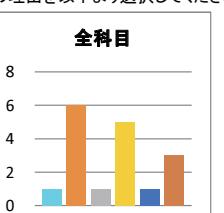
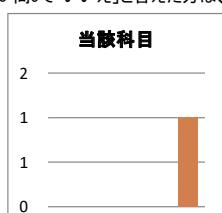
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	85	495
2 いいえ	1	12

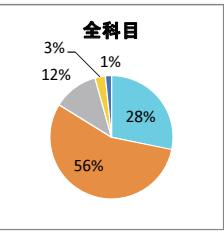
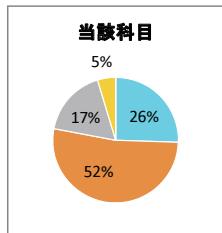
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	1
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	0	6
3 「履修要件」の情報が不十分	0	1
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	5
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	1	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

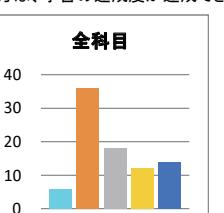
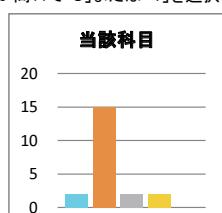


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	22	143
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	45	282
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	15	60
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	4	14
5 どちらともいえない(判断できない)	0	8

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

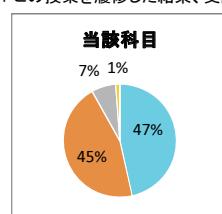


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	2	6
2 予習・復習に十分時間を取りこどりできなかったため	15	36
3 説明がわかりにくかったため	2	18
4 その他()のため	2	12
5 特になし	0	14

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

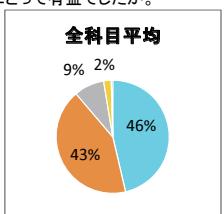
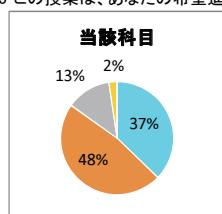
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	40	242
2 いいえ	39	223
3 どちらともいえない	6	33
4 そう思う	1	8
5 ない	0	1

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

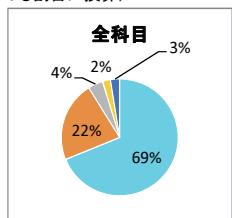
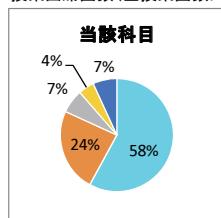
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	32	235
2 ある程度有益だった	41	215
3 どちらともいえない	11	44
4 あまり有益ではなかった	2	11
5 まったく有益ではなかった	0	2

令和2年度	後期(秋)	科目名	—	類別	専門基礎科目	科目数	5	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	93	回答者数	88	回答率	94.6%
-------	-------	-----	---	----	--------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



当該科目(人) 全科目(人)

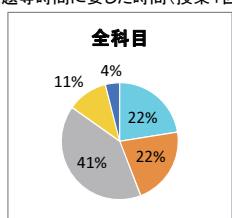
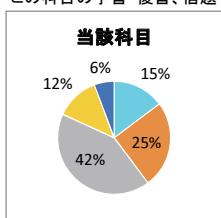
1 90%以上	51	349
2 70%以上90%未満	21	113
3 50%以上70%未満	6	21
4 25%以上50%未満	4	11
5 25%未満	6	13

平均出席回数

11.6 回

12.5 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



当該科目(人) 全科目(人)

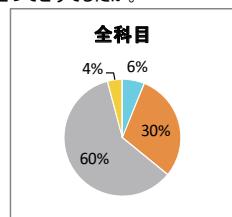
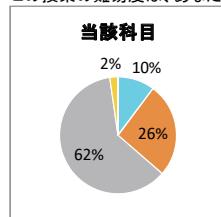
1 3時間以上	13	114
2 2時間以上、3時間未満	22	110
3 1時間以上、2時間未満	37	206
4 30分以上、1時間未満	11	57
5 30分未満	5	20

平均授業外学習時間

1.7 時間

2.0 時間

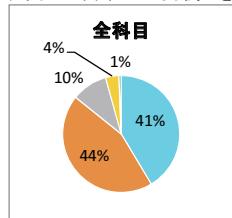
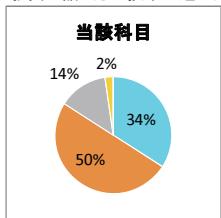
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に難しかった	9	31
2 難しかった	23	151
3 ちょうどよかったです	54	304
4 易しかった	2	21
5 非常に易しかった	0	0

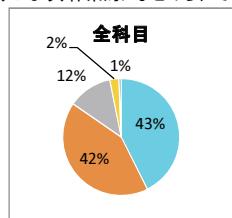
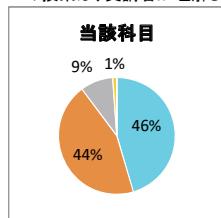
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に惹いた	30	210
2 ある程度惹いた	44	225
3 どちらともいえない	12	50
4 あまり惹かなかった	2	19
5 まったく惹かなかった	0	3

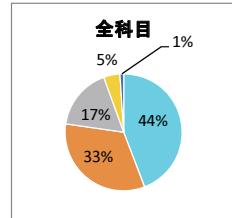
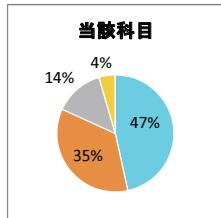
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 非常に体系的だった	40	216
2 ある程度体系的だった	39	213
3 どちらともいえない	8	62
4 あまり体系的でなかった	1	13
5 まったく体系的でなかった	0	3

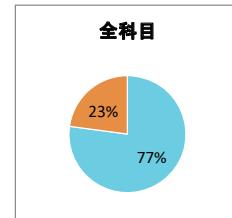
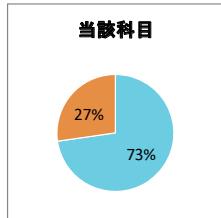
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 良く考慮していた	41	224
2 ある程度考慮していた	31	168
3 どちらともいえない	12	87
4 あまり考慮していない	4	23
5 まったく考慮していない	0	5

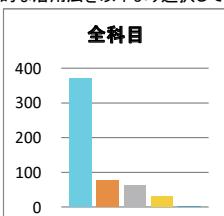
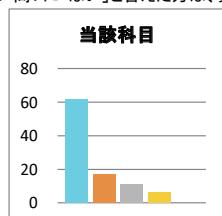
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1 「はい」	64	391
2 「いいえ」又は「どちらともいえない」	24	116

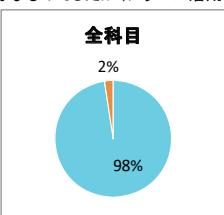
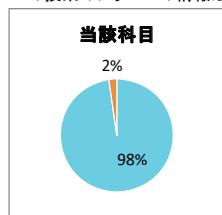
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	62	369
2 予習・復習に活用	17	77
3 受講にあたり授業中などに活用	11	62
4 試験・レポートに活用	6	31
5 その他	0	1

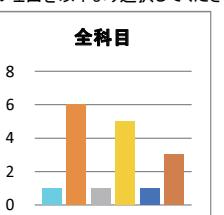
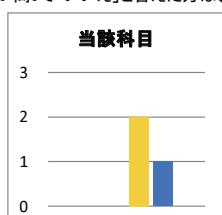
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	86	495
2 いいえ	2	12

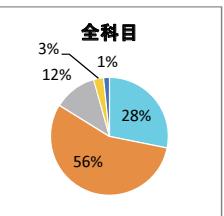
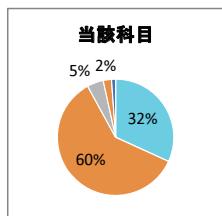
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	1
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	0	6
3 「履修要件」の情報が不十分	0	1
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	2	5
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	1	1
6 その他	0	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

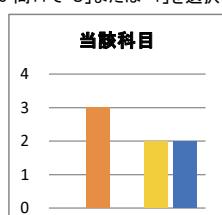


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	28	143
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	53	282
3 やや達成できなかつた(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	4	60
4 達成できなかつた(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	2	14
5 どちらともいえない(判断できない)	1	8

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

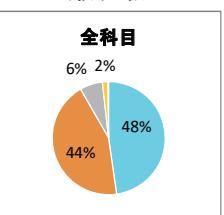
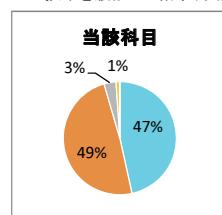
問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかつた理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	0	6
2 予習・復習に十分時間を取りことができなかつたため	3	36
3 説明がわかりにくかつたため	0	18
4 その他()のため	2	12
5 特になし	2	14

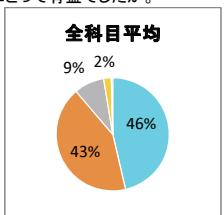
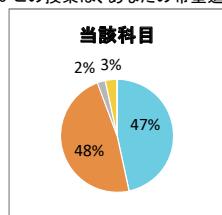
(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	41	235
2 ある程度そう思う	43	215
3 どちらともいえない	3	44
4 あまりそう思わない	1	11
5 そう思わない	0	2

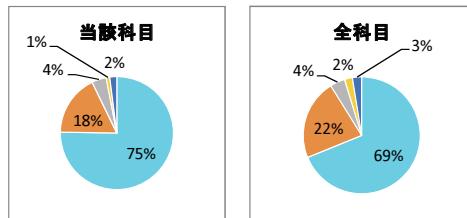
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	41	235
2 ある程度有益だった	42	215
3 どちらともいえない	2	44
4 あまり有益ではなかった	3	11
5 まったく有益ではなかった	0	2

令和2年度	後期(秋)	科目名	—	類別	実践科目	科目数	5	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	101	回答者数	97	回答率	96.0%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	-----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



当該科目(人)

全科目(人)

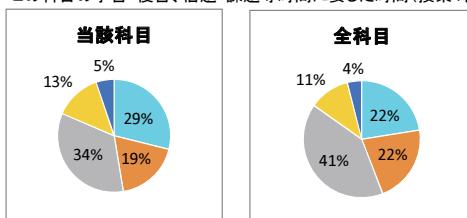
1	90%以上	73	349
2	70%以上90%未満	17	113
3	50%以上70%未満	4	21
4	25%以上50%未満	1	11
5	25%未満	2	13

平均出席回数

12.8回

12.5回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



当該科目(人)

全科目(人)

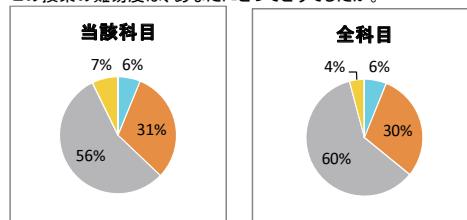
1	3時間以上	28	114
2	2時間以上、3時間未満	18	110
3	1時間以上、2時間未満	33	206
4	30分以上、1時間未満	13	57
5	30分未満	5	20

平均授業外学習時間

2.2時間

2.0時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。

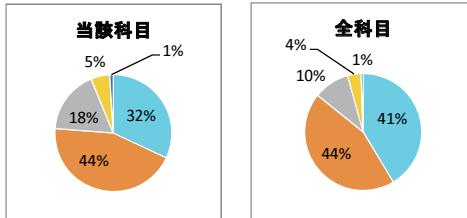


当該科目(人)

全科目(人)

1	非常に難しかった	6	31
2	難しかった	30	151
3	ちょうどよかったです	54	304
4	易しかった	7	21
5	非常に易しかった	0	0

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。

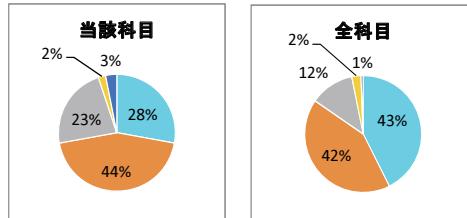


当該科目(人)

全科目(人)

1	非常に惹いた	31	210
2	ある程度惹いた	43	225
3	どちらともいえない	17	50
4	あまり惹かなかった	5	19
5	まったく惹かなかった	1	3

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。

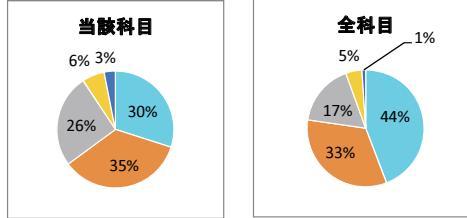


当該科目(人)

全科目(人)

1	非常に体系的だった	27	216
2	ある程度体系的だった	43	213
3	どちらともいえない	22	62
4	あまり体系的でなかった	2	13
5	まったく体系的でなかった	3	3

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。

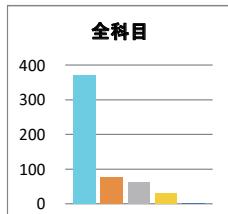
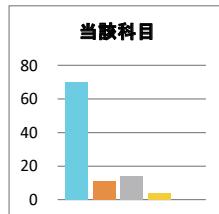


当該科目(人)

全科目(人)

1	良く考慮していた	29	224
2	ある程度考慮していた	34	168
3	どちらともいえない	25	87
4	あまり考慮していない	6	23
5	まったく考慮していない	3	5

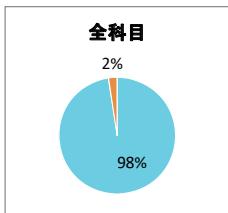
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	70	369
2 予習・復習に活用	11	77
3 受講にあたり授業中などに活用	14	62
4 試験・レポートに活用	4	31
5 その他	0	1

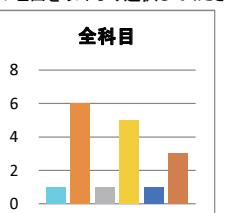
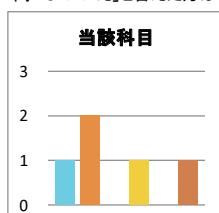
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	94	495
2 いいえ	3	12

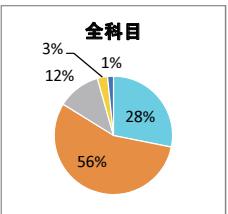
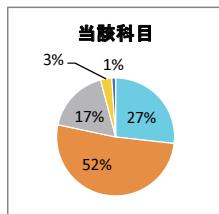
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	1	1
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	2	6
3 「履修要件」の情報が不十分	0	1
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	1	5
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	1	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

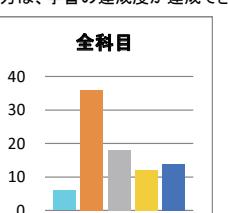
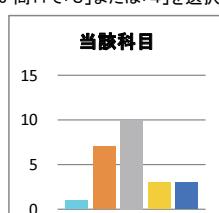


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	26	143
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上~9割未満達成)	50	282
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上~8割未満達成)	17	60
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	3	14
5 どちらともいえない(判断できない)	1	8

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。



(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

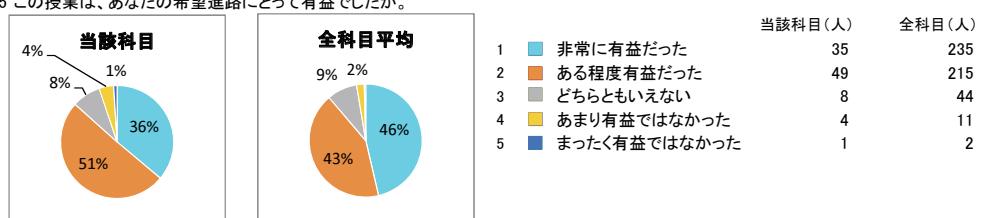
問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

当該科目(人) 全科目(人)



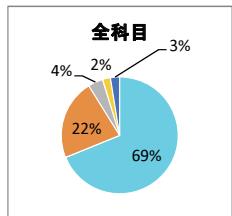
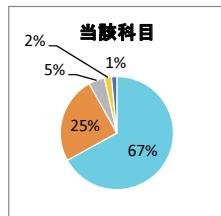
問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

当該科目(人) 全科目(人)



令和2年度	後期(秋)	科目名	—	類別	展開科目	科目数	22	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	215	回答者数	197	回答率	91.6%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	----	--------	---	----	---	------	-----	------	-----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



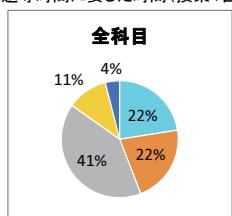
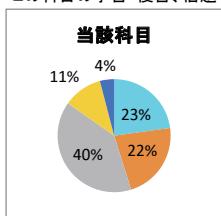
当該科目(人) 全科目(人)

1	90%以上	132	349
2	70%以上90%未満	49	113
3	50%以上70%未満	9	21
4	25%以上50%未満	4	11
5	25%未満	3	13

平均出席回数

12.6 回 12.5 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)

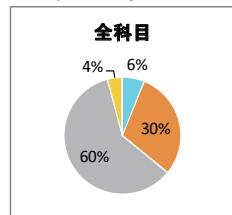
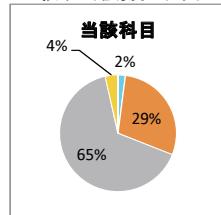


当該科目(人) 全科目(人)

1	3時間以上	45	114
2	2時間以上、3時間未満	44	110
3	1時間以上、2時間未満	78	206
4	30分以上、1時間未満	22	57
5	30分未満	8	20

平均授業外学習時間 2.0 時間 2.0 時間

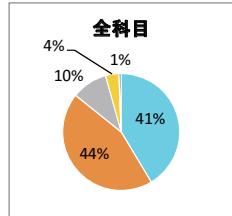
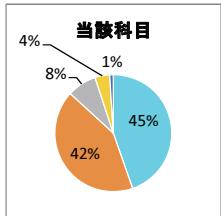
問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1	非常に難しかった	4	31
2	難しかった	57	151
3	ちょうどよかったです	129	304
4	易しかった	7	21
5	非常に易しかった	0	0

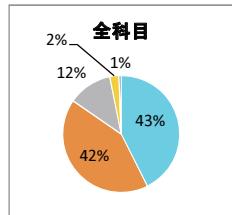
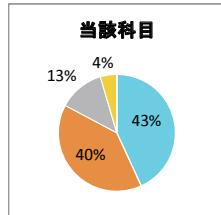
問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1	非常に惹いた	88	210
2	ある程度惹いた	83	225
3	どちらともいえない	16	50
4	あまり惹かなかった	8	19
5	まったく惹かなかった	2	3

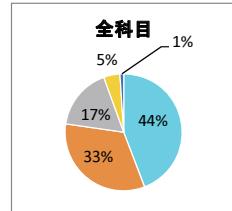
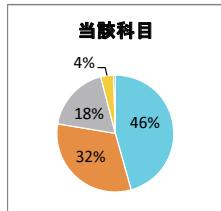
問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1	非常に体系的だった	85	216
2	ある程度体系的だった	78	213
3	どちらともいえない	25	62
4	あまり体系的でなかった	9	13
5	まったく体系的でなかった	0	3

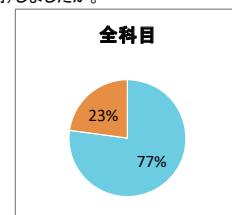
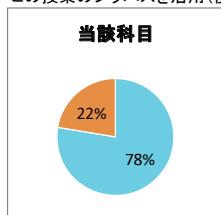
問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1	良く考慮していた	90	224
2	ある程度考慮していた	63	168
3	どちらともいえない	36	87
4	あまり考慮していないかった	7	23
5	まったく考慮していないかった	1	5

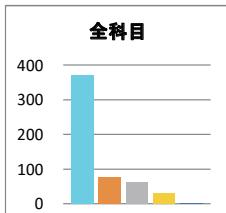
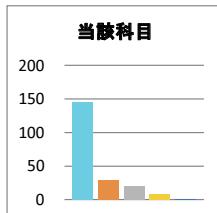
問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人) 全科目(人)

1	「はい」	153	391
2	「いいえ」又は「どちらともいえない」	44	116

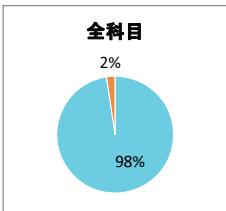
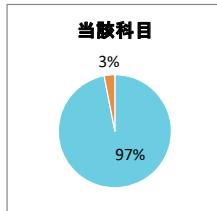
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	145	369
2 予習・復習に活用	30	77
3 受講にあたり授業中などに活用	20	62
4 試験・レポートに活用	9	31
5 その他	1	1

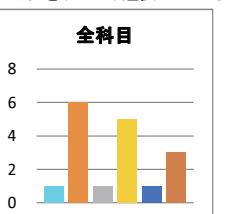
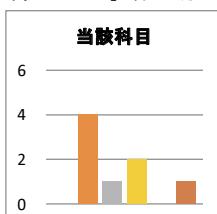
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	191	495
2 いいえ	6	12

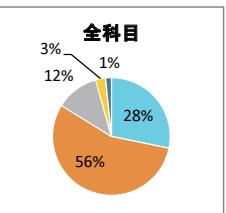
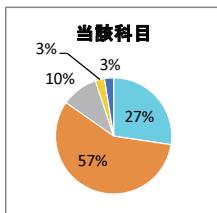
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	1
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	4	6
3 「履修要件」の情報が不十分	1	1
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	2	5
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	1	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

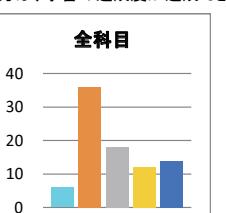
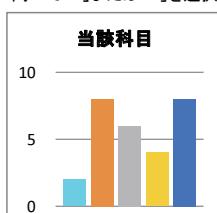


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	54	143
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	113	282
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	20	60
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	5	14
5 どちらともいえない(判断できない)	5	8

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習、復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

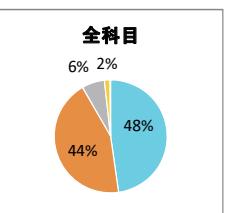
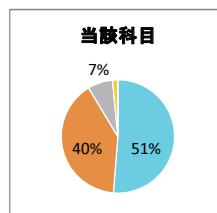


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	2	6
2 予習・復習に十分時間を取りこ	8	36
3 説明がわかりにくかったため	6	18
4 その他()のため	4	12
5 特になし	8	14

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

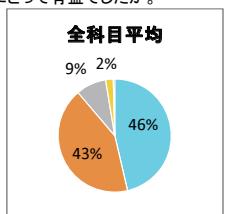
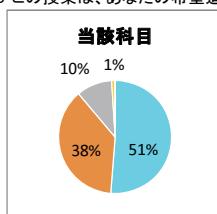
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	101	242
2 ある程度そう思う	79	223
3 どちらともいえない	14	33
4 あまりそう思わない	3	8
5 そう思わない	0	1

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

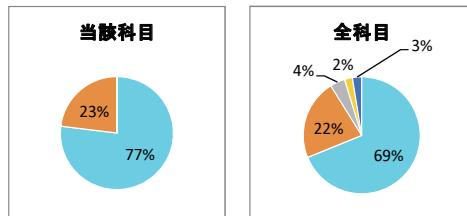
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	101	235
2 ある程度有益だった	74	215
3 どちらともいえない	20	44
4 あまり有益ではなかった	2	11
5 まったく有益ではなかった	0	2

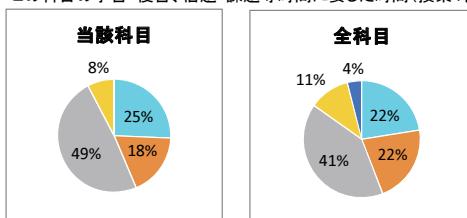
令和2年度	後期(秋)	科目名	—	類別	事例研究	科目数	7	成績担当教員	—	単複	—	履修者数	41	回答者数	39	回答率	95.1%
-------	-------	-----	---	----	------	-----	---	--------	---	----	---	------	----	------	----	-----	-------

問1 授業出席回数(全授業回数に占める割合に換算)



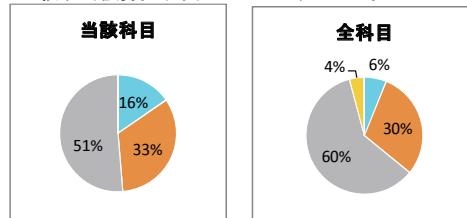
当該科目(人)	全科目(人)
30	349
9	113
0	21
0	11
0	13
平均出席回数	13.3 回
	12.5 回

問2 この科目の予習・復習、宿題・課題等時間に要した時間(授業1回あたりの時間数に換算)



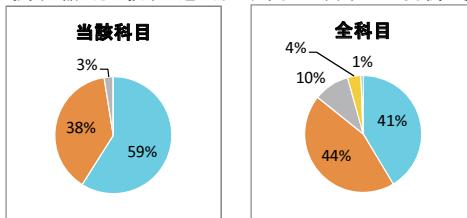
当該科目(人)	全科目(人)
10	114
7	110
19	206
3	57
0	20
平均授業外学習時間	2.0 時間
	2.0 時間

問3 この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。



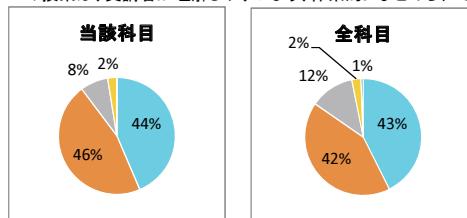
当該科目(人)	全科目(人)
6	31
13	151
20	304
0	21
0	0

問4 教員の話し方や授業の進め方は、あなたの興味や知的な関心を惹くものでしたか。



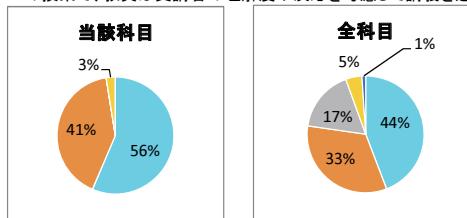
当該科目(人)	全科目(人)
23	210
15	225
1	50
0	19
0	3

問5 この授業は、受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていましたか。



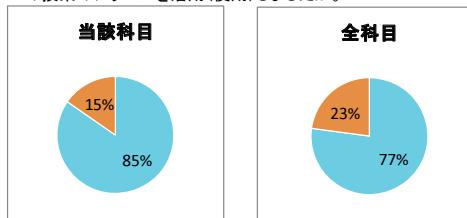
当該科目(人)	全科目(人)
17	216
18	213
3	62
1	13
0	3

問6 この授業で、教員は受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていましたか。



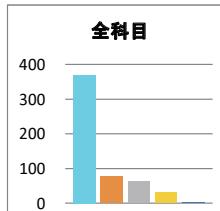
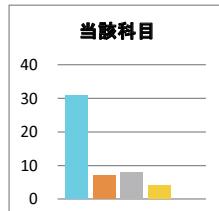
当該科目(人)	全科目(人)
22	224
16	168
0	87
1	23
0	5

問7 この授業のシラバスを活用(使用)しましたか。



当該科目(人)	全科目(人)
33	391
6	116

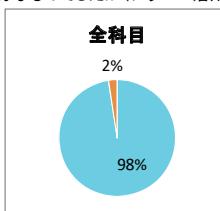
問8 問7に「はい」と答えた方は、具体的な活用法を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 科目選択・履修登録に活用	31	369
2 予習・復習に活用	7	77
3 受講にあたり授業中などに活用	8	62
4 試験・レポートに活用	4	31
5 その他	0	1

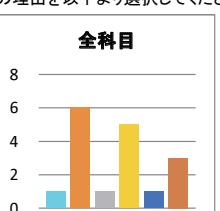
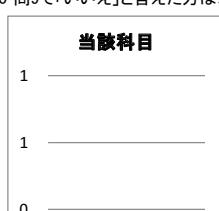
(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問9 この授業のシラバスの情報は十分なものでしたか(シラバス活用の有無等にかかわらず回答してください。)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 はい	39	495
2 いいえ	0	12

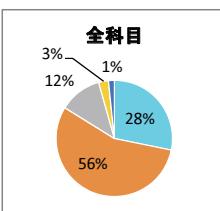
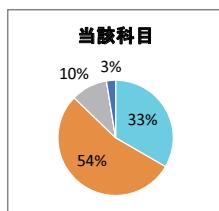
問10 問9で「いいえ」と答えた方は、その理由を以下より選択してください(複数選択可)。



	当該科目(人)	全科目(人)
1 「授業の概要・目的」の情報が不十分	0	1
2 「授業計画と内容」の情報が不十分	0	6
3 「履修要件」の情報が不十分	0	1
4 「成績評価の方法・基準」の情報が不十分	0	5
5 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分	0	1
6 「その他」の情報が不十分	0	3

(「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問11 この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

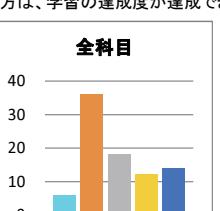


	当該科目(人)	全科目(人)
1 十分達成(目安:授業の到達目標の概ね9割以上達成)	13	143
2 ほぼ達成(目安:授業の到達目標の概ね8割以上～9割未満達成)	21	282
3 やや達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割以上～8割未満達成)	4	60
4 達成できなかった(目安:授業の到達目標の概ね6割未満達成)	0	14
5 どちらともいえない(判断できない)	1	8

問12 効果的だった学習活動(例:講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、回答欄に自由に記載してください。

(回答は別紙参照)

問13 問11で「3」または「4」を選択した方は、学習の達成度が達成できなかった理由を、以下より選択してください(複数選択可)。

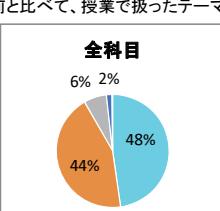
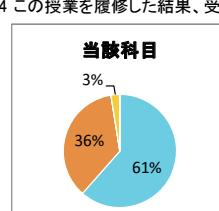


	当該科目(人)	全科目(人)
1 授業の進度が速かったため	1	6
2 予習・復習に十分時間を取りこどりできなかったため	3	36
3 説明がわかりにくかったため	0	18
4 その他()のため	1	12
5 特になし	1	14

(「4」の「その他」の具体的な内容については別紙参照)

問14 この授業を履修した結果、受講前と比べて、授業で扱ったテーマについて、より明確に把握することができるようになったと思いますか。

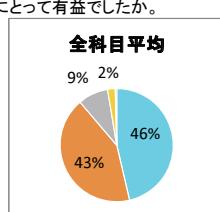
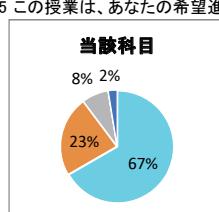
当該科目(人) 全科目(人)



	当該科目(人)	全科目(人)
1 そう思う	24	223
2 ある程度そう思う	14	33
3 どちらともいえない	0	44
4 あまりそう思わない	1	8
5 そう思わない	0	1

問15 この授業は、あなたの希望進路にとって有益でしたか。

当該科目(人) 全科目(人)

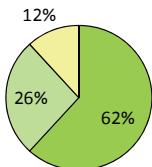


	当該科目(人)	全科目(人)
1 非常に有益だった	26	235
2 ある程度有益だった	9	215
3 どちらともいえない	3	44
4 あまり有益ではなかった	0	11
5 まったく有益ではなかった	1	2

令和2年度後期授業アンケート 教員からのコメント

- ・対象科目 44科目※
- ※授業アンケートの回答があった科目
- ・回答数 34名 (対象人数 41名)

(1) 授業アンケートの結果は、授業のあり方について考える上で、参考になりましたか。



1. ■	とても参考になった	21
2. ■	どちらかといえば参考になった	9
3. ■	どちらともいえない	4
4. ■	どちらかといえば参考にならなかった	0
5. ■	参考にならなかった	0

(2) 今回の授業アンケート結果を、授業改善のために活用されるお考えがあれば、その方法等についてお聞かせください。

- 1 参考文献の紹介法など、アンケートに記載された要望に応えるよう努力したい。
- 2 オンディマンド教材の音質があまり良くなかったようなので、今後は十分な録音環境の整備に努め、録音状況を改善したい。
- 3 最後まで熱心に参加した少数の学生から有意義と言ってもらえると励みになる。内容が最も重要なので、これからも内容の充実に努める。もっと体系的に、もっと論理的に、もっと明晰にわかりやすく、を心がける。
- 4 「情報管理論」は法科大学院との共通授業であり、受講生には厳しい予習負担を求めたうえで、Zoomを使っての問答式授業を行った。問2で授業以外の学習時間が他科目よりもかなり長いという結果は予想通りである。問3の結果も予想の範囲内であり、シラバスや初めの授業で難度については十分警告したから、受講生に難しすぎるという不満はなかったと思う。さらに、問4で興味や知的関心を「非常に惹いた」という回答が多かったことには、教師として満足感を覚えるとともに、本大学院学生のレベルの高さを再認識した。今後とも、この授業を担当する際には、高いレベルを求めていきたいと考えている。
「統治システム」は、一方的な録音配布という授業形態になってしまい、こちらとしても残念であった。問3で難しいという回答が多かったことは、この授業形態に起因するところが大きいと思う。来年度以降、こちらの科目も、できるだけ受講生との対話を心がけていきたい。
- 5 • 科目によっては、難易度が高すぎる、進行が速すぎると感じている学生もある程度存在していたが、総じてみれば、ほぼ適切な難易度、速度という評価なので、現在のやり方を維持していこうと思う。
• Zoomを利用したストリーミング型のオンライン授業の進め方、動画の共有による復習サポート、Facebookのクローズドグループを用いた時事情報の共有と解説、オンラインツールを利用した授業内テストなども、総じてポジティブな評価であり、学生はオンライン授業にもしっかりと対応したようだ。非対面であることへの苦情や批判がほとんどなかったことも、学生の適応力の高さの現れであろう。
• 他方、授業の理解度を上げようと導入したリアルタイムの字幕表示システムに誤表示が多いので集中できないという意見が複数あった。本番の授業に使うには、まだ読み取り精度が足りないようだ。
• 今後は対面授業に戻っていくものと思われるが、好評だった取り組みについては対面授業でも可能な範囲で存続させていきたいと思う。
- 6 オンライン形式への変更に伴ってレジュメを詳細に作りなおし、講義のペースを落としたことはよかったように思う。ただ、受講生から見れば不十分な点があったようであり、その点は改善が必要と思われる。今後、もしオンライン形式を用いることがあれば、双方向性を高める取り組みや受講者の理解度をはかる工夫をしていきたい。
- 7 受講者の率直な意見を知ることができ、非常に有意義である。適宜、次年度の授業の内容や進め方に反映させていきたい。
具体的には、高い評価を受けた項目として、「受講者が理解しやすいよう、体系的にまとめられていた」点がある。これは、各回ごとの内容を系統立てて、かつ、毎回、当該項目については完結する形で授業を進めた点や、比較的詳細に授業資料を用意した点が評価されたものと理解している。
また、「受講者の理解度や反応を考慮して講義を進めていた」点についても高い評価を受けた。これは、質疑応答を積極的に取り入れることにより、受講者の理解度を確かめながら授業を進めて行った点が評価されたものと受け止めている。
これらの点については、「Q12 効果的だった学習活動」「Q16 この授業の良かった点」等でも好意的な評価を受けており、次年度も同様のスタイルで授業を進めていきたい。
- 8 ハイブリッドは教員側の負担が大きいが、臨機応変の対応が評価されたことで、引き続き頑張る気力が湧きました。
昨年度のアンケートで双方向性確保の要望が多かったことを受けて、講義形式を発表・討論型に組み直したのが好評だったので、引き続きアンケートを注視していきたいと思います。

- 9 一部のかたがオンラインの授業だったのでコメントしづらいということでしたので、工夫してみます（例えば、授業中にチャットで質問してもよいことを重ねて伝える）
- 10 今回の授業は、感染症の影響がありやや変則的でした。今後、オンラインも活用した授業の可能性を考えるうえで、検討させていただきます。
- 11 今回、授業ではそれぞれに一長一短があるために、2種類の無料統計ソフト（HADとR）を利用した。Rは世界的に劇的な普及度向上を遂げており、その柔軟性やレベルの高さなど、専門的、実務的な分析を行う上で適切で、学生の将来にとっても有用なソフトだが、操作性に問題があり、その動作とともに統計分析の基礎的知識を教えつつ、初学者にこれを導入することは難しいと思われたため、操作性に非常に優れたHADで前半に知識の導入を行い、後半にRの操作を指導する二段階方式を採用した。この方式には一定の効果があったと思われるし、一部の学生からは支持されたようだが、一部の学生には消化不良を起こしたようである。アンケート結果からも、Rの動作の説明に時間を取られ、これまでの授業に比べて統計分析自体の説明が不足していたかもしれない反省するところである。学生の側からは（来年以降の授業方式に関する提案を教員から求めたもの）Rに統一すべきではないか、との提案が多かったように思われるが、教員としてはやはり考え方や理解に重点を置きたいとの意図から来年以降はHADだけで進めることに変更したいと考えている。
- 12 今年度は、全ての回をZoomの音声中心で行ったが、その影響が問6の答え（理解度や反応を考慮した講義）などに若干出ているのか、と思いました。2021年度は、「対面」方式と承知していますが、万一、Zoomとなった場合には、この点に留意していきたいと思います。
シラバスの記載が十分ではない、とした参加者が1名いましたが、この参加者が指摘する「履修要件」と「成績評価の方法・基準」については、例年通りの記載であり、何か不足していたのかは不明ですが、シラバスの記載については、引き続き、注意していきたいと思います。
- 13 現在の授業の内容・進め方に大きな問題がないことを確認できたので、来年以降も参加者の状況を勘案しつつ、同様のやり方で授業を進めていく所存である。
- 14 ●今回は初めての参加ということもあり、伝えておきたいことをかなり詰め込みました。講義は3回担当しましたが、6回分くらいに相当すると思います。現実のビジネス社会や経済と安全保障の絡みは、分析するうえで幅広い知識が必要です。実際のPPTにはかなり参考になるデータを添付しましたが、今後も講義を担当するすれば、もう少し使うデータを絞ろうかと思います。それと1次資料（日銀、財務省、FRB WB IMFなど）を検索することの重要性も具体的なテーマを設定して教えたいと考えています。
●4人が分担しているため、講義構成の打ち合わせをしっかりやりたいと思います。
公共政策は国境で止まるという言葉がありますが、現実の世界では日本国内だけにとらわれず、各国の影響を織り込んだ政策を担う意識が必要です。経済とリンクする安全保障という大きなテーマを設定したのは、受講生に実際の日本の国際政策を考えもらいたいという狙いからです。最初にリポートを提出した人（2020年12月中。締め切りは2021年1月5日）には、日本政府を被告にしたいわゆる従軍慰安婦訴訟の判決が1月8日にソウル地裁で出ることに関係し、主権免除を認めない判決が出て日本政府は敗訴するとの予想を伝えました。結果は実際にそうなったわけですが、公共政策を担う人には、勝訴、敗訴のシナリオを予想し、どういう政策を用意すべきか。本来はそこまで講義をしてもよかったです、リンクする経済と安全保障からは一見、外れるため、見送りました。
- 講義の合間に、金や穀物、原油、日本の選挙の結果などの相場データを提供しましたが、息抜き+国際政治がどう動くかを見る目を養うという目的があったからです。これは普段から意識してデータを見る習慣をつけていないといけないと私は考えています。例えば金の価格動向で国内の政策が変わり、金利や原油相場と世界の原油生産量の推移で米国（トランプ前大統領のころ）の中東政策の大きな変化を予測する。シェールガスの産出量の変化をチェックしていれば、ある程度、予測できたはずです。そうしたことはビジネス社会では企業の戦略部門を担当する部長、役員には必須の能力といえます。できれば提示したPPTのデータからそうした予想ができるようになってもらいたいものです。
- 15 来年度後期の開講までに結果をよく検討して、改善できることがあれば取り組むつもりです。
- 16 受講者の方とのコミュニケーションの部分で、微妙なコメントが多かったと思われます。また音声だけで講義を聴くのが苦痛だったというコメントも頂きました。これを解決するためには対面式の講義が早期に実現すればありがたいと思います。
- 17 例年の受講院生からのコメントと大きな乖離は有りませんでした。
引き続き、授業中でも受講生の要望などを前広に聞いて、学習がし易い環境を形成していきたいと存じます。
本年度はコロナ禍の影響で、東京からゲストスピーカーを呼ぶ機会が持てなかったが、新年度は状況が改善し、適切な講演者をゲストとして迎えられる事を期待しています。
- 18 テキストの選択についてネガティブなコメントが複数見られたので、講義目的との関係で次年度以降はテキストの選択を慎重に進めたい。
- 19 受講生による口頭での発表の機会を設けたことにより、受講生が自ら考える意欲が増した。受講生の発表に対する討議の時間の充実を図っていきたい。
- 20 今回は、オンデマンド形式で講義が行われました。これによって、受講生が30名近くとなり（MBA含む）、従前とは全く異なる状況となりました。
アンケート結果で特筆すべき事項として、まず問3（難易度）につき、「ちょうどよかった」が80%（平均60%）であり、一定の評価が得られたことに安堵しました。本科目は理論・計算構造の説明が中心であることから、会計学未履修者への配慮に毎年腐心しております。本年度はオンデマンド授業で、非常な制約があるなか、当該理解に力点を置いたことが功を奏したと思われます。

しかし、問4（興味・知的関心を惹くものか）につき、「まったく惹かなかった」が2人おり（全科目で3人）、厳しい審判を受けました。会計学は、商取引の計算につき、演繹的にあるべき方法を導出していくものであり、その意義を、精緻な論理性をもって、かつ分かりやすく説明しなければ、興味・関心が惹くものとはなりません。例年、「会計の社会的意義」を強調することで、当該学習のモチベーションを高めようとしていますが、本年度は、それが上手く出来なかつたと考えます。来年度は対面授業に戻るので、この点、即ち①会計の社会的意義、②会計学に内在する強度な論理性の教示、の2点に留意しながら、講義を進めたいと思います。

また、問6（受講者の理解度・反応を考慮して進めたか）については、「3・4・5」で40%あり、平均の22%を上回りました。提出された毎回のレポートをチェックしてはいましたが、十分でなかったと反省しています。来年度は対面形式に戻るため、授業中に理解度・反応を正確に把握しながら、講義を進めていきたいと思います。

さらに、問14（授業テーマにつき明確に把握できた）につき、「1」が、25%であり、平均の48%よりもかなり少ない結果となりました。これも問4と同様に「会計の社会的意義」を強調し、そこから、基本目的と計算構造を説明するように心掛けます。

最後に、記述式の問17（改善してほしい点）につき、やはり、理論の理解に苦慮したことが伺えました。当該克服には、ホワイトボードによる説明が有効であり、来年度は対面授業となるため、これによってわかりやすく丁寧に説明したいと思います。

- 21 アンケート問2の回答内容が大きく分かれたので、参考図書の読書時間のかレポート作成時間なのか、学生の対応状況を把握することにしたい。
- 22 アンケート結果は大いに役に立ちました。このアンケート結果により、具体的に何をどう改善しようということはありませんが、授業が受講生に好評であるということは、それだけで、授業する側の授業意欲も向上させてくれます。来年度も、受講生に役に立ったと思われ、その学習意欲を向上させる充実した授業を心がけていきたいと思います。
- 23 今季の授業については、研究に充てるべき時間を相当割き、かなりの程度の時間と労力をかけて授業の準備をし、授業に臨んだものであるが、当方の問題意識が十分伝わらなかったようでその点が残念である。
今後はもっと当方の問題意識が伝わるように資料の作り方や授業での説明方法を改善してまいりたい。
- 24 自由記述にいろいろ書いてもらえば有益だが、5段階評価の部分は、人数が少ないこともあり、あまり参考にならないと考えている。
- 25 問6の評価が低い学生がいたので、今後は学生に対する質問の回数や学生自身に授業のポイントを説明させる回数を今まで以上に増やすようにしたい。
- 26 個々の質問項目の回答割合、個別の記述コメントを参考に、次回の授業に向けて修正すべき点、改善すべき点を考えたい。
- 27
 - ・今回、講義の中で外部講師による授業を行ったが、その際にシラバスへの反映を十分に行えなかつた。外部講師による授業内容を早期に確定し、シラバスへの反映や講義の中での事前周知などを十分に行うこととした。
 - ・zoomでディスカッションを十分に行えなかつた。これは、教員側のスキルに負うところが大きく、他の教員との情報交換等により教員側のレベルアップを行う必要がある。
- 28 アンケート自体は、少人数で学生との距離感が近い授業ということもあって、回答者にも遠慮があるのではないか（辛口な評価が思ったより少ない）と思われ、割り引いて評価する必要があるように思っています。
その上で、授業の様子なども考慮して、学生との討論をより活発にできるスタイルに変えたいと考えていますが、授業で扱うテーマ設定などに関わる話なので、現時点で具体的な方策までは決め切れていません。
- 29 全体のアンケート結果に比して、当CSについてのアンケート結果をみておりますと、「やや難しい」と院生が感じていたように思われました。
当CSは、実際に府省で行われているプロセスを疑似体験するものであり、特に教科書もないでの、院生にとっては、取り組みにくいものであったかもしれません。そこで、実際の「骨太の方針」や各府省の概算要求の内容を説明して、これらを参考にするよう指導していますが、教員からもさらにわかりやすく体系的に説明するように努め、院生がスムーズにCSを行えるよう留意してまいりたいと思います。
また、各回ごとに、受講院生の理解状況をよく確認しながらCSを進行・展開するように努めていきたいと思います。なお、既に国の府省に内定している院生も受講していたこともあり、「今後大いに役立つ」ものと評価していただいたので、さらに内容を充実させていきたいと考えております。

令和元年度 インターンシップ履修状況

番号	区分	氏名	受入先	日程
1	霞が関	A	総務省情報流通行政局情報通信政策課	9/2 ~9/13
2	霞が関	B	法務省 国連アジア極東犯罪防止研修所	8/26~9/6
3	霞が関	C	厚生労働省社会・援護局地域福祉課	8/5 ~8/16
4	霞が関	D	総務省国際戦略局国際政策課・総務課	9/9 ~9/20
5	霞が関	E	厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室	9/9 ~9/20
6	霞が関	F	農林水産省政策統括官付農産企画課	7/29~8/9
7	霞が関	G	人事院人材局企画課	9/9 ~9/20
8	霞が関	H	厚生労働省人材開発統括官付人材開発総務担当参事官室	9/2 ~9/13
9	霞が関	I	経済産業省大臣官房秘書課	8/26~8/30
10	霞が関	J	国土交通省	9/9 ~9/13
11	霞が関	K	経済産業省大臣官房秘書課	8/19~8/23
12	霞が関	L	経済産業省大臣官房秘書課	8/26~8/30
13	霞が関	M	法務総合研究所国際協力部	8/5 ~8/9
14	霞が関	N	経済産業省大臣官房秘書課	8/26~8/30
15	霞が関	O	厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課	9/17~9/30
16	霞が関	P	経済産業省大臣官房秘書課	8/5 ~8/10
17	霞が関	P	防衛省	8/26~8/28
18	霞が関	Q	総務省自治行政局選挙部選挙課	8/26~8/30
19		R	文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課	9/9 ~9/20
20		S	全国市町村国際文化研究所	9/12~9/27
21		T	認定NPO法人環境エネルギー政策研究所	9/9 ~9/27
22		U	外務省国際法局経済条約課	8/5 ~8/16
23		A	経済産業省	8/19~8/23
24		T	環境省地球環境局総務課低炭素社会推進室	8/19~8/30
25		F	環境省大臣官房総務課	8/26~8/30
26		G	防衛省	9/2 ~9/4

資料 17-2

令和2年度 インターンシップ履修状況

番号	区分	氏名	受入先	日程
1		A	経済産業省	8/24～8/28
2		B	経済産業省	8/24～8/28
3		C	総務省総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課	8/24～8/26
4		D	総務省自治行政局公務員部公務員課	8/31～9/2

※令和2年度は公共政策大学院霞が関インターンシップは中止。

資料 18

4 応募・受入状況(大学院別)

【単位:人】

大 学 名		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	2019年度	統計
■■■	応募人数	2	4	3	6	7	5	8	3	3	4	5	8	2	60
■■■	受入人数	2	4	1	2	4	3	4	1	2	0	2	5	0	30
■■■	応募人数					4	9	4	8	8	4	4	6	3	50
■■■	受入人数					3	5	2	7	6	2	1	1	2	29
■■■	応募人数	7	23	19	14	18	16	8	23	21	16	19	12	6	202
■■■	受入人数	6	17	16	12	16	12	5	14	12	6	12	11	4	143
■■■	応募人数	9	13	12	11	11	13	9	17	14	11	11	14	6	151
■■■	受入人数	9	13	9	9	5	6	5	4	5	7	6	10	3	91
京都大学	応募人数	8	13	15	21	19	20	26	24	20	17	18	20	22	243
京都大学	受入人数	8	9	11	15	13	12	20	14	14	12	11	16	17	172
■■■	応募人数						8	6	6	3	5	10	5	5	48
■■■	受入人数						3	3	3	2	3	3	3	2	22
■■■	応募人数	6	2	2	5	3	2	3	3	2	1	3	2	0	34
■■■	受入人数	4	2	2	1	1	1	2	1	1	0	2	1	0	18
■■■	応募人数	4	1	8	6	7	1	2	7	3					39
■■■	受入人数	4	1	4	5	5	1	1	3	1					25
計	応募人数	36	56	59	63	69	74	66	91	74	58	70	67	44	827
計	受入人数	33	46	43	44	47	43	42	47	43	30	37	47	28	530

※ ■■■ は平成23年度、■■■ は平成24年度より参加

資料 19 - 1

平成31（令和元）年度霞が関特別講演 実施状況

共通テーマ： -最前線の行政官が語る霞が関-

会場： 京都大学吉田キャンパス 法経済学部本館法経第11教室

時間： 各回とも前半(13:30～14:30)・後半(14:45～15:45)

回	月日	講演テーマ及び講師	参加者数 (人)
1	4月25日 (木)	「METI Mission～日本を動かし・世界で戦う～」 経済産業省 大臣官房秘書課 課長補佐 八木 春香 氏	21
		「競争を守護する その組織、公正取引委員会」 公正取引委員会 事務総局官房人事課 課長補佐（給与・組織担当） 佐藤 正直 氏	13
2	5月16日 (木)	「情報の力。公共の安全。」 公安調査庁 総務部人事課 上席公安調査専門職 岡田 大介氏	21
		「評価を通じて何ができるか～政策の質を高めるために～」 総務省 行政評価局政策評価課 専門官 伊藤 幸寛 氏	26
3	5月30日 (木)	「「地方創生」について～課題先進国の最前線～」 財務省 関税局監視課兼調査課 課長補佐 松岡 将 氏	20
		「環境省自然保護官(レンジャー)のリアル」 環境省 自然環境局野生生物課希少種保全推進室 室長補佐 松木 崇司 氏	14
4	10月3日 (木)	「国土交通行政概論～この国の将来をデザインする仕事～」 国土交通省大臣官房人事課長補佐 杉内 香織 氏	40
		「特許庁×AI～AI技術の活用について～」 特許庁総務部総務課 課長補佐（調整班 計画係長） 多賀 和宏 氏	38
5	10月10日 (木)	「厚生労働省で働くということ」 厚生労働省健康局がん・疾病対策課 課長補佐 麻那古 直大 氏	48
		「国税庁総合職職員の仕事」 国税庁課税部消費税室 課長補佐 新垣 南 氏	38
6	10月31日 (木)	「外務省の役割：広大なフィールドで戦略を描き、国益を追求する」 外務省国際協力局国別開発協力第二課 首席事務官 植田 達也 氏	55
		「なぜ国家公務員なのか～地方活性化から国際交渉まで～」 農林水産省経営局農地政策課農地集積推進室長 峯村 英児 氏	38
7	11月7日 (木)	「内閣府で働くということ～15年間の経験から～」 内閣府大臣官房政策評価広報課 課長補佐 小池 智歌 氏	22
		「出入国在留管理庁における女性職員の現状について」 法務省大阪出入国在留管理局関西空港支局 次長 菅野 典子 氏	27
参加者 計			421

資料 19 - 2

令和2年度「オンライン政策講演会」実施結果

テーマ： 最前線の行政官が語る霞が関

Zoomによるオンライン実施

対 象： 京都大学の学生のみ

時間帯： 前半：13:30～14:30 後半：14:45～15:45

2020年

月日 曜日	講演府省名	講演者所属等	講演者氏名	講演テーマ	閲覧 数
11月5日 (木)	農林水産省	大臣官房政策課技術政策室 課長補佐	坂下 誠	「農林水産省で働くこと～あるOB職員の経歴から～」	10
	国土交通省	大臣官房人事課 課長補佐（事務系） 大臣官房公共事業調査室 主査（技術系）	米倉 大悟 増田 達	「国土交通省での業務について」	13
11月19日 (木)	警察庁	長官官房人事課 課長補佐	正木 伊純	「警察庁の搖るぎないミッションとやりがい」	10
	防衛省	大臣官房秘書課 防衛部員 大臣官房秘書課 係員	川西 貴史 木村 祐暉	「京大卒の2人が語る防衛省・「背広組」の役割」	11
12月3日 (木)	総務省	情報流通常行政局 地域通信振興課 課長補佐	堀島 佑月	「いかにして「調整」するか？何をやるべきか？－自治体、国際、情報通信etc…多様なフィールドを経て学んだ本質－」	11
	経済産業省	大臣官房秘書課 課長補佐	丸田 康一郎	「経産省で働くということ 未来づくりの「場」としての経産省」	9
12月17日 (木)	外務省	欧州局ロシア課首席事務官	中西 勇介	「変化する国際情勢の中での外交－対露外交、条約交渉、国連外交の現場での経験から」	17
	財務省	財務省關稅局關稅課 課長補佐	神代 康幸	「百万遍、霞が関、地方、世界～財務省での政策、キャリア～」	13
参加者 計					94

資料 20 - 1

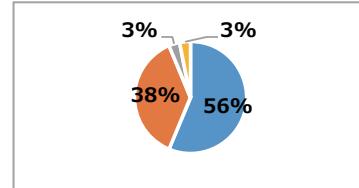
令和元(平成31)年度修了生 公共政策大学院ディプロマ・ポリシーに基づく
学習成果に関する了時アンケート結果

回答者数 32/37名 回答率 86.5 %

大学院での学習・研究を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下の諸点について、どの程度、達成できたと思いますか。該当するものを一つ選択してください。

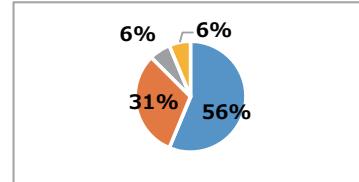
(1) 社会的変化を歴史的・理論的観点から理解・考察する知力

1	かなり身についた	18 (人)	56%
2	ある程度身についた	12	38%
3	どちらともいえない	1	3%
4	あまり身につかなかった	1	3%
5	全く身につかなかった	0	0%



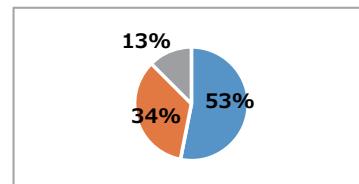
(2) 多様な価値が存在する中で公共的利益を見極める洞察力

1	かなり身についた	18 (人)	56%
2	ある程度身についた	10	31%
3	どちらともいえない	2	6%
4	あまり身につかなかった	2	6%
5	全く身につかなかった	0	0%



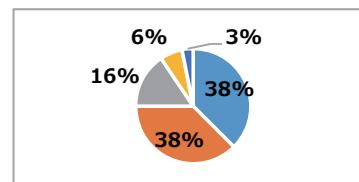
(3) 公共的利益を実現する仕組みを提示する制度や政策の設計能力

1	かなり身についた	17 (人)	53%
2	ある程度身についた	11	34%
3	どちらともいえない	4	13%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



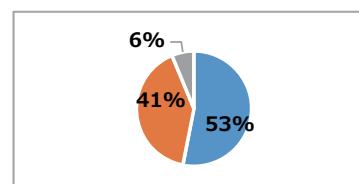
(4) 策定された制度・政策を効果的に運用する実践能力

1	かなり身についた	12 (人)	38%
2	ある程度身についた	12	38%
3	どちらともいえない	5	16%
4	あまり身につかなかった	2	6%
5	全く身につかなかった	1	3%



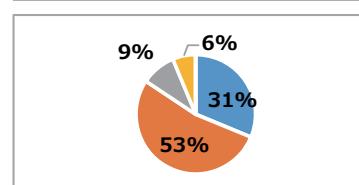
(5) 制度・政策を冷静に分析する評価能力

1	かなり身についた	17 (人)	53%
2	ある程度身についた	13	41%
3	どちらともいえない	2	6%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



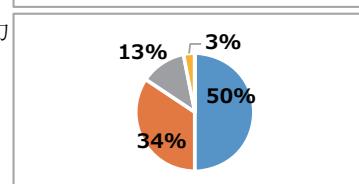
(6) 制度・政策の形成や執行、評価等を行う上で必要な専門的知見・能力

1	かなり身についた	10 (人)	31%
2	ある程度身についた	17	53%
3	どちらともいえない	3	9%
4	あまり身につかなかった	2	6%
5	全く身につかなかった	0	0%



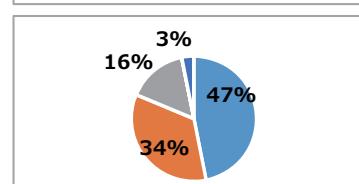
(7) 豊かな教養に基づく長期的・大局的視野、柔軟な思考力や的確な判断力

1	かなり身についた	16 (人)	50%
2	ある程度身についた	11	34%
3	どちらともいえない	4	13%
4	あまり身につかなかった	1	3%
5	全く身につかなかった	0	0%



(8) 高度専門職業人として必要な強い倫理的責任感

1	かなり身についた	15 (人)	47%
2	ある程度身についた	11	34%
3	どちらともいえない	5	16%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	1	3%



資料 20 - 2

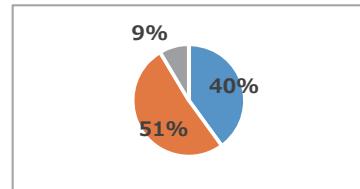
令和2年度修了生 公共政策大学院ディプロマ・ポリシーに基づく
学習成果に関する了時アンケート結果

回答者数 35/36名 回答率 97.2%

大学院での学習・研究を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下の諸点について、どの程度、達成できたと思いますか。該当するものを一つ選択してください。

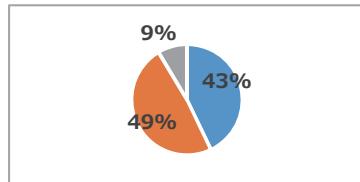
(1) 社会的変化を歴史的・理論的観点から理解・考察する知力

1	かなり身についた	14 (人)	40%
2	ある程度身についた	18	51%
3	どちらともいえない	3	9%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



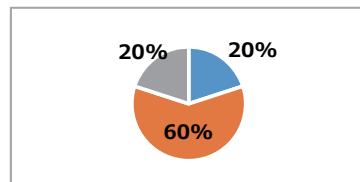
(2) 多元的価値が存在する中で公共的利益を見極める洞察力

1	かなり身についた	15 (人)	43%
2	ある程度身についた	17	49%
3	どちらともいえない	3	9%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



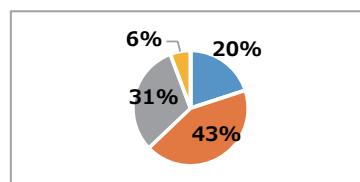
(3) 公共的利益を実現する仕組みを提示する制度や政策の設計能力

1	かなり身についた	7 (人)	20%
2	ある程度身についた	21	60%
3	どちらともいえない	7	20%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



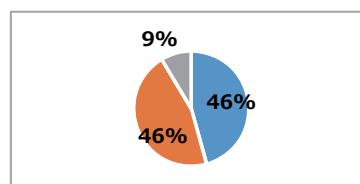
(4) 策定された制度・政策を効果的に運用する実践能力

1	かなり身についた	7 (人)	20%
2	ある程度身についた	15	43%
3	どちらともいえない	11	31%
4	あまり身につかなかった	2	6%
5	全く身につかなかった	0	0%



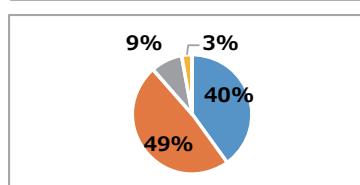
(5) 制度・政策を冷静に分析する評価能力

1	かなり身についた	16 (人)	46%
2	ある程度身についた	16	46%
3	どちらともいえない	3	9%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



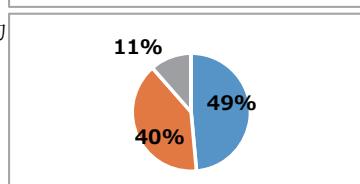
(6) 制度・政策の形成や執行、評価等を行う上で必要な専門的知見・能力

1	かなり身についた	14 (人)	40%
2	ある程度身についた	17	49%
3	どちらともいえない	3	9%
4	あまり身につかなかった	1	3%
5	全く身につかなかった	0	0%



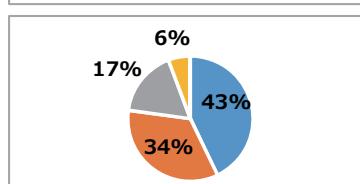
(7) 豊かな教養に基づく長期的・大局的視野、柔軟な思考力や的確な判断力

1	かなり身についた	17 (人)	49%
2	ある程度身についた	14	40%
3	どちらともいえない	4	11%
4	あまり身につかなかった	0	0%
5	全く身につかなかった	0	0%



(8) 高度専門職業人として必要な強い倫理的責任感

1	かなり身についた	15 (人)	43%
2	ある程度身についた	12	34%
3	どちらともいえない	6	17%
4	あまり身につかなかった	2	6%
5	全く身につかなかった	0	0%



令和元年度修了生 進路調査まとめ

修了生 37人		2020年3月末現在	
就職		就職企業名等	人数
国家公務員	5人	総務省	1
		防衛省	1
		国土交通省	1
		厚生労働省	1
		内閣府	1
地方自治体	3人	東京都庁	1
		三重県庁	1
		大阪府庁	1
特殊法人・報道機関	1人	株式会社国際協力銀行	1
金融機関・インフラ企業	3人	関西電力株式会社	1
		三井住友信託銀行	1
		シティーグループ証券	1
民間会社等	14人	パーソルキャリア株式会社	1
		三井物産株式会社	1
		三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社	1
		株式会社ADKホールディングス	1
		株式会社日本総合研究所	1
		株式会社クニ工	1
		日本IBM株式会社	1
		みずほ情報総研株式会社	1
		ライズ・コンサルティング・グループ	1
		デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社	1
		株式会社 レノバ	1
		株式会社 YCP Solidiance	1
		アクセンチュア株式会社	1
		山本特許法律事務所	1
合 計			26
復職		復職先名等	人数
国家公務員	3人	海上保安庁	1
		経済産業省	1
		厚生労働省東京労働局	1
地方自治体	3人	明日香村議會議員	1
		和歌山県庁	1
		三重県庁	1
社団法人	1人	日本証券業協会	1
自営業	1人	北野グランデ法律事務所(弁護士)	1
特殊法人・報道機関			
合 計			8
その他	未定		3
合 計			3

令和2年度修了生 進路調査まとめ

修了者38名（9月修了者含む）

2021年3月23日現在

就職

		就職企業名等	人数
国家公務員	15人	内閣府	1
		総務省	3
		外務省	1
		厚生労働省	3
		農林水産省	1
		経済産業省	2
		国土交通省	2
		環境省	1
		警察庁	1
地方自治体	2人	兵庫県庁	1
		東京都庁	1
特殊法人・報道機関	4人	国立研究開発法人 新エネルギー産業技術総合開発機構	1
		独立行政法人 日本貿易振興機構	1
		独立行政法人 環境再生保全機構	1
		スマートニュース株式会社	1
金融機関・インフラ企業	5人	日本政策投資銀行	1
		日本政策金融公庫	1
		東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）	1
		東邦ガス株式会社	1
		興業銀行成都分行	1
民間会社等	6人	楽天株式会社	1
		株式会社百五総合研究所	1
		森永乳業株式会社	1
		株式会社日本貿易保険	1
		Dcard Holdings Ltd	1
		株式会社ワールディング	1
合 計			32

復職

		復職先名等	人数
国家公務員	1人	大阪国税局	1
地方自治体	2人	岐阜県庁	1
		京都府庁	1
社団法人			
自営業			1
特殊法人・報道機関			
合 計			4

その他

起業準備		1
不明		1
合 計		2

令和元年度 予算計画

(単位:千円)

区分事項	令和元年度	平成30年度	前年比較 △減額	備考
1. 大学運営費	25,361	26,434	△ 1,073	
2. 前年度繰越金	826*			施設修繕計画積立金
3. 科学研究費間接経費	1,893			
合 計	28,080	26,434	1,646	

* 平成30年度施設修繕計画積立金。令和元年度負担額は512千円(5. 施設整備修繕計画負担金)であるため、差額の314千円は13. 翌年度繰越金に計上。

区分事項	令和元年度 当初計画額(※)	平成30年度 当初計画額	前年比較 増減額	配分方針
1. 図書経費	1,200	1,200	0	前年度配分額と同額を配分する。
2. 中央経費	9,201	9,166	35	
①備品費	0	0	0	前年度配分額と同額を配分する。
②消耗品費	400	400	0	前年度配分額と同額を配分する。
③印刷製本費	1,376	1,237	-139	前年度実績額に加え、当該年度見込まれる経費を配分する。
④複写経費	100	100	0	前年度実績額を基礎として配分する。
⑤賃金	6,505	5,844	-661	前年度実績額および雇用予定に応じて積算した額を配分する。
⑥雑役務費	414	1,152	△ 738	過去2~3カ年の実績額を基礎として配分する。
⑦施設整備費	406	433	△ 27	前年度実績額を基礎として配分する。ただし、前年度の実績が例年と比較して著しく増額、あるいは減額している場合には、前年度配分額と同額を配分する。
3. 情報関連費	1,126	1,126	0	前年度実績額を基礎として配分する。
4. 吉田地区共通経費	3,101	3,102	△ 1	前年度実績額を基礎として配分する。
5. 施設修繕計画負担金	512	413	-99	施設部からの見込額を配分する。
6. 教員研究旅費等	1,250	1,250	0	4月1日付、教員現員により配分する。(特別教授、実務家教授を除く)
7. 旅費	4,380	4,410	△ 30	
非常勤講師旅費	3,730	3,700	-30	前年度実績額を基礎として配分する。
招へい旅費	300	420	△ 120	前年度実績額を基礎として配分する。
管理旅費	350	290	-60	前年度実績額を基礎として配分する。
8. 学生自主活動支援経費	3,000	3,000	0	前年度配分額と同額を配分する。
9. 連携研究部長裁量経費	1,253	1,253	0	特別教授、実務家教授および教員研究旅費等の調整及び当該年度の予算計画を踏まえ、一定の額を配分する。
10. 予備費	1,203	0	1,203	1~9,11~13を除いた額を配分する。
11. 特別事業	0	0	0	令和元年は、当該年度限りの事項がないため、配分はしない。
12. 文系共通事務部経費負担	1,540	1,514	-26	「本部構内(文系)共通事務部連絡協議会」において承認された本部構内(文系)共通事務部経費負担額を配分する。
13. 翌年度繰越金	314	0	314	
合 計	28,080	26,434	1,646	

R1年度当初計画額25,361千円の内訳: 当初配分25,361千円(留学生経費含む)

H30年度当初計画額26,434千円の内訳: 当初配分25,952千円+追加配分(留学生経費)482千円

H29年度当初計画額26,312千円の内訳: 当初配分25,988千円+追加配分(留学生経費)324千円

資料 22 - 2

令和元年度 予算執行状況報告書

(単位:千円)

		R1年度					参考		
		予算			決算	差引 (予算-決 算)	参考		
		当初計画額	追加配分額 (予定含む)	合計予算額			30年度 決算額	前年度 差引増減額	
大学運営費他※	1. 図書経費	1,200		1,200	1,228	△28	1,194	34	
	2. 中央経費	9,201		9,201	9,151	△50	10,007	△856	
	① 備品費				180	△180	145	36	
	② 消耗品費	400		400	846	△446	1,043	△198	
	③ 印刷製本費	1,376		1,376	1,302	74	1,415	△113	
	④ 複写経費	100		100	68	32	89	△21	
	⑤ 賃金	6,505		6,505	5,848	657	5,305	542	
	⑥ 雑役務費	414		414	468	△54	1,575	△1,108	
	⑦ 施設整備費	406		406	440	△34	435	5	
	3. 情報関連費	1,126		1,126	1,136	△10	1,126	10	
	4. 吉田地区共通経費	3,101		3,101	3,056	△45	2,194	862	
	5. 施設修繕計画負担金	512		512	522	△10		522	
	6. 教員研究旅費等	1,250	1,000	2,250	2,029	221	2,129	△100	
	7. 旅費	4,380		4,464	4,599	△135	4,384	216	
	非常勤講師旅費	3,730		3,730	3,988	△258	3,729	259	
	招へい旅費	300		300	337	△37	300	38	
	管理旅費	350		350	190	160	355	△165	
	赴任旅費		84	84	83	1		83	
	8. 学生自主活動支援経費	3,000		3,000	2,081	919	※3	1,960	121
	9. 連携研究部長裁量経費	1,253	△800	453	188	265		31	157
	10. 予備費	1,203	△678	525		525	※4	428	△428
	11. 特別事業		44	44	43	1		42	1
	TA		44	44	43	1		42	1
	評価指標達成促進経費								
	12. 文系共通事務部経費負担	1,540		1,540	1,485	55		1,461	24
	13. 翌年度繰越金	314		314	304	10			304
	14. 非常勤講師手当		2,054	2,054	2,918	△864	※2	2,781	137
合 計		28,080	1,704	29,784	28,740	1,044		27,737	1,003

※当初見込んでいた間接経費も含む。

施設修繕積立金上限 1,044,000

使途未定金(合計-積立金) 0

※1 年度末、追加実施分として、600千円での各教室のテーブル付椅子計20脚の購入

※2 非常勤講師手当配分額2,054千円、実支出額2,917千円 △864千円 マイナス分は中央経費にて補填

※3 学生の活動数による。例年多めに予算計上(3,000千円)している。

※4 主なマイナス要因: 令和2年度以降に持ち越せる間接経費(765千円)をマイナス計上、新研究部長準備金(200千円)を研究部長裁量経費へ振替

資料 23

令和2年度 予 算 計 画

(単位:千円)

区分事項	令和2年度	令和元年	前年比 増△減△額	備考
1. 大学運営費	24,903	25,361	△ 458	
2. 前年度繰越金※	1,044	826	218	施設修繕計画積立金
3. 科学研究費間接経費	1,774	1,893	△ 119	
合計	27,721	28,080	△ 359	

※ 令和元年度施設修繕計画積立金。令和元年度負担額は522千円(5. 施設整備修繕計画負担金)であるため、差額の522千円は13. 翌年度繰越金に計上。

区分事項	令和2年度 当初計画額(実)	令和元年度 当初計画額	前年比較 増減額	配分方針
1. 図書経費	1,200	1,200	0	前年度配分額と同額を配分する。
2. 中央経費	9,176	9,201	△ 25	
①備品費	0	0	0	前年度配分額と同額を配分する。
②消耗品費	400	400	0	前年度配分額と同額を配分する。
③印刷製本費	1,293	1,376	△ 83	前年度実績額に加え、当該年度見込まれる経費を配分する。
④複写経費	70	100	△ 30	前年度実績額を基礎として配分する。
⑤貢金	6,580	6,505	75	前年度実績額および雇用予定に応じて積算した額を配分する。
⑥雑役務費	427	414	13	過去2-3か年の実績額を基礎として配分する。
⑦施設整備費	406	406	0	前年度実績額を基礎として配分する。ただし、前年度の実績が例年と比較して著しく増額、あるいは減額している場合には、前年度配分額と同額を配分する。
3. 情報関連費	100	1,126	△ 1,026	前年度実績額を基礎として配分する。
4. 吉田地区共通経費	3,096	3,101	△ 5	前年度実績額を基礎として配分する。
5. 施設修繕計画負担金	522	512	10	施設部からの見込額を配分する。
6. 教員研究旅費等	1,250	1,250	0	4月1日付、教員現員により配分する。(特別教授、実務家教授を除く)
7. 旅費	4,518	4,380	138	
非常勤講師旅費	3,990	3,730	260	前年度実績額を基礎として配分する。
招へい旅費	338	300	38	前年度実績額を基礎として配分する。
管理旅費	190	350	△ 160	前年度実績額を基礎として配分する。
8. 学生自主活動支援経費	3,000	3,000	0	前年度配分額と同額を配分する。
9. 連携研究部長裁量経費	1,353	1,253	100	特別教授、実務家教授および教員研究旅費等の調整及び当該年度の予算計画を踏まえ、一定の額を配分する。
10. 予備費	1,054	1,203	△ 149	1~9,11~13を除いた額を配分する。
11. 特別事業	740	0	740	今年度は認証評価実施のために配分する。
12. 文系共通事務部経費負担	1,190	1,540	△ 350	「本部構内(文系)共通事務部連絡協議会」において承認された本部構内(文系)共通事務部経費負担額を配分する。
13. 翌年度繰越金	522	314	208	
合計	27,721	28,080	△ 359	

公共政策大学院の機能強化

総長ヒアリング資料 公共政策大学院

2015.3.18

現状と課題

- 専門大学院として公共性の高い分野に幅広い教養と高い専門性をもつた人材を輩出
- 専門大学院設置基準に則り平成18年度に開設、平成23年度に初の公認を取得する
- 中央省庁に採用される学年の比率は全国に7つある公共政策系専門大学院の中でトップレベル

近年の取組と実績

トップクラスの外部講師の招聘

- ★根本復興大臣(H25)、藤田元最高裁判所判事(H26)、白川(前)日銀総裁(H26)等

地域連携推進のため国内外の企業・団体と協力

学生の自主活動支援

- ・地方都市におけるまちなか居住の推進策
-滋賀県長浜市を例にしてー（京都府知事賞受賞）
- ・滋賀県長浜市の地域ブランド化（京都市長賞受賞）
- ・京都市事務事業評価サポート制度に16名の学生が参画

- 更なる教育・研究の充実、各種連携事業等社会的要請に応えるだけの人材・財源の安定的確保

専門大学院の独立性の確保

公共政策・地域連携構想

総長ヒアリング資料 公共政策大学院

2015.3.18

目的と機能

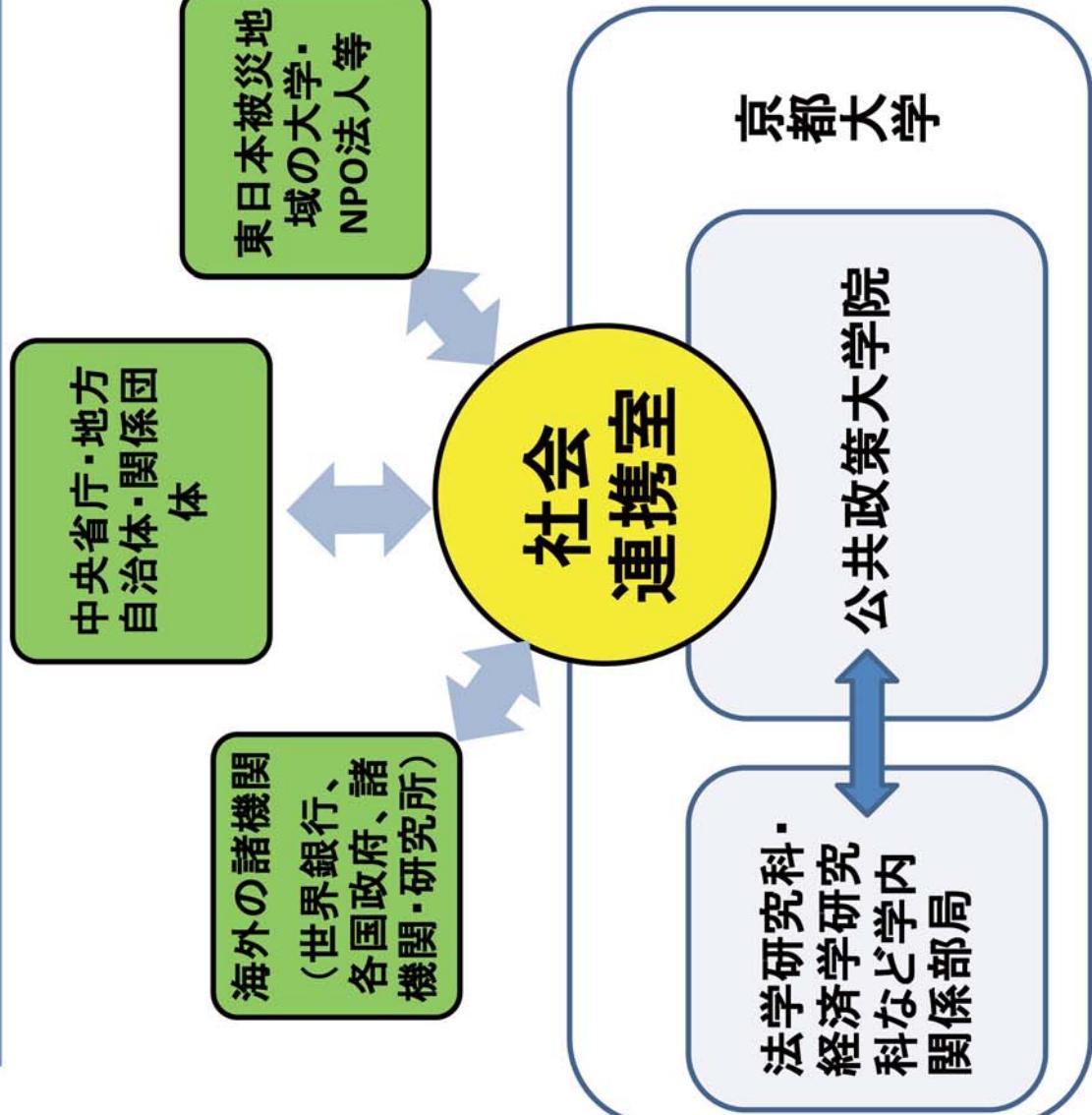
- 【目的】公共分野の人材の育成と地域連携、社会貢献事業の同時展開

- 【機能①】海外の諸機関、国・地方自治体、大学、NPO法人等との交流・連携のインターフェイス
- 【機能②】国内外へのインセンターン派遣、連携機関との共同による教育・研修プログラムの開発と管理

- 【機能③】国内外の公的機関、大学、NPO法人等連携機関との共同事業（調査、研修等）

組織・財政

- 専任教員の安定確保（設置基準）
- 実務スタッフの拡充
- 学内外の競争的資金・寄付金・受託調査費の確保





京都大学公共政策大学院による水曜公開講座スペシャル

参加費
無料

米中貿易戦争と世界の物流 国際機関から見る今日の国際情勢

20年弱に及ぶ国際機関勤務と外交交渉の経験をふまえ、
米中貿易摩擦などを例に最近の世界の物流をはじめとするクロスボーダー取引について解説する。
今日の国際機関における仕事の実態、意義等を分かりやすく解説し、国際機関の仕事に対する理解を深める。

2019年5月29日 水 18:30~20:30 (18:00 受付)

会場 京都大学公共政策大学院 公共第一教室(京都大学本部構内 総合研究2号館2F)

定員 50名 **対象者** 大学院生、学部生、企業経営者、社会人 等

講演者



世界税関機構事務総局長 御厨 邦雄 氏

1976年東京大学法学部卒業、同年大蔵省に入省。1977年フランス留学(パリ政治学院)、1981年福岡国税局大川税務署長、1984年理財局総務課長補佐、1987年主計局主計官補佐(司法・警察担当)、1990年外務省ジュネーブ国際機関日本政府代表部参事官、1993年関税局国際機関課關稅企画官、1996年主計局主計官(外務・通産・經濟協力担当)、1997年關稅局監視課長、1999年關稅局國際調査課長。2002年から世界税関機構事務局次長を2期務める。2009年に世界税関機構事務総局長に就任し、2014年に再任、2019年に再・再任(任期は2023年末)。



申込方法

氏名、所属(大学、研究科・学部学科等)、メールアドレス、を記載の上、メールにて「水曜公開講座事務局」宛にお申し込みください。定員に達し次第、締め切らせていただきます。お申し込み頂いた皆様には、参加可否に関わらずお返事を致します。

E-mail : nishimura.masatake.7r@kyoto-u.jp



*申込みに当たり提供のあった個人情報は、今回の講演会実施のために利用いたします。 *個人情報を集計して個人を特定できない統計資料を作成するために利用する場合があります。 *緊急の用務等により講師は予告なく変更される場合がございますので予めご了解願います。 *公演中の録音・撮影はご遠慮ください。

主催: 京都大学公共政策大学院社会連携室

第11回 京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナー

「働き方の未来と新しいひとづくり」

参加費
無料



京都大学公共政策大学院と全国市町村国際文化研修所(JIAM)では、毎年、両者の連携によりセミナーを開催してきました。

第11回となる今年は、本格的な少子高齢化、人口減少社会を迎える一方、「Society5.0」の実現に向けた取組が進む中、これからの公共サービスとそれらに携わる人材の働き方について、また、京都の社会・経済のグローバル化への展望を踏まえた働き方の未来と新しいひとづくりについてお話しいただきます。

日程 令和元年9月27日(金)13:30~(開場13:00)

会場 京都大学 法経済学部本館1階法経第四教室

(教室は変更となる場合がございます)

住所: 京都市左京区吉田本町

対象 本テーマに関心のある方々

申込方法 裏面をご覧ください

講演者

「職業としてのこれからの官僚」

立命館大学政策科学部 教授

眞渕 勝 氏



「『グローバル都市・京都』の ビジョンと変革を 生み出す人材への期待」

NISSHA株式会社

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

一般社団法人 京都経済同友会 特別幹事



鈴木 順也 氏

京都大学吉田キャンパス アクセス

*駐車場はございませんので、市バス他、公共交通機関をご利用ください。



お問い合わせ

公益財団法人全国市町村研修財団

全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部・調査研究部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13-1

TEL 077-578-5932 FAX 077-578-5906

[e-mail] renkei@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

第11回 京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナー

講 師 紹 介

真渕 勝氏 立命館大学政策科学部 教授

1955年神戸市生まれ。京都大学大学院法学研究科政治学専攻 修士課程修了(法学博士)。大阪大学法学部助教授、大阪市立大学法学部教授、1999～2016年京都大学大学院法学研究科教授を経て、2016年4月より現職。京都大学名誉教授。

主な著書として、『大蔵省統制の政治経済学』(中央公論社、1994年)、『行政学』(有斐閣、2009年)、『官僚』(東京大学出版会、2010年)、『風格の地方都市』(慈学社出版、2015年)など。

鈴木 順也氏 NISSHA 株式会社 代表取締役社長 兼 最高経営責任者／一般社団法人京都経済同友会 特別幹事

1964年京都市生まれ。慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。1990年4月株式会社第一勧業銀行(現株式会社みずほフィナンシャルグループ)に入行、1998年3月日本写真印刷株式会社(現NISSHA株式会社)に入社。取締役・常務取締役・専務取締役・取締役副社長を経て、2007年6月より現職。

2015年5月～2019年4月一般社団法人京都経済同友会代表幹事。同会の代表幹事として、2018年4月発表の創立70周年記念提言「グローバル都市・京都」のビジョンの策定をリード。同提言では、グローバル視点での産業の変革とそれを生み出す多様な人材の重要性について、主に京都の企業経営者に呼びかけた。

開 催 要 項

日 程

令和元年9月27日(金)
13:30～16:50

【プログラム】

13:00～	開場・受付
13:30～	開会
13:40～15:00	講演(「職業としてのこれからの官僚」 真渕 勝氏)
15:00～15:15	休憩
15:15～16:35	講演(「グローバル都市・京都」のビジョンと変革を生み出す人材への期待」 鈴木 順也氏)
16:35～16:50	閉会

場 所

京都大学 法経済学部本館1階法経第四教室 (教室は変更となる場合がございます)

住所:京都市左京区吉田本町(JR京都駅からバスで約35分／地下鉄烏丸線今出川駅からバスで約15分)
会場へのアクセスの詳細は下記アドレスからご確認ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/

対 象

本テーマに関心のある方々のご参加をお待ちしております

募 集 人 数

100人 募集人数を大幅に上回るお申し込みをいただいた場合は、申込期限前に締め切らせていただく場合がありますので、予めご了承ください。

参 加 費

無 料

申 込 期 限

令和元年9月13日(金)まで

申込方法

- JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)から申込書をダウンロードし、メールにて申込専用アドレス(renkei@jiam.jp)までお送りいただき、下記の参加申込書により、全国市町村国際文化研修所教務部・調査研究部にFAX(077-578-5906)してください。
- 京都大学の院生及び学生の方は、京都大学公共政策大学院掛に持参又はFAX(075-753-3104)してください。
※このセミナーは、申込み後、全国市町村国際文化研修所の通常の研修で送付する受講決定通知等を送付しません。

● 上記については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。

● 参加者によるセミナーの録音・写真撮影は、ご遠慮ください。

● 地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため、「ノー上着・ノーエクタ」などの軽装での参加を奨励しており、スタッフも軽装で執務しております。

第11回 京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナー「働き方の未来と新しいひとづくり」 参加申込書

所 属	団体名			
	部 署	(記載例: ○○部○○課、○○学部・○年生等)		
参 加 者	ふりがな	e-mail		
	氏 名	電話番号		
		(年 歳)	FAX番号	

上記のとおり、セミナーを申し込みます。

令 和 年 月 日

全国市町村国際文化研修所学長 あて

この申込書をご提供いただいた個人情報は、今回のセミナー実施のために使用します。

なお、個人情報を集計して個人を特定できない統計資料を作成するために利用する場合があります。

【お問い合わせ】全国市町村国際文化研修所 TEL. 077-578-5932 FAX. 077-578-5906

京都大学公共政策大学院・読売新聞社共催シンポジウム

参加費
無料
定員 : 250 名

政治主導時代における 行政官の役割

2019.12.7 土

時間 13:30 ~ 16:30 (開場 13:00)

場所 国際科学イノベーション棟 5F
シンポジウムホール
京都府京都市左京区吉田本町(京都大学吉田キャンパス本部構内)

プログラム

第1部

13:30	ご挨拶 岩本武和 京都大学公共政策大学院長
13:35	趣旨説明 鈴木基史 京都大学公共政策大学院教授
13:45	基調講演 「政治主導は本物か? - 永田町対霞ヶ関」 伊藤俊行 読売新聞東京本社 編集局次長兼政治部長 「行政官は何を担うのか? - 国際比較も踏まえて」 嶋田博子 京都大学公共政策大学院教授
15:10~15:30	休憩

第2部

15:30~16:30	ラウンドテーブル 司会進行：大川順 京都大学公共政策大学院2回生 伊藤俊行 読売新聞東京本社編集局次長兼政治部長 嶋田博子 京都大学公共政策大学院教授 石若寿秀 国際通貨基金(IMF) アジア太平洋地域事務所 エコノミスト(京都大学公共政策大学院3期生) 住田光世 経済産業省 製造産業局ものづくり政策審議室 課長補佐(京都大学公共政策大学院7期生)
-------------	---

申込方法

2019年12月5日迄に以下のリンクより参加登録ください。
URL <https://ws.formzu.net/sfgen/S64362215/>



お問合せ

EメールかFAXでご連絡ください。

京都大学法学研究科公共政策大学院掛
FAX 075-753-3104
E-mail kyomu033@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

政治主導時代における行政官の役割

2019.12.7 土 13:30 ~ 16:30 (開場 13:00)

シンポジウムテーマ

- (1)日本における「政治主導」の虚実と行政官の役割の変化
- (2)グローバル化とポストトゥルース(ポスト真実)の時代における政官関係
- (3)今後の行政官に要求される能力・資質



伊藤俊行 読売新聞東京本社 編集局次長兼政治部長

1964年東京生まれ。1988年早稲田大学第一文学部卒業、同年読売新聞社入社。金沢支局、92年東京本社、93年政治部(官邸、自民党、外務省を担当)、97年ハーバード大学国際関係センター日米プログラム研究員、98年政治部(自民党、民主党、官邸、外務省を担当)、03年ワシントン支局、05年政治部(自民党、外務省、官邸を担当)、07年政治部デスク(外交・安全保障、政局、選挙を担当)、11年政治部筆頭次長、調査研究本部研究員、12年編集委員兼調査本部研究員、15年メディア局編集委員、16年編集委員兼調査研究本部主任研究員、17年国際部長、18年より現職。



嶋田博子 京都大学公共政策大学院教授

1964年生まれ。1986年京都大学法学部卒業、人事院入庁。
在英国長期在外研究員、総務省人事局参事官補佐、外務省在ジュネーブ日本政府代表部一等書記官、立命館大学公務研究科教授、人事院事務総局総務課長、同給与局次長、人材局審議官等を経て、2019年4月から現職。
Oxford University M.A.(哲学・政治・経済学)。
近著に『政治主導下の官僚の中立性』(2020年慈学社より刊行予定)。



石若寿秀 国際通貨基金(IMF) アジア太平洋地域事務所 エコノミスト(3期生)

神戸市生まれ。関西学院大学文学部心理科卒。財務省入省後、主計局での勤務や金融検査の経験を経て、2008年に人事院国内研究員として、京都大学公共政策大学院に入学、2010年修了。その後、理財局、内閣官房での勤務やハーバード大学国際問題研究所客員研究員を経て現職。理財局(政府出資室)では、2015年11月の日本郵政 IPO を主導し、ハーバード大学においても日米の IPO・PO 市場についての研究に従事。



住田光世 経済産業省 製造産業局ものづくり政策審議室 課長補佐(7期生)

1989年広島生まれ。2012年京都大学法学部卒業後、京都大学公共政策大学院に7期生として入学、2014年修了。同年経済産業省に入省し、中小企業庁調査室で中小企業白書を担当。2016年から内閣官房日本経済再生事務局において成長戦略(農林水産業、イノベーション・ベンチャー分野)を担当し、2018年より現職。ものづくり白書や製造産業局の新政策、スマート製造分野における人材育成、国際協力等を担当。

第12回 京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナー

「人口減少下の自治体経営・地域づくり」

参加費
無料



京都大学吉田キャンパス アクセス



京都大学公共政策大学院と全国市町村国際文化研修所(JIAM)では、毎年、両者の連携によりセミナーを開催してきました。

第12回となる今年は、本格的な人口減少社会を迎える中で、人口が減少しても豊かな暮らしを続けていくための「自治体経営」や「地域づくり」についてお話しいただき、地方が進むべき方向性について考えます。

日 程 令和2年9月25日(金) 13:40~ (開場13:00)

会 場 **京都大学** 法経済学部本館1階法経第四教室

(教室は変更となる場合がございます)

住所: 京都市左京区吉田本町

対 象 **本テーマに関心のある方々**

申込方法 裏面をご覧ください

講 演 者

「住民を幸せにする地域づくり ～地域循環型社会を目指して」

京都大学 名誉教授
京都橘大学現代ビジネス学部 教授

岡田 知弘 氏



「人口減少時代だからこそできる まちづくり」

京都産業大学法学部法政策学科
教授・学長特別補佐
(前 京都府知事)

山田 啓二 氏



お問い合わせ

公益財団法人 全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 教務部・調査研究部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13-1

TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906

[e-mail] renkei@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

第12回 京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナー

講 師 紹 介

岡田 知弘 氏 京都大学 名誉教授／京都橘大学現代ビジネス学部 教授

1954年富山県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。京都大学経済学部助教授、京都大学経済学部教授、1997～2019年3月京都大学大学院経済学研究科教授、2012～2014年京都大学公共政策大学院院長等を経て、2019年4月より現職。

主な著書として、「増補改訂版 地域づくりの経済学入門」（自治体研究社、2020年）、「震災からの地域再生」（新日本出版社、2012年）、「自治体消滅」論を超えて（自治体研究社、2014年）など。

山田 啓二 氏 京都産業大学法学部法政策学科 教授・学長特別補佐（前 京都府知事）

1954年兵庫県生まれ。東京大学法学部卒業。自治省入省後、和歌山県総務部地方課長、国際観光振興会サンフランシスコ観光宣伝事務所次長、高知県総務部財政課長、自治省行政局行政課理事官、内閣法制局参事官、国土庁土地局土地情報課長、京都府総務部長、京都府副知事等を経て、2002年4月より京都府知事。2018年4月に任期満了で退任するまで、4期16年府政を担う。2011年から全国知事会長を4期7年務めた。2018年より京都産業大学法学部教授・学長補佐を務める。

開 催 要 項

日 程

令和2年9月25日(金)
13:40～17:00

【プログラム】

13:00～	開場・受付
13:40～	開会
13:50～15:10	講演：「住民を幸せにする地域づくり ～地域循環型社会を目指して」 岡田 知弘氏
15:10～15:30	休憩
15:30～16:50	講演：「人口減少時代だからこそできるまちづくり」 山田 啓二氏
16:50～17:00	閉会

場 所

京都大学 法経済学部本館 1階法経第四教室（教室は変更となる場合がございます）

住所：京都市左京区吉田本町（JR京都駅からバスで約35分／地下鉄烏丸線今出川駅からバスで約15分）

会場へのアクセスの詳細は下記アドレスからご確認ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/

対 象

本テーマに関心のある方々のご参加をお待ちしております

募集人数

100人 募集人数を大幅に上回るお申し込みをいただいた場合は、申込期限前に締め切らせていただく場合がありますので、予めご了承ください。

参加費

無料

申込期限

令和2年9月11日(金)まで

申込方法

- JIAMホームページ (<https://www.jiam.jp>) から申込書をダウンロードし、メールにて申込専用アドレス (renkei@jiam.jp) までお送りいただき、下記の参加申込書により、全国市町村国際文化研修所教務部・調査研究部にFAX (077-578-5906) してください。
- 京都大学の院生及び学生の方は、京都大学公共政策大学院掛に持参又はFAX (075-753-3104) してください。
※このセミナーは、申込み後、全国市町村国際文化研修所の通常の研修で送付する受講決定通知等を送付しません。

●上記については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。

●参加者によるセミナーの録音・写真撮影は、ご遠慮ください。

●セミナー参加時は、コロナウイルス感染症等予防のため、マスクを着用くださいますようお願いいたします。

●地球温暖化防止及び省エネルギーに貢献するため、「ノーアップ・ノーネクタイ」などの軽装での参加を奨励しており、スタッフも軽装で執務しております。

第12回京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナー「人口減少下の自治体経営・地域づくり」 参加申込書

所 属	団体名			
	部 署	(記載例：○○部○○課、○○学部・○年生等)		
参加者	ふりがな	e-mail		
	氏 名	電話番号		
		(歳)	FAX番号	

上記のとおり、セミナーを申し込みます。

令和 年 月 日

全国市町村国際文化研修所学長 あて

この申込書でご提供いただいた個人情報は、今回のセミナー実施のために使用します。

なお、個人情報を集計して個人を特定できない統計資料を作成するために利用する場合があります。

【お問い合わせ】 全国市町村国際文化研修所 TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906

補足資料 1

京都大学公共政策大学院 リサーチ・ペーパー集

2020 年度版

2021年5月
京都大学公共政策大学院

補足資料 2

自主研究活動（学生のみで行なわれる研究活動）

安全保障フォーラム

雑誌「公共空間」編集部

公共政策インゼミ合宿実行委員会

公共政策大学院交流会

英語議論会Corner Table

主権者教育研究会

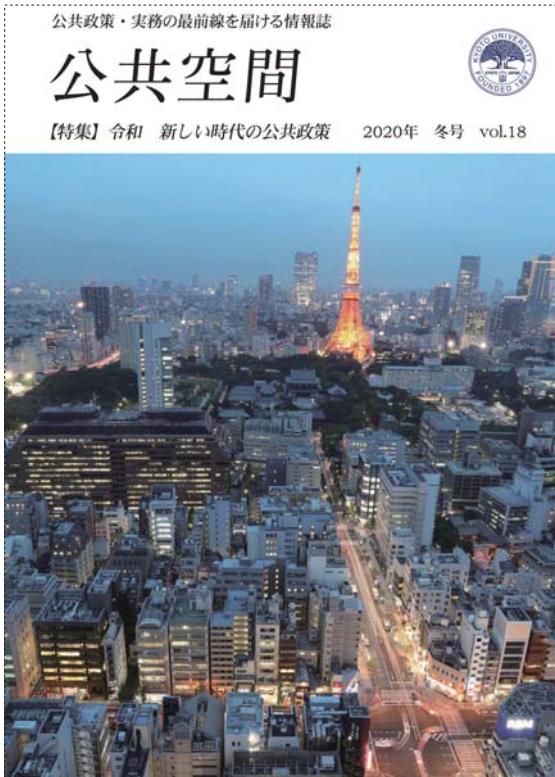
震災復興研究会

政策提言セミ

地域のソーシャル・キャピタル研究会

長浜まちづくり研究会

補足資料 3



令和2年～令和3年度

発行日 2022年（令和4年）1月

発行人 京都大学公共政策大学院

606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel. 075-753-3126